櫛形町文化財調査報告 No.5

〆木遺跡

1987

櫛形町教育委員会

序　　文

〆木遺跡は、櫛形町の南西部に位置する、下市之瀬に所在している。本町では、昭和57年から昭和61年までの５ヶ年計画で農家と地域の活性化をはかり、総合的な地域経済及び文化の向上を図り調和のとれた発展を目標として農村地域工業導入事業が実施される事になりそれに伴って櫛形町教育委員会ではこの遺跡の発掘調査を実施する事になりました。

その結果、今から約4,600年前の住居址や、1,000年～1,100年前の住居址・掘立柱建物遺構・祭祀(焼土)遺構などが多数発見されました。これらの貴重な資料は、町民が地域を知り、地域を考え、地域の良さを次代に伝承していくいとぐちとして大きな意味を持つものと確信しております。

最後に今回の調査、ならびに報告書作成にあたり、ご指導、ご協力下さった皆様に心から感謝申し上げる次第でございます。

昭和62年３月31日

櫛形町教育委員会
教育長　河　野　　豊

例　　言

I　本書は農村地域工業導入事業に伴う〆木遺跡発掘調査報告書である。

I　発掘調査は昭和61年5月19日～同年8月26日まで実施した。出土品の整理等は昭和61年9月1日～昭和62年3月31日まで行った。

I　発掘調査組織　調査主体　櫛形町教育委員会
　　調査担当　清水　博（櫛形町教委）
　　調 査 員　桜井真貴（国学院大学）
　　調査事務　鶴田一雄（町社会教育係長）・小林徳男（櫛形町教育委員会主事）

I　本報告書の編集は清水が行ない、第Ⅰ章を鶴田が、第Ⅱ・Ⅲ章・第Ⅳ章第1節・第Ⅴ章第2節を清水、第Ⅳ章・第Ⅴ章第1・2節を小林宇一が執筆した。
　また、本書作成にかかわる業務分担は下記の通りである。
　遺物の実測　清水・小林・山本・和田、　トレース　小口・出口・上田・清水、　遺構図版の作成　出口。

I　写真撮影は、遺構をシン航空写真㈱・清水が行い、遺物は清水が行った。

I　石質の鑑定は、河西学氏（山梨文化財研究所）に協力を賜った。

I　調査参加者
　小林宇一、吉岡弘樹(東海大卒)、出口真由美(武蔵野美術大卒)、山本孝司(早稲田大)、和田晋治(明治大)、秋山昌寛、樋川重行、有賀清仁、伊藤淳司、青木央、土橋広樹、饗場宏、小笠原淳、川名富美子、藤田稔、三石豊(山梨大)、野中新市、野中つる江、古屋なみ、中込かやの、清水静、伊藤よ志恵、青木みどり、桜田定子、桜田和子、桜田菊江、桜田みさえ、川崎すず子、杉山敏子、杉山昌江、中沢栄、深沢道子、功刀兼子、斉藤みや子、河野節子、上田みな子(一般)、櫛形町立櫛形中学校(相原千里先生他先生13名、2年生279名)、白根町立巨摩中学校(河西美佐子先生他　1年生120名)、竜王町立玉幡中学校(加賀美要次先生他生徒8名)、櫛形町立小笠原小学校郷土クラブ(新津昭治先生他児童12名)

I　発掘調査及び本報告書作成にあたり、下記の方々に御助言、御協力を頂いた。記して謝意を表する次第である。
　坂本美夫、末木健、田代孝、保坂康夫(県埋蔵文化財センター)、新津健(県教委文化課)、笹沢浩(長野県史刊行会)、佐野勝広(小淵沢町教委)、河西学、平野修(山梨文化財研究所)、小口妙子(長野県埋蔵文化財センター)、山路恭之助（須玉町教委)。

I　発掘調査によって得られた出土遺物、記録図面及び写真等は櫛形町教育委員会において保管している。

凡　　例

1．遺構番号は原則として確認順である。

2．遺構実測図における指示について。
　遺構実測図の水糸レベルは海抜高を示す。
　主軸方位は竈が構築された壁面を通る軸と真北とのなす角度で示す。
　規模は相対する壁間の最長～最短距離で示し、長辺：短辺の比率が 1.1：1以上のものを長方形、以下のものを方形とした。
　遺物は大数字で遺物番号を、小数字で床面からのレベルを示し、大数字は本文、挿図、表と一致する。尚、小数字のないものは床面直上で認められたものである。
　竈は断面図中にスクリーントーンで示す。
　スクリーントーンの指示は次の通りである。は焼土範囲、は竈構築時の粘土、は炭化物範囲、は支脚。竈断面図中スクリーントーンの指示なき支脚は“見通し”である。
　遺物分布中、○は図中の土器・石等の下部から出土したことを示す。また■は石器を、□はその他の出土品を示す。

3．遺物の記述、挿図、表について。
　土器実測図の断面は、土師器が白ぬき、須恵器は、陶・磁器類はのスクリーントーンで示してある。また、内黒土師器ものスクリーントーンで示し、及び△－△は釉範囲、▲－▲は平滑面を示す。
　土器計測表は各遺構出土の土器のうち、図示しえた土器を除いた総破片数、総重量を示す。土器計測表の分類で坏類とは、皿・蓋などの供膳具、甕類とはその他の煮沸具・貯蔵具である。
　土器観察表においてAは法量、Bは遺存率、Cは調整、Dは胎土、Eは色調、Fは焼成を示す。さらにAの法量は ℓ が口径、b が底径、h が器高をあらわし、単位は㎝である。
　石器実測図中△－△は火熱を受けた範囲、▲－▲は刃毀れの著しい範囲を示す。

目　　次

序　言
例　言（凡例）
第Ⅰ章　調査に至る経緯と経過……1
第１節　発掘調査に至る経緯……1
第２節　発掘調査の経過……1
第Ⅱ章　遺跡の概観……3
第１節　地理的環境……3
第２節　歴史的環境……4
第Ⅲ章　調査の方法と層位……6
第１節　調査の方法……6
第２節　層位……6
第Ⅳ章　発見された遺構と遺物……9
第１節　奈良・平安時代の遺構と遺物……9
１）　竪穴住居址……9
２）　掘立柱建物遺構……77
３）　焼土遺構……83
４）　その他の遺構……93
５）　遺構外出土の遺物……95
第２節　縄文時代の遺構と遺物……99
１）　竪穴住居址……99
２）　小竪穴遺構……112
３）　土壙……114
４）　遺構外出土の遺物……117
第Ⅴ章　成果と課題……126
第１節　〆木遺跡に於ける縄文時代の様相と問題点……126
第２節　〆木遺跡に於ける奈良・平安時代の様相と問題点……128
１）　出土土器について……128
a　年代観（遺構の年代について）……128
b　墨書土器について……129
２）　住居址の様相……129
３）　集落の性格、史的背景について……130
引用・参考文献……132

図　目　次

第１図　遺跡範囲図〔1/ 1,500〕……2
第２図　遺跡周辺地形図〔1/10,000〕……3
第３図　遺跡位置図及び周辺遺跡分布図〔1/25,000〕…5
第４図　遺構配置図〔1/600〕……7
第５図　３号住居址〔1/60〕……9
第６図　３号住居址　竈〔1/30〕……10
第７図　３号住居址出土土器〔1/4〕……10
第８図　４号住居址〔1/60〕……11
第９図　４号住居址　竈〔1/30〕……11
第10図　４号住居址出土土器〔1/4〕……12
第11図　５号住居址〔1/60〕……12
第12図　５号住居址出土鉄製品〔1/2〕……13
第13図　５号住居址　竈〔1/30〕……13
第14図　５号住居址出土土器〔1/4〕……13
第15図　８号住居址及び竈〔1/60、1/30〕……14
第16図　８号住居址出土土器〔1/4〕……14
第17図　９号住居址〔1/60〕……15
第18図　９号住居址　竈〔1/30〕……15
第19図　９号住居址出土土器〔1/4〕……15
第20図　10号住居址〔1/60〕……16
第21図　10号住居址　竈〔1/30〕……17
第22図　10号住居址出土土器〔1/4〕……17
第23図　11号住居址及び竈〔1/60、1/30〕……18
第24図　11号住居址出土鉄製品〔1/2〕……19
第25図　11号住居址出土土器〔1/4〕……19
第26図　12号住居址及び竈〔1/60、1/30〕……21
第27図　12号住居址出土土器・土製品〔1/4〕……22
第28図　13号住居址〔1/60〕……24
第29図　13号住居址　竈〔1/30〕……25
第30図　13号住居址出土土器〔1/4〕……25
第31図　15号住居址及び竈〔1/60、1/30〕……26
第32図　16号住居址及び竈〔1/60、1/30〕……27
第33図　16号住居址出土土器(1)〔1/4〕……28
第33図　16号住居址出土土器(2)〔1/4〕……29
第34図　17・22号住居址〔1/60〕……30
第35図　17号住居址　竈〔1/30〕……31
第36図　17号住居址出土土器〔1/4〕……31
第37図　22号住居址出土土器〔1/4〕……33
第38図　22号住居址出土鉄製品〔1/2〕……34
第39図　18号住居址及び竈〔1/60、1/30〕……35
第40図　18号住居址出土土器〔1/4〕……35
第41図　19号住居址及び竈〔1/60、1/30〕……36
第42図　19号住居址出土土器〔1/4〕……37
第43図　20号住居址及び竈〔1/60、1/30〕……38
第44図　20号住居址出土土器〔1/4〕……39
第45図　21号住居址〔1/60〕……40
第46図　21号住居址出土土器〔1/4〕……41
第47図　23号住居址〔1/60〕……42
第48号　23号住居址　竈〔1/30〕……43
第49図　23号住居址出土土器〔1/4〕……44
第50図　24号住居址及び竈〔1/60、1/30〕……46
第51図　24号住居址出土土器〔1/4〕……47
第52図　25号住居址及び竈〔1/60、1/30〕……48
第53図　25号住居址出土鉄製品〔1/2〕……48
第54図　25号住居址出土土器〔1/4〕……49
第55図　26号住居址及び竈〔1/60、1/30〕……50
第56図　26号住居址出土土器〔1/4〕……51
第57図　27号住居址出土鉄製品〔1/2〕……52
第58図　27号住居址〔1/60〕……52
第59図　27号住居址出土土器〔1/4〕……52
第60図　28号住居址〔1/60〕……53
第61図　28号住居址　竈〔1/30〕……54
第62図　28号住居址出土土器(1)……54
第62図　28号住居址出土土器(2)〔1/4〕……55
第63図　29・30号住居址〔1/60〕……57
第64図　29・30号住居址　竈〔1/30〕……58
第65図　29号住居址出土土器〔1/4〕……59
第66図　30号住居址出土土器〔1/4〕……59
第67図　31・32号住居址〔1/60〕……60
第68図　31号住居址　竈〔1/30〕……61
第69図　32号住居址　竈〔1/30〕……61
第70図　31号住居址出土土器〔1/4〕……62
第71図　32号住居址出土土器〔1/4〕……62
第72図　33号住居址〔1/60〕……63
第73図　33号住居址出土土器〔1/4〕……64
第74図　34号住居址〔1/60〕……64
第75図　34号住居址出土鉄製品〔1/2〕……65
第76図　34号住居址出土土器〔1/4〕……65
第77図　35号住居址〔1/60〕……66
第78図　35号住居址　竈〔1/30〕……67
第79図　35号住居址出土土器〔1/4〕……67
第80図　36号住居址〔1/60〕……68
第81図　36号住居址　竈〔1/30〕……69
第82図　36号住居址出土土器〔1/4〕……69
第83図　37号住居址〔1/60〕……70
第84図　37号住居址　竈〔1/30〕……71
第85図　37号住居址出土土器(1)〔1/4〕……72
第85図　37号住居址出土土器(2)〔1/4〕……73
第85図　37号住居址出土土器(3)〔1/4〕……74
第86図　38号住居址〔1/60〕……76
第87図　38号住居址出土土器〔1/4〕……77
第88図　１号掘立柱建物遺構〔1/60〕……78
第89図　１号掘立柱建物遺構出土土器〔1/4〕……79
第90図　２号掘立柱建物遺構出土土器〔1/4〕……79
第91図　２号掘立柱建物遺構〔1/60〕……80
第92図　３号掘立柱建物遺構〔1/60〕……81
第93図　４号掘立柱建物遺構〔1/60〕……82
第94図　４号掘立柱建物遺構出土土器〔1/4〕……83
第95図　１・２号焼土遺構〔1/30〕……83
第96図　１号焼土遺構出土土器(1)〔1/4〕……84
第96図　１号焼土遺構出土土器(2)〔1/4〕……85
第97図　１号・２号焼土遺構全体図〔1/60〕……87
第98図　２号焼土遺構出土土器(1)〔1/4〕……87
第98図　２号焼土遺構出土土器(2)〔1/4〕……88
第98図　２号焼土遺構出土土器(3)〔1/4〕……91
第99図　K－11区ピット群出土鉄製品〔1/2〕……93
第100図　１号溝状遺構及びピット群〔1/160〕〔1/80〕〔1/120〕……94
第101図　１号土壙出土土器〔1/4〕……95
第102図　遺構外出土鉄製品〔1/2〕……96
第103図　遺構外出土土器〔1/4〕……96
第104図　１号住居址及び炉址〔1/60、1/30〕……99
第105図　１号住居址出土土器〔1/6、1/4〕……100
第106図　１号住居址出土石器〔1/4〕……101
第107図　２号住居址及び炉址〔1/60、1/30〕……102
第108図　２号住居址出土土器(1)〔1/6〕……103
第108図　２号住居址出土土器(2)〔1/6、1/4〕……104
第108図　２号住居址出土土器(3)〔1/4〕……105
第109図　２号住居址出土石器〔1/4〕……107
第110図　６号住居址〔1/60〕……108
第111図　６号住居址炉址〔1/30〕……108
第112図　６号住居址出土土器〔1/4〕……108
第113図　７号住居址〔1/60〕……109
第114図　７号住居址炉址〔1/30〕……110
第115図　７号住居址出土土器(1)〔1/3、1/6〕……110
第115図　７号住居址出土土器(2)〔1/4〕……111
第116図　７号住居址出土石器〔1/4〕……112
第117図　１号小竪穴遺構〔1/40〕……112
第118図　１号小竪穴遺構出土土器〔1/4〕……113
第119図　２号小竪穴遺構〔1/60〕……114
第120図　２号小竪穴遺構出土土器〔1/4〕……114
第121図　１号～８号土壙〔1/60〕……115
第122図　８号土壙出土土器〔1/60〕……116
第123図　遺構外出土土器（縄文１）〔1/3〕……117
第123図　遺構外出土土器（縄文２）〔1/3〕……118
第123図　遺構外出土土器（縄文３）〔1/3〕……119
第123図　遺構外出土土器（縄文４）〔1/3〕……120
第123図　遺構外出土土器（縄文５）〔1/3〕……121
第123図　遺構外出土土器（縄文６）〔1/3〕……122
第123図　遺構外出土土器（縄文７）〔1/3〕……123
第123図　遺構外出土土器・土製品（縄文８）〔1/3〕……124
第124図　遺構外出土石器〔1/4〕……125

表　目　次

第 1 表　3 号住居址出土土器計測表……9
第 2 表　3 号住居址出土土器観察表……10
第 3 表　4 号住居址出土土器計測表……12
第 4 表　4 号住居址出土土器観察表……12
第 5 表　5 号住居址出土土器計測表……13
第 6 表　5 号住居址出土土器観察表……13
第 7 表　8 号住居址出土土器観察表……14
第 8 表　9 号住居址出土土器計測表……14
第 9 表　9 号住居址出土土器観察表……16
第10表　10号住居址出土土器計測表……16
第11表　10号住居址出土土器観察表……17
第12表　11号住居址出土土器計測表……18
第13表　11号住居址出土土器観察表……20
第14表　12号住居址出土土器計測表……20
第15表　12号住居址出土土器観察表(1)……22
第15表　12号住居址出土土器観察表(2)……23
第15表　12号住居址出土土器観察表(3)……24
第16表　13号住居址出土土器計測表……25
第17表　13号住居址出土土器観察表……25
第18表　15号住居址出土土器計測表……25
第19表　16号住居址出土土器計測表……28
第20表　16号住居址出土土器観察表(1)……29
第20表　16号住居址出土土器観察表(2)……30
第21表　17号住居址出土土器観察表……32
第22表　17号住居址出土土器計測表……32
第23表　22号住居址出土土器観察表……34
第24表　18号住居址出土土器計測表……34
第25表　18号住居址出土土器観察表……35
第26表　19号住居址出土土器計測表……35
第27表　19号住居址出土土器観察表……37
第28表　20号住居址出土土器計測表……37
第29表　20号住居址出土土器観察表(1)……39
第29表　20号住居址出土土器観察表(2)……40
第30表　21号住居址出土土器計測表……41
第31表　21号住居址出土土器観察表(1)……41
第31表　21号住居址出土土器観察表(2)……42
第32表　23号住居址出土土器計測表……43
第33表　23号住居址出土土器観察表(1)……44
第33表　23号住居址出土土器観察表(2)……45
第34表　24号住居址出土土器計測表……45
第35表　24号住居址出土土器観察表……47
第36表　25号住居址出土土器計測表……47
第37表　25号住居址出土土器観察表……49
第38表　26号住居址出土土器計測表……49
第39表　26号住居址出土土器観察表……51
第40表　27号住居址出土土器計測表……52
第41表　27号住居址出土土器観察表(1)……52
第41表　27号住居址出土土器観察表(2)……53
第42表　28号住居址出土土器計測表……54
第43表　28号住居址出土土器観察表(1)……55
第43表　28号住居址出土土器観察表(2)……56
第44表　29号住居址出土土器計測表……56
第45表　30号住居址出土土器計測表……57
第46表　29号住居址出土土器観察表……58
第47表　30号住居址出土土器観察表……58
第48表　31号住居址出土土器計測表……59
第49表　32号住居址出土土器計測表……61
第50表　31号住居址出土土器観察表……62
第51表　32号住居址出土土器観察表……63
第52表　33号住居址出土土器計測表……64
第53表　33号住居址出土土器観察表……64
第54表　34号住居址出土土器計測表……65
第55表　34号住居址出土土器観察表(1)……65
第55表　34号住居址出土土器観察表(2)……66
第56表　35号住居址出土土器計測表……67
第57表　35号住居址出土土器観察表……68
第58表　36号住居址出土土器計測表……68
第59表　36号住居址出土土器観察表(1)……69
第59表　36号住居址出土土器観察表(2)……70
第60表　37号住居址出土土器計測表……72
第61表　37号住居址出土土器観察表(1)……74
第61表　37号住居址出土土器観察表(2)……75
第61表　37号住居址出土土器観察表(3)……76
第62表　38号住居址出土土器計測表……77
第63表　38号住居址出土土器観察表……77
第64表　1 号掘立柱建物遺構柱穴規模……77
第65表　1 号掘立柱建物遺構出土土器計測表……77
第66表　1 号掘立柱建物遺構出土土器観察表……79
第67表　2 号掘立柱建物遺構出土土器計測表……79
第68表　2 号掘立柱建物遺構柱穴規模……79
第69表　2 号掘立柱建物遺構出土土器観察表……81
第70表　3 号掘立柱建物遺構柱穴規模……81
第71表　4 号掘立柱建物遺構出土土器計測表……82
第72表　4 号掘立柱建物遺構柱穴規模……82
第73表　4 号掘立柱建物遺構出土土器観察表……83
第74表　1 号焼土遺構出土土器計測表……84
第75表　1 号焼土遺構出土土器観察表(1)……85
第75表　1 号焼土遺構出土土器観察表(2)……86
第76表　2 号焼土遺構出土土器計測表……86
第77表　2 号焼土遺構出土土器観察表(1)……89
第77表　2 号焼土遺構出土土器観察表(2)……90
第77表　2 号焼土遺構出土土器観察表(3)……92
第77表　2 号焼土遺構出土土器観察表(4)……93
第78表　1 号溝状遺構出土土器計測表……93
第79表　1 号土壙出土土器計測表……95
第80表　1 号土壙出土土器観察表……95
第81表　トレンチ出土土器計測表……96
第82表　遺構外出土土器観察表(1)……97
第82表　遺構外出土土器観察表(2)……98
第83表　確認面出土土器計測表……98

図 版 目 次

図版Ⅰ　遺跡遠景、遺跡全景
Ⅱ　２号住居址・同炉・同遺物出土状況、７号住居址・同炉
Ⅲ　３号住居址、４号住居址、５号住居址、12号住居址
Ⅳ　16号住居址、19号・24号住居址、20・21号住居址、26号住居址
Ⅴ　23号住居址、31号・32号住居址、33号住居址、34号住居址
Ⅵ　35号住居址、37号住居址、発掘風景
Ⅶ　12号住居址竈、20号住居址竈、31号住居址竈、37号住居址竈
Ⅷ　１号掘立柱建物遺構、４号掘立柱建物遺構、２号掘立柱建物遺構・29号・30号住居址・６号土壙
Ⅸ　２号土壙、３号土壙、４号土壙、５号土壙、１号溝
Ⅹ　２号焼土遺構、同土器出土状況
Ⅺ　１号住居址出土土器、２号住居址出土土器
Ⅻ　２号住居址出土土器、６号住居址出土土器、７号住居址出土土器
ⅩⅢ　７号住居址出土土器、１号小竪穴遺構出土土器、土偶
ⅩⅣ　平安時代の土器・坏類（３号・４号・11号・12号・16号・17号・18号・21号・29号・30号・31号・34号住居址）
ⅩⅤ　平安時代の土器・坏類その他（37号住居址、２号掘立柱建物遺構、１号・２号焼土遺構）
ⅩⅥ　平安時代の土器・甕類（16号・17号・25号・29号住居址）
ⅩⅦ　平安時代の土器・甕類（35号・37号住居址、１号焼土遺構）、墨書土器（３号・11号・12号・26号・31号住居址、２号掘立柱建物遺構）
ⅩⅧ　鉄器（５号・11号・22号・27号・34号住居址、第２トレンチ）
石器（１号・２号・７号住居址、遺構外出土品）

第Ⅰ章　調査に至る経緯と経過

第１節　発掘調査に至る経緯

〆木遺跡は、櫛形町の南西部に位置する下市之瀬字〆木に所在する。櫛形町では昭和57年から昭和61年までの５ヵ年計画で農村地域工業導入事業が実施されることになった。この事業は農業構造の改善と併せ農業所得の向上に務めるとともに、工業を計画的に導入して本町内に就労の場をつくり、農家子弟や、若年労働力の町内への定着を促進し、農家と地域の活力を保持させるべく総合的な地域経済及び文化の向上を図り調和の取れた発展を目標とするものである。

この事業に伴い櫛形町教育委員会では、文化財保護法に基づく埋蔵文化財調査を実施することとなった。昭和60年11月15日～昭和61年１月31日までの日程で対象地域約40,000㎡の確認調査を実施した結果、6,600㎡については遺構、遺物の分布が認められ、発掘調査が必要であるとの結論を得た。これをうけて昭和61年５月19日～昭和61年８月26日までの３カ月余の日程で発掘調査を実施した。その結果、縄文時代（約4,600年前）の住居址や、平安時代（約1,000～１,100年前）の住居址、掘立柱建物遺構、焼土(祭祀)遺構等を発見する事ができ、無事調査を完了することが出来た。

調査にあたり県教育委員会文化課のご指導及び地元の皆様の絶大なご協力のあったことを記して謝意を表す次第である。

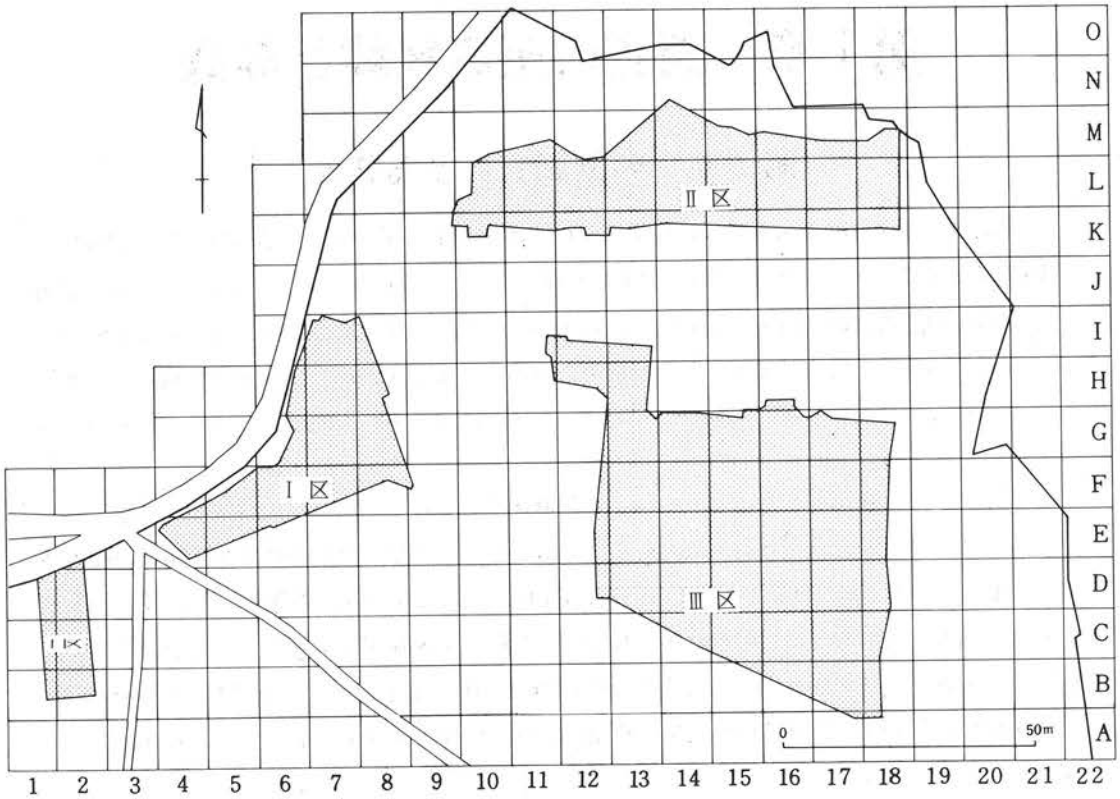
第２節　発掘調査の経過

発掘調査は昭和61年５月19日に開始した。造成予定地は40,000㎡に及ぶが、そのうち6,600㎡を発掘区域とした。発掘区は昭和60年度に実施した確認調査[1]の成果に基づき、落ち込みや遺物が集中して認められたトレンチを中心として、Ⅰ区からⅢ区まで設定した。尚、造成地西辺をⅠ区、同北端をⅡ区、同中央をⅢ区と呼称した。

発掘は耕作土(20～40cm)を重機によって排土し、以下の層を人力によって掘り下げ、遺構確認を行った。排土はⅠ～Ⅲ区の順に行った。全体的に土層への礫の混入が多く、また耕作・氾濫などによる攪乱が著しかったため遺構の確認に手間取った。

Ⅰ区の調査では、縄文時代の竪穴住居址５軒・小竪穴１基、奈良・平安時代の竪穴住居址５軒・土壙１基が発見された。Ⅰ区の調査は６月30日に完了した。

Ⅱ区での遺構確認は６月10日から開始した。６月10日には櫛形町立櫛形中学校の２年生全員が遺跡発掘の体験学習を行った。櫛形中学校２年生の有志生徒は、その後も土・日曜日を利用して発掘に参加した。また竜王町立玉幡中学校の有志生徒やさらに櫛形町立小笠原小学校の



第1図　遺跡範囲図〔1/1,500〕

郷土クラブの児童も発掘作業に参加した。Ⅱ区からは、縄文時代の土壙3基、奈良・平安時代の竪穴住居址14軒が発見され、遺構の写真測量を7月8日に実施した。Ⅱ区の調査は、竈の切断作業を残し7月10日に一応完了した。

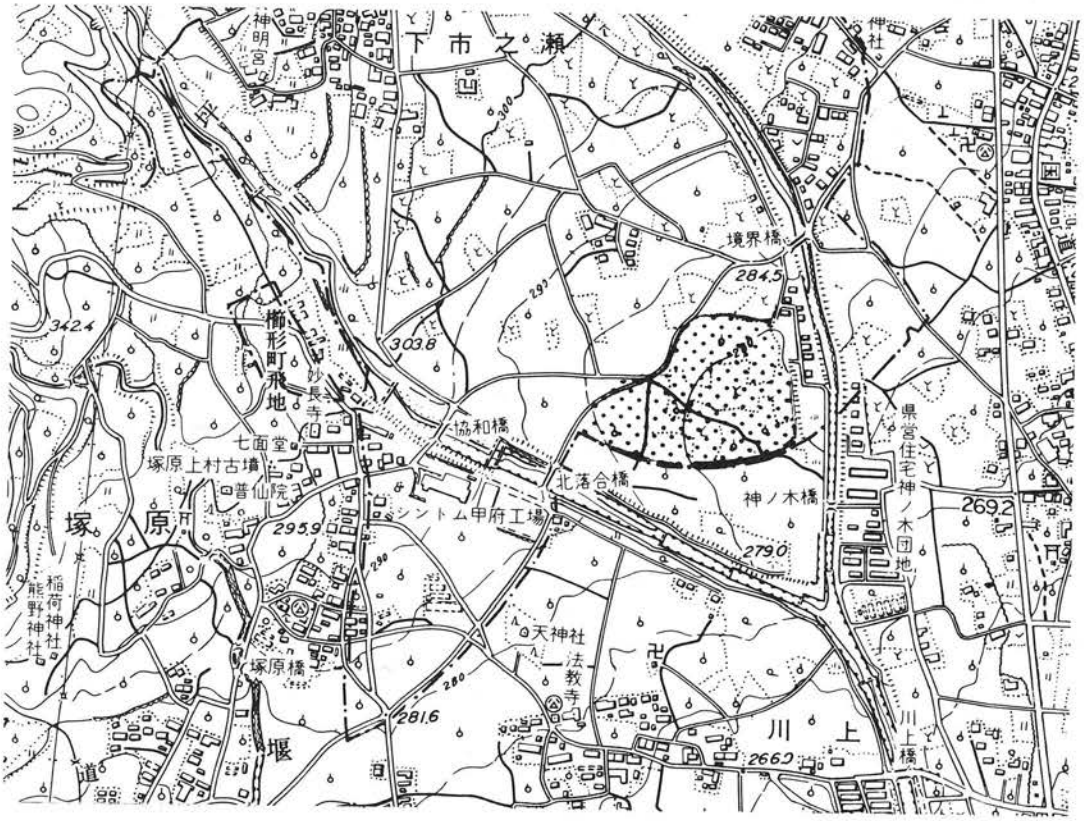
Ⅲ区の調査は7月1日に開始した。本区の調査は夏季にかかったため、確認面の乾燥や水不足に悩まされた。7月16日には白根町立巨摩中学校の1年生の生徒全員が発掘作業に体験学習として参加した。Ⅲ区では、縄文時代の土壙1基、奈良・平安時代の竪穴住居址14軒・掘立柱建物遺構4棟・焼土遺構2箇所が発見された。遺構の写真測量を8月6日に、遺跡全体の航空写真測量を8月25日に実施した。8月中旬には最後に残った竈の切断作業を行い、8月26日には全ての作業を完了し現場の撤収を行った。

尚、9月2日に山梨県教育委員会事務局文化課の確認を頂いた。

一方、出土品等の整理作業は、昭和61年9月1日から、昭和62年3月末日まで行った。

第Ⅱ章　遺跡の概観

第１節　地理的環境



第２図　遺跡周辺地形図〔1/10,000〕

〆木遺跡は山梨県中巨摩郡櫛形町下市之瀬字〆木に所在し、櫛形町東南隅に位置する。櫛形町は甲府盆地の西縁にあたり、盆地西寄りを北から南へ緩い弧状を呈して貫流している釜無川の左岸ほぼ中央に位置している。町の西半部は櫛形山及びその東麓に発達した市之瀬台地が占め、東半部は盆地床縁辺に発達した扇状地となっている。

「南アルプス」と呼ばれる赤石山脈の前衛の位置を占める「巨摩山地」は糸魚川―静岡構造線の一部をなしているが、そのため2,000m程の高度を有する主峰櫛形山も、その山腹に幾条かの断層崖地形を刻んで盆地床へと至っている。櫛形山の前面にひろがる市之瀬台地も伊奈ヶ湖断層前面に発達した洪積扇状地が甲府盆地形成に与かった最も新しい地殻変動を受けて形成された丘陵状地形である。台地前面は比高差100～120mを有する下市之瀬断層崖を経て盆地床へと至っている。櫛形山から流れ出た深沢川・漆川・市之瀬川等は、山地に於いては壮年期、台

地に於いては幼年期の侵蝕地形を形作るが、盆地床へ達すると急激に流勢を弱め扇状地をつくる。これらは有名な御勅使(みだい)川の扇状地と相まって複雑な「複合扇状地」を形成する。

櫛形山に源を発する諸河川は、上流で削り出した大量の土砂を盆地床縁辺に堆積させ、扇状地下端部では「天井川」を呈している。これらの扇状地の扇央部にあたる小笠原・下市之瀬等では水利に乏しく、かつ豪雨時には洪水に襲われる水田経営に不適な地勢である。扇端部では地下水が涌き出して若草町から甲西町へと連なる弧状の湧水列をなし、これより低位は水の豊富な一帯となり釜無川の氾濫源へと続いている。

〆木遺跡は前述した御勅使川の複合扇状地の南西端部に占地している。東に漆川、南に市之瀬川と、共に櫛形山から流れ出る河川に挾まれ、両河川の合流点付近にあたる。標高は 278～285mを測り北西方向から南東方向に向けて傾斜を示しているが、遺跡南東部は河川改修前の河床面とほぼ同レベルとなっている。遺跡の微地形を観察すると、河川に沿った両端部が自然堤防状のわずかな高まりをみせ、中央部では凹状に等高線が入りこんでいる。

また両河川を越えて東・南方は、甲西町の江原・鮎沢・湯沢といった湧水地帯となっており、北・西方は下市之瀬・塚原の扇状地を経て市之瀬台地へと続いている。遺跡は、西に櫛形山を仰ぎ、北に八ヶ岳を、南東に富士山を望む地でもある。

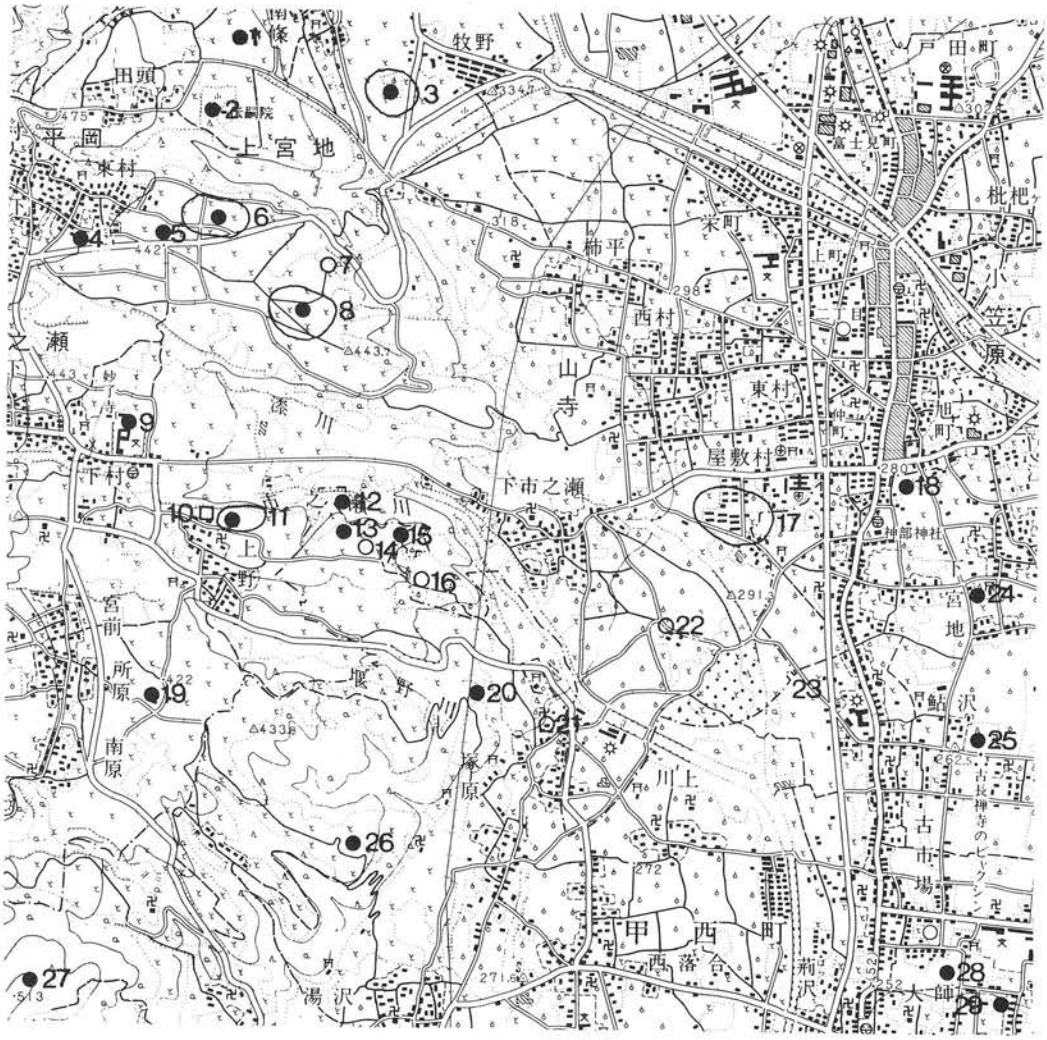
第2節　歴史的環境

遺跡の所在する櫛形町は峡西のほぼ中央を占め、多数の遺跡の認められる地域でもある。「山梨県遺跡地名表」には櫛形町およびその周辺にはおよそ60ヶ所程の遺跡が記載されているが、その他にも多くの遺跡の存在が予想される。

櫛形山東麓にひろがる台地の先端部に占地する六科丘遺跡8からはナイフ型石器を含む先土器時代の遺物数点が出土している。この台地上では縄文時代早期から弥生時代末期にかけての多くの遺物が確認されているが、その中心を占めるものは縄文時代中期後半と弥生時代末期のものである。特に台地面を緩やかに昇った平岡地内には中畑遺跡4、長田口遺跡5、東原遺跡6など縄文時代の遺跡が集中し、更に平岡から漆川を隔てた田頭、同じく市之瀬川を隔てた上野、中野の台地上にも縄文時代の遺跡が存在し、上野に所在する上の山遺跡11では縄文時代中期を中心とする集落の一部が発見されている。上の山遺跡から一段東へ降った昼喰場(ひるくいば)遺跡20、更に南へ移った土居平遺跡27でも縄文時代早期から後期までの遺物が採集されている。

六科丘遺跡、上の山遺跡は上の東遺跡13と共に弥生時代末期の集落遺跡であり漆川を挾んで一群の遺跡群を形成している。甲西町古市場に所在する住吉遺跡28は隣接する清水遺跡と共にこれらの遺跡群にやや先行する遺跡である。住吉遺跡の占地する扇端部湧水列上には古墳時代以降多くの遺跡が進出し、久保沢遺跡24、鮎沢遺跡25、下宮地遺跡18などが並列する。

〆木遺跡を見下ろす上野山丘陵先端には、前方後円墳である物見塚古墳16が占地し、東へ昇った円頂丘上には上の東古墳14が、更に北へ移って六科山円頂上には六科丘古墳7が占地して



1—御坂A遺跡　2—伝嗣院遺跡　3—曾根遺跡　4—中畑遺跡　5—長田口遺跡　6—東原A遺跡　7—六科丘古墳　8—六科丘遺跡　9—原田遺跡　10—(伝)椿城跡　11—上の山遺跡　12—下河原遺跡　13—上の東遺跡　14—上の東古墳　15—大畑遺跡　16—物見塚古墳　17—御崎古墳郡　18—下宮地遺跡　19—古屋敷遺跡　20—昼喰場遺跡　21—塚原上村古墳　22—鋳物師屋古墳　23—〆木遺跡　24—久保沢遺跡　25—鮎沢遺跡　26—御前山遺跡　27—土居平遺跡　28—古市場住吉遺跡　29—清水遺跡

第3図　遺跡位置図及び周辺遺跡分布図〔1/25,000〕

いる。これらは5世紀代に築造された古墳であるが、次いで古墳時代後期になると丘陵を降った盆地床縁辺の扇状地上に群集墳が営まれる。〆木遺跡の周囲にも、上村古墳21、鋳物師屋古墳22、御崎古墳17が存在していたが、後2者は既に壊滅している。また付近には塚原・狐塚といった小字名が残っており古墳群の存在を暗示するが、いまや既に明確にはしえない。

ところで、この櫛形町・甲西町一帯は和名類聚抄に記載されている、巨摩郡・「大井郷」に比定されており、その意味でも当地域に於ける奈良・平安時代遺跡の調査は注目に値しよう。

第Ⅲ章　調査の方法と層位

第1節　調査の方法

調査方法はグリッド法を採った。造成地基準測量用に設定していた基準軸を利用し調査区全域に10M方眼のグリッドを設定した。基準軸は正確に東―西、南―北を指している。発掘区南西端を基準とし、南―北方向に、南からアルファベットでA～N、直交する東―西方向に西から算用数字で1～19とし、A―1区、N―19区と呼称した。（第1図）

発掘調査は、耕作土を重機によって排土し以下の層を順次人力で精査した。

第2節　層　　位

本遺跡の基本層位は、原則的には下記のとおり観察された。

第Ⅰ層：茶褐色含礫土層（耕作土）

第Ⅱ層：茶褐色含礫土層（礫の混入が著しい）

第Ⅲ層：黒褐色含礫土層

第Ⅳ層：黄白色礫層

第Ⅴ層：赤褐色ローム質土層（しまり強）

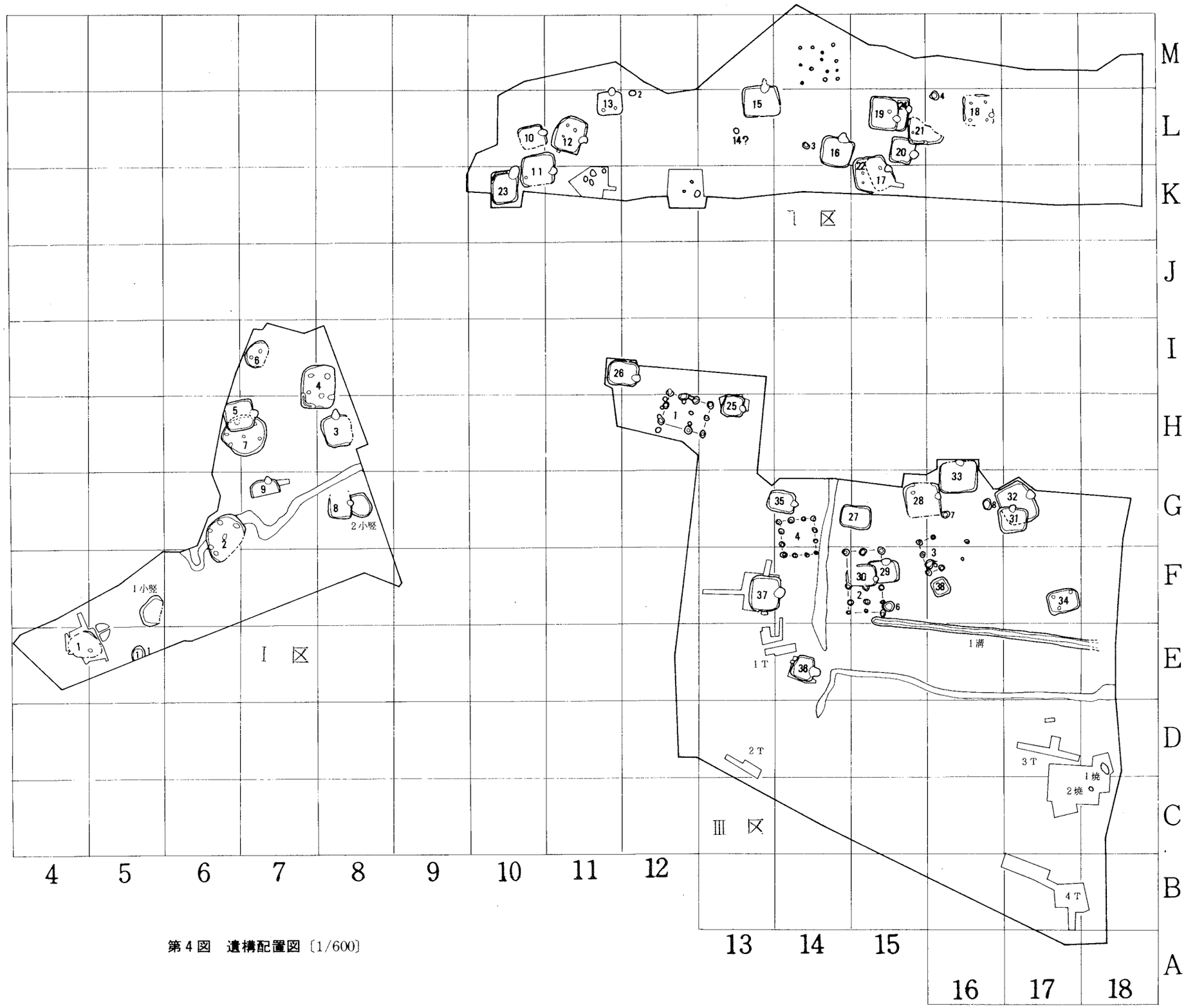
第Ⅵ層：黄色含礫層

本遺跡は扇状地扇端部に占地しており、土層の堆積が非常に複雑である。第Ⅰ層は発掘区全域に亘って認められるが、以下の層については各区ごとに異なった様相をみせる。Ⅰ区・Ⅱ区西半では、第Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ層の層序であり、Ⅱ・Ⅲ区東半では第Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ層と、さらにⅢ区西端では第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅵ層と観察された。Ⅰ・Ⅱ区以南の区域では第Ⅰ層以下に茶褐色礫主体層及び第Ⅳ層が互層をなし、その下部は茶灰色砂層が厚く堆積していた。

第Ⅱ層は礫の大きさ、混入度などで更に3～4層に分層しえ、隣あうグリッドにおいてすら逆転層、あるいは欠落層が認められた。第Ⅲ・Ⅳ層も観察地点によって、礫の混入度、混入物など相違が認められたが、全体的にはそれぞれ同一層（Ⅲ・Ⅳ層）として把握した。

奈良・平安時代の遺構は第Ⅱ層下部で確認されたが、プランの確定は第Ⅲ・Ⅳ層上面まで掘り下げねばならないものが殆どであった。この時代の遺構は上部がかなり削平され、大多数のものはその基底部のみを検出しえたにすぎない。縄文時代の遺物は第Ⅱ層中に包含されていた。同時代の遺構は第Ⅴ層上面で確認されたが、これらも上面に削平が認められ本来的には第Ⅴ層上部に予想される既流失層から掘り込まれたものであろう。

全ての遺構は何等かの攪乱・削平を受け、かつ覆土中には大量の礫が流入していた。このことは〆木遺跡に於ける自然力がどの様なもので在ったかを物語るものであろう。



第4図　遺構配置図〔1/600〕

第Ⅳ章　発見された遺構と遺物

第１節　奈良・平安時代の遺構と遺物

１）　竪穴住居址

《３号住居址》　（第５～７図、第１～２表、図版Ⅲ・XIV・XVII）

位置：H－８区。南７ｍに８号住居址、西7.5ｍに５号住居址、北0.5ｍに４号住居址が存在。遺存状態：上面に削平を受け東壁は遺存しない。

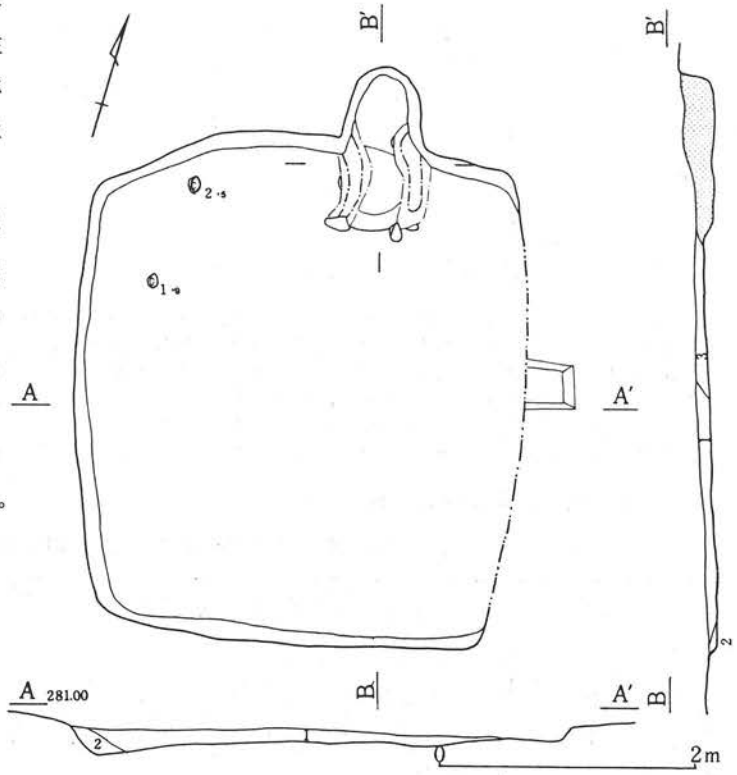
主軸方位：N－15°－W。平面形態：不整（長）方形。規模：4.0～3.5ｍ×(3.5～3.8)ｍ。壁高：25cm（北壁）。覆土：３層で自然堆積。床面：軟弱だが、竈前一部堅緻。周溝・柱穴：なし。竈：一基付設。

出土遺物：少量だが北西隅に集中。

竈

位置：北壁中央東寄り。

主軸方位：N－15°－W。規模：長さ 140cm、幅84cm。構造：袖部は袖石を芯とし、粘土を貼る。燃焼部は不整円形で深さ12cm。煙道部はU字形平面を呈し85°で立ち上がる。

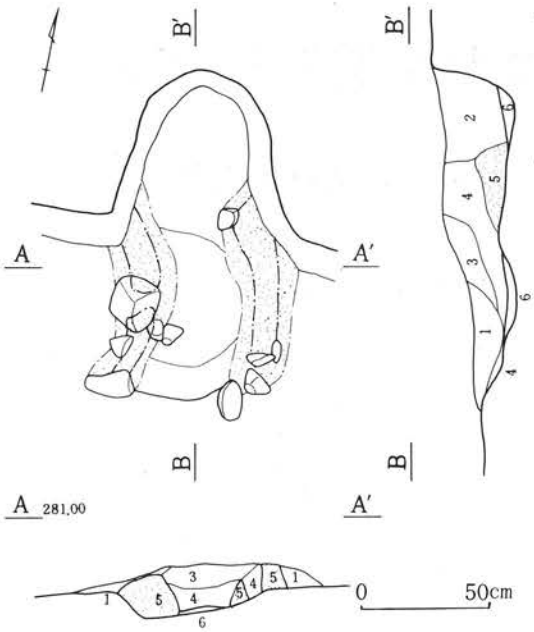


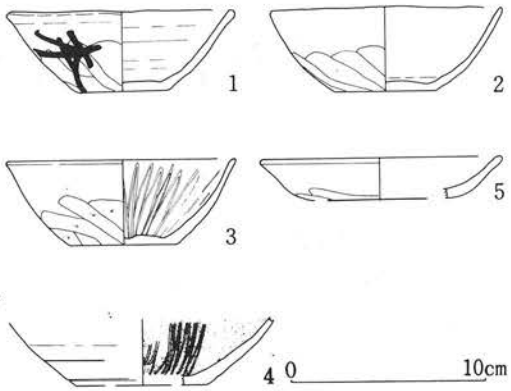
第１層　黒褐色土層：しまり・無，礫を含む。
第２層　暗褐色土層：粘性・弱。
第３層　褐色土層：粘性・弱，小礫を多量含む。

第５図　３号住居址〔1/60〕

第１表　３号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	105点	350ｇ	60点	620ｇ
須恵器			4点	40ｇ





第7図　3号住居址出土土器〔1/4〕

第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土を微量，小礫を含む。
第2層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土・小礫を含む。
第3層　暗赤褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土を多量，小礫を少量含む。
第4層　赤褐色土層：しまり・有，焼土・粘土を多量に含む。
第5層　黄白色土層：粘性・強，しまり・有，粘土層。
第6層　暗黄灰色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土・粘土を微量，小礫を含む。

第6図　3号住居址・竈〔1/30〕

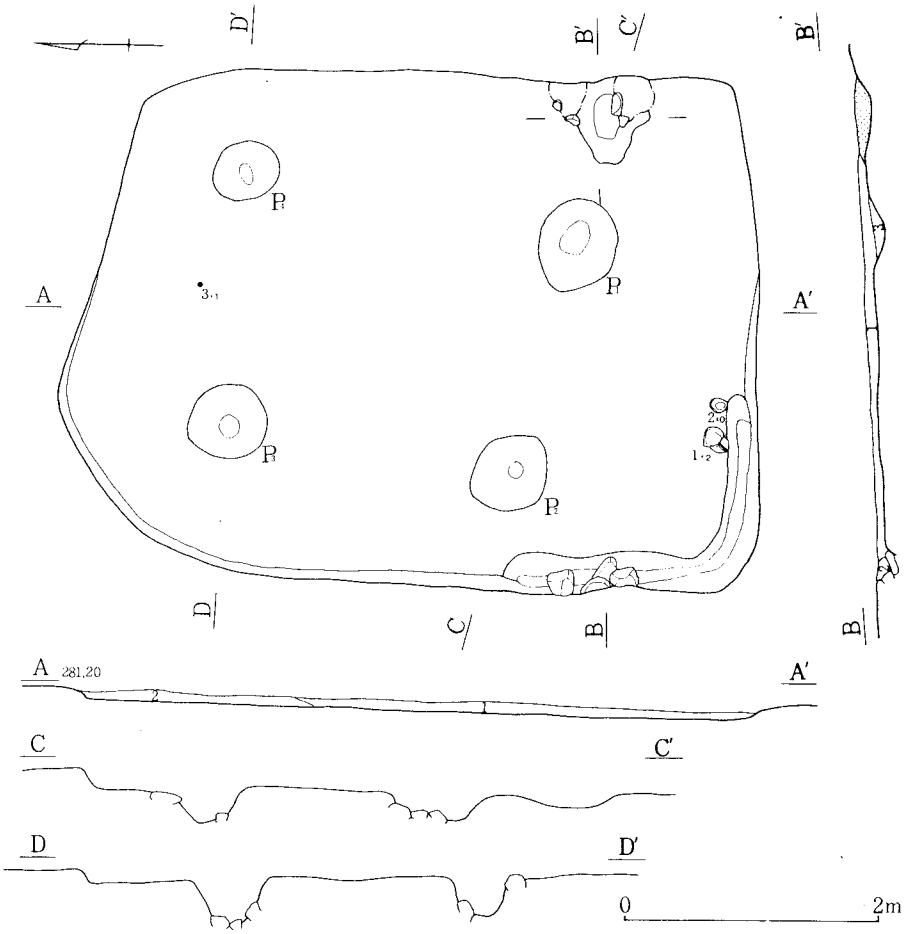
第2表　3号住居址出土土器観察表

1	土師器 坏	A：ℓ12.0。b4.9。h4.3。B：完存。C：内面―回転ナデ。外面―口唇部ナデ。体部上半回転ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底部二方向のヘラケズリ。D：砂粒を含み密。E：暗橙褐色。F：良。墨書有「本」？。
2	土師器 坏	A：ℓ12.0。b5.2。h4.4。B：ほぼ完。C：内面―回転ナデ。外面―体部上半回転ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底部二方向のヘラケズリ。D：砂粒を含み密。E：暗橙褐色。F：良。
3	土師器 坏	A：ℓ（12.2)。b（5.4)。h4.5。B：2/5。C：内面―ナデのち暗文。外面―体部上半回転ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。D：密。E：暗褐色。F：良。
4	土師器 坏	A：b(6.9)。B：体部1/3。C：内面―ナデのち暗文。外面―体部上半回転ナデ。体部下半回転ヘラケズリ。底部ヘラケズリのちナデ。D：密。E：外・明茶褐色。内・黒色。F：良。粘土層。
5	土師器 皿	A：ℓ（12.7)。b（8.0)。h2.2。B：体部1/3。C：内面―ナデ。外面―体部上半ナデ。体部下半～底部ヘラケズリのちナデ。D：密。E：外・明褐色。内・暗茶褐色。F：良。

《4号住居址》（第8～10図、第3～4表、図版Ⅲ・XIV）

位置：H・I―7・8区。南0.5mに3号住居址、南西5.5mに5号住居址が存在。遺存状態：上面に削平を受け西半部は床面を確認しえたのみ。

主軸方位：N―88°―E。平面形態：不整長方形。規模：5.5～4.7m×4.2m。壁高：18cm(西壁)。覆土：3層に分けられ砂礫の混入が顕著。床面：軟弱だが、竈前から中央部は堅緻。周溝



第1層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，黄白色砂礫を多量含む。
第2層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量含む。
第3層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・普通，小礫を含む。

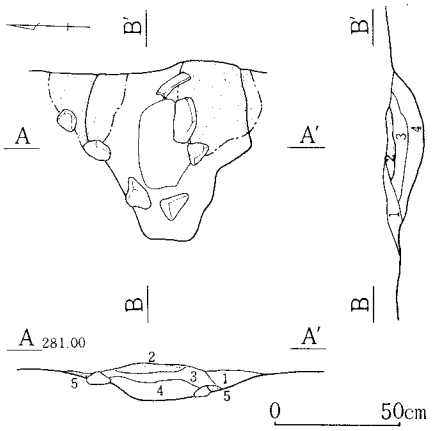
第8図　4号住居址〔1/60〕

：南西隅部にのみ存在、幅15～20cm、深さ10cm。ピット：4箇所存在し全て柱穴。深さはP_1—20cm、P_2—26cm、P_3—35cm、P_4—30cm。竈：一基付設。

出土遺物：少量で南西隅に集中。

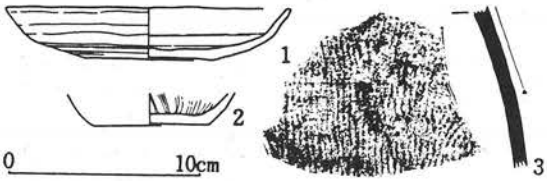
竈

位置：西壁南部。遺存状態：上部及び煙道部は削平。主軸方位：E。規模：長さ69cm、幅85cm。構造：袖部は袖石を芯とし粘土を貼る。燃焼部は長円形を呈し深さは10cm。煙道部は35°程で立ち上がる。



第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土を微量，小礫を含む。
第2層　橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土ブロック層。
第3層　暗黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土ブロックを多量，焼土・小礫を含む。
第4層　淡黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，焼土ブロック，粘土ブロックを多量含む。
第5層　黄白色土層：：粘性・強，しまり・有，粘土層。

第9図　4号住居址・竈〔1/30〕



第10図　4号住居址出土土器〔1/4〕

第3表　4号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	39点	200 g	21点	500 g
須恵器				

第4表　4号住居址出土土器観察表

1	土師器 皿	A：ℓ15.1。b6.5。h2.8。B：体部3/4。C：内面一回転ナデ。外面一体部上半回転ナデ。体部下半～底部時計回りの回転へラケズリ。D：密。E：橙褐色。F：良。
2	土師器 坏	A：b6.1。h（1.7)。B：底部完。C：内面一体部ナデのち暗文。身こみ部ミガキ。外面一底部へラケズリ他は磨耗の為不明。D：細砂粒を含み密。E：淡橙褐色。F：良。
3	須恵器 甕	B：破片。C：内面一ナデ。外面一叩目。一部に縁灰色の自然釉。D：細砂粒を含み密。E：暗青灰色。F：良。

《5号住居址》（第11～14図、第5～6表、図版Ⅲ・XⅧ）

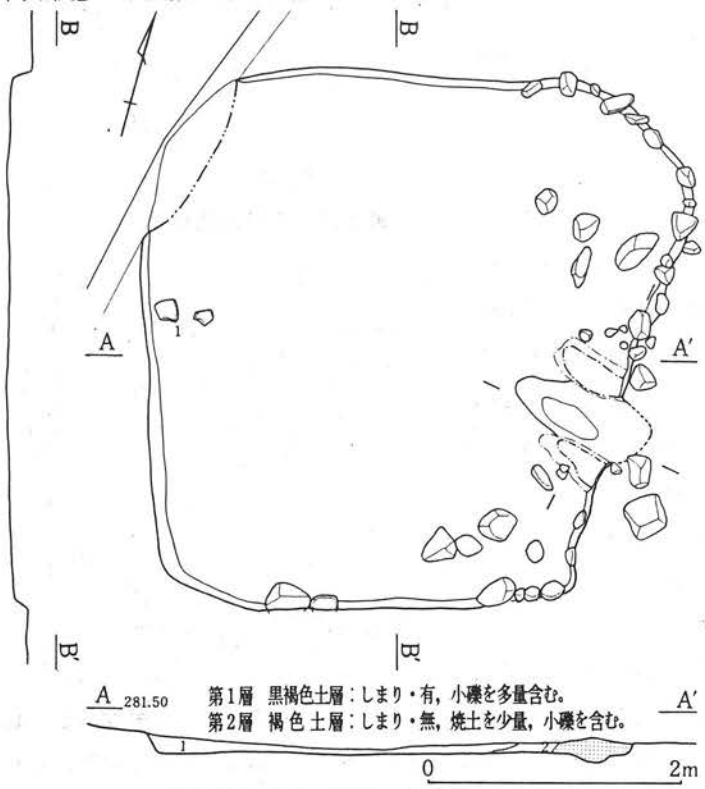
位置：H－6・7区。東7.5mに3号住居址、南6mに9号住居址、北東5.5mに4号住居址が存在。遺存状態：上面をかなり削平される。

主軸方位：N－73°－W。平面形態：不整隅丸方形（隅丸台形)。規模：4.3～3.2m×4.2m。壁高：17～18cm。覆土：2層に分けられ礫の混入が顕著。床面：軟弱。周溝・柱穴：なし。竈：一基付設。

出土遺物：南壁中央に少量。覆土中から鉄製品が1点出土している。

竈

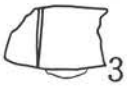
位置：東壁中央南寄り。遺存状態：上面を削平。主軸方位：N－96°－E。規模：長さ113cm、幅105cm。構造：袖部は粘土使用。燃焼部は長円形を呈し深さは11cm。煙道部は皿状平



第11図　5号住居址〔1/60〕

面を呈し25°で立ち上がる。出土遺物：土師器、甕1が袖部上面に散乱して出土した。

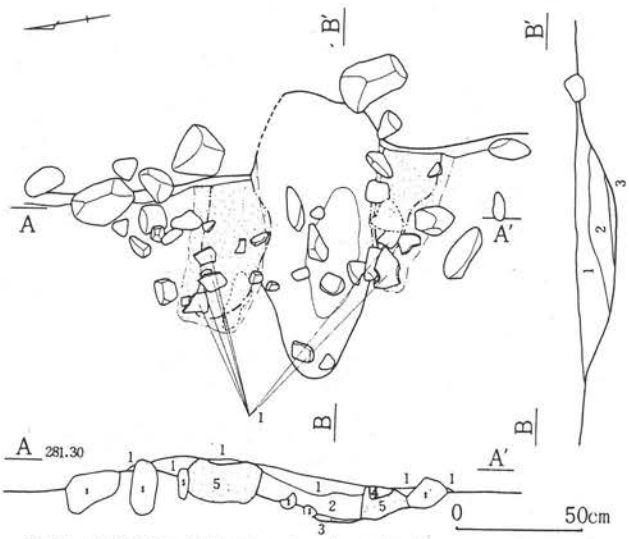
鉄製品：不明鉄板。2.5×1.5cmを測り、厚さは0.2cmである。長軸方向は両端とも欠落している。



第12図　5号住居址出土鉄製品〔1/2〕

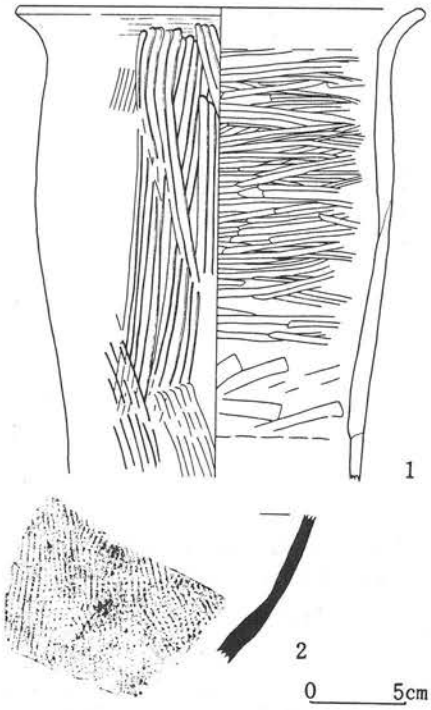
第5表　5号住居出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	6点	5 g	7点	50 g
須恵器				



第1層　暗赤褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土を多量・小礫を少量含む。
第2層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土・粘土を含む。
第3層　橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土層・粘土ブロックを多量含む。
第4層　橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土ブロック層。
第5層　黄白色土層：粘性・強，しまり・有，粘土層。

第13図　5号住居址・竈〔1/30〕



第14図　5号住居址出土土器〔1/4〕

第6表　5号住居址出土土器観察表

1	土師器 甕	A：ℓ21.4。h（24.8)。胴部最大径19.5。B：胴部1/2。C：内面―口唇～口縁ナデ。胴部上半ミガキ。胴部下半板状工具によるナデ。外面―口唇～口縁ナデ。胴粗いタテハケ。D：白砂粒・細砂礫を含み密。E：橙褐色。F：良。
2	須恵器 甕	B：胴部片。C：内面―ナデ。外面―叩目。D：砂粒を含み密。E：暗青灰色。F：良。

《8号住居址》（第15～16図、第7表）

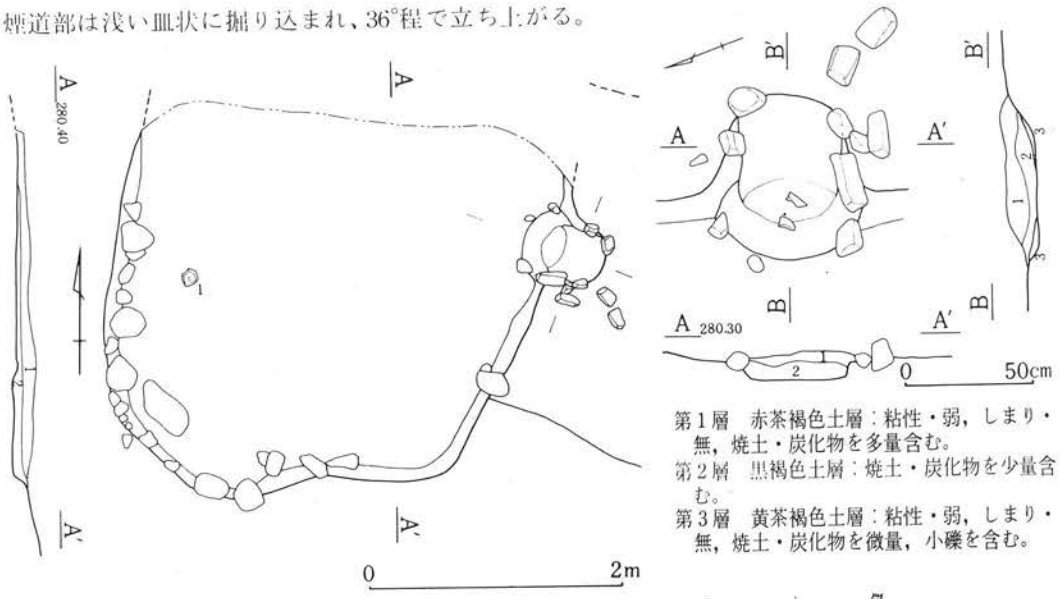
位置：G―8区。北7mに3号住居址、西7mに9号住居址が存在。遺存状態：北半部を削平され、南壁も攪乱を受ける。

主軸方位：N―76°―W。平面形態：不整（正）方形。規模：東西、2.8m。壁高：12cm(東壁)。覆土：2層で礫の混入が多い。床面：軟弱。周溝・柱穴：なし。竈：一基付設。

出土遺物：少量で図示しえたものも1点である。

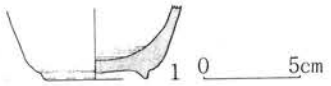
竈

位置：東壁北寄り。遺存状態：削平が激しく基底部を遺すのみ。主軸方位：N－110°－E。規模：長さ72cm、幅71cm。構造：袖部は袖石を芯とする。燃焼部は長円形を呈し、深さは5cm。煙道部は浅い皿状に掘り込まれ、36°程で立ち上がる。



第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫・礫を含む。
第2層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量，粘土を少量含む。

第15図　8号住居址及び竈〔1/60、1/30〕



第16図　8号住居址出土土器〔1/4〕

第7表　8号住居址出土土器観察表

1	須恵器 小型壺	A：高台径5.4。B：底部完。C：内面―体部回転ナデ。体部下端～底部回転ヘラケズリ。外面―体部磨耗の為不明。底部高台貼り付けのちナデ。D：細砂粒を含み密。E：暗青灰色。F：良。

《9号住居址》（第17～19図、第8～9表）

位置：G－7区。北6mに5号住居址、北東8mに3号住居址、東7mに8号住居址が存在。遺存状態：開墾時に南半部を失ない、1/2弱しか遺存しない。

主軸方位：N－9°－W。平面形態：不整（長）方形。規模：東西 4.2m。壁高：60～40cm。覆土：4層に分かれ第3層には焼土が混入。床面：堅緻な貼床。周溝・柱穴：なし。竈：一基付設。

出土遺物：破片化が進みほとんど覆土内である。

竈

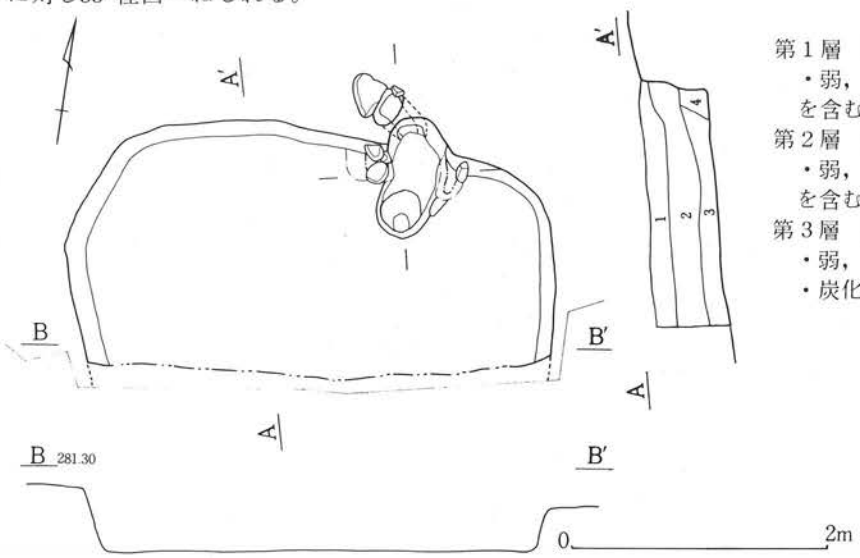
位置：北壁東部。遺存状態：天井部を欠損するが他はほぼ完存。

主軸方位：N－4°－Eにとるが煙道部はN－50°－

第8表　9号住居址出土土器計測表

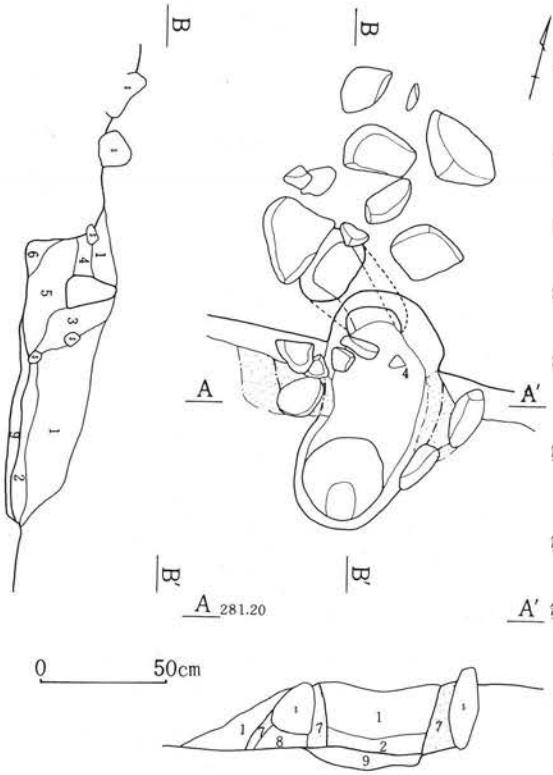
	坏	類	甕	類
土師器	10点	20g	58点	1,100g
須恵器				

Wにねじれる。規模：長さ120cm、幅97cm。構造：袖部は袖石を芯とし粘土を貼る。燃焼部は楕円形を呈し深さ6cm。煙道部は平面U字形に地山を掘り抜いて造り、60°で立ち上がる。燃焼部に対し55°程西へねじれる。



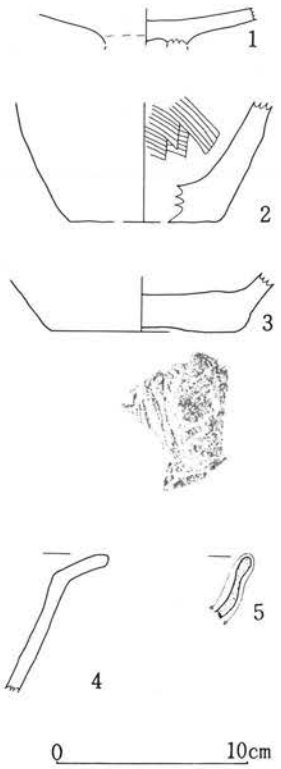
第1層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・普通，礫を含む。
第2層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を含む。
第3層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土・炭化物を少量含む。

第17図　9号住居址〔1/60〕



第1層　暗赤褐色土層：粘性・強，焼土を多量，小礫を微量含む。
第2層　黒褐色土層：粘性・強，しまり・有，焼土を微量含む。
第3層　暗黄褐色土層：黄色土粒を多量，小礫を少量含む。
第4層　黒褐色土層：粘性・弱，炭化物を少量含む。
第5層　黒褐色土層：粘性・弱，黄色土粒を多量，炭化物を少量，焼土を含む。
第6層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・有，灰を多量，焼土を含む。
第7層　暗黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土主体層。
第8層　黒褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土を多量，焼土を少量含む。

第18図　9号住居址・竈〔1/30〕



第19図　9号住居址出土土器〔1/4〕

第９表　９号住居址出土土器観察表

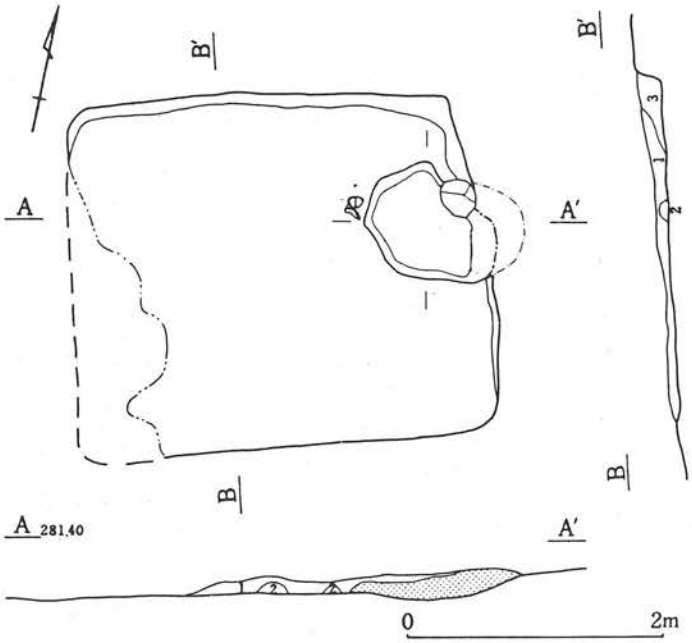
1	土師器 高坏	B：坏部（底～脚部接合部）破片。C：内面―ミガキ。外面―回転ナデ（接合部回転ナデ)。D：密。E：暗橙褐色。F：良。
2	土師器 甕	A：b (7.9)。B：底部1/2弱。C：内面―粗いハケ。外面―タテ方向のナデ。底部木葉痕。D：砂粒を含み密。E：明茶褐色。F：良。
3	土師器 甕	A：b 9.8。B：底部1/2。C：内面―体部下端ナデ。外面―底部木葉痕のちヘラナデ。D：白砂粒を含み密。E：淡橙褐色。F：良。
4	土師器 甕	B：口縁部破片。C：内面―口縁部ナデ。胴部ヨコハケ。外面―口唇部ナデ。口縁部粗いヨコハケのちナデ。胴部上端タテハケのちナデ。胴部タテハケ。D：砂粒を含み密。E：外・淡橙褐色。内・茶灰色。F：良。
5	埦	B：口縁部破片。D：密。E：内外面―鉄釉系の塗釉。F：良。

《10号住居址》（第20～22図、第10～11表）

位置：L―10・11区。東１mに12号住居址、南１mに11号住居址が存在。遺存状態：上面に削平を受け南西部は遺存しない。

主軸方位：N―74°―E。平面形態：隅丸長方形。規模：3.3×2.8m。壁高：18cm。覆土：３層で自然堆積。床面：軟弱で部分的に焼土ブロックが存在。周溝・柱穴：なし。竈：一基付設。

出土遺物：床面からの出土は僅かで、竈前から検出。



第１層　褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫を多量，礫を含む。
第２層　明褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土小ブロック多量含む。
第３層　褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量含む。

第20図　10号住居址〔1/60〕

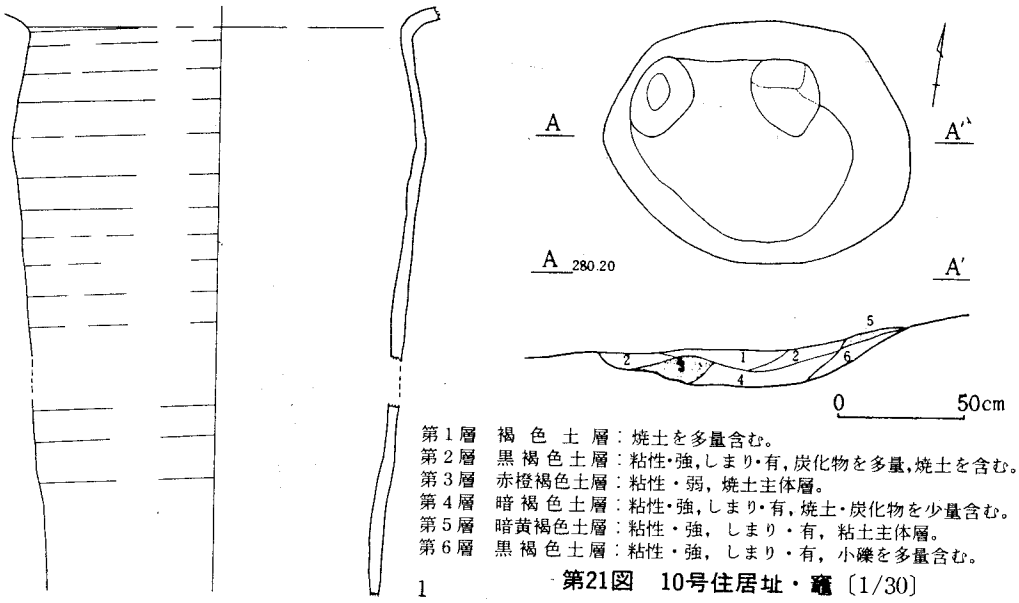
竈

位置：東壁北寄り。遺存状態：基底部のみ遺存。

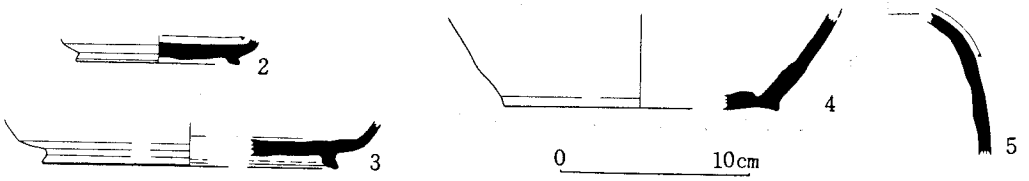
主軸方位：N―81°―E。規模：長さ123cm、幅95cm。構造：燃焼部は楕円形を呈し深さは15cm。煙道部は45°程で立ち上がる。

第10表　10号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	20点	60 g	79点	540 g
須恵器				



第21図　10号住居址・竈〔1/30〕



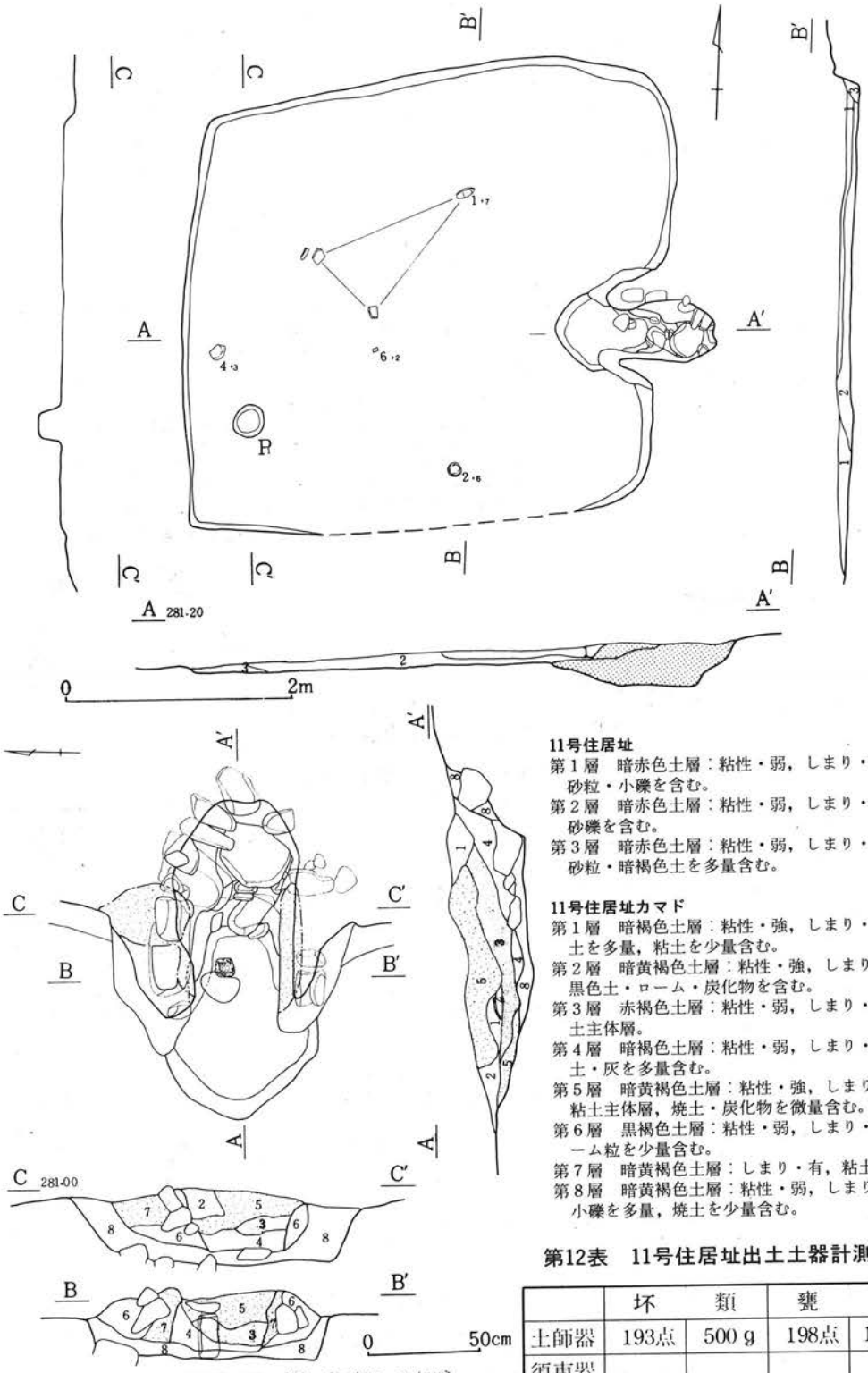
第22図　10号住居址出土土器〔1/4〕

第11表　10号住居址出土土器観察表

1	土師器 甕	A：ℓ（25)。胴部最大径21.6。B：胴部1/3～1/2。C：内面一ナデ。外面一口縁部ナデ。胴部回転ナデ。胴部下半のちナデ。D：白砂粒を含み密。E：明橙褐色。F：良。
2	須恵器 坏	A：b 10.0。高台部径 8.5。B：底部完。C：内面一回転ナデ。外面一体部下端回転ヘラケズリ。高台貼り付後回転ナデ。高台部ナデ。底部時計方向の回転ヘラケズリのち高台貼り付。D：白砂粒を含み密。E：灰白色。F：良。
3	須恵器 坏	A：b（18.4)。高台径（15.6)。B：底部1/3。C：内面一回転ナデ。外面一底部回転ヘラケズリのち高台貼り付。高台部回転ナデ。D：砂粒を含み密。E：暗青灰色～暗灰色。F：良。
4	須恵器 壺	A：b（14.4)。B：底部1/3強。C：内面一胴部回転ナデ。底部縁辺ヘラ状工具による押エ。底部ナデ。外面一胴・底部共回転ナデ。D：白細砂粒を含み密。E：外・暗灰色。内・明灰色。F：良。
5	須恵器 壺	B：胴上半部破片。C：内面一回転ナデ。外面一上半回転ナデ。灰色～茶灰色系の自然釉をかぶる。下半叩目のち回転ナデ。D：白砂粒、砂粒を含み密。E：青灰色。F：良。

《11号住居址》（第23～25図、第12～13表、図版XIV・XVII・XVIII）

位置：J・K－10・11区。北1mに10号住居址、西0.5mに23号住居址、北東1mに12号住居址が存在。遺存状態：上面に削平を受け南壁の一部は遺存しない。



第23図　11号住居址及び竈〔1/60、1/30〕

11号住居址

第1層　暗赤色土層：粘性・弱，しまり・有，小砂粒・小礫を含む。

第2層　暗赤色土層：粘性・弱，しまり・有，小砂礫を含む。

第3層　暗赤色土層：粘性・弱，しまり・無，小砂粒・暗褐色土を多量含む。

11号住居址カマド

第1層　暗褐色土層：粘性・強，しまり・有，焼土を多量，粘土を少量含む。

第2層　暗黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，黒色土・ローム・炭化物を含む。

第3層　赤褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土主体層。

第4層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土・灰を多量含む。

第5層　暗黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土主体層，焼土・炭化物を微量含む。

第6層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・有，ローム粒を少量含む。

第7層　暗黄褐色土層：しまり・有，粘土主体層。

第8層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量，焼土を少量含む。

第12表　11号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	193点	500 g	198点	1,440 g
須恵器				

主軸方位：N—97°—E。平面形態：不整方形。規模：4.0～3.8m×4.0m。壁高：5～2cm。覆土：3層で砂粒の混入が多い。床面：軟弱だが竈前一部堅緻。周溝：なし。ピット：南西隅に1箇所存在し深さは10cm。竈：一基付設。

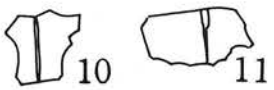
出土遺物：数量は多いが破片化が進む。床面上では中央部から南半部にかけて散在する。覆土中から鉄小片2点が出土した。

竈

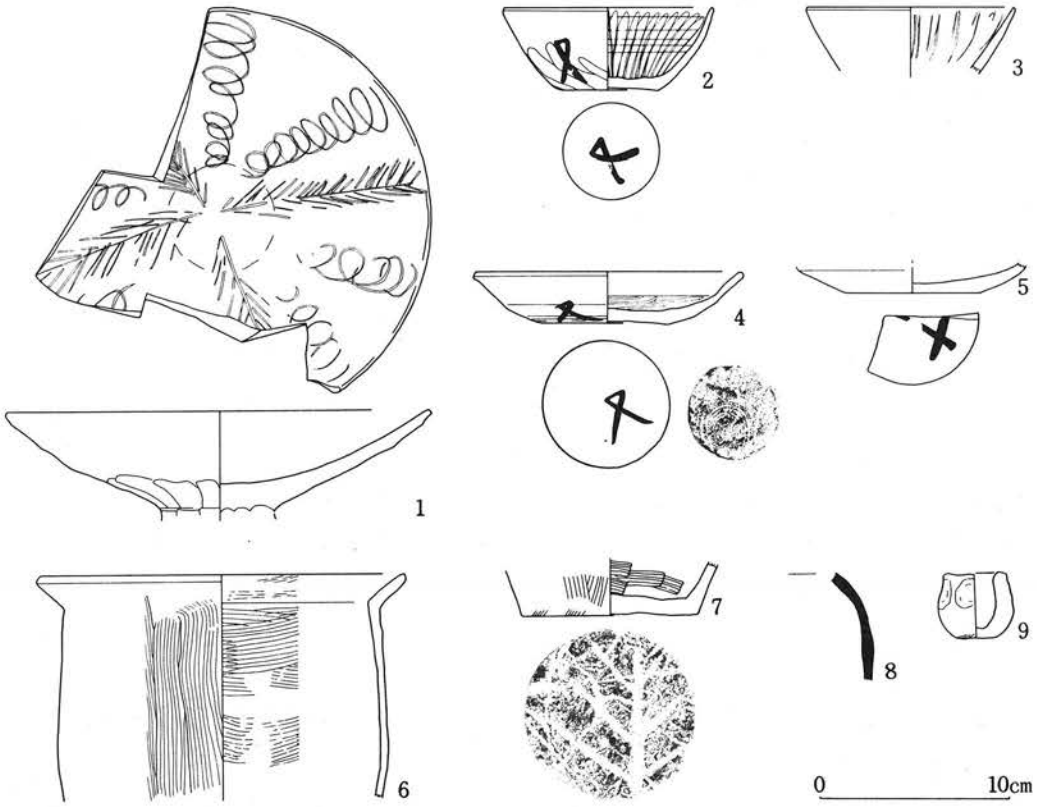
位置：東壁中央。遺存状態：天井部を失うが他はほぼ完存。

主軸方位：N—87°—E。規模：長さ156cm、幅110cm。構造：袖部は袖石を芯とし一部に粘土を貼る。燃焼部は楕円形を呈し深さは22cm。煙道部は浅いU字形で45°程で立ち上がり、中間に段部を有する。燃焼部奥部から煙道部にかけての底部は偏平な礫を用いて構築される。燃焼部奥部には石製の支脚が認められた。

鉄製品：覆土中から小片2点が出土した。10は3.0×1.5cm、11は2.0×1.8cmを測り厚さは共に0.1～0.2cmである。



第24図　11号住居址出土鉄製品〔1/2〕



第25図　11号住居址出土土器〔1/4〕

第13表　11号住居址出土土器観察表

1	土師器 高坏	A：ℓ22.5。b5.6。h5.1。B：坏部1/3強。C：内面―体部上半回転ナデ。体部下半ナデ。時計回りのループ文と杉の葉状の暗文。外面―体部上半回転ナデ。体部下半回転ナデのち脚部貼り付け。貼り付け部時計方向の一段ヘラケズリ。脚部ヘラ押エ。D：密。E：暗橙褐色。F：良。
2	土師器 坏	A：ℓ11.1。b5.1。h4.4。B：完。C：内面―回転ナデのち暗文。体部上半暗文のち回転ナデ。外面―体部上半回転ヘラケズリ。底部時計回りの回転糸切りのち一方向のヘラケズリ。D：密。E：明橙褐色。F：良。墨書有「又」。
3	土師器 坏	A：ℓ（11.1)。B：体部上半1/4。C：内面―回転ナデのち暗文。外面―回転ナデのちナデ。D：小砂粒を僅かに含み密。E：淡茶褐色。F：良。
4	土師器 皿	A：ℓ14.4。b6.7。h2.8。B：完。C：内面―回転ナデ。口唇部ナデ。体部下半ヘラミガキ。外面―体部回転ナデのちナデ。体部下端～底部糸切りのち回転ヘラケズリ。D：砂粒、黒色粒を含み密。E：淡橙褐色。F：やや良。墨書有「又」？。
5	土師器 皿	A：b(7.1)。B：底部1/3。C：内面―回転ナデ。外面―体部中位回転ナデ。体部下端回転ヘラケズリ。底部（回転糸切り）のち回転ヘラケズリ。D：密。E：淡橙褐色。F：良。墨書有「又」？。
6	土師器 甕	A：ℓ(9.8)。B：口縁～胴部1/3～1/4。C：内面―口縁部斜方向のハケのちナデ。胴部ヨコハケ。外面―口唇～口縁部ナデ。胴部タテハケ。D：砂粒・金雲母を含む。E：暗茶褐色。F：良。
7	土師器 甕	A：b 9.6。B：底部完。C：内面―ヨコハケ。外面―タテハケ。D：金雲母・細砂礫を含み密。E：暗茶褐色。F：良。
8	須恵器 壺	B：胴部破片。C：内面―回転ナデ。D：白砂粒を含み密。E：外・青灰色。内・灰白色。F：良。
9	手づくね	A：ℓ(3.4)。b2.1。h3.5。B：1/3。C：内面―棒状工具による押エ。外面―指頭圧。底部クシ状工具によるナデ。D：砂粒を含み密。E：淡橙褐色。F：やや良。

《12号住居址》（第26～27図、第14～15表、図版Ⅲ・Ⅶ・XIV・XVII）

位置：L―11区。北東2mに13号住居址、南西1mに11号住居址、西1mに10号住居址が存在。遺存状態：上面に削平を受けるがほぼ完存。

主軸方位：N―70°―W。平面形態：不整（隅丸）長方形。規模：4.6×3.6m。壁高：25～10cm。覆土：4層で小礫の混入が多い。床面：軟弱。周溝：なし。柱穴：3ヶ所検出されたが4本柱となる可能性も高い。深さはP_1―10cm、P_2―22cm、P_3―16cm。竈：一基付設。

出土遺物：床面、竈周囲に集中する。北壁際から出土した2・3は合わせ口状で検出された。墨書土器が多く4を除くと全て同一文字である。

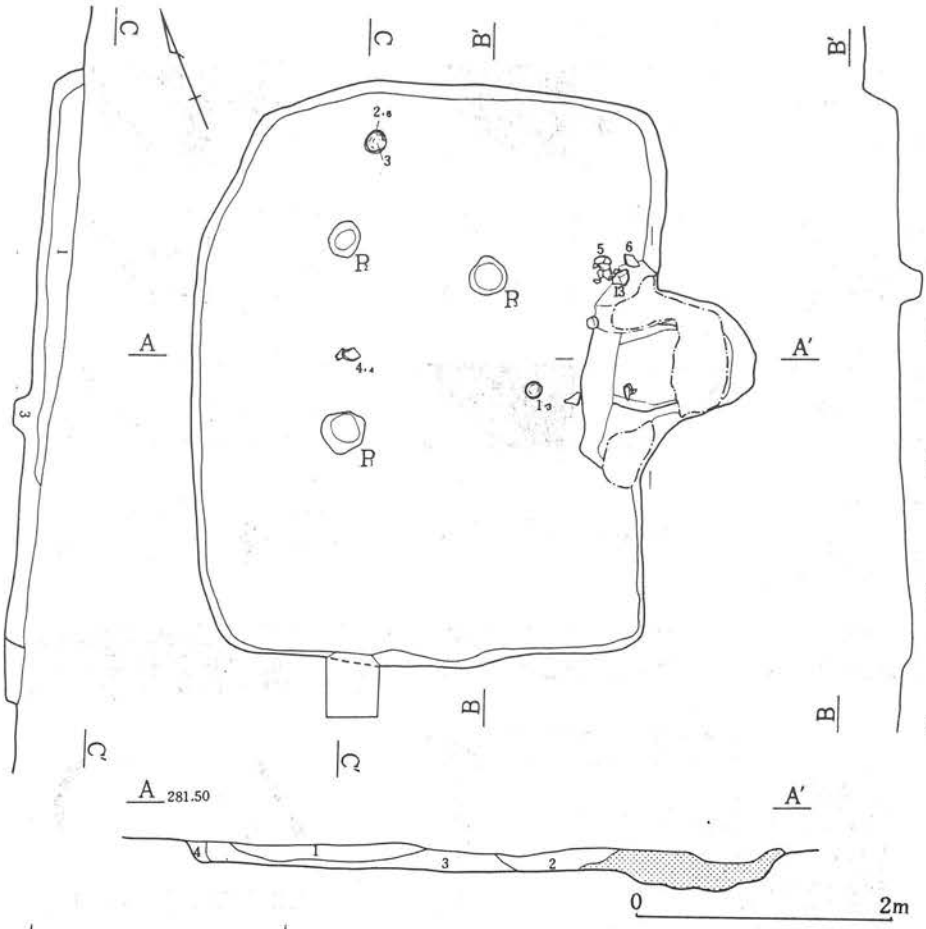
竈

位置：東壁中央。遺存状態：袖部に攪乱を受けるが煙道部天井は遺存。

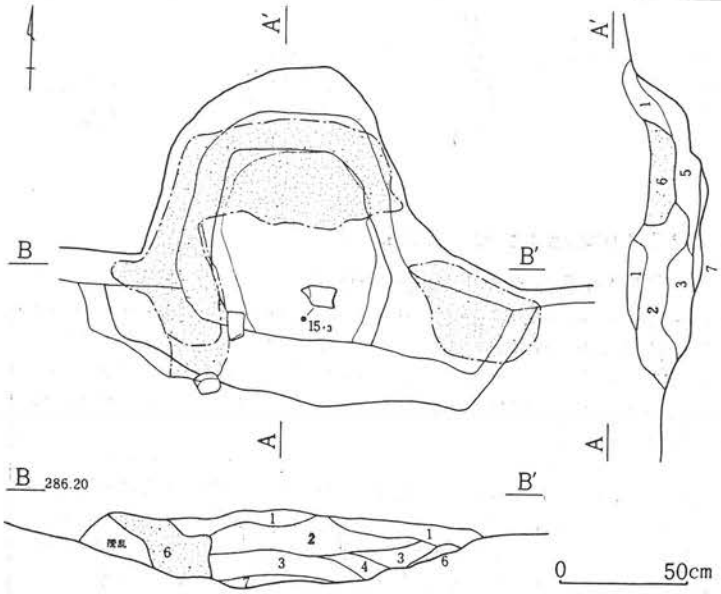
主軸方位：N―111°―E。規模：長さ125cm、幅170cm。構造：袖部から天井部は粘土で構築。燃焼部は不整円形で深さは15cm。煙道部は壁を半円形に掘り込み、35°程で立ち上がる。

第14表　12号住居址出土土器計測表

	坏　類		甕　類	
土師器	308点	1,000g	191点	1,580g
須恵器	6点	30g	7点	40g



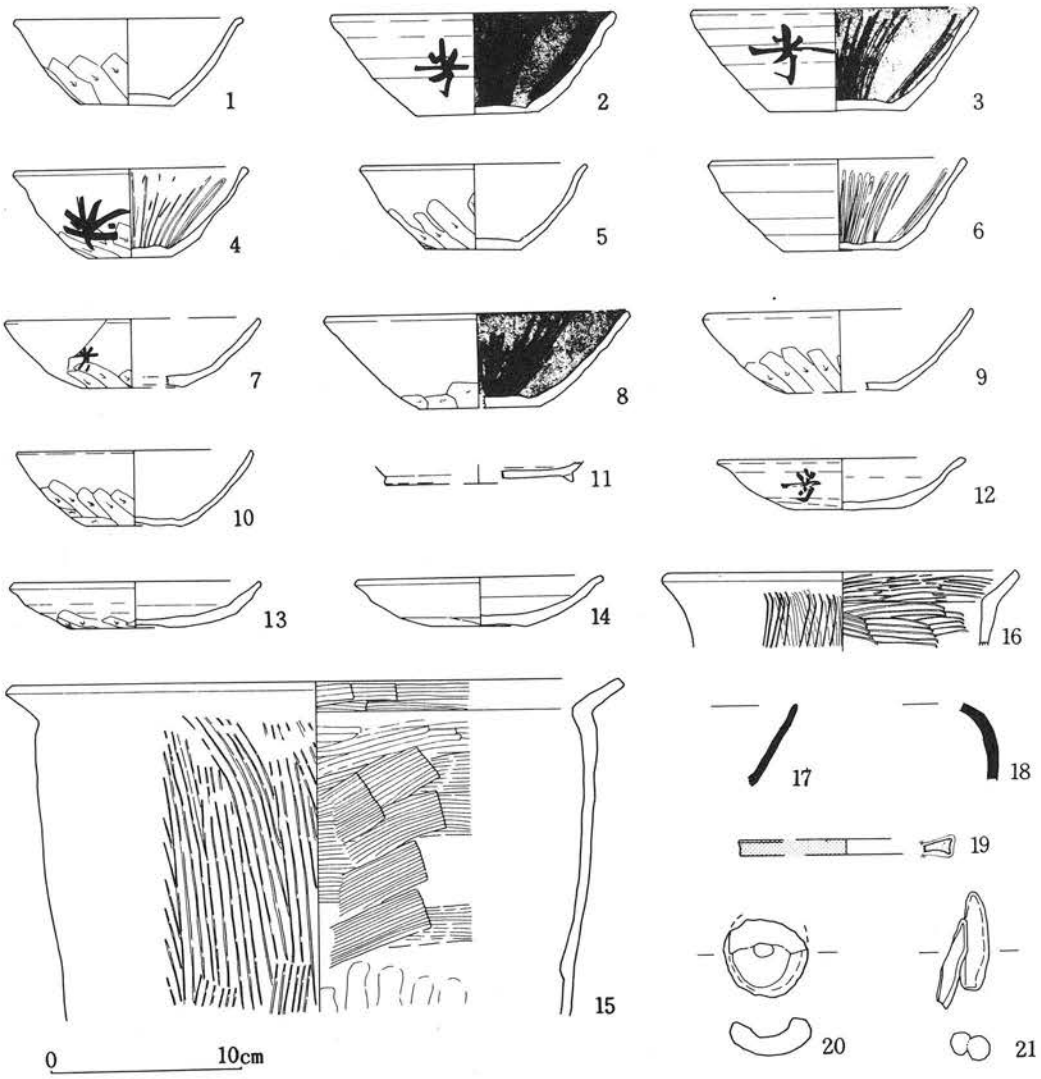
第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を含む。
第2層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫を含む。
第3層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を含む。
第4層　褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量含む。



第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫・焼土を含む。
第2層　暗橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土・焼土ブロック層。
第3層　暗黄茶褐色土層：しまり・無，小礫・焼土・炭化物を含む。
第4層　暗赤褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土を多量含む。
第5層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土を多量，粘土・小礫・炭化物を含む。
第6層　暗黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土主体層，礫・焼土を微量含む。
第7層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・黒褐色土を多量，焼土を少量含む。

第26図　12号住居址及び竈〔1/60、1/30〕

出土遺物：崩壊土中から、土師器・甕が出土している。



第27図　12号住居址出土土器・土製品〔1/4〕

第15表　12号住居址出土土器観察表(1)

1	土師器 坏	A：ℓ12.0。b4.9。h4.6。B：完存。C：内面一回転ナデ。身こみ部・体部のさかいはヘラ状工具によるナデ。外面一体部上半回転ナデ。体部下半回転ナデのち時計方向の一段ヘラケズリ。底部一方向のヘラケズリ。D：密。E：外・暗橙褐色。内・暗茶褐色。F：良。
2	土師器 坏	A：ℓ15.0。b6.7。h5.4。B：完。C：内面一回転ナデ。身こみ部縁辺細いヘラ状工具による回転押エ。外面一体部上半回転ナデのち部分的にヘラナデ。体部下端時計方向の回転ヘラケズリ。底部時計回りの回転糸切りのち時計方向の回転ヘラケズリ。D：密。E：外・明茶褐色。内・黒色。F：良。墨書有「芳」。

第15表　12号住居址出土土器観察表(2)

3	土師器 坏	A：ℓ15.0。b7.2。h5.4。B：完。C：内面一回転ナデ。外面一体部上半回転ナデのち部分的にナデ。底部～体部下端時計方向の回転ヘラケズリ。D：密。E：外・暗茶褐色。内・黒色。F：良。墨書有「劣」。
4	土師器 坏	A：ℓ12.4。b4.3。h4.7。B：完。C：内面一回転ナデ後暗文のち体部上半部分的にナデ。外面一体部上半回転ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底部一方向のヘラケズリ。D：白砂粒・砂粒を含み密。E：暗橙褐色。F：良。墨書有「末」?。
5	土師器 坏	A：ℓ12.0。b5.1。h4.6。B：完。C：内面一回転ナデ。（身こみ部～下半表面磨耗の為不明)。外面一体部上半回転ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底部二方向のヘラケズリ。D：砂粒を含み密。E：暗橙褐色。F：良。
6	土師器 坏	A：ℓ13.4。b6.1。h4.9。B：完。C：内面一回転ナデのち暗文。外面一体部上半回転ナデ。体部下半反時計方向の回転ヘラケズリ。底部(回転)糸切りのち反時計方向の回転ヘラケズリ。D：細砂粒を微量含み密。E：暗橙褐色。F：良。
7	土師器 皿	A：ℓ（13.2)。b(5.4)。h3.6。B：体部1/3強。C：内面一回転ナデ。外面一体部上半回転ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。D：密。E：橙褐色。F：良。墨書有「劣」。
8	土師器 坏	A：ℓ（16.1)。b(6.4)。h5.0。B：1/3～1/4。C：内面一回転ナデのち暗文。外面一体部上半回転ナデのちヘラ状工具によるナデ。体部下端反時計方向の一段ヘラケズリのちミガキ。底部回転ヘラケズリのちミガキ。D：密。E：外・暗茶褐色。内・黒色。F：良。
9	土師器 坏	A：ℓ（14.2)。b(5.8)。h4.3。B：1/4強。C：内面一回転ナデ。外面一体部上半回転ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底部（回転）糸切りのちヘラケズリ。D：密。E：淡橙褐色。F：良。
10	土師器 坏	A：ℓ（13.4)。b(5.0)。h4.0。B：体部1/4。底部1/3。C：内面一回転ナデ。外面一体部上半回転ナデ。体部下半時計方向の(一段)ヘラケズリ。底部時計回りの回転糸切りのち周辺部ヘラケズリ。D：細砂粒を含み密。E：明茶褐色。F：良。
11	土師器 坏	A：b(9.9)。高台径（10.0)。B：底部1/4。C：内面一磨耗の為不明（回転ナデ？)。外面一高台貼り付け後貼り付け部棒状工具によるナデ。底部（回転ヘラケズリ）のち回転ナデ。D：細砂礫を含み密。E：淡茶褐色。F：良。
12	土師器 皿	A：ℓ13.1。b5.9。h2.7。B：3/4強。C：内面一回転ナデ。外面一体部上半回転ナデのちナデ。底部～体部下端時計方向の回転ヘラケズリ。D：密。E：橙褐色。F：良。墨書有「劣」。
13	土師器 皿	A：ℓ13.3。b4.9。h2.4。B：完。C：内面一回転ナデ。外面一体部上半回転ナデのちナデ。底部周辺～体部下端時計方向の一段ヘラケズリ。底部時計回りの回転糸切り。D：砂粒を含み密。E：暗橙褐色。F：良。
14	土師器 皿	A：ℓ（13.1)。b(4.9)。h2.6。B：1/3強。C：内面一回転ナデ。外面一体部上半回転ナデ。底部～体部下端時計方向の回転ヘラケズリ。D：砂粒を含み密。E：暗橙褐色。F：良。
15	土師器 甕	A：ℓ(34.5)。B：口縁～胴部上半1/3。C：内面一口縁部粗いヨコハケ。肩部棒状工具による斜方向のナデ。胴部横～斜方向のヨコハケ。胴部中位指頭圧。外面一口唇部～口縁ナデ。胴部タテハケ。D：金雲母・砂粒を含み密。E：暗茶褐色。F：良。
16	土師器 甕	A：ℓ（14.6)。B：口縁部破片（1/5～1/4)。C：内面一口唇部ナデ。口縁部粗いハケ。胴部細かいヨコハケ。外面一口縁部ナデ。胴部タテハケ。D：白砂粒・砂粒を含み密。E：暗茶褐色。F：良。
17	須恵器 坏	A：h4.5。B：破片。C：内面一回転ナデ。外面一体部上半回転ナデ。体部下端ヘラケズリ。D：白砂粒を含み密。E：灰白色。F：良。

第15表　12号住居址出土土器観察表(3)

18	須恵器 壺	B：破片。C：内面一回転ナデ。外面一回転ヘラケズリ。上半暗緑色釉。D：白砂粒を含む。E：黒灰色。F：良。
19	磁器？	A：h0.8。器径（10.5)。B：破片（1/6～1/5)。C：緑色系の釉が施される。D：黒砂粒・白砂粒を含み密。E：緑灰色。F：良。
20	手づくね	A：ℓ4.3～4.8。h2.0。B：1/2強。D：砂粒を含み粗。E：茶褐色。F：不良。
21	土製品	A：径1.3。長5.2。B：完。D：粗。E：明褐色。F：不良。

《13号住居址》（第28～30図、第16～17表）

位置：L－11・12区。南西2mに12号住居址が存在。遺存状態：著しく削平を受け掘り方残存部によって範囲を確定。

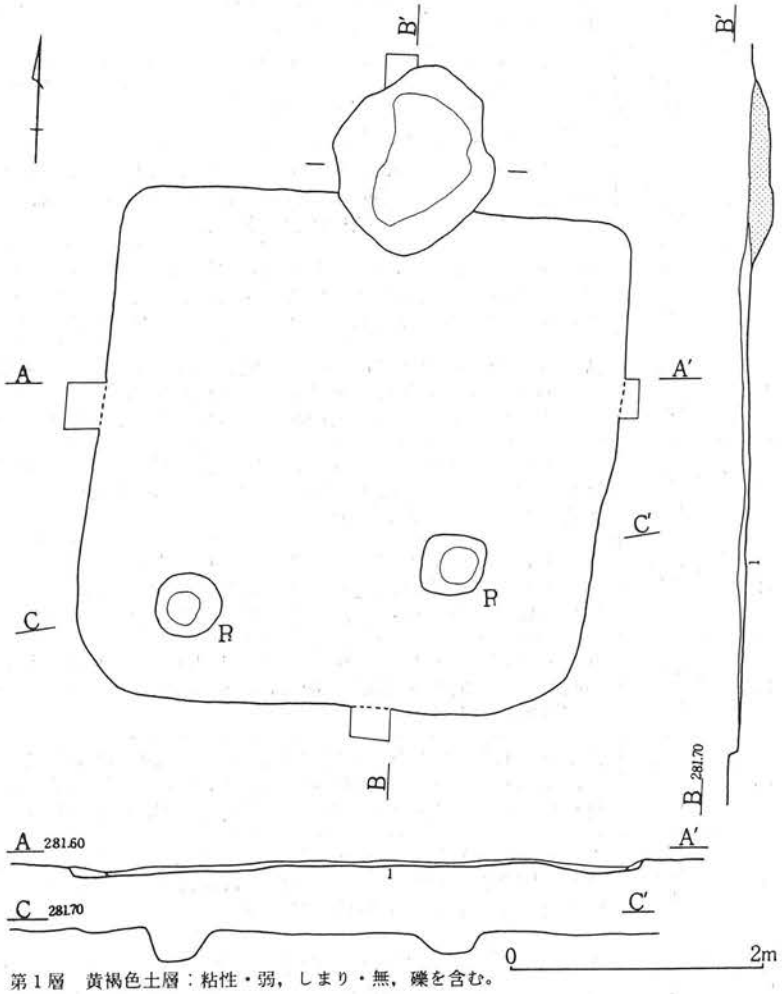
主軸方位：N－2°－E。平面形態：不整（隅丸）方形。規模：4.0×3.9～4.0m。壁高：壁は遺存しない。覆土：1層。床面：一部しか遺存しないが軟弱。周溝：確認しえず。柱穴：2箇所検出され、P_1－16cm、P_2－30cm。竈：一基付設。

出土遺物：出土数は少なく、図示しえたものも1点でP_1から出土。

竈

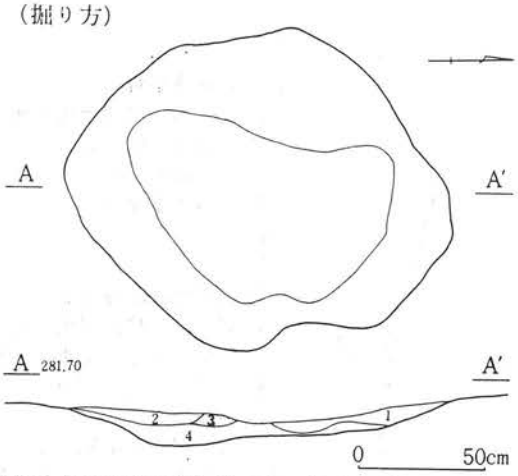
位置：北壁中央。遺存状態：極めて悪く掘り方のみ検出。

主軸方位：N－2°



第28図　13号住居址〔1/60〕

ーE。規模：長さ150cm、幅130cm（掘り方）。構造：不整円形を呈し、壁を半円形に掘り込む。（掘り方）



第1層　暗橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土・焼土ブロックを含む。
第2層　橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土を含む。
第3層　橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土ブロック層。
第4層　暗黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土粒を多量含む。

第29図　13号住居址・竈〔1/30〕

第16表　13号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器			10点	180 g
須恵器				

第30図　13号住居址出土土器〔1/4〕

第17表　13号住居址出土土器観察表

1	須恵器 坏	B：破片。C：内面一回転ナデ。外面一体部下端回転ナデ。底部縁辺ヘラ状工具による押エ。底部糸切り。D：密。E：灰白色。F：やや良。

《14号住居址》

位置：L－13区。北2mに15号住居址、東10mに16号住居址が存在。遺存状態：竈基底部と考えられる焼土溜まりを確認したが、削平が激しく住居址の範囲等は不明。

《15号住居址》（第31図、第18表）

位置：L・M－13・14区。南2mに14号住居址、南東 7.5mに16号住居址が存在。遺存状態：上面を著しく削平される。

主軸方位：N－4°－E。平面形態：不整長方形。規模： 4.0m×3.9～3.5m。壁高：5cm。覆土：1層で小礫を多量含む。床面：北東隅しか遺存しないが、軟弱。周溝・柱穴：確認しえず。竈：一基付設。

出土遺物：極めて少量で図示しえたものも無い。

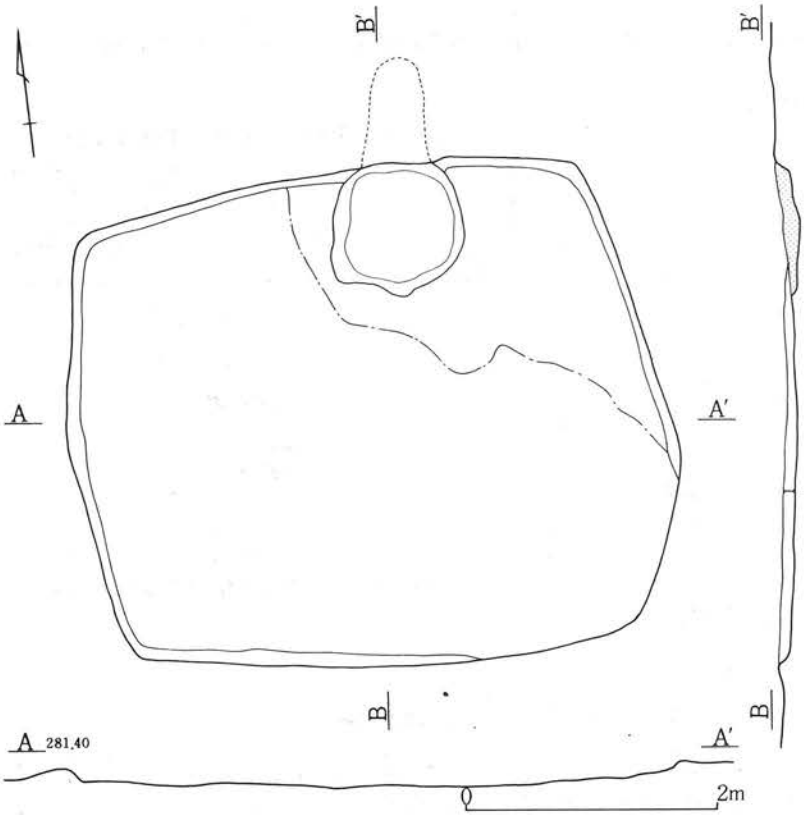
竈

位置：北壁東寄り。遺存状態：基底部及び煙道の痕跡しか遺存しない。

主軸方位：N－15°－E（含、煙道部）、幅107cm。

第18表　15号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器			7点	70 g
須恵器				



15号住居址

第１層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量，黄色粘土粒を微量含む。

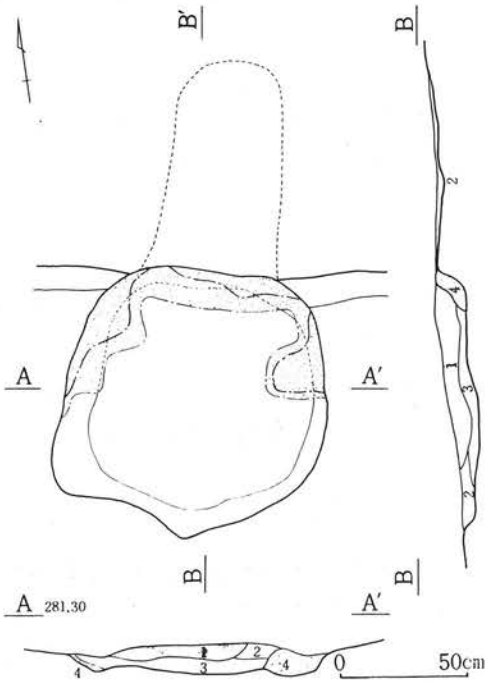
15号住居址カマド

第１層　暗橙褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土・焼土ブロック主体層。

第２層　暗橙褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土・小礫を含む。

第３層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土を微量，小礫・黄色土を含む。

第４層　暗黄色土層：粘性・強，しまり・有，黄色粘土主体層。



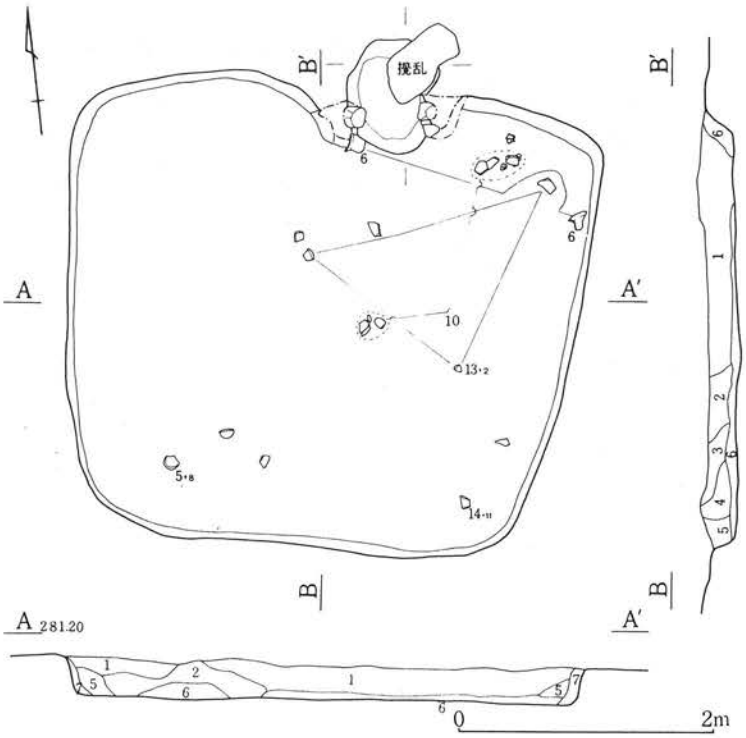
第31図　15号住居址及び竈〔1/60、1/30〕

構造：袖部は粘土主体。燃焼部は隅丸方形を呈し、深さは８㎝。煙道部は燃焼部から64°程で立ち上がり、段部を経てＵ字形に延びる。燃焼部奥部には粘土が貼られている。

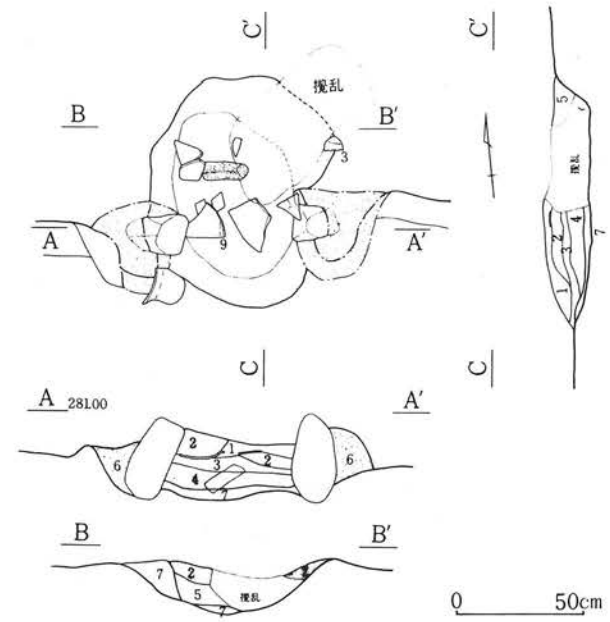
《16号住居址》（第32～33図、第19～20表、図版Ⅳ・XIV・XVI）

位置：Ｋ・Ｌ－14・15区。北東３ｍに19号住居址、東５ｍに20号住居址、南東0.5ｍに17・22号住居址が重複して存在。遺存状態：完存。

主軸方位：Ｎ－14°－Ｅ。平面形態：不整（隅丸）方形。規模：４.1～3.5ｍ×3.4ｍ。



第１層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫を多量含む。
第２層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫・礫を含む。
第３層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫・黄色土粒を含む。
第４層　暗茶褐色土層：粘性・強，しまり・有，小礫・炭化物を微量含む。
第５層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫を多量，暗茶褐色土を少量含む。
第６層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫・黄色土粒・焼土・炭化物を多量含む。
第７層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫・黄色土粒を含む。



第１層　黄褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土・小礫を微量含む。
第２層　橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土ブロック層。
第３層　黒褐色土層：粘性・強，しまり・有，焼土を少量含む。
第４層　暗橙褐色土層：粘性・強，しまり・有，焼土主体層。
第５層　暗赤褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土を含む。
第６層　黄白色土層：粘性・強，しまり・有，粘土主体層。
第７層　暗黄褐色土層：粘土ブロック・焼土ブロックを含む。

第32図　16号住居址及び竈〔1/60、1/30〕

壁高：30～18cm。覆土：７層で小礫を多量に、最下層に炭化物を含む。床面：堅緻。周溝・柱穴：なし。竈：一基付設。

出土遺物：豊富で床面上に散在するが、竈右脇（北東隅）に多い。10は17号住居址竈内から出土したものと接合した。他に覆土中より未加工の水晶片１片が出土している。

竈

位置：北壁東寄り。遺存状態：天井部を失い、煙道部に撹乱を受ける。

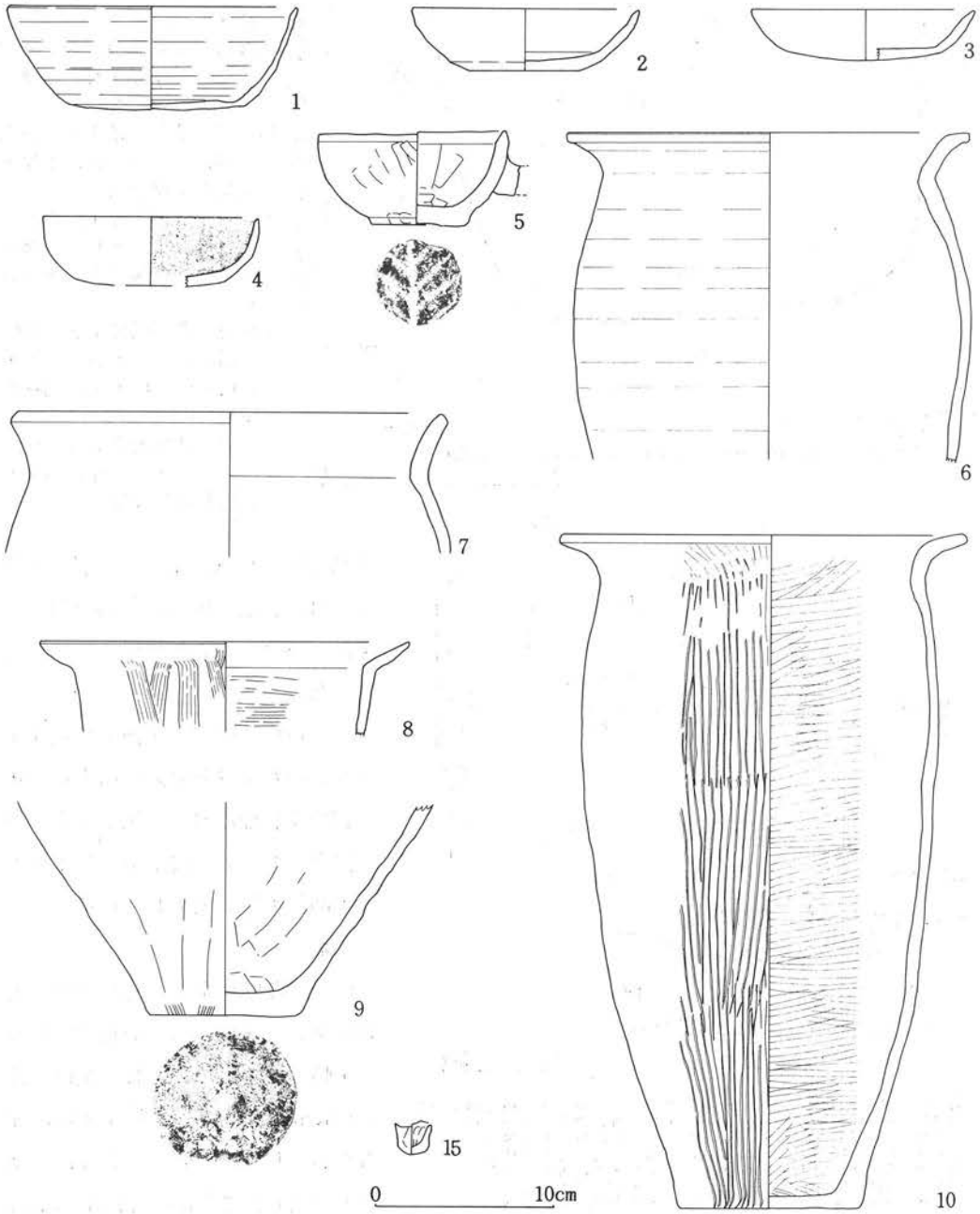
主軸方位：N－7°－E。規模：長さ104cm、幅116cm。構造：袖部は袖石を芯とし粘土を貼る。燃焼部は楕円形を呈し深さ７cm。煙道部は半円形に掘り込まれ、54°程でたちあがる

が右半部を攪乱で失う。

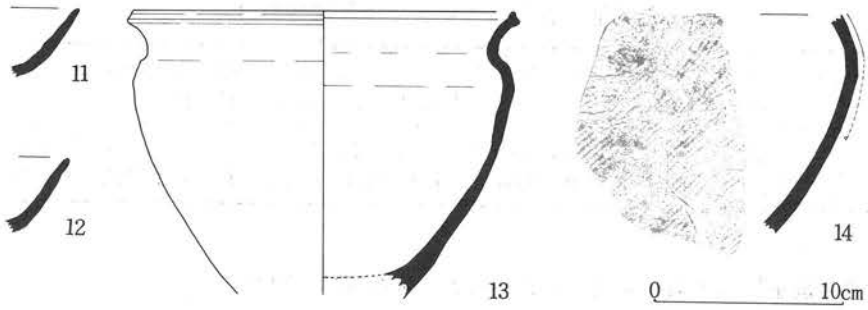
出土遺物：袖部、燃焼部から多数出土し、6は袖部補強に使用されたものであろう。燃焼部奥部から石製の支脚が検出された。

第19表　16号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	24点	150 g	107点	1,860 g
須恵器				



第33図　16号住居址出土土器(1)〔1/4〕



第33図　16号住居址出土土器(2)〔1/4〕

第20表　16号住居址出土土器観察表(1)

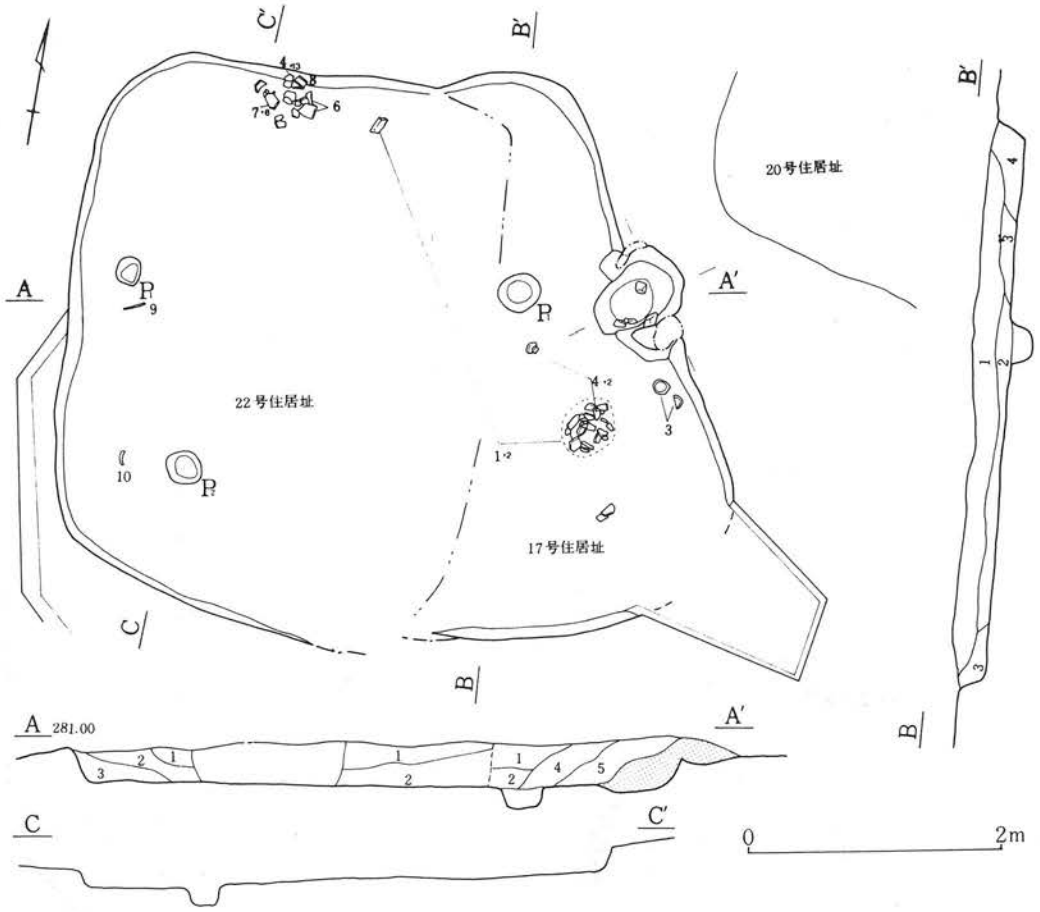
1	土師器 坏	A：ℓ16.1。b9.1。h5.8。B：1/2。C：内面一回転ナデのち不定方向のナデ。外面一体部上半回転ナデのちナデ。底部～体部下端回転ヘラケズリのちヘラミガキ。D：砂粒を含み密。E：黄褐色。F：やや良。
2	土師器 坏	A：ℓ12.6。b6.0。h3.5。B：完。C：内面一体部ミガキのちナデ。身こみ部ナデ。外面一体部ヘラミガキのちナデ。底部～体部下端ヘラケズリのちヘラミガキ。D：砂粒をわずかに含み密。E：暗橙褐色。F：良。
3	土師器 坏	A：ℓ（12.6)。b8.4。h2.9。B：底部1/2。体部1/3。C：内面一ミガキのちナデ。外面一体部上半ナデのちミガキ。底部～体部下端ヘラケズリのちミガキ。D：密。E：淡茶褐色。F：良。
4	土師器 埦	A：ℓ（12.0)。b(8.4)。h3.9。B：体部1/3。C：内面一ミガキ。口唇部ナデ。黒色塗彩。外面一体部上半回転ナデ。底部～体部下端回転ヘラケズリのちヘラミガキ。D：密。E：外・橙褐色。内・黒色。
5	土師器 埦	A：ℓ10.3～10.6。b5.1。h5.4B：ほぼ完。C：内面一口唇～口縁部ナデ。体部ヘラ状工具によるナデ(オサエ)。身こみ部ヘラ状工具による押エ。外面一口唇～口縁部ナデ。体部指押エのちヘラナデのち不定方向のナデ。体部下端指押エのちナデ。底部木葉痕。D：白砂粒を含み密。E：橙褐色。F：やや良。
6	土師器 甕	A：ℓ22.4。胴部最大径22.1。B：胴部上半1/2強。C：内面一回転ナデ。外面一回転ナデのちナデ(部分的)。D：雲母、白砂粒を含み密。E：明褐色。F：良。
7	土師器 甕	A：ℓ（24.4)。胴部最大径（24.8)。B：胴部～口縁部1/6～1/5。C：内面一口縁部ナデ。胴部不明。外面一口唇部～口縁ナデ。胴部不明。D：砂粒を含む。E：明褐色。F：良。
8	土師器 甕	A：ℓ20.4。頸部径17.2。B：口縁部1/3。C：内面一口縁ヨコナデのち部分的に斜方向のハケ。胴部ヨコハケ。外面一口唇部ナデ。口縁部分的にタテハケのちナデ。胴部タテハケ。D：白砂粒・金雲母を含む。E：淡茶褐色。F：やや良。
9	土師器 甕	A：b8.3。B：底部完。C：内面一ヘラ状工具による押エ（ナデ)。胴部中位押エのちナデ。外面一ヘラ状工具によるナデ。底部縁辺ハケ。D：砂粒を含み密。E：茶褐色。F：良。
10	土師器 甕	A：ℓ22.8。b10.0。h37.9。胴部径19.9。B：4/5。C：内面一口縁～口唇部ナデ。胴部ヨコハケ。胴部下端斜方向のハケ。外面一口縁部タテハケのちナデ。D：砂粒を含む。E：黄茶褐色。F：やや良。
11	須恵器 坏	B：破片。C：内面一回転ナデ。外面一体部回転ナデ。体部下端回転ヘラケズリ。D：白砂粒を含み密。E：青灰色。F：良。
12	須恵器 坏	B：破片。C：内外面一回転ナデ？。D：密。E：明灰白色。F：やや良。
13	須恵器 壺	A：ℓ20.6。b(7.0)。h15.5。胴部径20.0。B：1/2。C：内外面一回転ナデ。D：密。E：灰白色。F：不良。

第20表　16号住居址出土土器観察表(2)

14	須恵器壺	B：破片。C：内面―回転ナデ。外面―平行叩目。肩部まで緑灰色自然釉。D：細砂粒を含み密。E：外・暗青灰色。内・紫灰色。F：良。
15	手づくね	A：ℓ1.8～2.1。b1.3～1.5。h2.1。B：完。C：内面―細い棒状工具による押エ・シボリ。外面―指頭圧。D：細砂粒を含む。E：明茶褐色。F：良。

《17号住居址》（第34～36図、第21～22表、図版XIV・XVI）

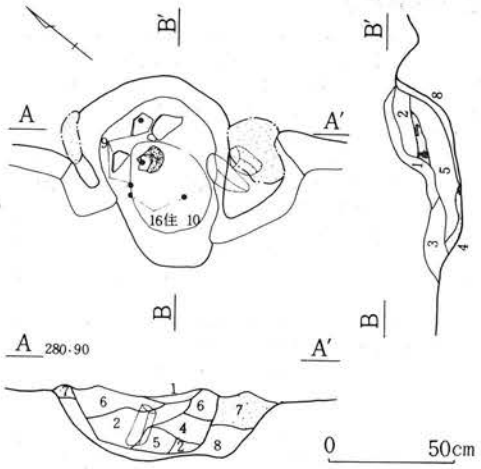
位置：K・L―15区。北3.5mに19・24号住居址、北東1mに20号住居址、北西0.5mに16号住居址が存在。重複関係：西半部で22号住居址と重複する。遺存状態：南西部に攪乱を受ける。



17号住居址
第1層　黒褐色土層：粘性・強，しまり・有，小礫を多量，スコリアを微量含む。
第2層　黒褐色土層：粘性・強，しまり・有，小礫を多量，炭化物を微量含む。
第3層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，スコリアを微量，小礫を含む。
第4層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・有，礫を多量，スコリアを含む。
第5層　暗褐色土層：粘性・強，しまり・無，礫を少量，ローム粒を含む。

22号住居址
第1層　黒褐色土層：粘性・強，しまり・有，小礫を多量，スコリアを微量含む。
第2層　暗茶褐色土層：粘性・強，しまり・有，褐色土を微量，小礫を含む。
第3層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫を少量，褐色土を微量含む。

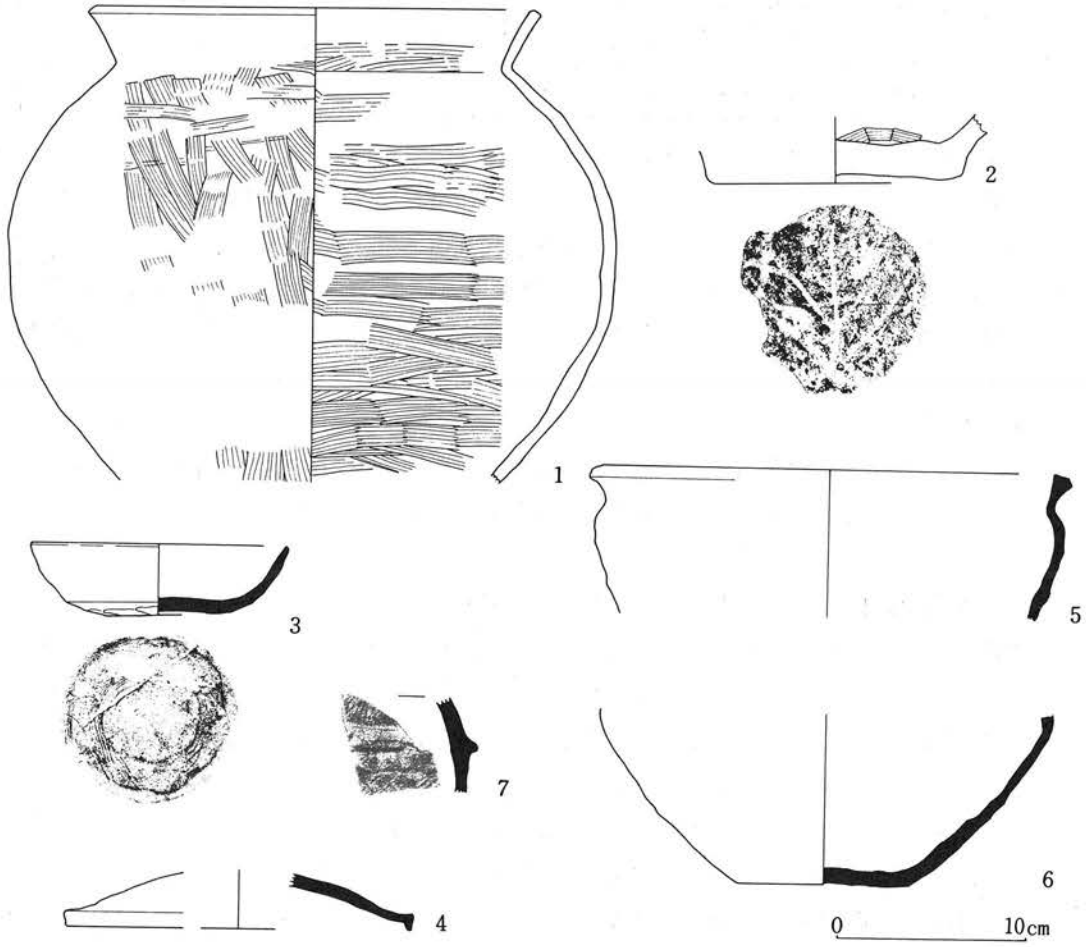
第34図　17号・22号住居址〔1/60〕



主軸方位：N－56°－E。平面形態：隅丸長方形。規模：南－北 4.2m。壁高：22cm 覆土：5層に分けられ小礫の混人が多い。床面：竈前から北西部が堅緻。周溝：なし。ピット：1箇所検出され、深さは13cm。竈：一基付設。

第1層　暗褐色土層：粘性・強，しまり・有，焼土を少量含む。
第2層　暗黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土・焼土を多量，小礫を少量含む。
第3層　明黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土を多量含む。
第4層　暗赤褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土主体層。炭化物・灰を含む。
第5層　暗茶褐色土層：粘性・強，しまり・有，焼土・粘土を含む。
第6層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・有，粘土・焼土を多量含む。
第7層　黄白色土層：粘性・強，しまり・有，粘土主体層。
第8層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，炭化物を微量，小礫・焼土を含む。

第35図　17号住居址竈〔1/30〕



第36図　17号住居址出土土器〔1/4〕

第21表　17号住居址出土土器観察表

1	土師器 壺	A：ℓ24.0。胴部最大径32.4。B：胴部上半1/2～2/3。C：内面―口縁部上半～口唇ナデ。口縁部下半ヨコハケのちナデ。胴部ヨコ～斜方向のハケ。外面―口縁ナデ。胴部上位タテハケのち部分的にヨコ方向のヘラナデ。胴部中位部分的にタテハケ。胴部下位タテハケ。D：白砂粒を含み密。E：淡橙褐色。F：良。
2	土師器 甕	A：b13.5。B：底部のみ完。C：内面―胴部下端ヨコハケ。底部指頭圧。外面―底部木葉痕。D：白砂粒・砂粒を含む。E：淡茶褐色。F：良。
3	須恵器 坏	A：ℓ13.3。b5.7。h3.9。B：完。C：内面―回転ナデ。外面―回転ナデ。体部下端ミガキ。底部糸切り。底部周辺ヘラケズリ。D：白砂粒・砂粒を含む。E：暗青灰色。F：良。
4	須恵器 蓋	A：ℓ18.3。最大径18.5。B：1/2。C：内面―回転ナデ。外面―体部上半回転ヘラケズリ。（反時計方向）。体部下半回転ナデ。D：白砂粒を含み密。E：青灰色。F：良。
5	須恵器 壺	A：ℓ25.4。胴部径25.0。B：口縁部1/3。C：内面―回転ナデ。口縁部回転ナデのちナデ。外面―胴上半～口縁部回転ナデ。D：砂粒を含み密。E：灰白色。F：やや良。
6	須恵器 壺	A：b9.8。B：1/2。C：内面―回転ナデ。外面―時計回りの回転ヘラケズリ。D：砂粒を含み密。E：灰白色。F：やや良。
7	須恵器 （四耳壺？）	B：破片。C：内面―回転ナデ。外面―叩目のちツバ貼り付け後貼付部ナデ。D：白砂粒を微量含む。E：青灰色。F：良。

出土遺物：豊富で床面上では、竈右前に集中。

竈

第22表　17号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	470点	1,280g	343点	2,340g
須恵器	14点	80g	10点	140g
その他	8点	40g		

位置：東壁中央。遺存状態：上部を削平される。

主軸方位：N―52°―E。規模：長さ77cm、幅88cm。構造：袖部は袖石を芯とし粘土を貼る。燃焼部は楕円形を呈し、深さは8cm。煙道部は浅い皿状平面で60°程で立ち上がる。

出土遺物：燃焼部内に土器片が散乱。燃焼部奥部から石製支脚を検出。本竈焼土層直上から出土した土器片数点は、16号住居址床直に認められた16住―10と接合した。

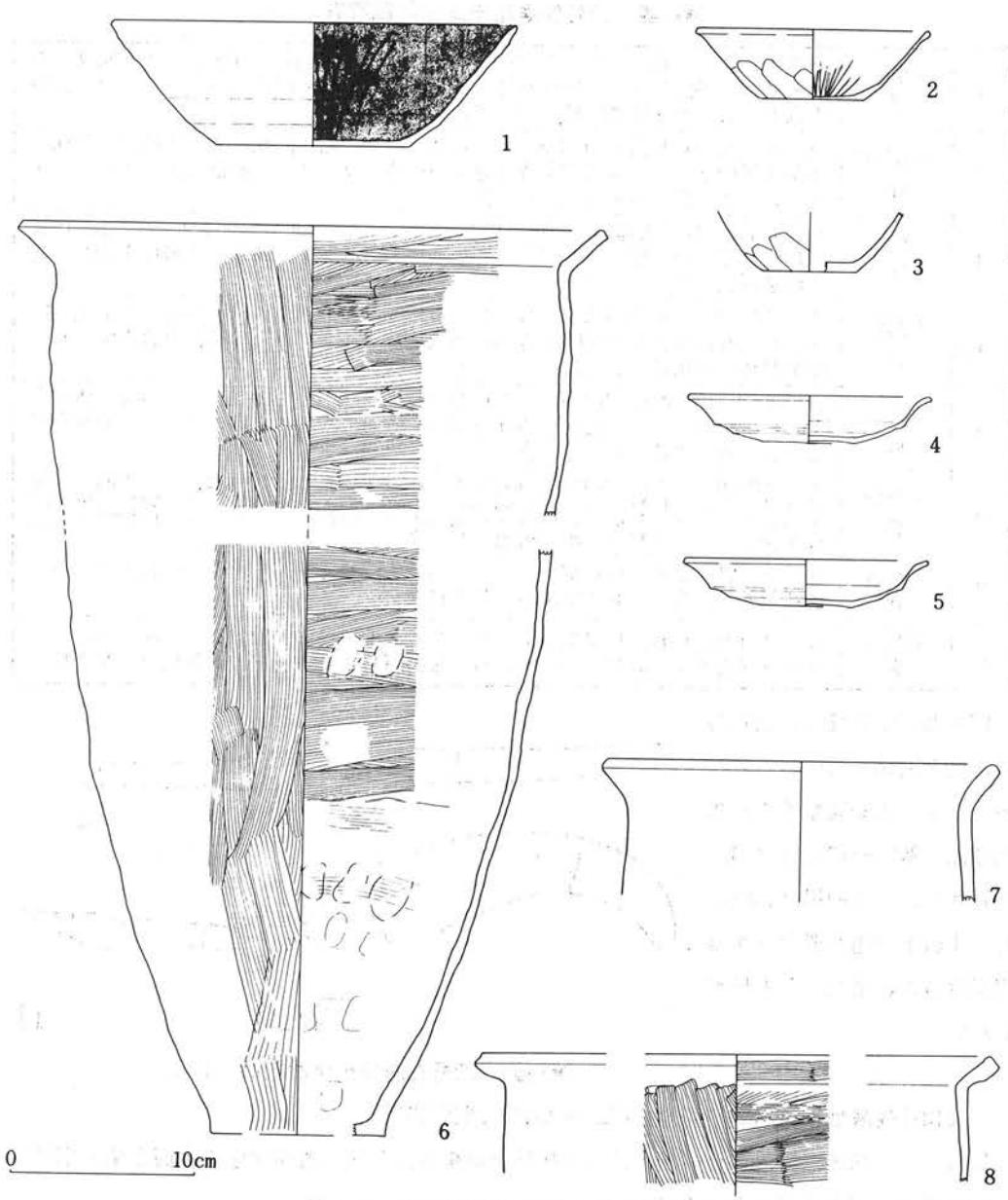
《22号住居址》（第37～38図、第23表、図版XVIII）

位置：K・L―15区。北西0.5mに16号住居址、北3.5mに19・24号住居址、北東1mに20・21号住居址が重複して存在。重複関係：東半部で17号住居址と重複する。遺存状態：北西部は残るが他は非常に悪く、重複する17号住居址との前後関係も遺構の状況からは不明である。

主軸方位：N―9°―E or N―81°―W。平面形態：不整隅丸（長）方形。規模：南北4.5m。壁高：27～12cm。覆土：3層で小礫の混入が顕著。床面：軟弱。周溝：なし。ピット：2箇所検出され共に柱穴。P_1―17cm、P_2―17cm。竈：確認できず。東壁に付設された可能性が強い。

出土遺物：北壁中央壁際に集中。鉄製品3点を検出、うち2点は西壁沿い床面上である。

鉄製品：9・11は刀子。9は現長15.5cm、身部幅0.7～1.4cm、茎部幅0.8cm、棟厚0.3cmを測



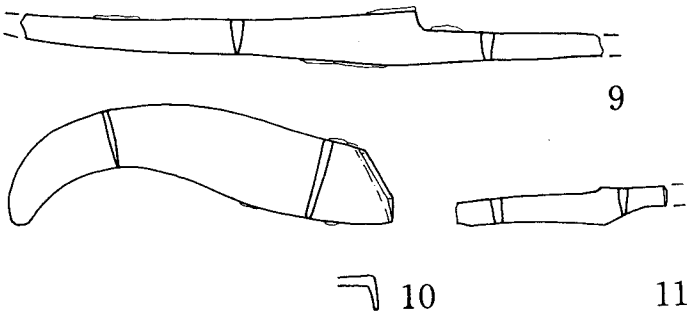
第37図　22号住居址出土土器〔1/4〕

る。関(マチ)は棟側のみの片関で0.4cmほど急激に立って造り出される。断面は三角形を呈する。11は現長5.5cm程の関(マチ)部断片。身部幅0.6cm、茎部幅0.7cm、棟厚0.3cmを測る。棟側のみの片関で断面は三角形を呈する。10は鎌。小型品で全長11.5cm。基部幅2.2cm、身部幅2.0～1.0cm、棟厚0,2cmを測る。基部から直状に延び、先端部近くで急湾し「つ」の字状を呈する。着柄角度は50°程である。9・10は西壁沿い床面、11は覆土中からの出土である。

第23表　22号住居址出土土器観察表

1	土師器 坏	A：ℓ22.0。b10.3。h6.7。B：1/3～1/4。C：内面一回転ナデのち暗文。外面一体部上半回転ナデ。底部～体部下半反時計方向の回転ヘラケズリ。D：砂粒を含む。E：外・明茶褐色。内・黒色。F：やや良。
2	土師器 坏	A：ℓ（12.8)。b5.4。h3.8。B：1/3。C：内面一回転ナデのち暗文。外面一体部上半回転ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底部二方向のヘラケズリ。D：密。E：暗橙褐色。F：良。
3	土師器 坏	A：b4.9。B：底部1/3～1/2。C：内面一ナデ。外面一体部上半ナデ(？）体部下端時計方向の一段ヘラケズリ。底部二方向のヘラケズリ。D：砂粒を含む。E：淡茶褐色。F：良。
4	土師器 皿	A：ℓ13.3。b4.7。h2.6。B：1/2。C：内面一回転ナデ。外面一体部上半回転ナデ。底部～体部下半時計方向の回転ヘラケズリ。D：細砂粒を含み密。E：暗茶褐色～茶褐色。F：良。
5	土師器 皿	A：ℓ12.2。b4.9。h2.6。B：1/2～1/3。C：内面一回転ナデ。外面一体部上半回転ナデのちナデ。底部～体部下端時計方向の回転ヘラケズリ。D：砂粒を含む。E：明茶褐色。F：やや良。
6	土師器 甕	A：ℓ32.0。b9.6。h49.5。胴部最大径28.0。B：1/3～1/2。C：内面一口縁部ヨコハケのち(口唇部)ナデ。胴部上・中位ヨコ～斜方向のハケ。胴部下位指頭圧のちヨコハケ。外面一口唇部～口縁部ナデ。胴部タテハケ。D：白砂粒・金雲母を含む。E：茶褐色～暗茶褐色。F：良。
7	土師器 甕	A：ℓ（21.3)。B：口縁部1/4。C：内面一口縁部ナデ。外面一回転ナデ。D：砂粒を僅かに含む。E：明褐色。F：良。
8	土師器 甕	A：ℓ（28.4)。B：口縁部1/3～1/4。C：内面一口縁～胴部ヨコハケ。外面一口縁～口唇部ナデ。胴部タテハケ。D：細砂粒を含み密。E：明茶褐色。F：良。

17・22号住居址は、調査時には前後関係を明確にしえなかったが、土器観察等の結果、22号住（新）→17号住（旧）と判断した。その場合、新(22号）住居址の竈が遺存せず疑問が残るが、攪乱の為と理解したい。



第38図　22号住居址出土鉄製品〔1/2〕

《18号住居址》（第39～40図、第24～25表、図版XIV）

位置：L－16区。南西3mに20・21号住居址が重複して存在。遺存状態：上面を全く削平され、柱穴及び竈基底部のみを確認。

主軸方位：N－3°－W。平面形態：（方形)。規模：（4.1×4.0m)。覆土：1層。柱穴：4箇所検出され、深さはP_1－13cm、P_2－17cm、P_3－25cm、P_4－16cm。竈：一基付設（竈基底部と考えられる焼土溜まりを検出)。

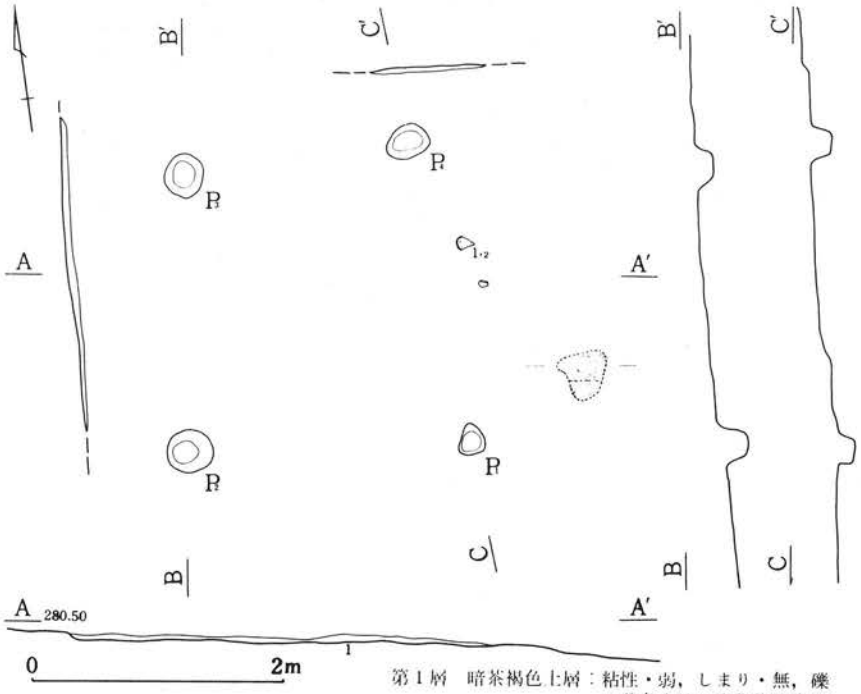
出土遺物：僅かで図示しえたものも1点のみである。

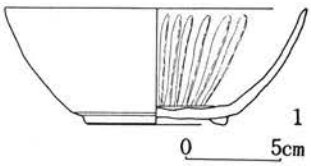
第24表　18号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	16点	100 g	42点	300 g
須恵器				

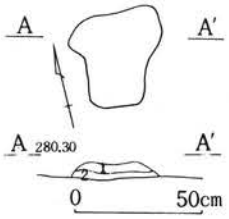
竈

位置：東壁南部。遺存状態：全く削平され、掘り方底部のみ残存。





第40図　18号住居址出土土器〔1/4〕



第1層　暗赤褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土主体層，小礫を微量含む。
第2層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土を少量，小礫・粘土粒を含む。

第39図　18号住居址及び竈〔1/60、1/30〕

第25表　18号住居址出土土器観察表

1	土師器 坏	A：ℓ（15.6）。b 8.6。h 6.2。高台径7.4。B：底部完。口縁部1/4。C：内面―体部回転ナデのち暗文、身こみ部ナデ。外面―体部上半回転ナデ。底部～体部下半時計方向の回転ヘラケズリ。底部回転ヘラケズリのち高台貼り付け。高台部ナデ。D：密。E：明茶褐色。F：良。

《19号住居址》（第41～42図、第26～27表、図版Ⅳ）

位置：L―15区。南西3mに16号住居址、南3.5mに17・22号住居址、南東1mに20・21号住居址がそれぞれ重複して存在。遺存状態：上面に削平を受けるがほぼ完存。

主軸方位：N―83°―W。平面形態：（隅丸）長方形。規模：4.1×3.1m。壁高：15～6㎝。覆土：3層で焼土・炭火物を含む。床面：竈前から東半部はやや堅緻。周溝：なし。ピット：1箇所検

第26表　19号住居址出土土器計測表

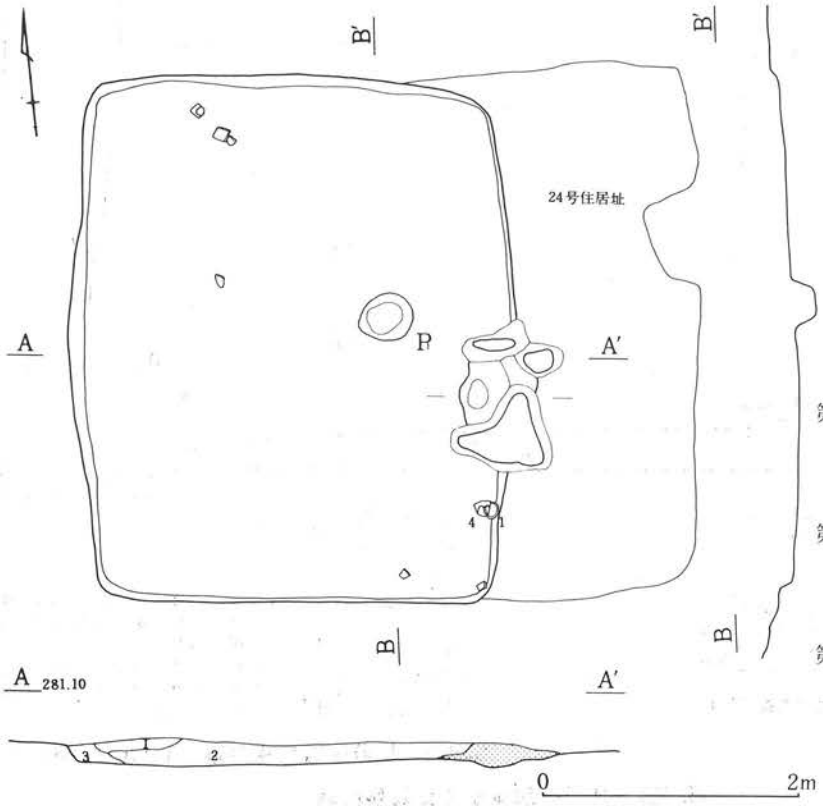
	坏　類		甕　類	
土師器	57点	280 g	330点	3,560 g
須恵器	3点	20 g		

出され、深さは17cm。竈：一基付設。

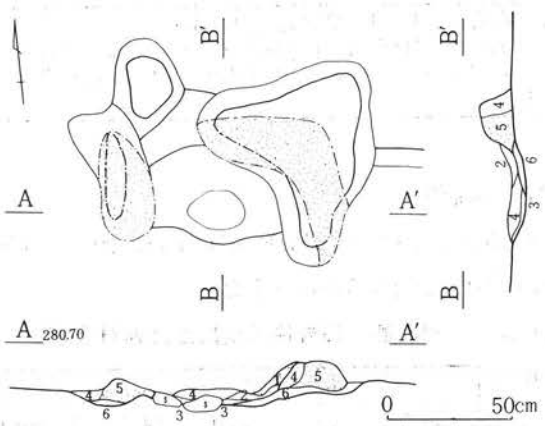
出土遺物：南東及び北西隅に顕著。

竈

位置：東壁南寄り。遺存状態：上面に削平を受け右袖部がやや残る。

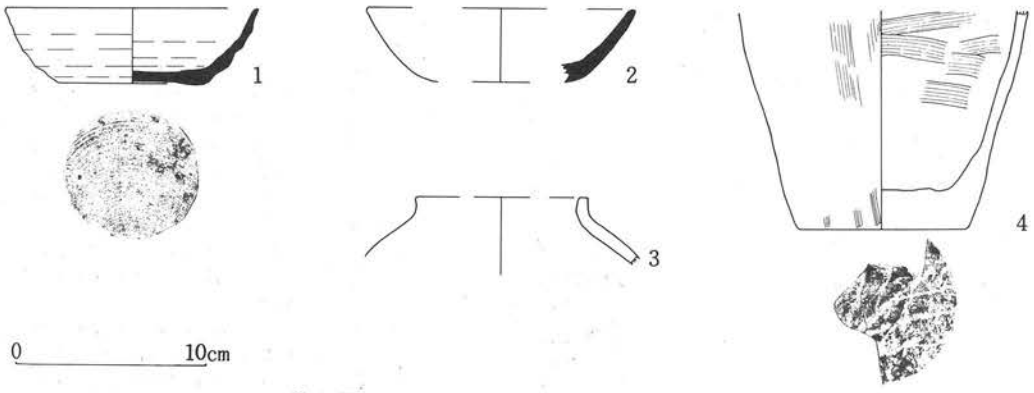


第１層　暗赤褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土・炭化物を含む。
第２層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，炭化物粒・ローム粒を微量含む。
第３層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・有，礫・小礫黄色土粒を多量含む。



第１層　暗橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土主体層。
第２層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土・粘土を含む。
第３層　黄色土層：粘性・強，しまり・有，被熱粘土を含む。
第４層　暗茶褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土を多量，焼土を微量含む。
第５層　白色土層：粘性・強，しまり・有，粘土層。
第６層　暗黄茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無、小礫・焼土を多量含む。

第41図　19号住居址及び竈〔1/60、1/30〕



第42図　19号住居址出土土器〔1/4〕

第27表　19号住居址出土土器観察表

1	須恵器 坏	A：ℓ13.2。b7.6。h4.0。B：3/4。C：内面―回転ナデのち口縁部ナデ。外面―縁辺部時計方向の一段ヘラケズリ。体部回転ナデ。底部糸切り。D：白砂粒を含む。E：暗青灰色。F：良。
2	須恵器 坏	A：ℓ（13.9)。h5.1。B：体部のみ1/3。C：内面―回転ナデ。外面―回転ナデ。底部～体部下端ヘラミガキ。D：白砂粒を多量に含み密。E：暗青灰色。F：良。
3	土師器 (短頸壺)	A：ℓ(8.8)。B：口縁～頸部1/4～1/5。C：内外面―磨耗の為不明確、最終調整ナデ。D：密。E：淡乳褐色。F：良。
4	土師器 甕	A：b8.8。h8.9。B：底部～胴部下半1/2。C：内面―胴上半ヨコハケ。底部～胴下位指頭圧のちナデ。外面―胴中位タテハケ。胴部下半細かいタテハケのちナデ。底部木葉痕。D：砂粒を含む。E：暗茶褐色。F：良。

《20号住居址》（第43～44図、第28～29表、図版Ⅳ・Ⅶ）

位置：L―15区。北1mに24号住居址、南西1mに17号住居址、西5mに16号住居址が存在。重複関係：21号住居址に北東隅を切られる。遺存状態：21号住居址に切られる以外は良好。

主軸方位：N―77°―W。平面形態：不整隅丸方形。規模：3.0×(3.2)～3.0m。壁高：40～32cm。覆土：9層で小礫・黄色土粒の混入が多い。床面：堅緻。周溝・柱穴：なし。竈：一基付設。

出土遺物：豊富で床面上では竈右脇、中央西壁寄りに集中。

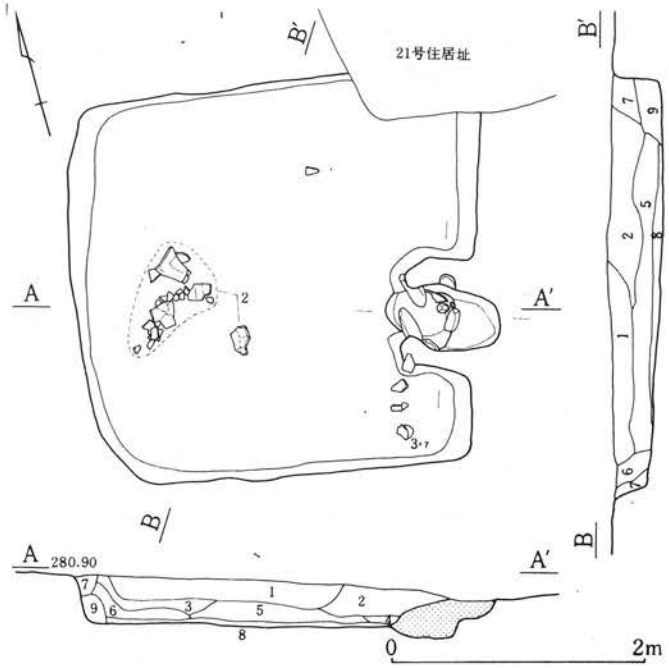
竈

位置：東壁南寄り。遺存状態：天井部を失うが他はほぼ遺存。

主軸方位：N―70°―W。規模：長さ90cm、幅83cm。構造：袖部は袖石を芯とする。袖先端から燃焼部内に落ち込んでいる礫は天井部構築に使用されたものであろう。燃焼部は楕円形を呈し深さは

第28表　20号住居址出土土器計測表

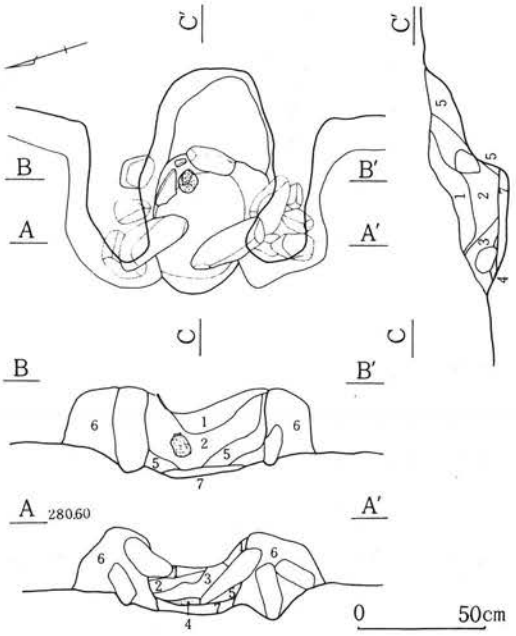
	坏	類	甕	類
土師器	137点	480g	260点	2,330g
須恵器	11点	80g	6点	40g



第1層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫・黄色土粒を少量含む。
第2層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫・黄色土粒を少量含む。
第3層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・有，黄色土粒・炭化物を微量，小礫を含む。
第4層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫・黒色土粒・黄色土粒を微量含む。
第5層　明褐色土層：しまり・強，焼土を微量，小礫・黄色土粒を含む。
第6層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫・黄色土粒を含む。
第7層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫を含む。
第8層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，黄色土粒を多量，小礫・焼土・炭化物を少量含む。
第9層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，ローム粒を多量，小礫を少量含む。

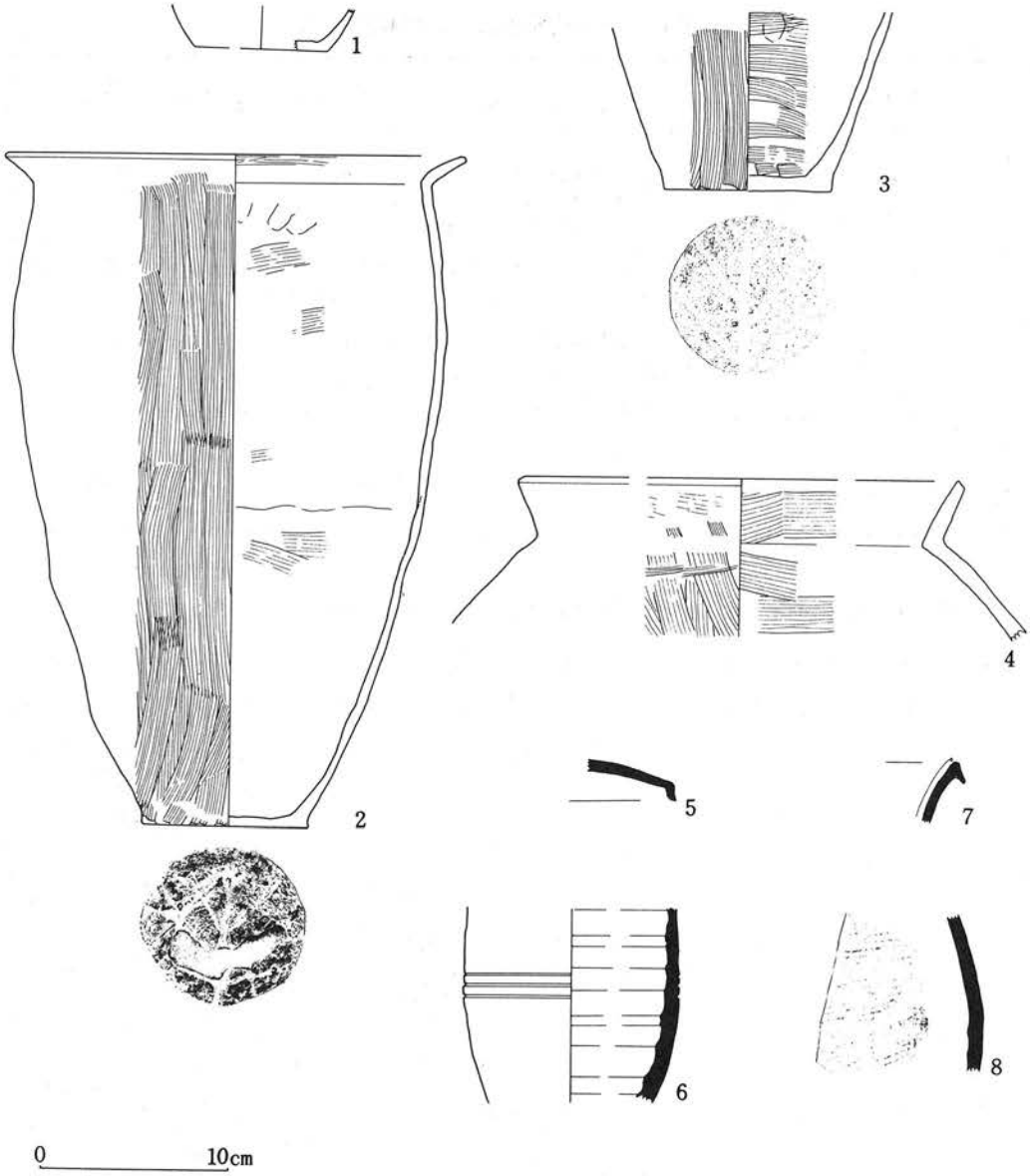
8㎝。煙道部は半円形に掘り込まれる。中位に段部を持ち、35°程で立ち上がる。

出土遺物：甕破片が出土したが、図示しえなかった。燃焼部奥部から石製支脚を検出。



第1層　明褐色土層：粘性・弱，しまり・無，ローム粒を多量，焼土・炭化物を含む。
第2層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土を多量，ローム粒を含む。
第3層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土を多量，炭化物を含む。
第4層　暗橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土ブロック層。
第5層　暗褐色土層：粘性・弱，炭化物・焼土を含む。
第6層　明茶褐色土層：粘性・強，しまり・有，ロームブロックを多量含む。
第7層　明黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量，焼土を少量，ローム粒を含む。

第43図　20号住居址及び竈〔1/60、1/30〕



第44図　20号住居址出土土器〔1/4〕

第29表　20号住居址出土土器観察表(1)

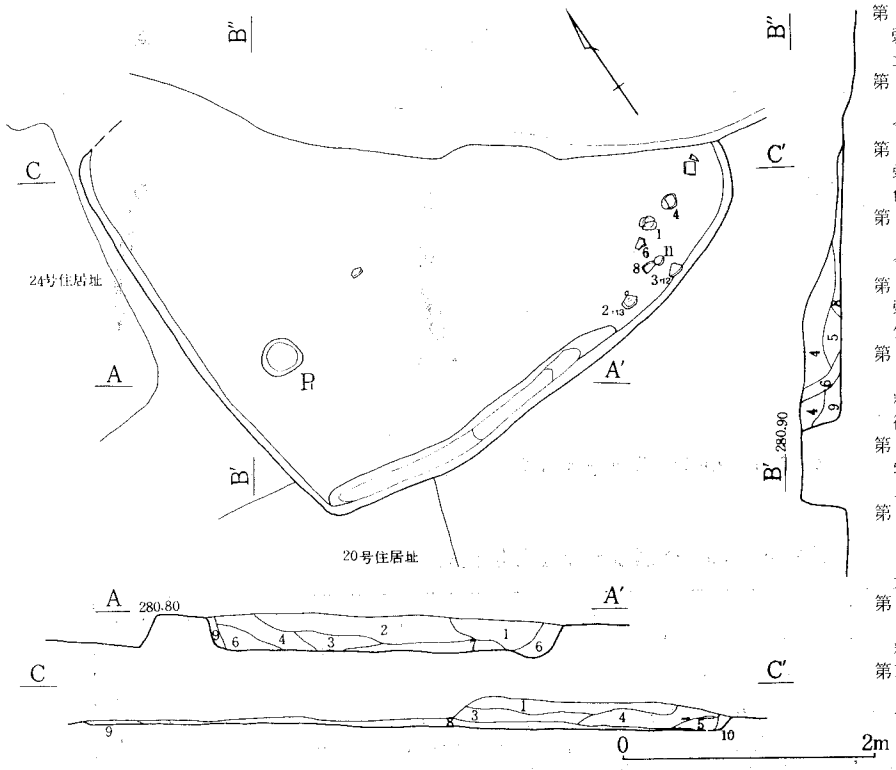
1	土師器 坏	A：b7.0。B：底部1/3。C：内面一回転ナデ。体部と身こみ部の境に棒状工具による押エナデ。外面一体部下端へラケズリのちナデ。底部一方向のへラケズリ。D：密。E：淡乳褐色。F：良。
2	土師器 甕	A：ℓ24.4。b8.9。h35.8。胴部最大径22.6。B：完。C：内面一ヨコハケのち一部ナデ。口縁部ヨコハケ。外面一口縁～口唇部ナデ。胴部タテハケ。底部木葉痕。D：金雲母を含み密。E：暗茶褐色。F：良。

第29表　20号住居址出土土器観察表(2)

3	土師器 甕	A：b8.8。B：底部～胴部下半完。C：内面―ヨコハケ（一部に指頭痕)。底部縁辺にハケ状工具によるしぼり痕。外面―タテハケ。底部木葉痕。D：砂粒を含む。E：明茶褐色。F：良。
4	土師器 甕	A：ℓ(23.6)。頸部径(20.8)。B：胴上部～口縁1/4。C：内面―口縁部ヨコハケ。胴部ヨコハケ。外面―口唇部ナデ。口縁部ヨコハケのちナデ。胴部タテハケ。D：砂粒を含む。E：淡茶褐色。F：良。
5	須恵器 蓋	B：破片。C：内面―回転ナデ。外面―体部上半回転ヘラケズリ。口唇部～体部下半回転ナデ。D：白砂粒を微量に含む。E：暗灰色。F：良。
6	須恵器 壺	A：胴部径11.4。B：胴部1/2。C：内面―回転ヘラケデ。外面―回転ナデ。D：密。E：黒灰色。F：良。
7	須恵器 壺	B：破片。C：内外面―回転ナデ。D：白砂粒を含む。E：黒灰色～暗青灰色。F：良。
8	須恵器 壺	B：破片。C：内面―上半回転ナデ。中位回転ヘラケズリ。下位タテ方向のヘラケズリ。外面―叩目。

《21号住居址》（第45～46図、第30～31表、図版Ⅳ・XⅣ）

位置：L―15・16区。北東1mに18号住居址、南西4mに17・22号住居址が重複して存在、西に19・24号住居址が重複して接している。重複関係：本址南西隅が20号住居址北東隅を切っ



第1層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫・焼土を微量含む。
第2層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫を含む。
第3層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫・黄色土粒を含む。
第4層　暗褐色土層：しまり・無，焼土・炭化物を微量含む。
第5層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土・炭化物・黄色土粒を少量含む。
第6層　暗黄褐色土層：粘性・強，しまり・無，黄色土粒を多量，小礫・炭化物を微量含む。
第7層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・有，礫・黄色土粒を少量含む。
第8層　暗橙褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土を多量，黄色土粒・小礫を少量含む。
第9層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・有，黄色土粒を多量，小礫を含む。
第10層　暗褐色土層：炭化物を微量，小礫・黄色土粒を含む。

第45図　21号住居址〔1/60〕

ている。遺存状態：削平のため北半部を失い、北西隅も床面範囲を把握しえたのみ。

主軸方位：N—20°—W or N—88°—W。平面形態：（不整）隅丸長方形。規模：4.4×3.8m。壁高：31cm。覆土：10層で最下層は焼土・炭化物を含む。床面：残存部は堅緻。周溝：南壁西半部でのみ検出され、幅20cm、深さ10～5cm。ピット：1箇所検出され、深さは26cm。竈：確認しえず。

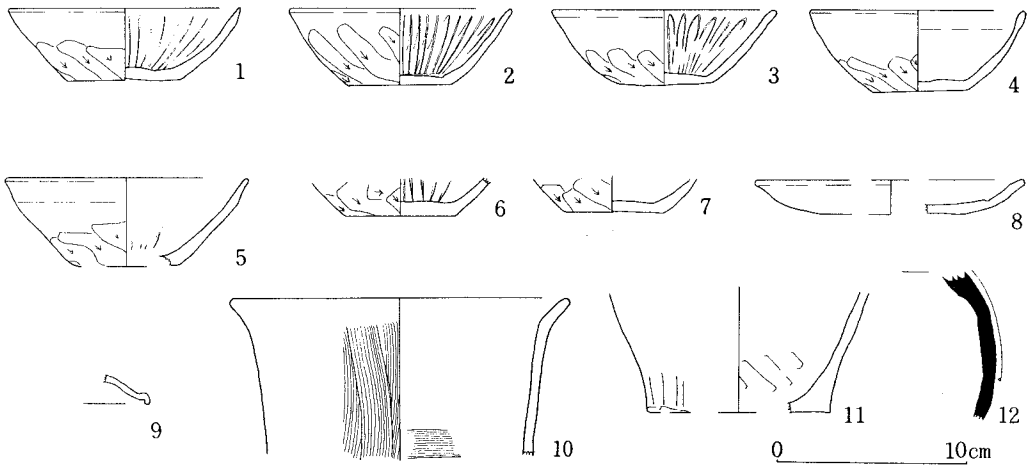
出土遺物：南東隅壁際に集中。覆土中から鉄滓1点（5g）が出土している。

第30表　21号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	125点	600g	204点	1,440g
須恵器	2点	20g	4点	120g

竈

住居址北壁西半部で竈の痕跡と考えられる焼土溜まりを検出。



第46図　21号住居址出土土器〔1/4〕

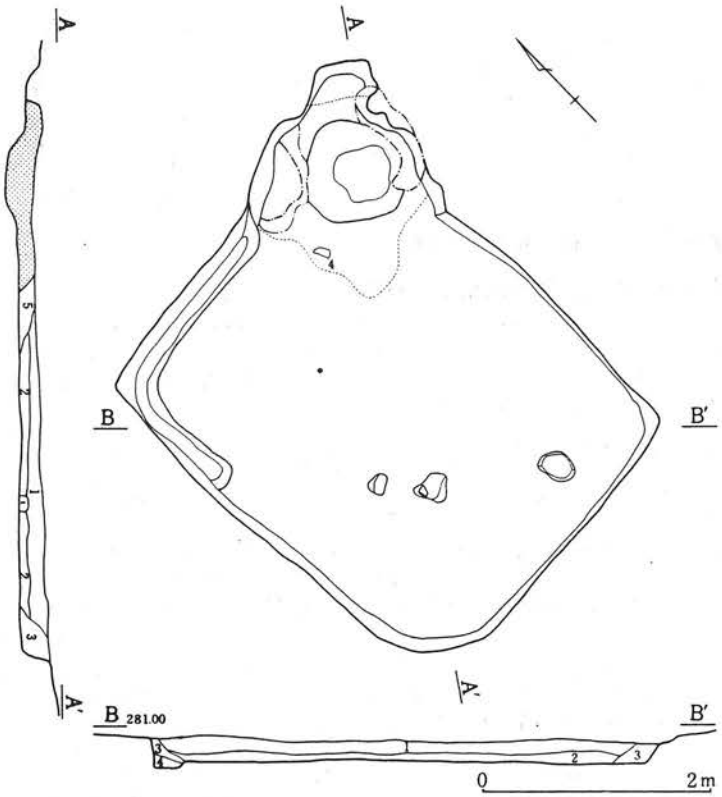
第31表　21号住居址出土土器観察表(1)

1	土師器 坏	A：ℓ12.2。b6.1。h3.9。B：完。C：内面一回転ナデのち暗文。外面一体部上半回転ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底部不定方向のヘラケズリ。D：砂粒を微量に含み密。E：明茶褐色。F：良。
2	土師器 坏	A：ℓ11.8。b5.4。h4.1。B：完。C：内面一回転ナデのち暗文。身こみ部縁辺棒状工具によるナデ。外面一体部上半回転ナデのちナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリのちナデ。底部二方向のヘラケズリのちナデ。D：密。E：黄茶褐色。F：良。
3	土師器 坏	A：ℓ11.9。b5.1。h4.0。B：ほぼ完。C：内面一回転ナデのち暗文。身こみ部体部の境棒状工具によるナデ。外面一体部上半回転ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底部反時計方向の回転ヘラケズリ。D：砂粒を含む。E：淡茶褐色。F：良。
4	土師器 坏	A：ℓ11.4。b4.9。h4.3。B：完。C：内面一ナデ。外面一口唇部回転ナデのちナデ。体部上半回転ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底部ヘラケズリのちミガキ。D：細砂粒を含み密。E：淡茶褐色。F：良。
5	土師器 坏	A：ℓ（12.8)。b(5.6)。h4.7。B：1/4。C：内面一ナデのち暗文。外面一体部上半ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。D：砂粒を僅かに含み密。E：淡茶褐色。F：良。

第31表　21号住居址出土土器観察表(2)

6	土師器 坏	A：b5.8。B：底部のみ完。C：内面―身こみ部ナデ。体部回転ナデのち暗文。外面―体部下半時計方向の一段へラケズリのちナデ。底部へラケズリのちミガキ。D：密。E：暗茶褐色。F：良。
7	土師器 坏	A：b5.4。B：底部のみ完。C：内面―ナデ。外面―体部下半時計方向の一段へラケズリのちナデ。底部一方向のへラケズリ。D：砂粒・黒色粒を含み密。E：褐色。F：良。
8	土師器 皿	A：ℓ（12.4)。b（7.6)。h1.8。B：1/3～1/4。C：内面―体部～口唇部回転ナデ。体部下端～身こみ部ナデ。外面―体部上半回転ナデ。底部～体部下半（反時計方向）回転へラケズリ。D：砂粒を含み密。E：明茶褐色。F：良。
9	土師器 蓋	B：破片。C：内外面―回転ナデのちナデ。D：砂粒を微量に含み密。E：明淡褐色。F：良。
10	土師器 甕	A：ℓ（18.0)。肩部径（16.0)。B：口縁～胴1/3。C：内面―口縁ナデ。胴部ヨコハケと思われるが剝離が著しい。外面―口縁～口唇ナデ。胴部細かいタテハケ。D：砂粒を多量に含む。E：暗茶褐色。F：良。
11	土師器 甕	A：b（9.6)。B：底部1/3～1/2。C：内面―胴部上半ナデ。胴部下端板状工具によるしぼり。外面―胴部下端板状工具によるナデ。底部ナデ。D：砂粒を多量に含む。E：明茶褐色。F：良。
12	須恵器 壺	B：破片。C：内面―回転ナデ。外面―回転ナデ。緑灰色系の自然釉。D：密。E：暗青灰色。F：良。

《23号住居址》（第47～49図、第32～33表、図版Ⅴ）



第1層　黒褐色土層：粘性・強，しまり・有，小礫・砂粒を多量含む。
第2層　黒褐色土層：粘性・強，しまり・有，砂粒を多量含む。
第3層　黒色土層：粘性・強，しまり・有。
第4層　暗褐色土層：粘性・強，しまり・有，砂粒を多量，ローム粒を含む。
第5層　褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土・ローム・粘土粒を少量含む。

第47図　23号住居址〔1/60〕

位置：K－10区。東0.5mに11号住居址、北東2.5mに10号住居址が存在。遺存状態：上面に削平を受ける。

主軸方位：N－7°－W。平面形態：隅丸長方形。規模：4.2～4.0×3.1m。壁高：24～18cm。覆土：5層で砂粒の混入が多い。床面：堅緻。周溝：竈左脇から北西隅にかけて認められ、幅25～20cm、深さ10～8cm。柱穴：なし。竈：一基付設。

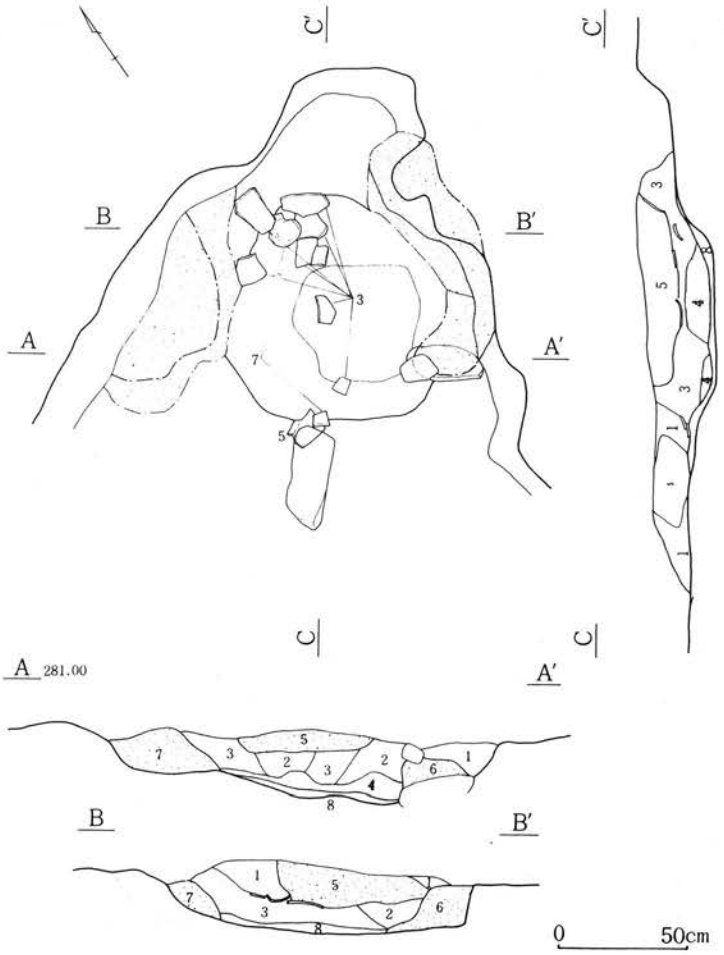
出土遺物：豊富だが破片化がすすむ。

竈

位置：北東隅。遺存状態：上面を削平され、煙道部に攪乱を受ける。

主軸方位：N－35°－E。規模：長さ140cm、幅155cm。構造：袖部は粘土を貼る。右袖のみ袖石使用。燃焼部は楕円形を呈し、深さは8cm。煙道部は半円形に掘り込まれ、緩やかな段部を有する。立ち上がり角度は、約45°ある。

出土遺物：燃焼部左半部から大量の甕類が出土、竈構築時に使用された可能性が強い。

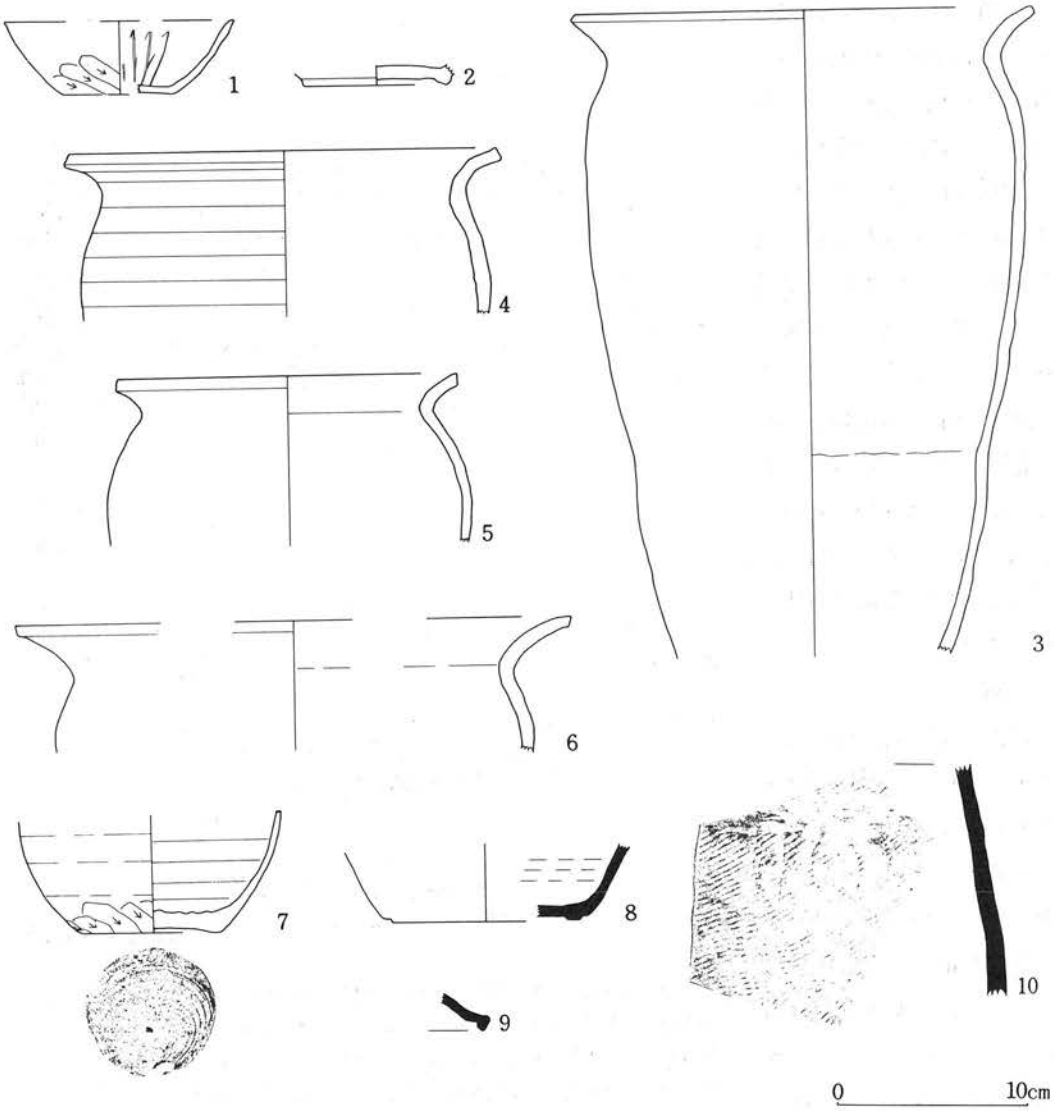


第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土・粘土・小礫を含む。
第2層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・有，粘土を多量，焼土ブロックを含む。
第3層　暗赤褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土を多量，粘土を含む。
第4層　暗橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土ブロック層。
第5層　暗黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土主体層。
第6層　黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土主体層。
第7層　暗黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土主体層。小礫を微量含む。
第8層　暗赤茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量，焼土を微量に含む。

第48図　23号住居址・竈〔1/30〕

第32表　23号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	151点	480 g	139点	1,300 g
須恵器	8点	100 g	7点	130 g



第49図　23号住居址出土土器〔1/4〕

第33表　23号住居址出土土器観察表(1)

1	土師器 坏	A：ℓ11.8。b(5.8)。h3.9。B：1/3～1/4。C：内面―身こみ部ナデ。体部回転ナデのち暗文。外面―体部上半回転ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底部糸切り、のち不定方向のヘラケズリ。D：密。E：褐色～暗褐色。F：良。
2	土師器 坏	A：高台径 7.6。B：底部1/3。C：内面―ナデ。外面―時計方向の回転ヘラケズリ。高台部ケズリダシ？。D：砂粒を含み密。E：明褐色～淡褐色。F：良。
3	土師器 甕	A：ℓ24.2。胴部最大径（肩部）22.8。B：1/2強。C：内面―回転ナデ。外面―平行叩目（一部）のち回転ナデ。D：砂粒を含み密。E：明茶褐色。F：良。

第33表　23号住居址出土土器観察表(2)

4	土師器 (甕)	A：ℓ（22.8)。B：口縁部1/3。C：内外面一回転ナデ。D：砂粒を含み密。E：暗茶褐色。F：良。
5	土師器 甕	A：ℓ（18.0)。胴部径（19.2)。B：胴部～口縁1/3～1/2。C：内外面一回転ナデ。D：砂粒を多量に含む。E：茶褐色。F：良。
6	土師器 甕	A：ℓ（29.0)。胴部径（25.0)。B：口縁1/5。C：内面一口縁ハケ。胴部ナデ。外面一口縁～口唇部ナデ。D：白砂粒を多量に含む。E：淡橙褐色。F：良。
7	土師器 甕	A：b7.3。B：体部3/4（口唇部を除く)。C：内面一胴部回転ナデ。外面一胴部回転ナデ。体部下端反時計方向のヘラケズリ。底部糸切り。縁辺部ヘラケズリ。D：細砂粒を微量含み密。E：外・明茶褐色～暗茶褐色。内・淡茶褐色～茶褐色。F：良。
8	須恵器 坏	A：b（10.6)。高台径(9.8)。B：1/3～1/4。C：内面一回転ナデ。外面一体部回転ナデ。高台部ケズリダシ。底部回転ヘラケズリ（時計方向)。D：白砂粒を微量含む。E：淡青灰色。F：良。
9	須恵器 蓋	B：破片。C：内外面一回転ナデ。D：白砂粒を微量含み密。E：暗青灰色。F：良。
10	須恵器 甕	B：破片。C：内面一指頭圧痕を残しハケ。外面一叩目。D：砂粒を多く含む。E：外・赤紫灰色。内・黒灰色。F：良。

《24号住居址》（第50～51図、第34～35表、図版Ⅳ)

位置：L－15区。南西5mに16号住居址、南3.5mに17･22号住居址が存在、南東には、20・21号住居址が重複して接する。重複関係：西半部を19号住居址に切られる。遺存状態：西半部を19号住居址によって失い、上面をかなり削平される。

主軸方位：N－83°－W。平面形態：（長）方形。規模：南北 4.3m。壁高：6cm。覆土：3層で小礫の混入が多い。床面：やや軟弱。周溝・柱穴：なし。竈：一基付設。

出土遺物：少量だが竈周囲に集中。覆土中から鉄小塊が1点出土しているが、断片のため図示しえなかった。

竈

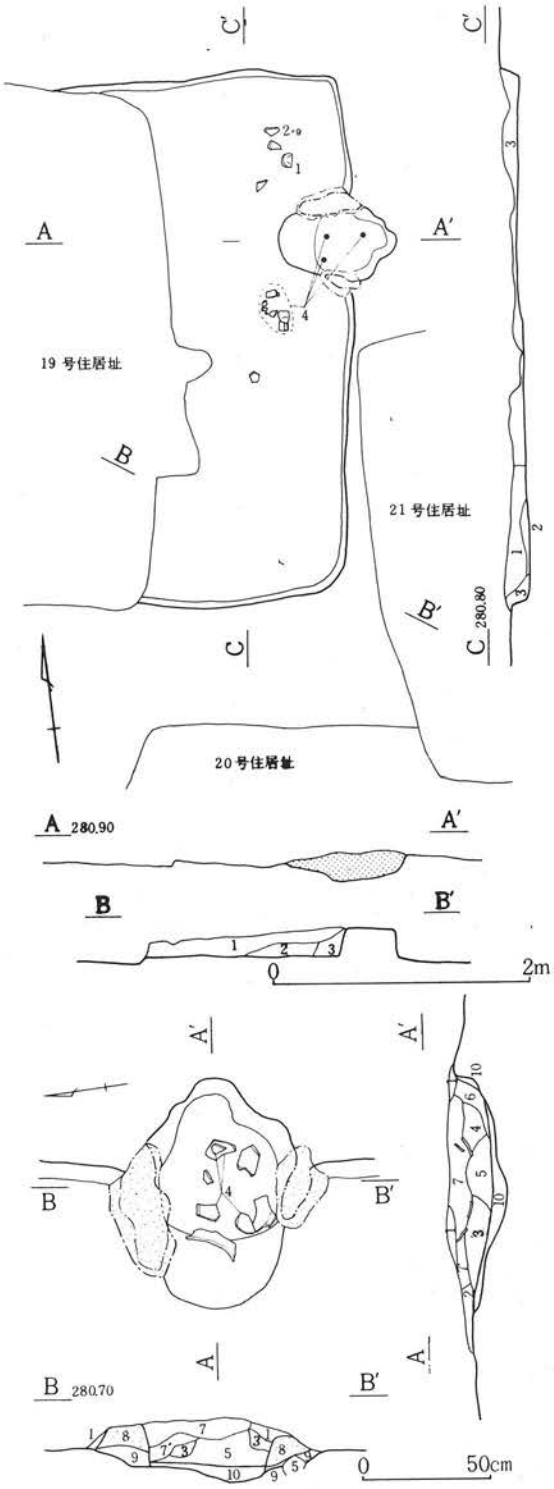
位置：東壁北寄り。遺存状態：上面にかなり削平を受ける。

主軸方位：N－84°－W。規模：長さ92cm、幅85cm。構造：袖部は粘土を用いる。燃焼部は楕円形を呈し、深さ18cm。煙道部は半円形に掘り込まれ、55°程で立ち上がる。

出土遺物：竈内出土のものと竈周辺のものとが接合。竈で使用されたものか。

第34表　24号住居址出土土器計測表

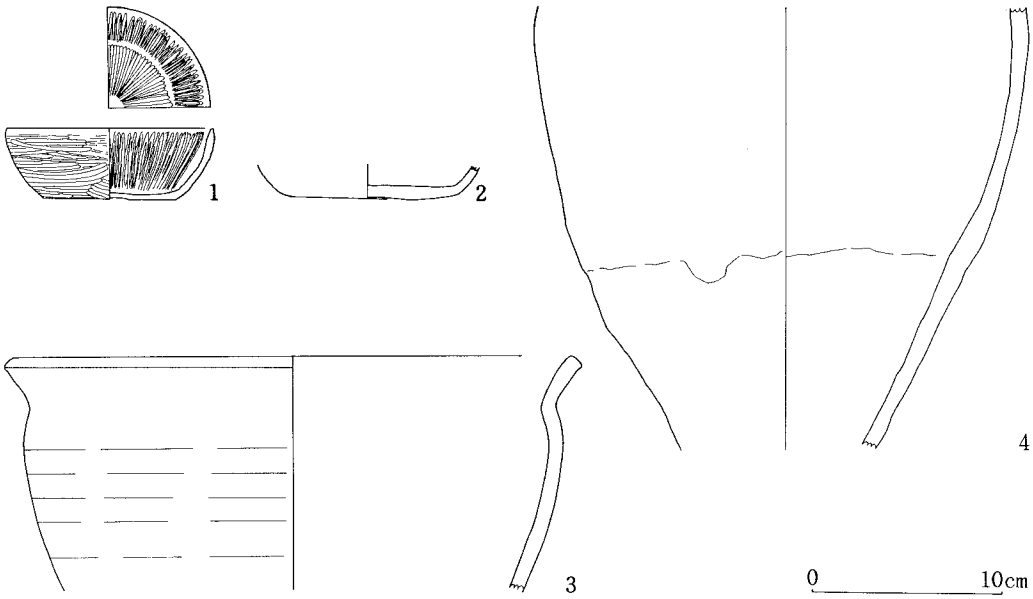
	坏　類		甕　類	
土師器	18点	100g	124点	1,700g
須恵器				



第1層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫・焼土を含む。
第2層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土を微量，小礫・黄色土粒を含む。
第3層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・有，黄色土粒を多量，小礫を含む。

第1層　暗赤褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・焼土を含む。
第2層　黄茶褐色土層：粘性・強，しまり・有，小礫・焼土を少量含む。
第3層　橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土ブロック層。
第4層　暗黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土を多量，焼土を微量含む。
第5層　暗赤褐色土層：粘性・強，しまり・有，焼土ブロックを多量，粘土を含む。
第6層　暗赤褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土を多量，礫・粘土を微量含む。
第7層　赤黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土を多量，焼土を少量含む。
第8層　黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土主体層，焼土を微量含む。
第9層　黄茶褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土を多量，小礫・焼土・炭化物を微量含む。
第10層　赤茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土・小礫・粘土を多量含む。

第50図　24号住居址及び竈〔1/60、1/30〕



第51図　24号住居址出土土器〔1/4〕

第35表　24号住居址出土土器観察表

1	土師器 坏	A：ℓ10.8。b6.9。h3.8。体部径11.0。B：3/4～4/5。C：内面一回転ナデのち暗文。身こみ部放射状暗文。外面一口唇部ナデ。体部へラミガキ。底部へラケズリのちへラナデ。D：密。E：淡橙褐色。F：良。
2	土師器 坏	A：b8.5。B：底部1/2～2/3。C：内面一体部回転ナデ。底部ナデ。外面一体部回転ナデ。底部へラケズリのちへラナデ。D：砂粒を微量含み密。E：明褐色。F：良。
3	土師器 甕	A：ℓ30.2。胴部径28.3。B：胴～口縁部1/3～1/4。C：内面一ナデ。外面一口縁部ナデ。胴部回転ナデのちナデ。D：砂粒を含み密。E：淡橙褐色。F：良。
4	土師器 甕	A：胴部径25.9。B：胴部ほぼ完。C：磨滅の為不明。D：砂粒を含み密。E：明褐色。F：良。

《25号住居址》（第52～54図、第36～37表、図版XVI・XVIII）

位置：H—13区。西1mに1号掘立柱建物遺構、12.5mに26号住居址が存在。遺存状態：ほぼ良好。

主軸方位：N—75°—W。平面形態：不整（隅丸）方形。規模：2.7～2.4×2.7m。壁高：30～18cm。覆土：4層で黒色土粒の混入が多い。床面：軟弱。周溝・柱穴：なし。竈：一基付設。

出土遺物：少量で破片化がすすむ。覆土中から鉄製品が1点出土している。

第36表　25号住居址出土土器計測表

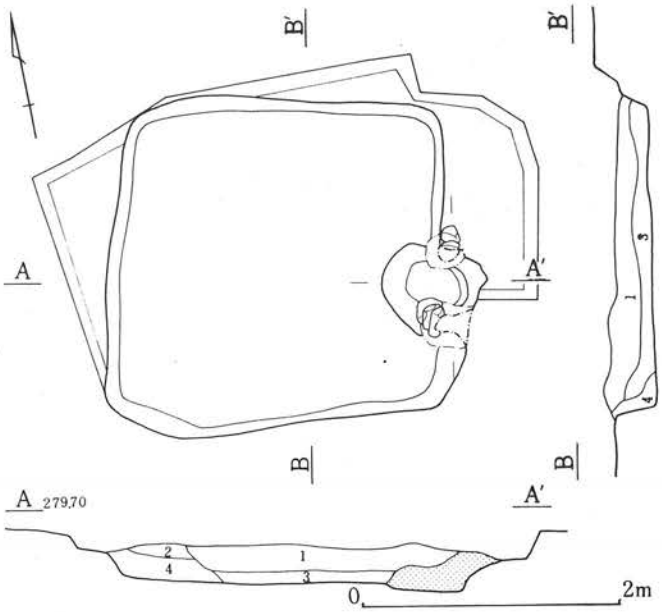
	坏	類	甕	類
土師器	4点	10g	46点	540g
須恵器				

竈

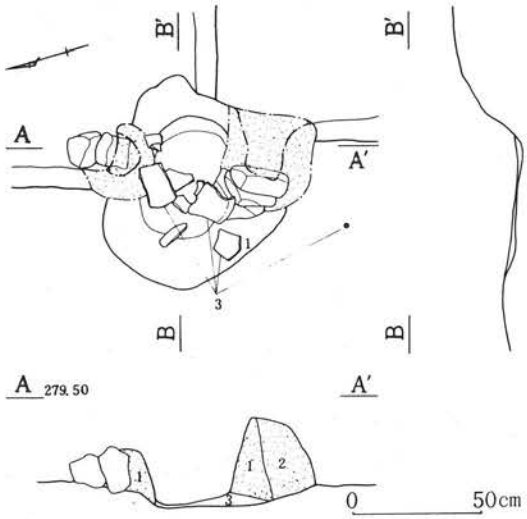
位置：東壁南寄り。遺存状態：上面及び煙道部に攪乱を受ける。

主軸方位：N—73°—W。規模：長さ85cm、幅99cm。構造：袖部は袖石を芯とし、粘土を貼る。燃焼部は長円形を呈し深さは4cm。煙道部は浅い皿状に掘り込まれたものと思われ、25°程で立ち上がる。

出土遺物：燃焼部から甕3が出土し、確認調査時に得られたものと接合した。



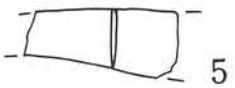
第1層　暗褐色土層：粘性・強，しまり・有，ローム粒・黒色土粒・小礫を含む。
第2層　黒褐色土層：粘性・強，しまり・有，黒色土粒を多量含む。
第3層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・無，黒色土粒・礫を多量含む。
第4層　暗褐色土層：粘性・強，しまり・有，ローム粒を多量，砂粒を少量含む。



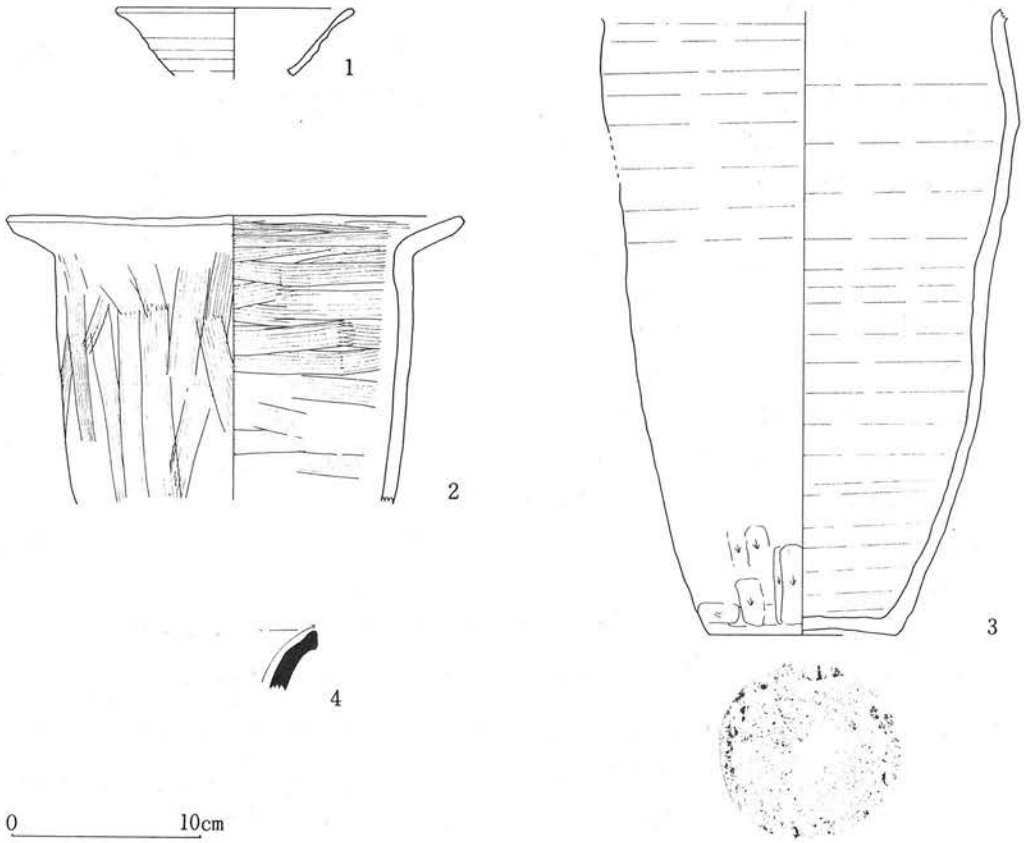
第1層　黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土主体層。
第2層　黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土主体層。小礫を微量含む。
第3層　暗赤褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土を多量，粘土・小礫を含む。

第52図　25号住居址及び竈〔1/60、1/30〕

鉄製品：刀子片とおもわれ、現長4.0cm、幅1.8～1.2cm、棟厚0.2cmを測る。刃部は明確でないが断面三角形を呈する。



第53図　25号住居址出土鉄製品〔1/2〕



第54図　25号住居址出土土器〔1/4〕

第37表　25号住居址出土土器観察表

1	土師器 坏	A：ℓ（12.6)。B：体部1/4。C：内外面―ナデ。D：密。E：暗茶褐色。F：良。
2	土師器 甕	A：ℓ（24.0)。胴部径（18.8)。B：胴上半～口縁1/3。C：内面―ヨコハケ。外面―口縁～口唇ナデ。胴部タテハケ。D：密。E：茶褐色。F：良。
3	土師器 甕	A：b9.7。胴部径21.8。B：胴部3/4～2/3。C：内面―回転ナデ。底部回転ナデ。外面―胴部回転ナデ。胴部下端へラケズリ。底部糸切り。D：密。E：外・暗茶褐色。内・淡褐色。F：良。
4	須恵器 甕	B：破片。C：内面―回転ナデ。黒飴色の自然釉。外面―回転ナデ。D：細砂粒を含み密。E：黒灰色。F：良。

《26号住居址》（第55～56図、第38～39表、図版Ⅳ・Ⅶ)

位置：Ⅰ―11・12区。東12.5mに25号住居址、南東 4.5mに1号掘立柱建物遺構が存在。遺存状態：上面にかなり削平を受ける。

主軸方位：N―79°―W。平面形態：不整隅丸長

第38表　26号住居址出土土器計測表

	坏　類		甕　類	
土師器	40点	180 g	51点	490 g
須恵器			6点	80 g

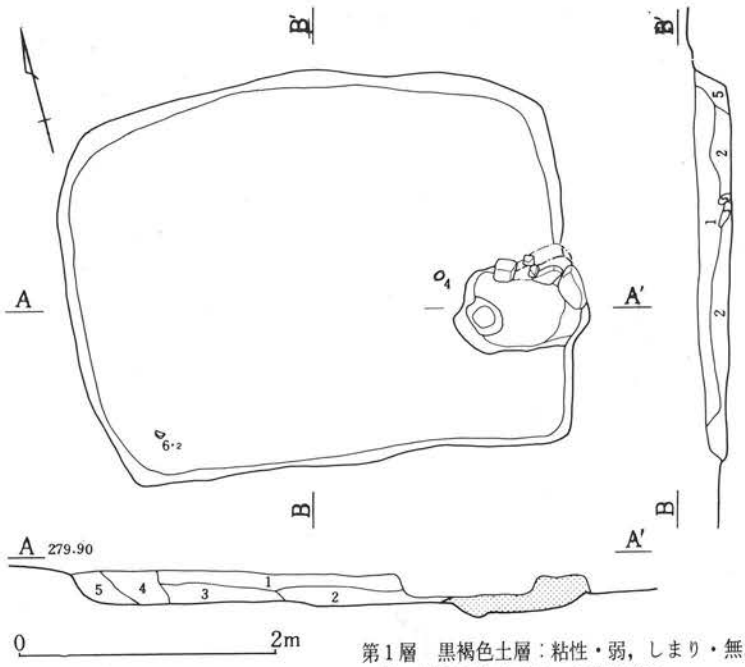
方形。規模：3.9×3.1～2.9m。壁高：16～12cm。覆土：5層で砂粒の混入が多い。床面：軟弱で部分的に堅緻。周溝・柱穴：なし。

出土遺物：少量で細片化がすすむ。

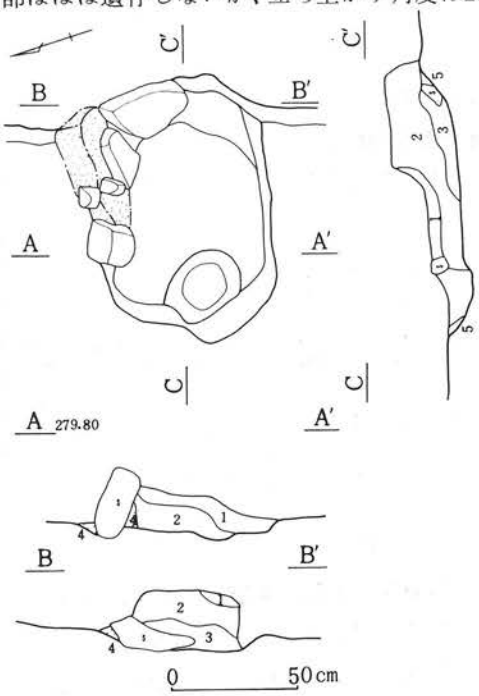
竈

位置：東壁中央。遺存状態：削平を受け、左袖一部及び基底部のみ残存。

主軸方位：N—108°—E。規模：長さ116cm、幅84cm。構造：袖部（左袖）袖石を芯とし、粘土を貼る。燃焼部は長円形を呈し、深さは11cm。煙道部はほぼ遺存しないが、立ち上がり角度は25°である。

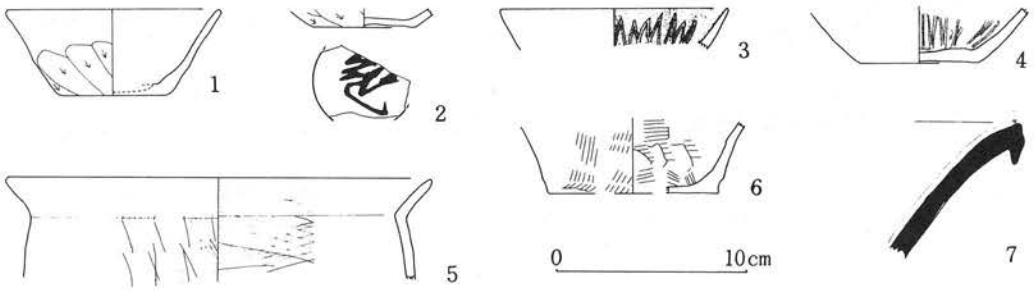


第1層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・無，礫・黄色土粒を少量，小礫を含む。
第2層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・無，礫・小礫を含む。
第3層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・黄色砂粒を含む。
第4層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を少量，褐色土粒を含む。
第5層　暗褐色土層：しまり・無，黄色砂粒を多量含む。



第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土を多量，小礫を少量含む。
第2層　灰黄茶褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土を多量，焼土・炭化物を含む。
第3層　暗茶褐色土層：粘性・強，しまり・有，焼土ブロック・炭化物を含む。
第4層　黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土主体層。
第5層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土・粘土を少量，小礫を含む。

第55図　26号住居址及び竈〔1/60、1/30〕



第56図　26号住居址出土土器〔1/4〕

第39表　26号住居址出土土器観察表

1	土師器 坏	A：ℓ（11.4)。b (5.6)。h5.6。B：1/3～1/4。C：内面一体部上半ナデ。体部下半身こみ部不明。外面一体部上半ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底部一方向のヘラケズリ。D：細砂粒を含む。E：明褐色。F：良。
2	土師器 坏	A：b5.3。B：底部3/4。C：内面一回転ナデ。外面一体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底部（回転）糸切りのちヘラケズリ。D：密。E：淡褐色。F：良。墨書有「絶」？。
3	土師器 坏	A：ℓ（12.0)。B：口縁部1/3～1/2。C：内面一回転ナデのち暗文。外面一回転ナデ。D：密。E：外・淡褐色。内・黒色。F：良。
4	土師器 坏	A：b6.1。B：底部完。C：内面一回転ナデのち暗文。身こみ部との境に棒状工具によるナデ。外面一体部上半回転ナデ。底部縁辺～体部下半反時計方向の回転ヘラケズリ。底部（回転）糸切り。D：密。E：外・淡赤褐色。内・黒色。F：良。
5	土師器 甕	A：ℓ（22.4)。B：口縁1/3～1/4。C：内面一ヨコハケ。口唇部ナデ。外面一口唇部ナデ。口縁タテハケのちナデ。胴部ナデ。D：金雲母・砂粒を含む。E：暗茶褐色。F：良。
6	土師器 甕	A：b (9.0)。B：底部1/2～1/3。C：内面一ヨコハケ。胴部下端ヘラ状工具によるシボリ。外面一タテハケ。底部木葉痕。D：金雲母・砂粒を含み密。E：茶褐色。F：良。
7	須恵器 甕	B：破片。C：内面一回転ナデ。縁灰色の自然釉。外面一回転ナデ。D：白砂粒を含みやや良。E：青灰色。F：良。

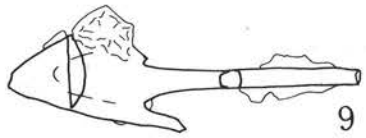
《27号住居址》（第57～59図、第40～41表、図版XⅧ）

位置：G－14・15区。東5mに28号住居址、南5mに29・30号住居址・2号掘立柱建物遺構、西6.5mに35号住居址、南西3.5mに4号掘立柱建物遺構が存在。遺存状態：上面にかなり削平を受ける。

主軸方位：N－84°－W。平面形態：隅丸長方形。規模：3.8×2.8m。壁高：12～7cm。覆土：5層で小礫の混入が著しい。床面：軟弱。周溝・柱穴：なし。竈：なし。

出土遺物：壁際部に認められた。北西隅から鉄鏃が1点出土した。

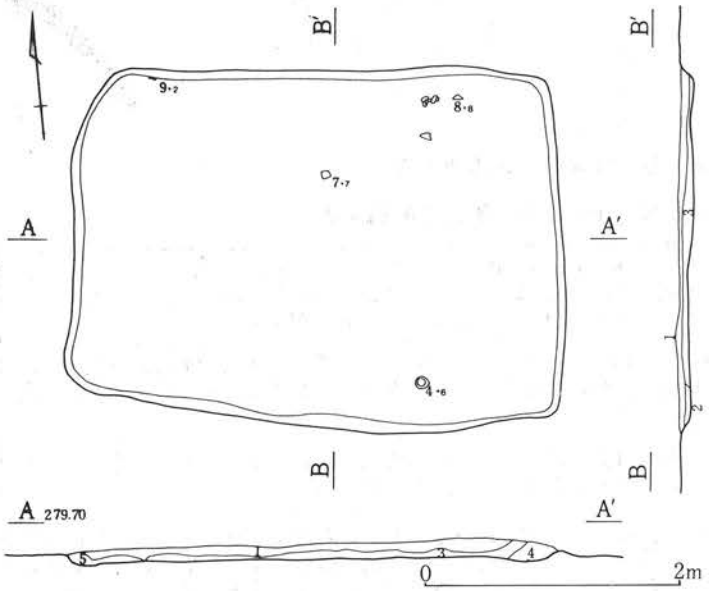
鉄製品：平根片丸造腸抉長三角形鏃で茎部端を失う。現長9.3cm、根部長4.8cm、同幅(3.5cm)、同厚さ0.4cmを測り腸抉をもつ。茎部は0.4×0.5cmの方形断面をもつ。



第57図　27号住居址出土鉄製品〔1/2〕

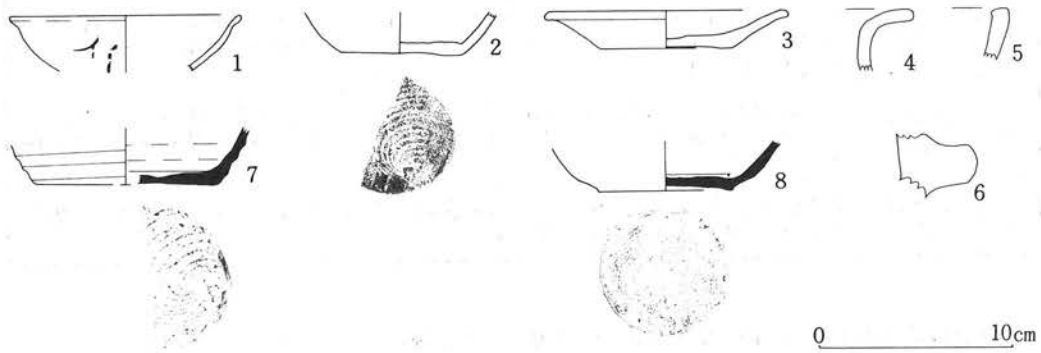
第40表　27号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	136点	440 g	77点	880 g
須恵器	3点	60 g	4点	100 g



第1層　黒褐色土層：粘性・強，しまり・有，小礫を含む。
第2層　褐色土層：粘性・弱，しまり・有，砂粒を多量，黒色土粒を含む。
第3層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫を多量含む。
第4層　暗褐色土層：粘性・強，しまり・有，小礫を少量，粘土を含む。
第5層　黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，砂粒を多量含む。

第58図　27号住居址〔1/60〕



第59図　27号住居址出土土器〔1/4〕

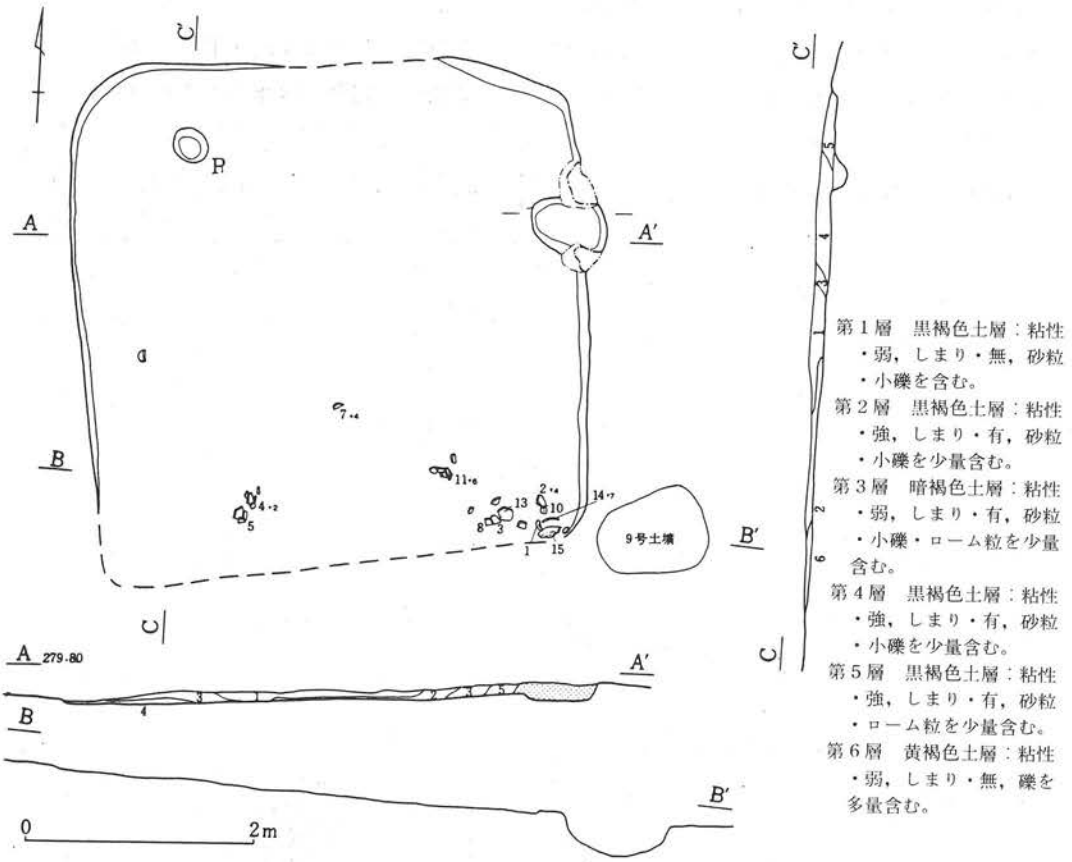
第41表　27号住居址出土土器観察表(1)

1	土師器 坏	A：ℓ (12.2)。B：口縁1/3～1/4。C：内面一回転ナデ。外面一回転ナデ。D：黒色粒を含み密。E：茶褐色。F：良。墨書有「？」。
2	土師器 坏	A：b 6.2。B：底部2/3～1/2。C：内面一回転ナデ。身こみ部、体部の境に棒状工具によるナデ。外面一体部ナデ。底部糸切りのち縁辺部へラナデ。D：密。E：濃茶褐色。F：良。
3	土師器 皿	A：ℓ (12.8)。b (7.0)。h 1.9。B：1/4。C：内面一ナデ。外面一体部ナデ。底部へラケズリのちナデ。D：黒色粒を含み密。E：淡茶褐色。F：良。

第41表　27号住居址出土土器観察表(2)

4	土師器 甕	B：破片。C：内面―細かいヨコハケ。外面―口唇部ナデ。口縁部細かいタテハケのちナデ。胴部タテハケ。D：細砂粒・金雲母を含む。E：淡褐色。F：良。
5	土師器 甕	B：破片。C：内面―口唇部ナデ。口縁細かいヨコハケ。胴部ヨコハケ。外面―タテハケのちナデ。D：細砂粒・金雲母を微量含む。E：暗茶褐色。F：良。
6	土師器 羽釜	B：破片。C：内面―タテハケ。外面―鍔部ヨコハケのちナデ。D：白砂粒を多量に含む。E：茶褐色。F：やや良。
7	須恵器 坏	A：b9.6。B：底部2/3～3/4。C：内面―回転ナデ。外面―体部回転ナデ。底部糸切り。D：密。E：淡灰色。F：良。
8	須恵器 坏	A：b7.2。B：底部完。C：内面―回転ナデ。外面―体部回転ナデ。体部・底部の縁辺ハケ状工具によるナデ。底部糸切り。D：微砂粒を僅かに含む。E：淡灰色。F：良。

《28号住居址》（第60～62図、第42～43表）



第60図　28号住居址〔1/60〕

位置：G－15・16区。西５ｍに27号住居址、南2.5ｍに３号掘立柱建物遺構、東７ｍに31・32号住居址が存在し、北東部で33号住居址と接する。遺存状態：削平が激しく、東壁及び西壁を確認しうるに過ぎない。

主軸方位：N－88°－E。平面形態：（不整）隅丸方形。規模：4.6×(4.7) m。壁高：５～３cm。覆土：６層で小礫の混入が多い。床面：軟弱。周溝・柱穴：なし。竈：一基付設。

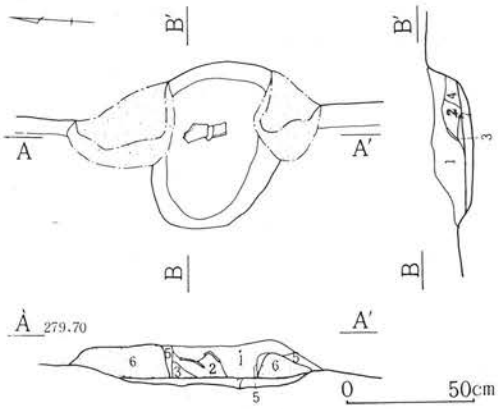
出土遺物：床面上では南東隅部に多い。

竈

位置：東壁北寄り。遺存状態：削平が激しく煙道部は遺存しない。

主軸方位：N－86°－E。規模：長さ66cm、幅100cm。構造：袖部は粘土を貼る。燃焼部は楕円形で深さ６cm。煙道部は遺存しないが、60°で立ち上がる。

出土遺物：燃焼部に少量。

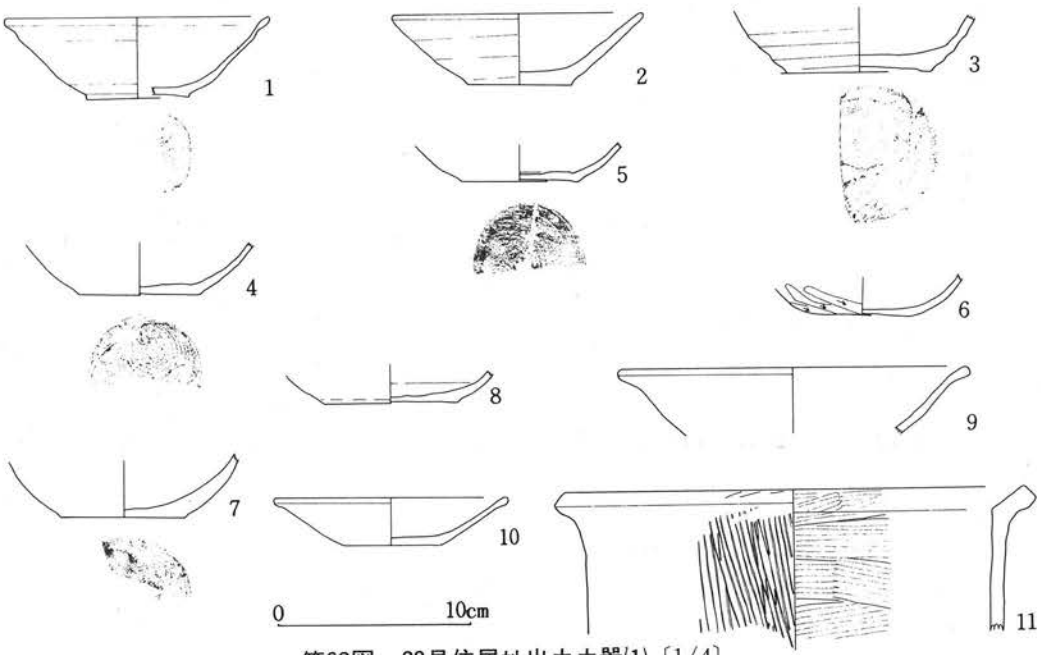


第１層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・焼土を多量含む。
第２層　橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土ブロック層。
第３層　暗黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土を多量，焼土を含む。
第４層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土・粘土を含む。
第５層　暗赤褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土を含む。
第６層　黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土主体層。
第７層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・焼土・粘土を含む。

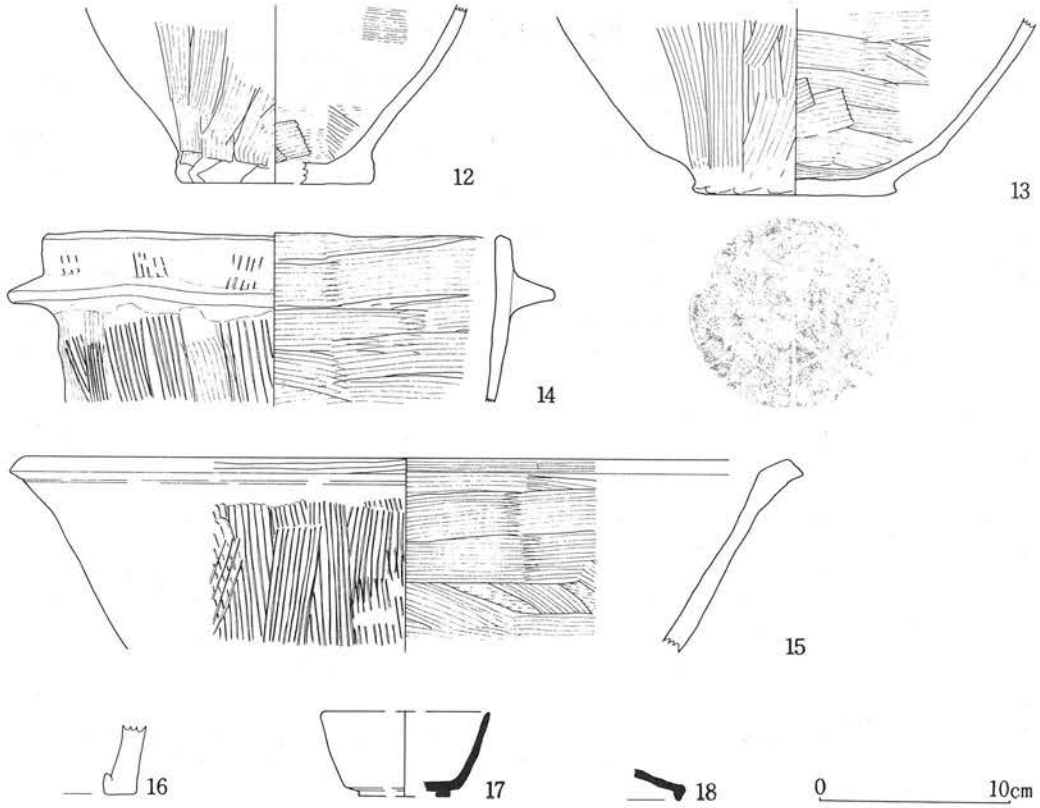
第61図　28号住居址・竈〔1/30〕

第42表　28号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	54点	210 g	40点	800 g
須恵器			6点	40 g



第62図　28号住居址出土土器(1)〔1/4〕



第62図　28号住居址出土土器(2)〔1/4〕

第43表　28号住居址出土土器観察表(1)

1	土師器 坏	A：ℓ14.0。b5.4。h4.3。B：1/2弱。C：内面―ナデ。外面―体部ナデ。底部縁辺棒状工具による押エナデ。底部糸切り。D：砂粒を含み密。E：淡褐色。F：良。
2	土師器 坏	A：ℓ12.1。b5.6。h3.8。B：1/2。C：内面―回転ナデ。外面―体部回転ナデ。底部へラケズリのちミガキ。D：黒砂粒を含み密。E：橙褐色。F：良。
3	土師器 坏	A：b7.5。B：体部下半3/4～2/3。C：内面―（ミガキのち）ナデ。外面―体部ナデ。底部縁辺へラナデ。底部糸切り。D：白砂粒・黒色粒を含み密。E：淡褐色。F：良。
4	土師器 坏	A：b6.4。B：底部1/2～2/3。C：内面―体部回転ナデ。底部回転ケズリのち回転ナデ。外面―体部回転ナデ。底部時計回りの回転糸切り。D：黒色砂粒・細砂粒を含む。E：淡茶褐色。F：良。
5	土師器 坏	A：b6.2。B：底部2/3～1/2。C：内面―（ミガキのち）ナデ。外面―体部回転ナデ。底部糸切り。D：密。E：淡茶褐色。F：良。
6	土師器 坏	A：b5.1。B：底部1/2強。C：内面―回転ナデ。外面―体部上半ナデ。体部下端時計方向の一段へラケズリ。底部不定方向のへラケズリ。D：黒色砂粒を含み密。E：明褐色。F：良。
7	土師器 坏	A：b6.4。B：底部2/3。C：内面―ナデ。外面―体部回転ナデ。底部時計回りの回転糸切り。D：砂粒を含み密。E：暗茶褐色。F：良。
8	土師器 坏	A：b(6.9)。B：底部1/2～1/3。C：内面―回転ナデ。外面―体部回転ナデ。底部反時計回りの回転糸切り。D：黒色砂粒を含み密。E：淡褐色。F：良。

第43表　28号住居址出土土器観察表(2)

9	土師器 坏	A：ℓ（18.4)。B：口縁～体部破片。C：内面―回転ナデ（？)。外面―回転ナデのちナデ。D：白砂粒を多量に含み密。E：暗赤茶褐色。F：良。
10	土師器 皿	A：ℓ（12.2)。b（5.0)。h 2.5。B：1/2弱。C：内面―回転ナデ。外面―体部回転ナデのちナデ（部分)。底部反時計回りの回転糸切り。D：密。E：淡茶褐色。F：良。
11	土師器 甕	A：ℓ（25.4)。胴部径（22.0)。B：口縁部1/3。C：内面―口縁～胴部ヨコハケ。外面―口唇部まばらなヨコハケのちナデ。口縁部タテハケのちナデ。胴部タテハケ。D：砂粒を微量に含む。E：茶褐色。F：良。
12	土師器 甕	A：b（9.8)。B：底部～胴下部1/3～1/4。C：内面―ヨコハケ。底部しぼり痕。外面―胴部タテハケ。底部周辺しぼり痕。底部木葉痕。D：白砂粒を微量に含む。E：茶褐色。F：良。
13	土師器 鉢	A：b 10.7。B：底部完。C：内面―胴ヨコハケ。底部指頭圧のちナデ。外面―胴部ヘラ状工具によるタテナデ。底部周辺ヘラ状工具によるしぼり。底部木葉痕。D：金雲母・白砂粒・砂粒を含む。E：明茶褐色。F：良。
14	土師器 羽釜	A：ℓ（24.5)。最大径（28.7)。B：胴上半～口縁1/2。C：内面―粗いヨコハケ。外面―口唇部ナデ。口縁タテハケのちナデ。鍔部ナデ。胴部粗いタテハケ。D：砂粒・黒色砂粒を含む。E：茶褐色。F：良。
15	土師器 鉢	A：ℓ（41.6)。B：口縁～胴1/4。C：内面―口唇部ヨコハケ。胴部上位ヨコハケ。胴部中位斜方向のハケ。外面―口唇部粗いヨコハケ。口縁部ナデ。胴部タテハケ。D：金雲母・白砂粒を少量含む。E：明茶褐色。F：良。
16	土師器 甑	B：底部1/5～1/6。C：内外面―ナデ。D：砂粒を含み密。E：灰茶褐色。F：良。
17	須恵器 坏	A：ℓ（8.8)。b（6.0)。h 4.5。B：1/3～1/4。C：内面―回転ナデ。外面―回転ナデのち高台貼り付け。高台部ナデ。D：密。E：青灰色。F：良。
18	須恵器 蓋	B：破片。C：内外面―回転ナデ。D：密（細砂粒を含む)。E：青灰色。F：良。

《29君住居址》（第63～65図、第44・46表、図版Ⅶ・XIV・XVI)

位置：F―15区。東4mに3号掘立柱建物遺構、北東5mに28号住居址、北5mに27号住居址、西13mに37号住居址が存在。重複関係：本址南西部を30号住居址に切られる。遺存状態：30号住居址に切られる以外はほぼ良好。

主軸方位：N―5°―W。平面形態：隅丸長方形。規模：3.7×2.8m。壁高：25～19cm。覆土：6層で小礫の混入が顕著。床面：北半部は堅緻。周溝・柱穴：なし。竈：一基付設。

出土遺物：中央部西寄り床面に集中。

第44表　29号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	24点	130 g	64点	960 g
須恵器				

《30号住居址》（第63・64・66図、第45・47表、図版Ⅷ・XIV)

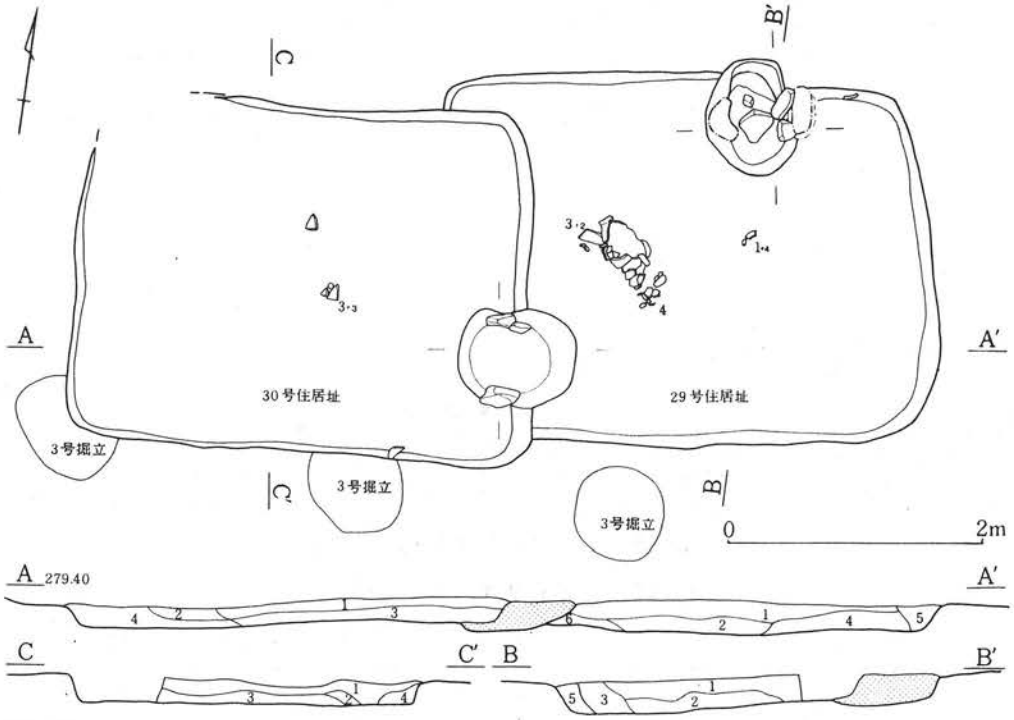
位置：F―14・15区。東7mに3号掘立柱建物遺構、西9mに37号住居址、北5mに27号住居址が存在。重複関係：本址東壁部が29号住居址西壁を切る。遺存状態：北西隅部を攪乱で失う。

主軸方位：N—85°—E。平面形態：隅丸長方形。規模：3.7×2.7m。壁高：22～17cm。覆土：4層で小礫を多量に含む。床面：やや堅緻、一部軟弱。周溝・柱穴：なし。竈：一基付設。

出土遺物：少量で図示しえたものも少ない。

第45表　30号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	9点	20 g	18点	260 g
須恵器			1点	280 g



29号住居址

第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・黄色土粒を含む。
第2層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量含む。
第3層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・黄色土粒を含む。
第4層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を含む。
第5層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・黒褐色土を含む。
第6層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・黄色土粒を含む。

30号住居址

第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・礫を含む。
第2層　茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・黄褐色土を多量含む。
第3層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量含む。
第4層　明黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，礫を多量含む。

第63図　29・30号住居址〔1/60〕

29号住居址　竈

位置：北壁東寄り。遺存状態：左袖の遺存が悪い。天井部が僅かに残る。

主軸方位：N—4°—W。規模：長さ93cm、幅88cm。構造：袖部は袖石を芯とし、粘土を貼る。天井部は粘土によって構築され、上部にのる角礫も天井構築に利用されたものであろう。燃焼部は楕円形を呈し、深さ8cm。煙道部は半円形に掘り込まれ、61°程で立ち上がる。

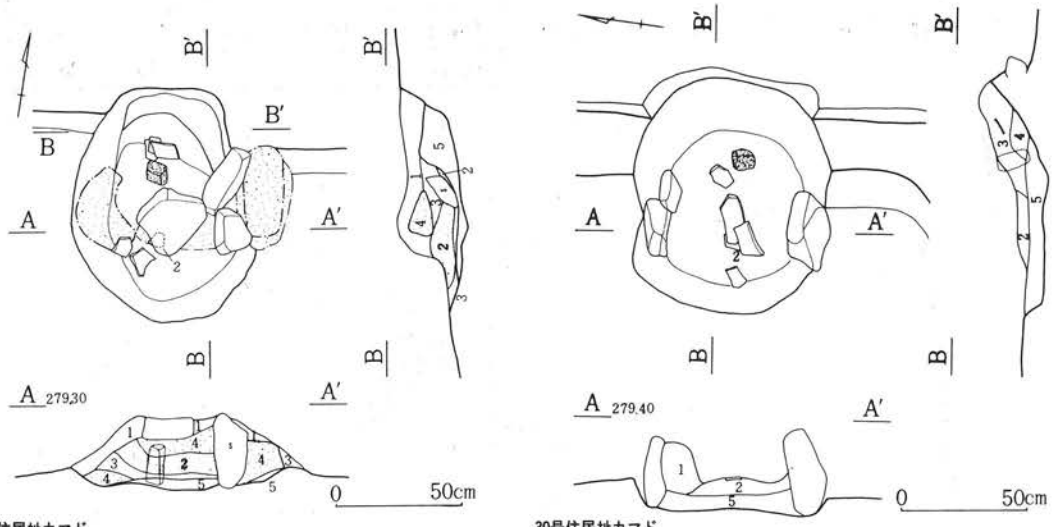
出土遺物：燃焼部内に少量が認められる。燃焼部奥部から石製支脚が検出。

30号住居址　竈

位置：東壁南寄り。遺存状態：削平が激しい。

主軸方位：N－83°－E。規模：長さ98cm、幅80cm。構造：袖部は芯とした袖石のみ遺存。燃燃部は楕円形を呈し、深さ７cm。煙道部は半円形に掘り込まれ、35°程で立ち上がる。

出土遺物：燃焼部から少量。燃焼部奥部から石製支脚を検出。



29号住居址カマド
第１層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・焼土を含む。
第２層　赤茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土ブロック主体層，小礫を含む。
第３層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・焼土・炭化物・粘土を含む。
第４層　暗黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土主体層。
第５層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量，焼土・炭化物を含む。

30号住居址カマド
第１層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量，焼土・粘土を少量含む。
第２層　暗黄茶褐色土層：粘性・弱，粘土・炭化物を少量，小礫・焼土を含む。
第３層　暗赤褐色土層：粘性・弱，焼土を多量，小礫を少量含む。
第４層　暗黄褐色土層：粘性・強，しまり・無，小礫・粘土を多量，焼土を少量含む。
第５層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量，焼土・粘土を少量含む。

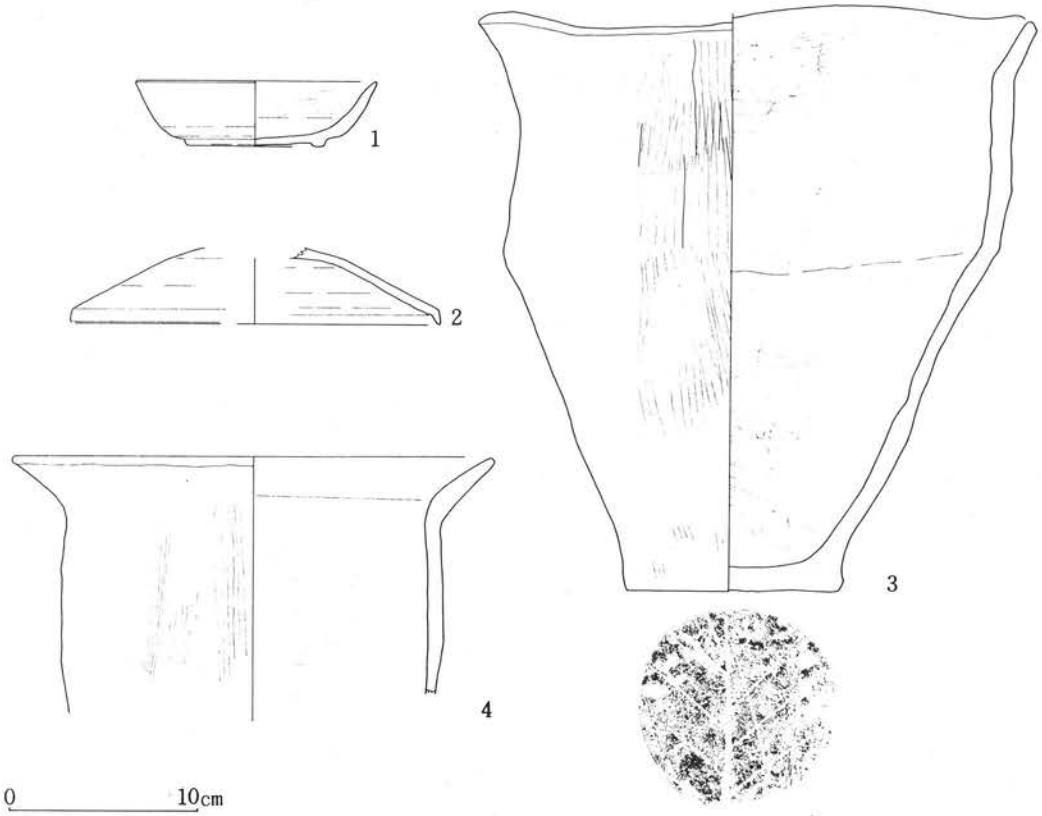
第64図　29・30号住居址竈〔1/30〕

第46表　29号住居址出土土器観察表

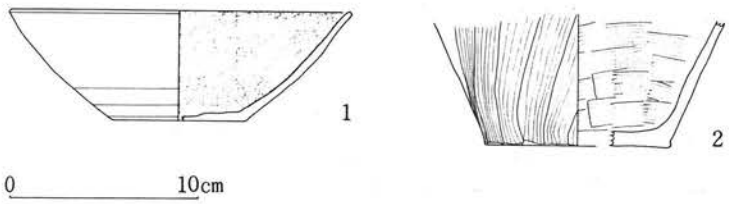
1	土師器 坏	A：ℓ（12.6)。b (8.8)。h 3.4。高台径(7.2)。B：1/3～1/2。C：内面―ミガキのちナデ。外面―体部上半回転ナデ。体部下端時計方向の回転ヘラケズリ。高台ケズリ。高台ケズリ出しのち高台部ナデ。底部回転ヘラケズリ（時計方向)。D：極めて密。E：明褐色。F：良。
2	土師器 蓋	A：ℓ（19.2)。B：体部1/3～1/4。C：内外面―回転ナデ。D：密。E：乳茶褐色。F：良。
3	土師器 甕	A：ℓ29.2。b 11.1。h 31.0。B：完。C：内面―口唇部ナデ。口縁ヨコハケ。胴中位～上半ヨコハケ。胴下半ヘラ状工具によるナデ。底部指頭圧及びヘラ状工具によるシボリ、押エ。外面―口唇部ナデ。口縁～胴上位タテハケ。胴下端タテハケのちナデ。底部木葉痕。D：砂粒を含み金雲母を微量に含む。E：暗褐色。F：良。
4	土師器 甕	A：ℓ30.4。B：口縁～胴1/2。C：内面―口縁ナデ。胴部ハケのち粗いナデ。外面―口縁～口唇ナデ。胴部タテハケ。D：白砂粒を多量に含む。E：明褐色。F：良。

第47表　30号住居址出土土器観察表

1	土師器 坏	A：ℓ17.9。b 6.8。h 5.8。B：4/5。C：内面―回転ナデ(黒色)。外面―体部上半回転ナデ。体部下半反時計方向の回転ヘラケズリ。底部糸切りのち回転ヘラケズリ(方向不明)。D：白砂粒を微量含み密。E：外・茶褐色。内・黒色。F：良。
2	土師器 甕	A：b 9.7。B：底～胴部1/2。C：内面―胴部ヨコハケ。底部ナデ。外面―胴部タテハケ。底部木葉痕。D：金雲母・細砂粒を含み密。E：暗茶褐色。F：良。



第65図　29号住居址出土土器〔1/4〕



第66図　30号住居址出土土器〔1/4〕

《31号住居址》（第67・68・70図、第48・50表、図版Ⅴ・Ⅶ・XⅦ）

位置：G－16・17区。北西3.5mに33号住居址、西7mに28号住居址、南西6mに3号掘立柱建物遺構。南東9mに34号住居址が存在。重複関係：本址北東部が32号住居址南西隅を切る。遺存状態：北西隅から西壁一部に攪乱を受ける。

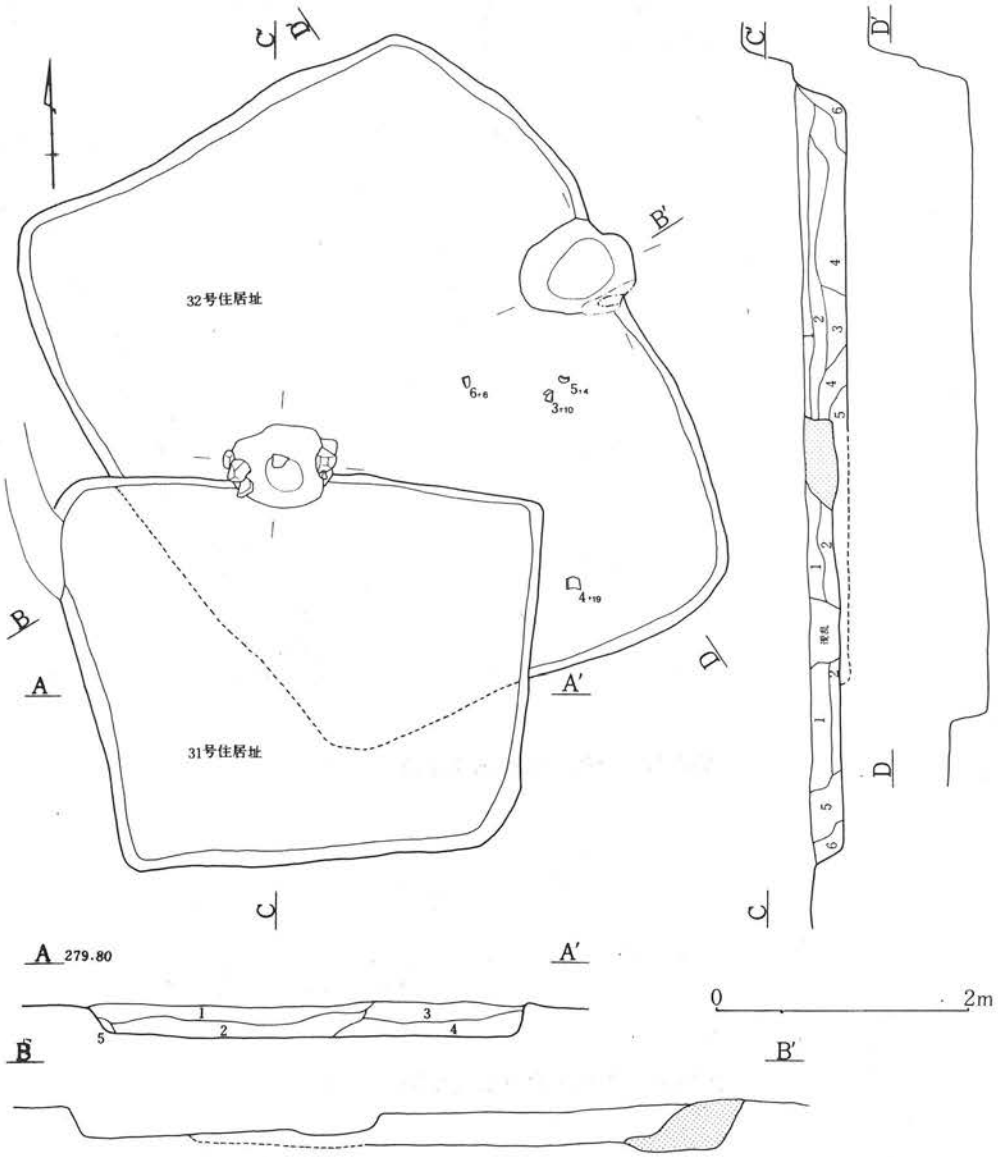
主軸方位：N－32°－E。平面形態：不整隅丸方

第48表　31号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	83点	360 g	87点	1,200 g
須恵器	8点	40 g	15点	540 g

形（台形）。規模：3.7～3.1m×3.2～2.7m。壁高：25～22cm。覆土：6層で小礫の混入が顕著。床面：軟弱。周溝・柱穴：なし。竈：一基付設。

出土遺物：断片化がすすみ、全て覆土中からである。



31号住居址

第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫を多量含む。
第2層　暗茶褐色土層：粘性・弱，小礫を少量，黄色土粒を微量含む。
第3層　暗茶褐色土層：粘性・弱，小礫・黄色土粒を含む。
第4層　暗茶褐色土層：粘性・弱，小礫を多量，黄色粘土粒を少量含む。
第5層　黒褐色土層：粘性・弱，小礫を多量，礫を微量含む。
第6層　暗黄茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，砂礫を多量含む。

32号住居址

第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫・赤色粒子を含む。
第2層　茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫を多量含む。
第3層　明茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，砂粒・小礫を含む。
第4層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，礫を多量含む。
第5層　黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量含む。
第6層　茶褐色土層：しまり・弱，黄色土粒・小礫を少量含む。

第67図　31・32号住居址〔1/60〕

《32号住居址》（第67・69・71図、第49・51表、図版Ⅴ）

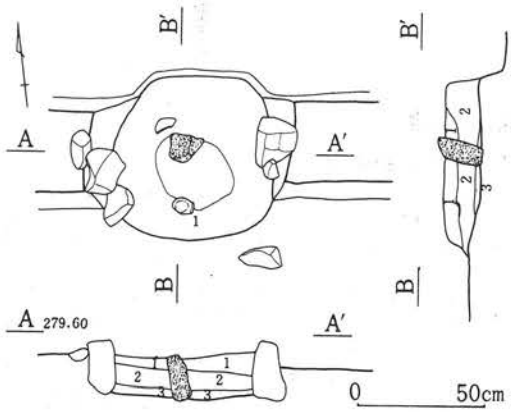
位置：G－16・17区、北西３ｍに33号住居址、西7.5ｍに28号住居址、南東９ｍに34号住居址が存在。重複関係：本址南西部上面に31号住居址がのる。遺存状態：南西部で31号住居址と切り合い、また北西部上面の削平が著しい。

主軸方位：N－61°－E。平面形態：不整（隅丸）長方形。規模：5.1ｍ×4.2～4.0ｍ。壁高：39～５cm。覆土：６層で小礫の混入が顕著。床面：竈前は堅緻だが他は極めて軟弱。周溝・柱穴なし。

出土遺物：量は多いが断片化がすすみ、図示しえたものも少ない。

第49表　32号住居址出土土器計測表

	坏　類		甕　類	
土師器	74点	300g	198点	1,920g
須恵器	３点	10g	２点	10g



第１層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫を多量，焼土・粘土を少量含む。
第２層　暗赤茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土を多量含む。
第３層　茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫を多量，焼土・炭化物を少量含む。

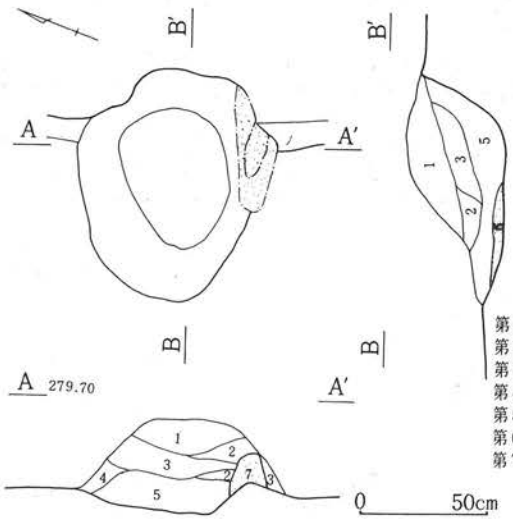
第68図　31号住居址竈〔1/30〕

31号住居址竈

位置：北壁西寄り。遺存状態：上面の削平が激しい。

主軸方位：N－6°－E。規模：長さ67cm、幅90cm。構造：袖部は芯に袖石を用いるが、詳細は不明。燃焼部は円形を呈し深さは５cm。煙道部は全く不明。

出土遺物：崩壊土内から断片少量が出土。燃焼部奥部から石製支脚を検出。



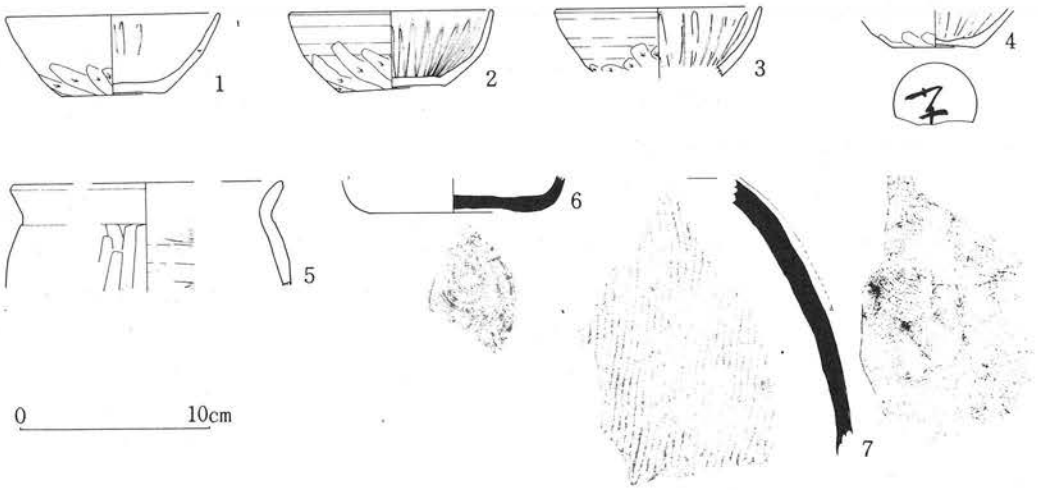
第１層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫を多量，焼土を少量含む。
第２層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，粘土・小礫を少量，焼土を含む。
第３層　暗黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土を多量，焼土・小礫を少量含む。
第４層　暗黄茶褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土を多量，焼土・小礫を少量含む。
第５層　暗赤茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土を多量，粘土・小礫を少量含む。
第６層　橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土主体層。
第７層　黄茶褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土主体層。

第69図　32号住居址竈〔1/30〕

32号住居址竈

位置：東壁北寄り。遺存状態：不良。右袖の一部が残存するのみ。

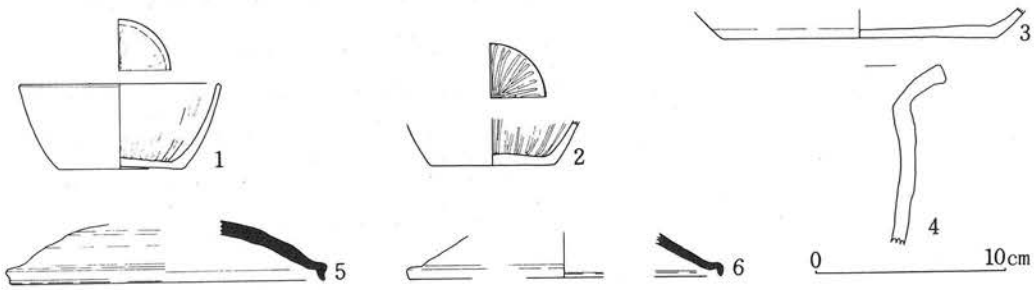
主軸方位：N－74°－E。規模：長さ92cm、幅78cm。構造：袖部は粘土を使用。燃焼部は楕円形を呈し深さは８cm。煙道部は浅い皿状に掘り込まれ、67°程で立ち上がる。



第70図　31号住居址出土土器〔1/4〕

第50表　31号住居址出土土器観察表

1	土師器 坏	A：ℓ11.3。b5.9。B：3/4～4/5。C：内面ーナデ。外面ー体部上半ナデ、体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底部静止糸切りのち不定方向のヘラケズリ。D：密。E：明褐色。F：良。
2	土師器 坏	A：ℓ10.8。b5.4。h4.3。B：1/2強。C：内面ー回転ナデのち暗文。外面ー体部上半回転ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底部糸切りのちヘラケズリ。D：密。E：外・褐色。内・暗褐色。F：良。
3	土師器 坏	A：ℓ10.6。h(4.2～4.5)。B：体部3/4。C：内面ー回転ナデのち暗文。外面ー体部上半回転ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。D：密。E：明褐色。F：良。
4	土師器 坏	A：b4.7。B：底部3/4。C：内面ーナデのち暗文。身こみ部ナデ。外面ー体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底部（二方向の）ヘラケズリ。D：密。E：橙褐色。F：良。墨書有「子」（？）。
5	土師器 甕	A：ℓ（14.4）。B：口縁部2/5。C：内面ー口縁～口唇部ナデ。胴部上端ヨコハケのちナデ。胴部細かいヨコハケ。外面ー口縁部ナデ。胴部粗いタテハケ。D：砂粒を含む。E：乳白色。F：良。
6	須恵器 坏	A：b（8.4）。B：底部1/4。C：内面ー回転ナデ。外面ー底部縁辺粗いヘラケズリ。底部反時計回りの回転糸切り。D：細砂粒を含み密。E：青灰色。F：良。
7	須恵器 甕	B：破片。C：内面ー指頭圧痕が残り叩目のちナデ。外面ー叩目。上半に緑灰色の自然釉。D：細砂粒を微量含む。E：外・紫灰色。内・黒灰色。F：やや良。



第71図　32号住居址出土土器〔1/4〕

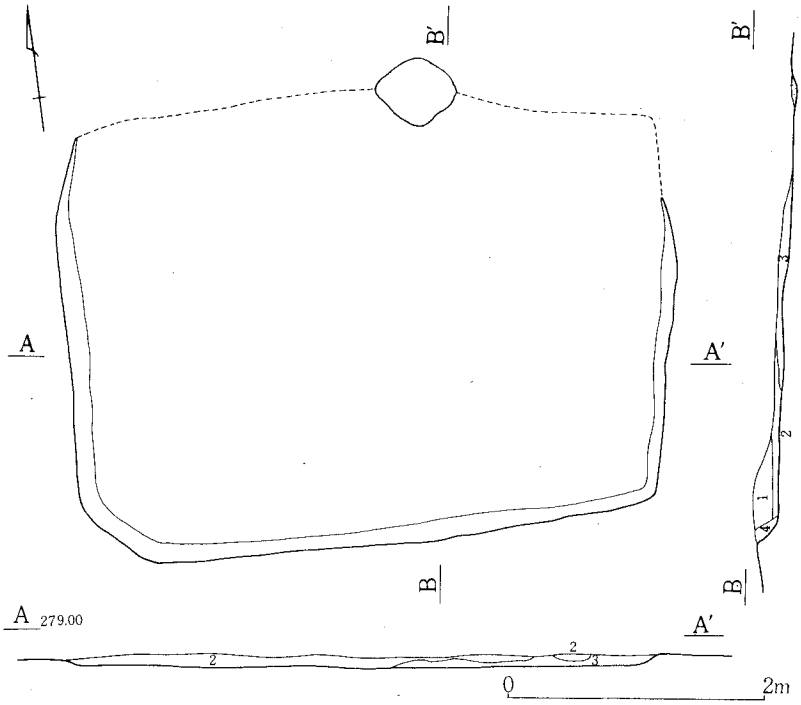
第51表　32号住居址出土土器観察表

1	土師器 坏	A：ℓ10.6。b6.5。h4.5。B：底部完。体部1/2。C：内面－体部ナデのち 暗文。身こみ部放射状暗文のちナデ。外面－体部ナデ。底部ミガキのちナデ。D：黒色砂粒を含み密。E：淡橙褐色。F：良。
2	土師器 坏	A：b6.5。B：底部完。C：内面－ナデのち暗文。身こみ部暗文。外面－ヘラケズリのちナデ。D：細砂粒を少量含み密。E：淡橙褐色。F：良。
3	土師器 坏	A：b(14.3)。B：底部1/4～1/3。C：内面－体部・身こみ部ヘラケズリのちナデ。外面－体部時計方向の回転ヘラケズリのちナデ。底部：ヘラケズリのちヘラミガキ。D：細砂粒を微量含み密。E：淡暗褐色。F：良。
4	土師器 甕	B：胴部～口縁1/8。C：内面－口縁部ナデ。胴部回転ナデ。外面－口唇部ナデ。口縁～胴部回転ナデ。D：白砂粒・砂粒を含む。E：淡茶褐色。F：良。
5	須恵器 蓋	A：ℓ (16.4)。B：口縁～体部1/3。C：内面－口唇部ナデ。体部回転ナデ。外面－口唇部ナデ。体部上半反時計方向の回転ヘラケズリ。体部下半回転ナデ。D：白砂粒を多量に含み密。E：淡青灰色。F：良。
6	須恵器 蓋	A：ℓ (16.2)。B：口縁1/3～1/4。C：内面－回転ナデ。D：白砂粒を含む。E：灰白色。F：良。

《33号住居址》（第72～73図、第52～53表、図版Ⅴ）

位置：H・G－16区。南5.5mに3号掘立柱建物遺構、南東3.5mに31・32号住居址が重複して存在し、南西部で28号住居址と接する。遺存状態：削平が激しく、北壁は遺存しない。

主軸方位：N－2°－E。平面形態：不整長方形。規模：4.7×（3.5m）。壁高：16cm。（南壁）覆土：4層で床面上に焼土・炭化物が散る。床面：軟弱。周溝・柱穴：なし。竈：痕跡が1箇所あり。



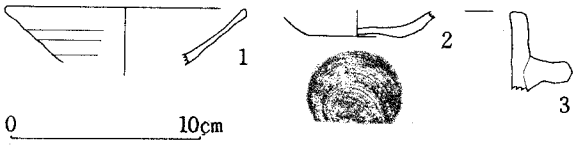
第1層　茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量含む。
第2層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を含む。
第3層　暗黄茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，ローム粒を多量，炭化物・焼土を含む。
第4層　黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量，ローム粒を微量含む。

第72図　33号住居址〔1/60〕

出土遺物：少量で図示しえたものも少ない。

竈

位置：北壁東寄り、遺存状態：竈掘り方の痕跡と考えられる焼土溜まりを検出。



第73図　33号住居址出土土器〔1/4〕

第52表　33号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	49点	840g	31点	180g
須恵器				

第53表　33号住居址出土土器観察表

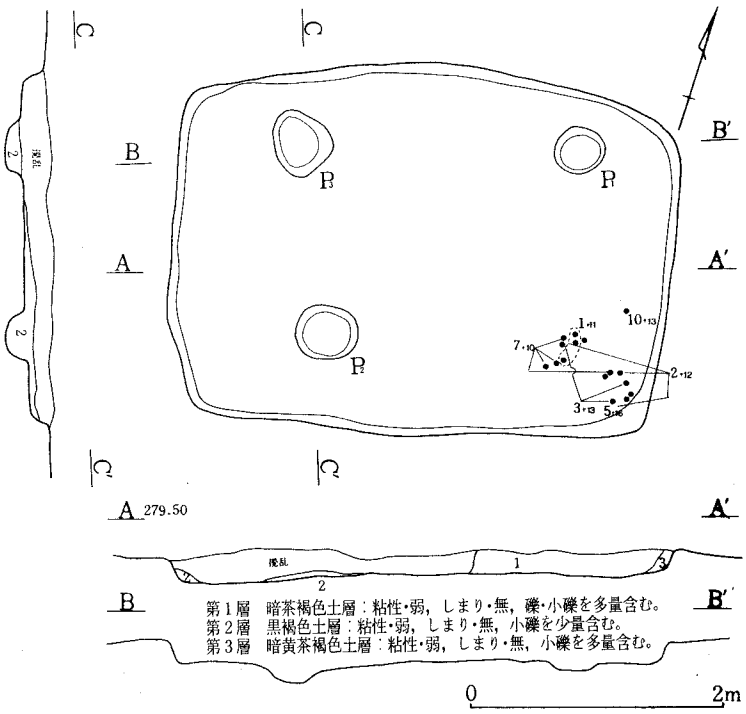
1	土師器 坏	A：ℓ（12.8）。B：口縁1/5～1/4。C：内面ー(ナデ)。D：細砂粒を含み密。E：明褐色。F：良。
2	土師器 坏	A：b5.1。B：底部完。C：内面ー(ナデ)。外面ー体部ナデ。底部糸切り。D：白砂粒を含む。E：茶褐色。F：良。
3	土師器 羽釜	B：破片。C：内面ーヨコ～斜方向のハケ。口唇部ナデ。外面ー鍔より上部ナデ鍔より下部ヘラ状工具によるナデ。D：金雲母・白砂粒を含む。E：暗赤褐色。F：良。

《34号住居址》（第74～76図、第54～55表、図版Ⅴ・XIV・XⅧ）

位置：F－17区。西13mに38号住居址、北西9mに31・32号住居址が重複して存在。遺存状態：西半部の攪乱が著しい。

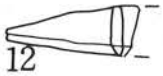
主軸方位：N－74°－E
平面形態：隅丸長方形。
規模：4.0×3.0m。壁高：19～15cm。覆土：3層で小礫が多量に混入。床面：軟弱。周溝：なし。柱穴：3本検出され、P_1－8cm、P_2－18cm、P_3－13cm。竈：なし。

出土遺物：南東隅に集中。覆土中から鉄製品が1点出土している。



第74号　34号住居址〔1/60〕

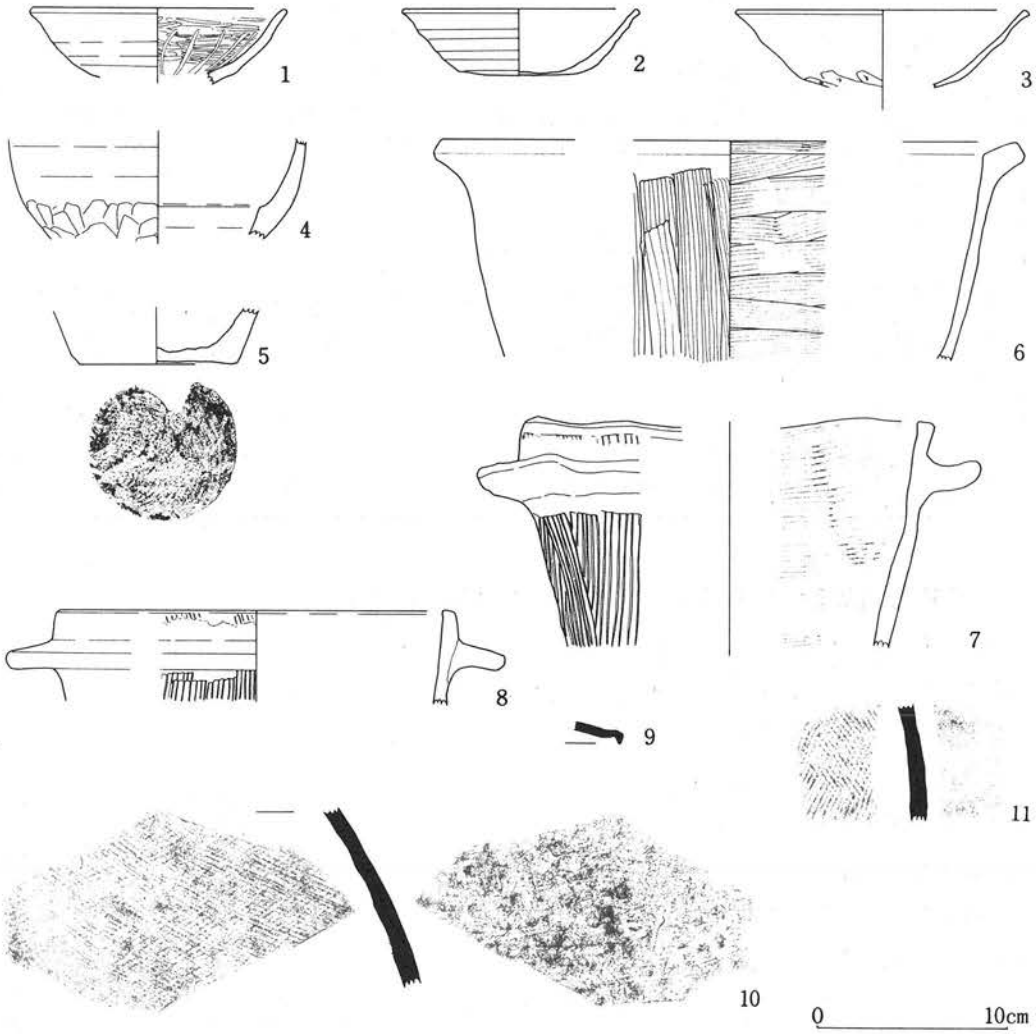
鉄製品：平面三角形を呈し長さ3.5cm、幅1.2cm、厚さ0.4cmを測る不明鉄製品で一端は欠落する。



第75図　34号住居址出土鉄製品〔1/2〕

第54表　34号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	29点	100g	27点	300g
須恵器	2点	20g	6点	80g



第76図　34号住居址出土土器〔1/4〕

第55表　34号住居址出土土器観察表(1)

1	土師器 坏	A：ℓ13.7。B：体部完。C：内面－回転ナデのちヘラミガキのち暗文。身こみ部回転ナデのち(暗文)。外面－体部上半回転ナデ。体部下半反時計方向の回転ヘラケズリ。D：砂粒を僅かに含む。E：黒色～暗赤茶褐色。F：良。
2	土師器 坏	A：ℓ12.3。b3.3。h3.5。B：1/2。C：内面－口唇～身こみ部ナデ。外面－体部ナデ。体部下端底部のヘラケズリが及ぶ。底部一方向のヘラケズリ。D：白砂粒を含む。E：淡赤褐色。F：良。

第55表　34号住居址出土土器観察表(2)

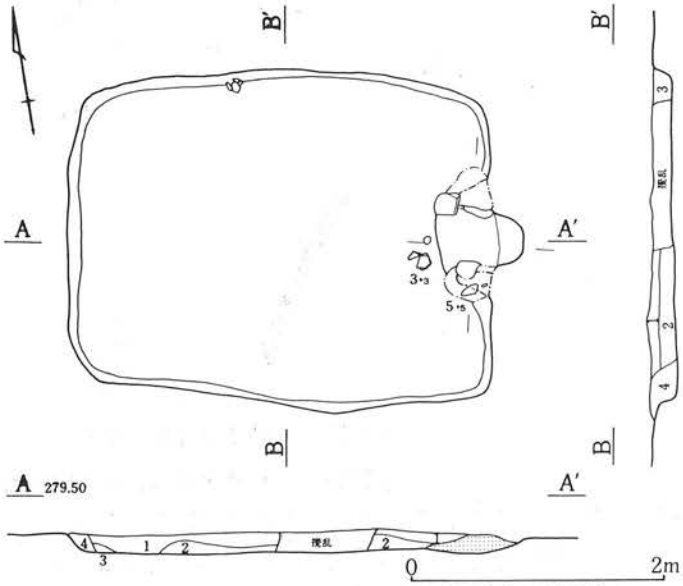
3	土師器 坏	A：ℓ (15.4)。b (5.6)。h (4.3)。B：1/3。C：内面－ナデ。外面－体部上半ナデ。体部下端反時計方向の一段ヘラケズリ。D：白砂粒を含み密。E：暗褐色 F：良。
4	土師器 壺	A：最大径15.4。B：体部中位1/2。C：内面－回転ナデ。外面－上部回転ナデ。下部不定方向のヘラケズリ。D：細砂粒を含む。E：明～暗褐色。F：良。
5	土師器 甕	A：b8.1。B：底部完。C：内面－ハクリが著しく不明。外面－ハクリが著しく不明。底部糸切り。D：砂粒を多量に含む。E：暗茶褐色。F：やや良。
6	土師器 鉢	A：ℓ (31.0)。B：口縁～胴部1/3。C：内面－口縁部ヨコハケ。胴部ヨコハケのちナデ。外面－口縁～口唇部ナデ。胴部タテハケ。D：金雲母・細砂粒を含む E：暗褐色。F：良。
7	土師器 羽釜	A：ℓ (21.4)。B：口縁～胴上位1/3。C：内面－ヨコハケ。外面－口唇部～口縁部指による押工のちナデ。胴部タテハケのち鍔部貼り付。鍔部ナデ。D：白砂粒を含む。E：明褐色。F：やや良。
8	土師器 羽釜	A：ℓ (20.8)。鍔部径(26.2)。B：口縁1/4。C：内面－ナデ。外面－口縁部ナデ。胴部タテハケ。鍔部ナデ。D：金雲母を含み密。E暗茶褐色。F：良。
9	須恵器 蓋	B：口縁破片。C：内外面－回転ナデ。 D：白砂粒を含み密。E：青灰色。F：良。
10	須恵器 甕	B：破片。C：内面－叩目のち（一部）ヘラケデ。外面－叩目。D：白砂粒・砂粒を含む。E：青灰色。F：良。
11	須恵器 甕	B：破片。C：内面－ナデのち叩目。外面－叩目。D：密。E：灰白色。F：良

《35号住居址》（第77～79図、第56～57表、図版Ⅵ・Ⅶ）

位置：G－13・14区。東6.5mに27号住居址、南1mに4号掘立柱建物遺構、北西10mに25号住居址が存在。遺存状態：上面の削平が激しく、中央部に攪乱溝が走る。

主軸方位：N－78°－W。平面形態：隅丸長方形。規模：3.4×2.7m。壁高11～5cm。覆土：4層で小礫を多量に含む。床面：軟弱。周溝・柱穴：なし。竈：一基付設。

出土遺物：竈周囲に集中。図示しえたものは少ない。覆土中から鉄滓断片一点(20g)が出土している。



第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・黄褐色土粒を多量含む。
第2層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・礫を少量含む。
第3層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，黄色土粒を多量，小礫を少量含む。
第4層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量含む。

第77図　35号住居址〔1/60〕

竈

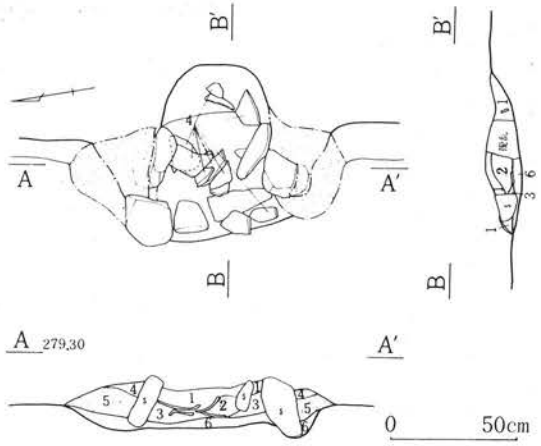
位置：東壁中央。遺存状態：上面を削平され、燃焼部中央に桑の根による攪乱を受ける。

主軸方位：N－81°－W。規模：長さ73cm幅107cm。構造：袖部は袖石を芯とし、粘土を貼る。燃焼部は楕円形を呈し、深さは5cm。煙道部は半円形に掘り込まれ、28°程で立ち上がる。

出土遺物：土師器・甕4が燃焼部内に散乱。

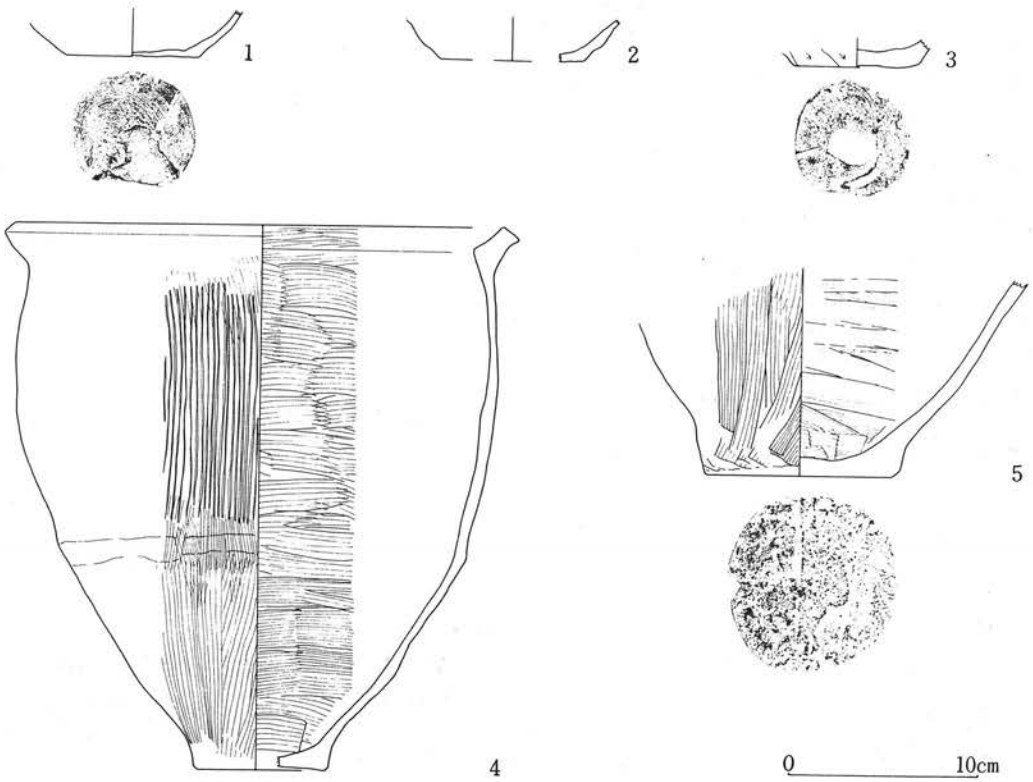
第56表　35号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	107点	300g	52点	660g
須恵器	1点	5g	5点	70g



第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土・小礫を含む。
第2層　橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土ブロック層。
第3層　暗茶褐色土層：粘性・強，しまり・無，焼土・粘土を含む。
第4層　黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土を多量，焼土を微量含む。
第5層　黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土主体層。
第6層　暗黄褐色土層：粘性・強，しまり・無，小礫を多量，粘土を少量，焼土を微量含む。

第78図　35号住居址・竈〔1/30〕



第79図　35号住居址出土土器〔1/4〕

第57表　35号住居址出土土器観察表

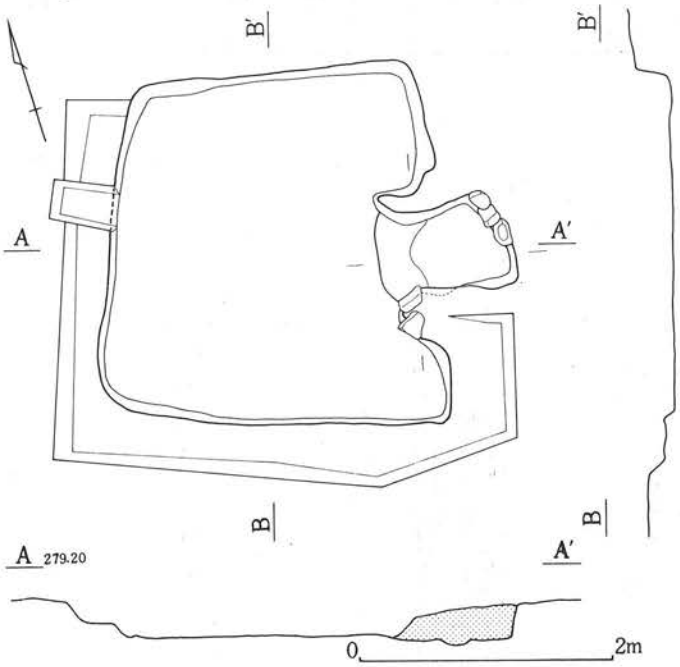
1	土師器 坏	A：b6.9。B：底部2/3。C：内面―ナデ。外面―体部回転ナデ。底部―糸切り。D：黒色粒を含み密。E：灰茶褐色。F：良。
2	土師器 坏	A：b(7.4)。B：底部1/3。C：内面―ナデ。外面―体部ナデ。底部糸切りのちナデ。D：細砂粒を含み密。E：淡褐色。F：良。
3	土師器 甕	A：b4.5。B：底部完。C：内面―回転ナデ。胴部下端時計方向の一段ヘラケズリ。底部糸切りのち縁辺部ヘラケズリ。D：密。E：外・暗茶褐色。内・明褐色。F：良。
4	土師器 甕	A：ℓ26.9。b7.6。h28.2。胴部径25.2。B：1/2～2/3。C：内面―口縁～胴部ヨコハケ。外面―口縁～口唇部ナデ。胴部粗いタテハケ。中位細かいタテハケ底部木葉痕。D：白砂粒・金雲母を含み密。E：暗褐色。F：良。
5	土師器 甕	A：b10.1。B：底部～胴下半完。C：内面―ヨコハケ。外面―胴部タテハケ。胴部下端ハケ状工具によるシボリ。底部木葉痕。D：細砂粒を含み密。E：暗茶褐色。F：良。

《36号住居址》（第80～82図、第58～59表）

位置：E－14区。北東7.5mに2号掘立柱建物遺構、29・30号住居址、北西6.5mに37号住居址が存在。遺存状態：ほぼ良好だが、覆土と地山との判別が困難であった。

主軸方位：N－75°－W。平面形態：不整（隅丸）方形。規模：3.0×2.7m×2.8～2.5m。壁高：30～8cm。覆土：調査時の不手際により観察しえず。床面：竈前から南東隅部は堅緻、他は軟弱。周溝・柱穴：なし。竈：一基付設。

出土遺物：比較的豊富だが、殆どが覆土中より得られた。



第80図　36号住居址〔1/60〕

竈

位置：東壁中央、遺存状態：袖部先端を失う。

主軸方位：N－77°－W。規模：長さ106cm、幅114cm。構造：袖部は左袖に袖石使用。

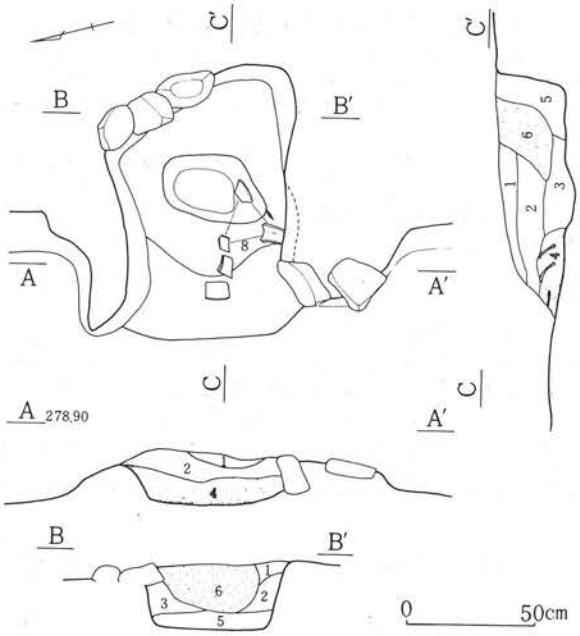
第58表　36号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	110点	500g	36点	330g
須恵器			9点	420g

第６層は天井部の残存であろう。燃焼部は楕円形を呈し、深さは５cm

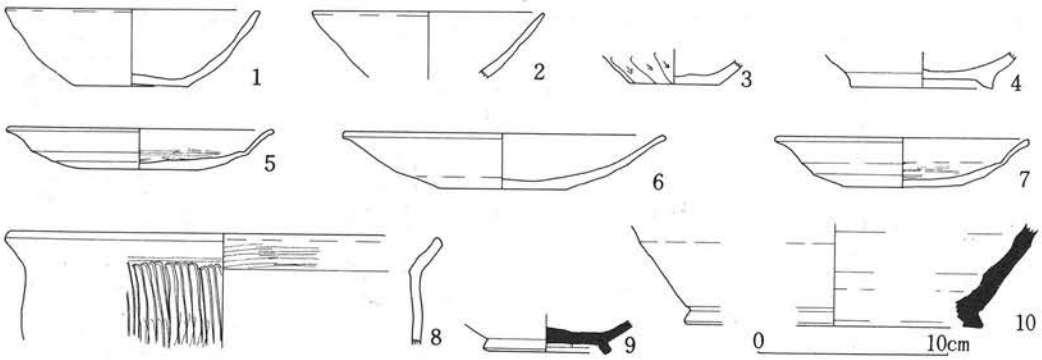
中央に小ピットを持つ。煙道部は台形状に奥まで掘り込まれ、79°程で立ち上がる。

出土遺物：燃焼部に少量。



第１層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土ブロックを多量含む。
第２層　黄茶褐色土層：粘性・強，しまり・有，焼土を多量含む。
第３層　暗茶褐色土層：粘性・強，しまり・無，焼土を多量，粘土を少量含む。
第４層　橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土層。
第５層　黄茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土ブロック・小礫を含む。
第６層　暗黄茶褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土主体層。

第81図　36号住居址・竈〔1/30〕



第82図　36号住居址出土土器〔1/4〕

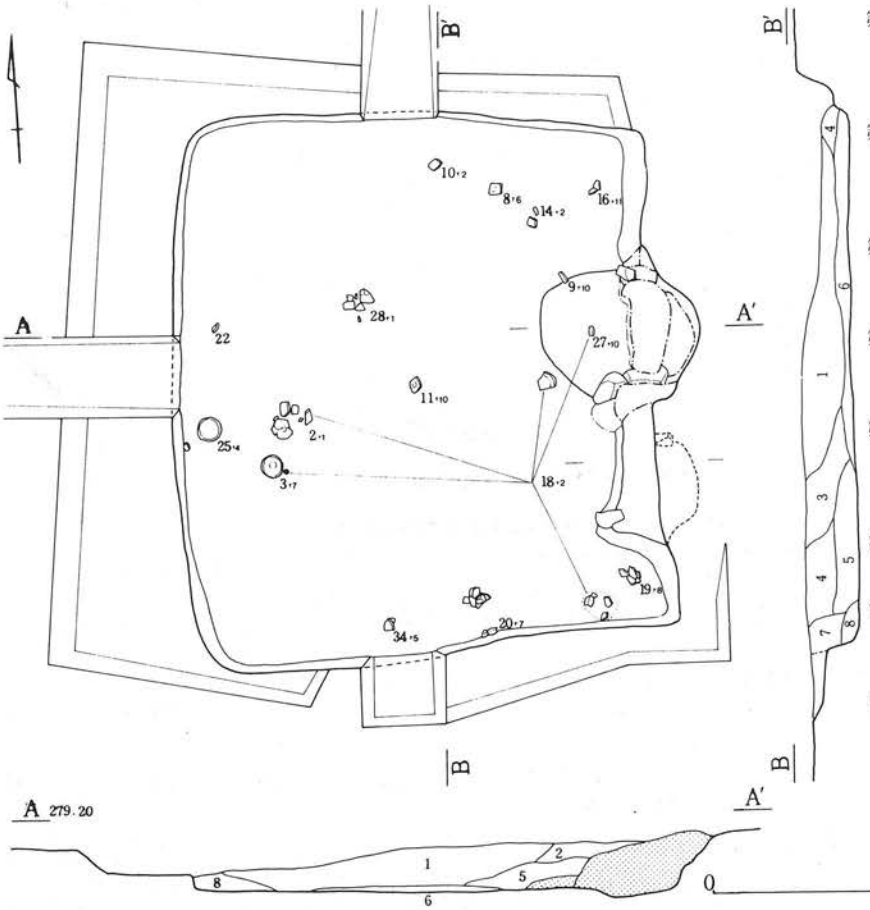
第59表　36号住居址出土土器観察表(1)

1	土師器 坏	A：ℓ (13.2)。b (5.9)。h4.1。B：1/3。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。底部へラケズリのちナデ。D：白砂粒を微量に含む。E：暗橙褐色。F：良。
2	土師器 坏	A：ℓ (12.2)。B：口縁～体部1/3。C：内外面－ナデ。D：密。E：明淡褐色 F：良。
3	土師器 坏	A：b4.6。B：底部完。C：内面－ナデ。外面－体部下端反時計方向の一段 へラケズリのちナデ。底部不定方向のへラケズリ。D：密。E：淡橙褐色。F：良。
4	土師器 坏	A：高台径7.4。B：底部完。C：内面－異色。外面－磨耗の為不明。 高台部ケズリダシ。D：砂粒を多量に含む。E：外・橙褐色。内・黒色。F：やや良。
5	土師器 皿	A：ℓ14.0。b6.2。h2.2。B：1/2。C：内面－体部上半ナデ。体部中位棒状工具によるナデ。体部下半へラミガキのちナデ。身こみ部ナデ。外面－体部上半回転ナデ。底部～体部下半反時計方向の回転へラケズリ。D：黒色粒を含み密。E：橙褐色。F：良。

第59表　36号住居址出土土器観察表(2)

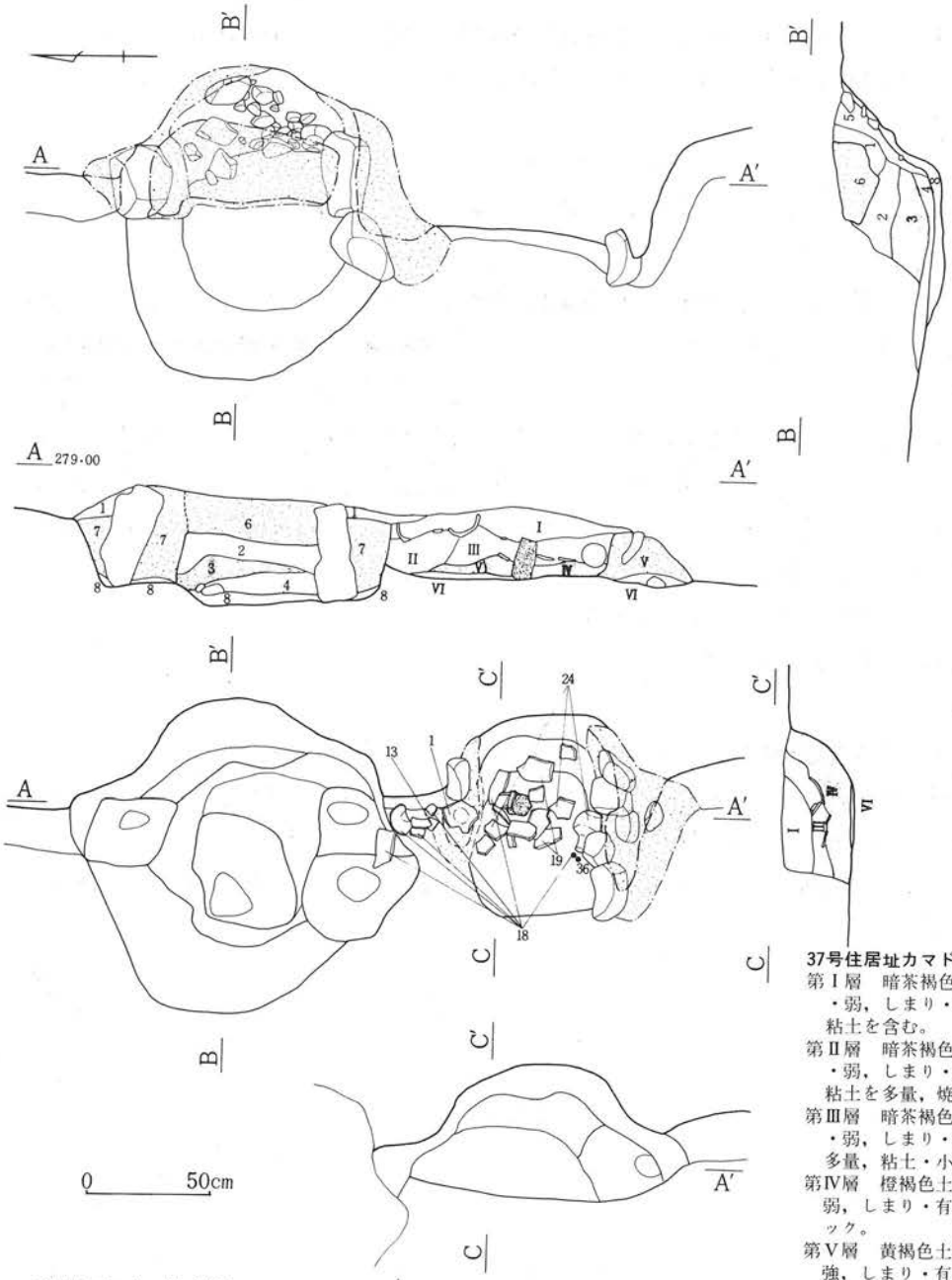
6	土師器 皿	A：ℓ (17.2)。b (6.6)。h 2.9。B：体部1/3。C：内面－ナデ。外面－体部上半ナデ。底部～体部下端時計方向の回転ヘラケズリ。D：密。E：淡橙褐色。F：良。
7	土師器 皿	A：ℓ 13.4。b 6.2。h 3.0。B：1/ 2。C：内面－体部上半ナデ。体部中位棒状工具によるナデ。体部下半ミガキのちナデ。身こみ部ナデ。外面－体部上半回転ナデ。底部～体部下端時計方向の回転ヘラケズリ。D：密（黒色粒を含む)。E：橙褐色。F：良。
8	土師器 甕	A：ℓ (23.0)。胴部径(21.0)。B：口縁1/3～1/2。C：内面－口縁粗いヨコハケ。胴部細かいヨコハケ。外面－口縁～口脣部ナデ。胴部タテハケ。D：金雲母を含み密。E：明茶褐色。F：良。
9	灰釉陶器 坏	A：b 6.8。B：底部1/2強。C：内面－回転ナデ。体部下端緑灰色系の自然釉。外面－体部下端回転ナデ。底部（回転）糸切りのち縁辺部ヘラナデのち高台貼り付。高台部ナデ。D：密。E：灰白色。F：良。
10	須恵器 壺	A：b (15.6)。B：底部1/4。C：内外面－回転ナデ。底部整形後高台貼り付のちナデ。D：白砂粒を少量含み密。E：灰白色。F：良。

《37号住居址》（第83～85図、第60～61表、図版Ⅵ・Ⅶ・Ⅴ・Ⅶ）



第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫・黄色土粒を少量含む。
第2層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫を少量，焼土・炭化物を微量含む。
第3層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，礫を含む。
第4層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫を多量含む。
第5層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり，有，焼土・炭化物を微量，礫を含む。
第6層　暗茶褐色土層：粘性・弱，焼土・礫を含む。
第7層　暗黄茶褐色土層：粘性・強，しまり・有，黄色土粒を多量に含む。
第8層　暗茶褐色土層：粘性・弱，砂粒を含む。

第83図　37号住居址〔1/60〕



37号住居址カマド（新）

第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土を多量，粘土を含む。
第2層　暗黄茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，粘土・焼土・小礫を含む。
第3層　橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土ブロック。
第4層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土を多量，炭化物を少量，小礫を微量に含む。
第5層　暗赤褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土・粘土を含む。
第6層　黄白色土層：粘性・強，しまり・有，粘土層。
第7層　黄白色土層：粘性・強，しまり・有，粘土層。
第8層　暗黄茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量，粘土・焼土を微量に含む。

37号住居址カマド（旧）

第Ⅰ層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土・粘土を含む。
第Ⅱ層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・粘土を多量，焼土を含む。
第Ⅲ層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土を多量，粘土・小礫を含む。
第Ⅳ層　橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土ブロック。
第Ⅴ層　黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，粘土主体層。
第Ⅵ層　暗黄茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・焼土・粘土を含む。

第84図　37号住居址・竈〔1/30〕

位置：F－13・14区。北３ｍに４号掘立柱建物遺構、東９ｍに29・30号住居址、２号掘立柱建物遺構、南6.5ｍに36号住居址が存在。遺存状態：良好であったが、覆土と地山との見極めが困難であった。

主軸方位：N－90°－E。平面形態：不整隅丸方形。規模：4.4～4.2×4.0～3.9m。壁高：40cm以上。覆土：８層に分かれ、自然堆積を示す。床面：堅緻。周溝・柱穴：なし。竈：新・旧２基付設。

出土遺物：豊富に見られ、竈周辺、南東隅部、西壁中央部の、ほぼ３箇所にまとまる。覆土中から鉄滓一点（80g）が出土している。

第60表　37号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	811点	2,860g	230点	2,150g
須恵器	8点	40g	25点	640g

新竈

位置：東壁北寄り。遺存状態：袖部は遺存しない。

主軸方位：N－103°－E。規模：長さ128cm、幅147cm。構造：袖部は袖石を芯とし粘土を貼る。天井部（第６層）は黄白色粘土を用い、ほぼ20cmの厚さを測る。燃焼部は楕円形を呈し、深さは７cm。煙道部は半円形に掘り込まれ、50°程で立ち上がる。煙道部壁面は地山の礫を利用している。

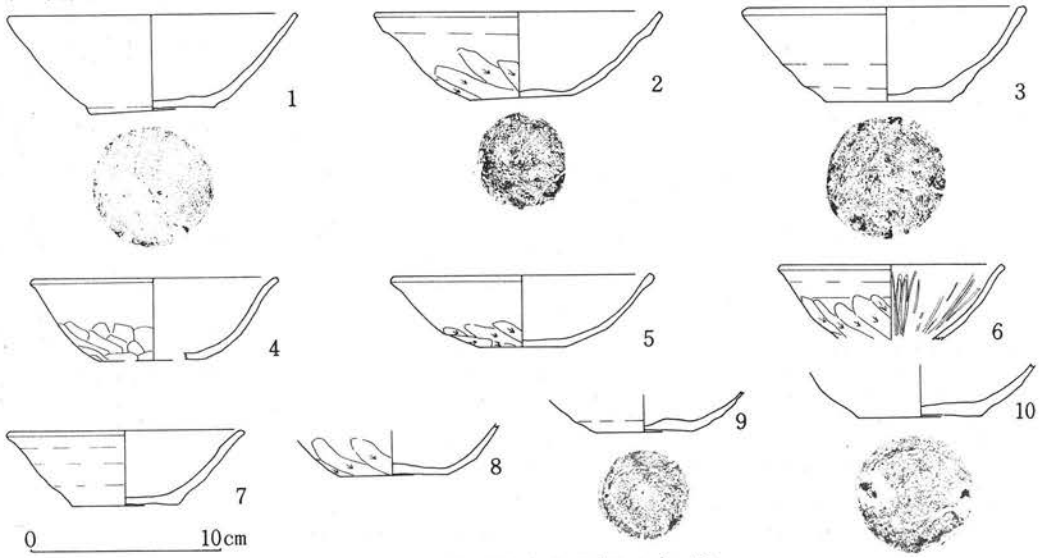
出土遺物：少量で断片化が進む。

旧竈

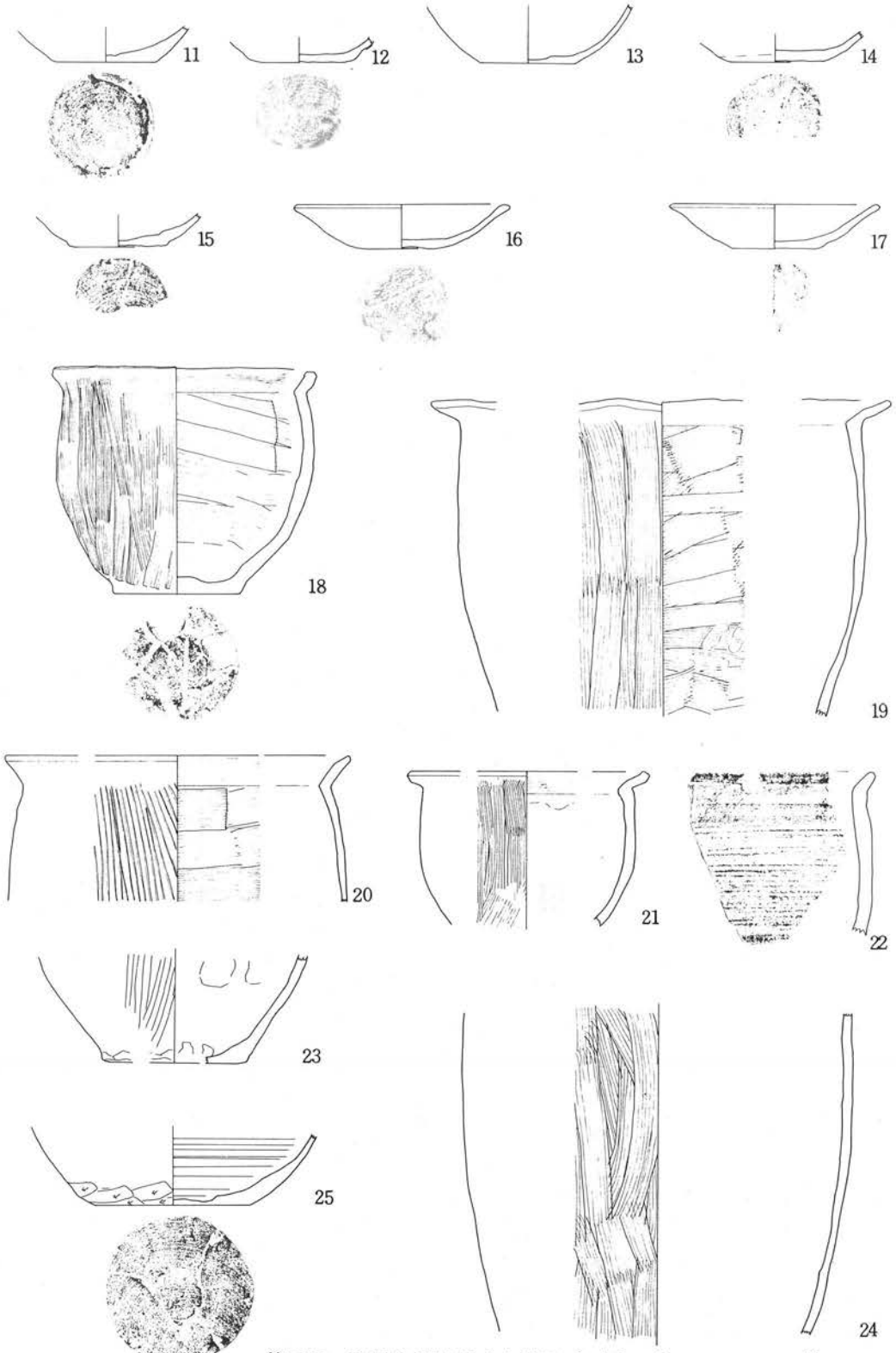
位置：東壁南寄り（新竈南脇）。遺存状態：新竈構築時に左袖を壊される。

主軸方位：N－99°－E。規模：長さ84cm、幅115cm。構造：袖部は袖石を芯とし、粘土を貼る。燃焼部は楕円形を呈する。煙道部は浅い皿状に掘り込まれ、60°程で立ち上がる。

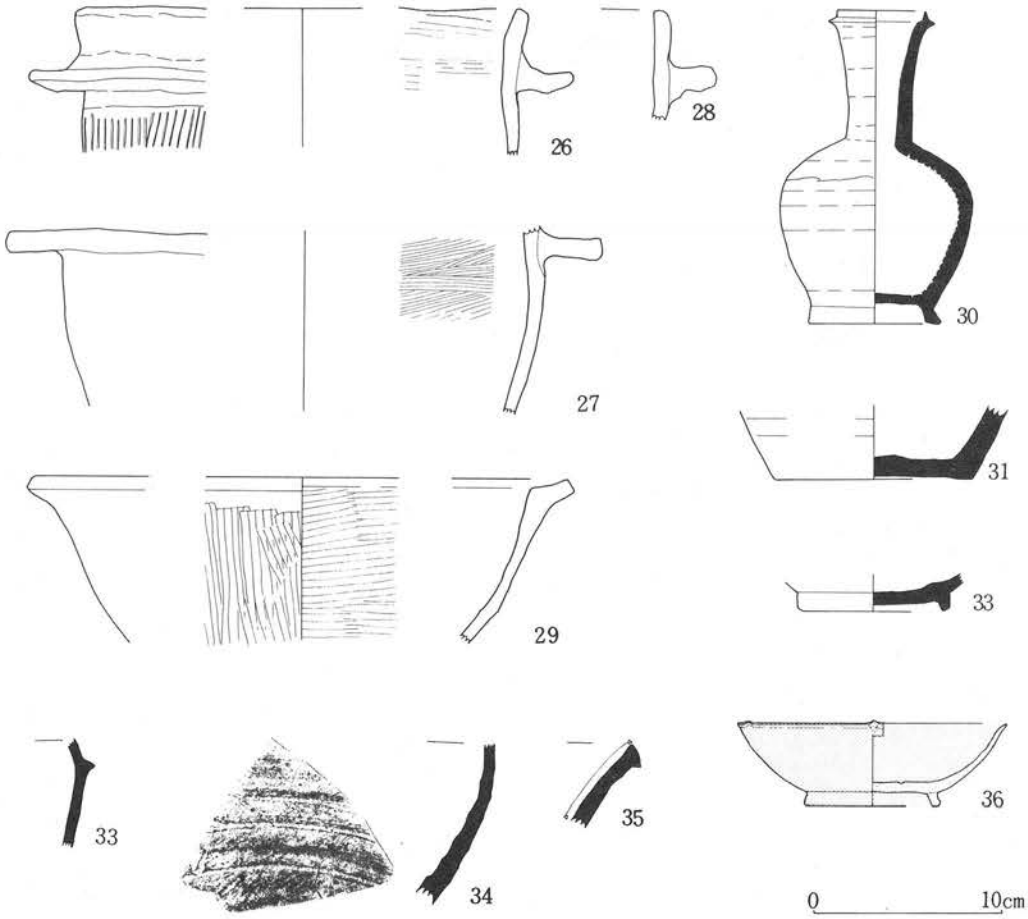
出土遺物：燃焼部内から左袖跡にかけて多量の土器が認められた。燃焼部奥部から石製の支脚が検出された。



第85図　37号住居址出土土器(1)〔1/4〕



第85図　37号住居址出土土器(2)〔1/4〕



第85図　37号住居址出土土器(3)〔1/4〕

第61表　37号住居址出土土器観察表(1)

1	土師器 坏	A：ℓ15.2。b6.5。h5.2。B：完。C：内外面－回転ナデ。底部反時計回りの回転糸切り。D：細砂粒を含む。E：淡橙褐色。F：良。
2	土師器 坏	A：ℓ15.2。b5.5。h4.7。B：完。C：内面－身こみ部ヘラ状工具によるナデ体部ナデ。外面－体部上半ナデ。体部下半反時計方向の一段ヘラケズリ。底部糸切り。D：砂粒を含む。E：橙褐色。F：良。
3	土師器 坏	A：ℓ14.8。b6.7。h5.0。B：完。C：内面－体部ナデ。身こみ部回転ナデ。外面－体部ナデ。底部反時計回りの回転糸切り。D：細砂粒・金雲母を少量含む E：暗茶褐色。F：良。
4	土師器 坏	A：ℓ13.1。b（5.5）。h4.4。B：体部1/2。C：内面－ナデ。外面－体部上半ナデ。体部下半ヘラケズリのちミガキのちナデ。底部ミガキのちナデ。D：密。E：淡褐色～灰黒褐色。F：良。
5	土師器 坏	A：ℓ（13.8）。b4.4。h3.7。B：底部完。口縁部1/4。C：内面－ナデ。外面－体部上半ナデ。体部下半反時計方向の一段ヘラケズリ。底部糸切りのち不定方向のヘラケズリ。D：砂粒を微量に含む。E：明褐色。F：良。
6	土師器 坏	A：ℓ10.0。b（5.0）。B：体部1/2。C：内面－ナデのち暗文。外面－体部上半回転ナデ。体部下半反時計方向の一段ヘラケズリ。D：砂粒を少量含み密。E：橙褐色。F：良。

第61表　37号住居址出土土器観察表(2)

7	土師器 坏	A：ℓ12.6。b (5.8)。h 4.0。B：底部1/2～体部1/4。C：内面－磨耗の為不明 外面－体部回転ナデ。底部（回転）糸切り。D：密。E：淡暗茶褐色。F：良。
8	土師器 坏	A：b5.6。B：底部～体部下半完。C：内面－ていねいなナデ。外面－体部上半ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底面一方向のヘラケズリ。D：細砂粒を含む。E：淡橙褐色～黄茶褐色。F：良。
9	土師器 坏	A：b5.0。B：底部～体部下半完。C：内面－身こみ部～体部回転ナデ。外面－体部回転ナデ。底部反時計回りの回転糸切り。D：密。F：淡橙褐色。F：良。
10	土師器 坏	A：b6.5。B：底部～体部下半完。C：内面－ナデ。外面－ナデ。底部時計回りの回転糸切り。D：白砂粒を含み密。E：淡橙褐色。F：やや良。
11	土師器 坏	A：b6.1。B：底部～体部下半完。C：内面－ナデ。外面－ナデ。底部反時計回りの回転糸切り。D：細砂粒を含む。E：淡橙褐色。F：良。
12	土師器 坏	A：b5.9。B：底部完。C：内面－身こみ部回転ナデ。外面－底部反時計回りの回転糸切り。D：細砂粒を含む。E：橙褐色。F：良。
13	土師器 坏	A：b5.6。B：底部～体部下半1/2。C：内面－回転ナデ。外面－磨滅の為不明（底部ヘラケズリか)。D：細砂粒を含み密。E：橙褐色。F：良。
14	土師器 坏	A：b5.4。B：底部～体部下半3/4。C：内面－回転ナデ。外面－体部下端回転ヘラケズリ（方向不明)。底部（回転）糸切り。D：密。E：橙褐色～淡茶褐色。F：良。
15	土師器 坏	A：ℓ12.8。b5.2。h2.7。B：1/2。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。底部（回転）糸切り。D：砂粒を多量に含む。E：淡暗茶褐色。F：良。
16	土師器 皿	A：ℓ13.2。b4.9。h2.7。B：3/ 4。C：内面－体部上半ナデ。身こみ部～体部下半ヘラ状工具による回転ナデ。外面－体部上半ナデ。底部（回転）糸切りのち縁辺部～体部下端ヘラケズリ。D：砂粒を多量に含む。E：淡明褐色。F：良。
17	土師器 皿	A：ℓ12.8。b5.2。h2.7。B：1/2。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。底部糸切り。D：砂粒を多量に含む。E：淡暗茶褐色。F：良。
18	土師器 甕	A：ℓ16.0。b7.7。h14.0。胴部径14.6。B：完存。C：内面－口唇部ナデ。口縁部細かいヨコハケのちナデ。胴部上半斜方向のヘラナデ。胴下半粗いヨコハケ。底部指頭圧痕。外面－口縁～口唇部ナデ。胴部タテハケ。底部木葉痕。D：金雲母を含む。E：暗茶褐色～茶褐色。F：良。
19	土師器 甕	A：ℓ（28.0)。胴部径(24.6)。B：口縁部～胴部1/3。C：内面－口縁部ヨコハケのちナデ。胴部ヨコハケ。。外面－口唇部～口唇部ナデ。胴部タテハケ。D：金雲母を多量に含む。E：暗茶褐色。F：良。
20	土師器 甕	A：ℓ（21.0)。B：口縁部1/3。C：内面－口縁～胴部ヨコハケ。外面－口縁～口唇部ナデ。胴部タテハケ。D：金雲母を多量に含む。F：暗茶褐色。F：良。
21	土師器 甕	A：ℓ（14.8)。B：口縁～胴部1/3。C：内面－口唇部ナデ。口縁部ヨコハケ。胴部(細かい)ハケのちナデ。外面－タテハケ。D：白砂粒を多量に含む。E：暗茶褐色。F：良。
22	土師器 甕	B：口縁部～胴部破片。C：内面－口縁～口唇部ナデ。胴部ヨコハケのち回転ナデ。外面－口縁部回転ナデ。胴部タテハケのち回転ナデ。D：細砂粒を含む。E：明褐色。F：良。
23	土師器 甕	A：b8.7。B：底部3/4。C：内面－指頭圧。底部縁辺指頭圧によるしぼり。外面－胴部タテハケ。胴部下端ヘラ状工具によるしぼり。D：金雲母・砂粒を多量に含む。E：明褐色。F：良。
24	土師器 甕	A：胴部径23.8、B：胴部2/3。C：内面－指頭圧のち細かいハケ（部分的)。外面－タテハケ。D：金雲母。細砂粒を含み密。

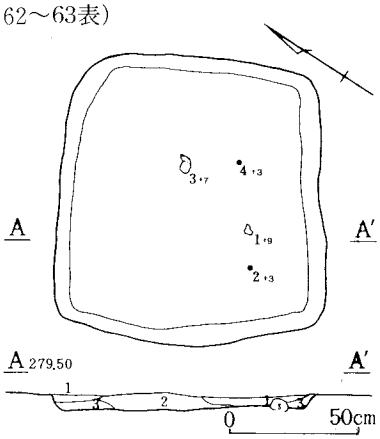
第61表　37号住居址出土土器観察表(3)

25	土師器 甕	A：b9.2。B：底部のみ完。C：内面―回転ナデ。体部下端時計方向の二段ヘラケズリ。底部糸切りのち縁辺部ヘラケズリ。D：細砂粒・金雲母を含み密。E：明褐色～明茶褐色。F：良。
26	土師器 羽釜	A：ℓ23.6。鍔部径28.6。B：口縁～鍔部1/2。C：内面―口縁ヨコハケのちナデ。胴部ヘラ状工具によるナデ。外面―口縁部ナデ。鍔部ナデ。胴部タテハケ。D：砂粒を多量に含む。E：明褐色。F：良。
27	土師器 羽釜	A：胴部径(25.2)。B：胴部1/3。C：内面―ヨコハケ。外面―鍔部ナデ。胴部磨耗の為不明。D：砂粒を多量に含む。E：明褐色。F：やや良。
28	土師器 羽釜	B：口縁部破片。C：内面―粗いハケのちナデ。外面―タテハケのち鍔部貼り付鍔部ナデ。D：砂粒を含み密。E：明褐色。F：良。
29	土師器 鉢	A：ℓ（28.6)。B：口縁1/4。C：内面―口縁部ナデ。胴部ヨコハケ。外面―口縁～口唇部ナデ。胴部タテハケ。D：金雲母・細砂粒を含み密。E：淡茶褐色。F：良。
30	須恵器 長頸壺	A：ℓ5.5。b7.0。h16.6。頸部径3.4。胴部径10.2。B：完。C：内面―頸部～口縁部回転ナデ。外面―胴部～頸部～口唇部回転ナデ。高台部回転ナデ。底部糸切りのち高台貼り付。D：砂粒を含み密。E：黒灰色。F：良。
31	須恵器 壺	A：b10.4。B：底部1/2強。C：内面―胴部回転ナデ。底部指頭圧のちナデ。緑色系の自然釉が附着。外面―胴部回転ナデ？　底部～体部下端不定方向のヘラナデ。D：白砂粒を含み密。E：黒灰色。F：やや良。
32	須恵器 壺	A：b8.2。B：底部2/3。C：内面―胴部下端縁灰色系の自然釉。底部ナデ。外面―胴部下端ナデ。底部糸切りのち高台貼り付高台部回転ナデ。D：砂粒を含み密。E：灰白色。F：良。
33	須恵器 四耳壺	B：破片。C：内面―指頭圧のちナデ。外面―上部回転ナデ。（灰色系自然釉）突帯部回転ナデのちハケ。D：密。E：紫灰色。F：やや良。
34	須恵器 壺	B：胴部破片。C：内面―回転ナデ。外面―平行叩目のち回転ナデ。D：密。E：黒灰色。F：良。
35	須恵器 壺	B：口縁部破片。C：内面―回転ナデ。灰色系の自然釉。外面―回転ナデ。D：密。E：黒灰色。F：良。
36	緑釉陶器 輪花埦	A：ℓ12.2。b7.2。h4.4。B：1/2弱。C：内外面―回転ヘラ？。D：密。E：濃緑色。F：良。

《38号住居址》（第86～87図、第62～63表）

位置：F－16区。北1mに3号掘立柱建物遺構、東13mに34号住居址西4.5mに29・30号住居址・2号掘立柱建物遺構が存在。遺存状態：上面に削平を受ける。

主軸方位：N－31°－WorN－59°－E。平面状態：不整(隅丸)方形。規模：2.2～2.0×2.2m。壁高：11cm。覆土：3層で砂粒を多量に含む床面：軟弱。周溝・柱穴：なし。



第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱、しまり・無黄色土・小礫を含む。
第2層　暗黄茶褐色土層：粘性・弱、しまり・無、黄色砂粒を多量、礫・茶褐色土を含む。
第3層　黄褐色土層：粘性・弱、しまり・無、黄色砂粒を多量含む。

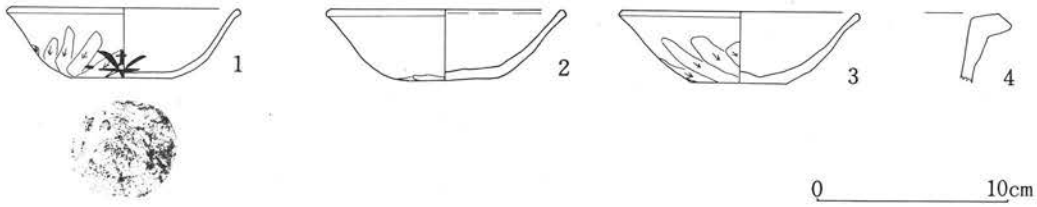
第86図　38号住居址〔1/60〕

竈：なし。

出土遺物：少量で床面に散乱。

第62表　38号住居址出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	6点	10g		
須恵器				



第87図　38号住居址出土土器〔1/4〕

第63表　38号住居址出土土器観察表

1	土師器 坏	A：ℓ12.4。b5.3。h3.7。B：2/3。C：内面一体部ナデ。身こみ部回転ナデ。外面一体部上半回転ナデ。体部下半反時計方向の一段ヘラケズリ。底部二方向のヘラケズリ。D：砂粒を含み密。E：明茶褐色。F：良。墨書有「本」？
2	土師器 坏	A：ℓ12.4。b5.1。h3.8。B：3/4。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。底部反時計回りの回転糸切りのち縁辺ヘラケズリ。D：砂粒を含む。E：明茶褐色。F：良。
3	土師器 坏	A：ℓ12.6。b5.1。h3.8。B：2/3。C：内面－体部ナデ。身こみ回転ナデ。外面－体部上半ナデ。体部下半反時計方向の一段ヘラケズリ。底部一方向のヘラケズリ。D：砂粒を含み密。E：暗橙褐色。F：良。
4	土師器 鉢	B：口縁部破片。C：内面－口縁部細かいヨコハケ。胴部ヘラナデ。外面－口縁部ヨコハケ。口縁部ナデ。胴部タテハケ。D：砂粒を含む。E：淡茶褐色。F：やや良。

2）掘立柱建物遺構

《1号掘立柱建物遺構》（第88～89図、第64～66表、図版Ⅷ）

位置：H・I－12・13区。東1mに25号住居址、北西4mに26号住居址が存在。

主軸方位：N－72°－W。平面形態・規模：2間（約4.0m）×3間（5.6m）の溝もち建物。溝はP_9～P_{10}の間に掘られる。柱穴間距離：東列（P_1～P_3）1.8m・2.3m、南列（P_3～P_6）1.9m・1.8m・1.9m、西列（P_6～P_8）2.1m・1.8m、北列（P_8～P_1）2.0m・1.5m・2.1m。柱穴の平面形：不整方形・不整円形。覆土：11層で小礫・黒色土粒の混入が多い。

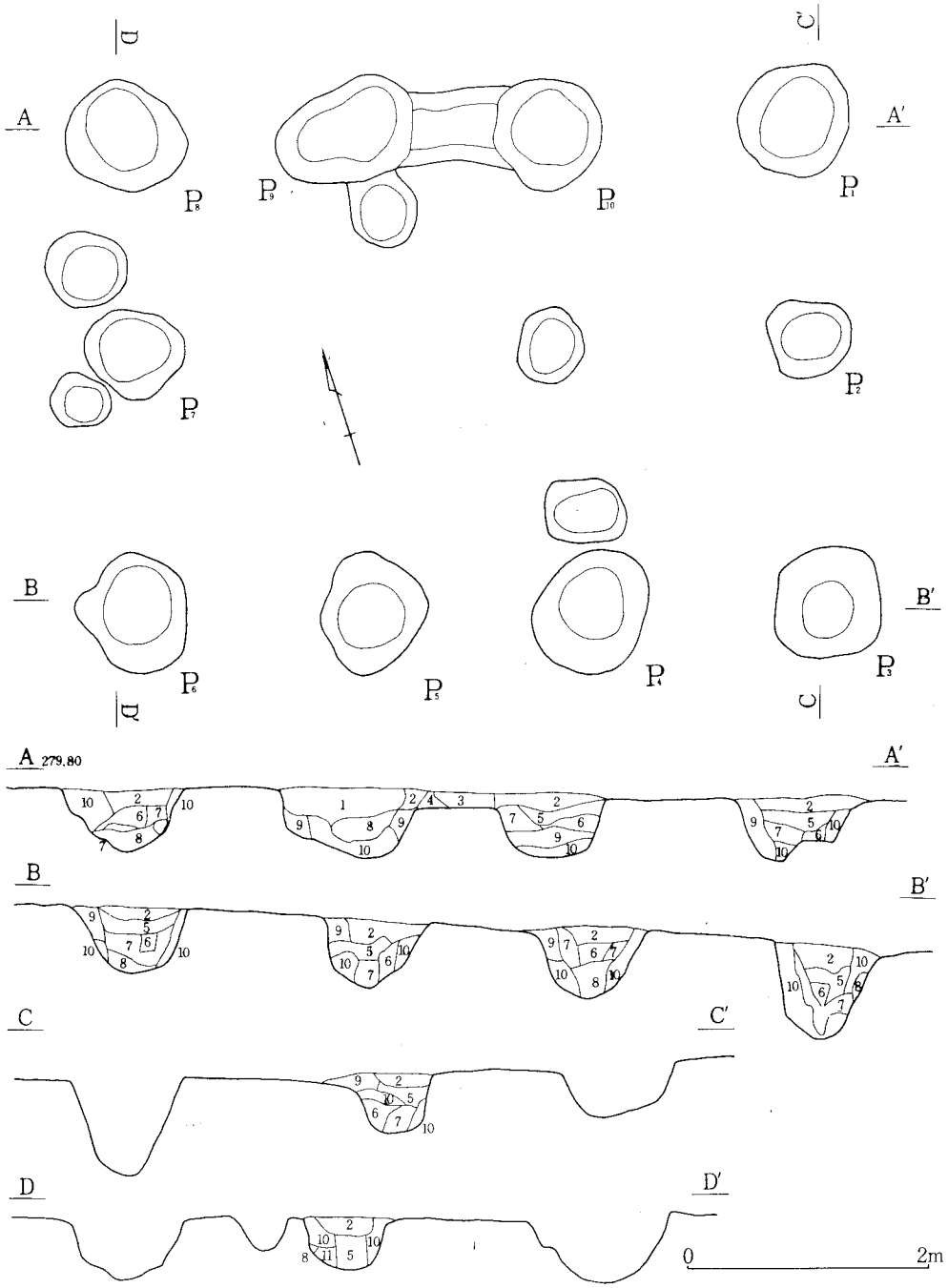
出土遺物：少量。図示しえたものも僅かで共にP_7から出土した。

第64表　1号掘立柱建物遺構柱穴規模

P_1	92×94	49	P_2	67×61	51
P_3	87×92	98	P_4	93×103	60
P_5	90×102	57	P_6	93×100	56
P_7	81×75	45	P_8	102×95	51
P_9	111×89	49	P_{10}	88×92	56

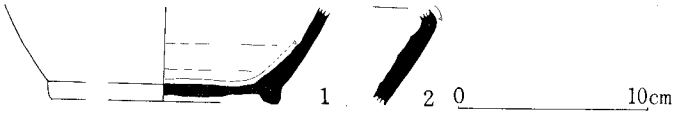
第65表　1号掘立柱建物遺構出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	10点	60g	8点	50g
須恵器				



第1層　褐色土層：粘性・強，しまり・有，黒色土粒・小礫を少量含む。
第2層　黒褐色土層：粘性・弱，ローム粒を含む。
第3層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量に含む。
第4層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，黒色土を含む。
第5層　黒褐色土層：粘性・強，しまり・無，粘土を少量含む。
第6層　黒色土層：粘性・強，しまり・有，ローム粒を含む。
第7層　黒色土層：粘性・弱，しまり・無，ローム粒を少量含む。
第8層　黒褐色土層：粘性・強，しまり・有，ローム粒・砂粒を多量含む。
第9層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・無，黒色土を多量含む。
第10層　黒褐色土層：粘性・強，しまり・有，ローム粒・ロームブロックを含む。
第11層　黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，小礫・ロームを多量含む。

第88図　1号掘立柱建物遺構〔1/60〕



第89図　1号掘立柱建物遺構出土土器〔1/4〕

第66表　1号掘立柱建物遺構出土土器観察表

1	須恵器 壺	A：高台部径(12.2)。B：底部1/4。C：内面一回転ナデ。底部黒緑色系の自然釉外面一体部回転ナデ。底部回転ヘラケズリのち高台貼り付けのちナデ。D：細砂粒を微量含み密。E：灰白色。F：良。
2	須恵器 壺	B：肩部破片。C：内面一回転ナデ。外面一回転ナデ。肩部より上位縁灰色系の自然釉。D：黒色粒子を含み密。E：暗青灰色。F：良。

《2号掘立柱建物遺構》（第90～91図、第67～69表、図版Ⅷ・XV・XⅦ）

位置：F－14・15区。北2.5mに27号住居址。東4.5mに3号掘立柱建物遺構・38号住居址、西9mに37号住居址が存在。南側に1号溝状遺構が東西に接して走る。重複関係：29・30号住居址と切り合っており、そのため本址柱穴の一部は確認出来ない。

主軸方位：N－3°－W。平面形態・規模：3間（約6.7m）×2間（約4.5m）の総柱の建物で南庇を持つ。柱穴間距離：妻側北列（P_{10}～P_{12}）2.2m・2.3m、平側東列（P_{12}～P_2）4.6m・2.0m、妻側南列（P_2～P_6）2.1m・2.1m、平側西列（P_6～P_{10}）2.1m・4.6m、庇柱列（P_3～P_5）2.2m・2.3mで南列と1.2m～1.4mの距離をとる。柱穴の平面形：不整円形～不整方形。覆土：13層で礫の混入が著しい。

本址は当初P_1～P_8までしか確認しえず1間×2間の建物と考えていたが、周囲精査後P_{10}～P_{12}を確認した。規格的にも、規模的にも同一企画プランとして把握しうるため2間×3間の建物と認識を改めた。重複する30号住居址北西隅部には不整円形を呈する攪乱壙を検出している。遺構であるとの確認は為しえなかったが、これを柱穴の痕跡と認めうるならば、P_7から2.3m、P_{10}から2.2mと両者のほぼ中間に柱穴列の存在を想定しうる。

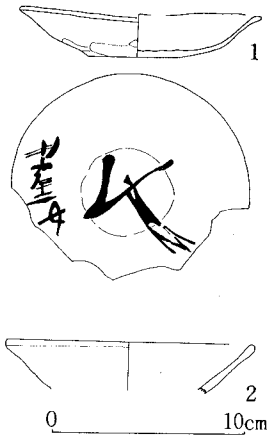
出土遺物：出土量は少ないが、P_{12}から墨書土器1が出土している。

第67表　2号掘立柱建物遺構出土土器計測表

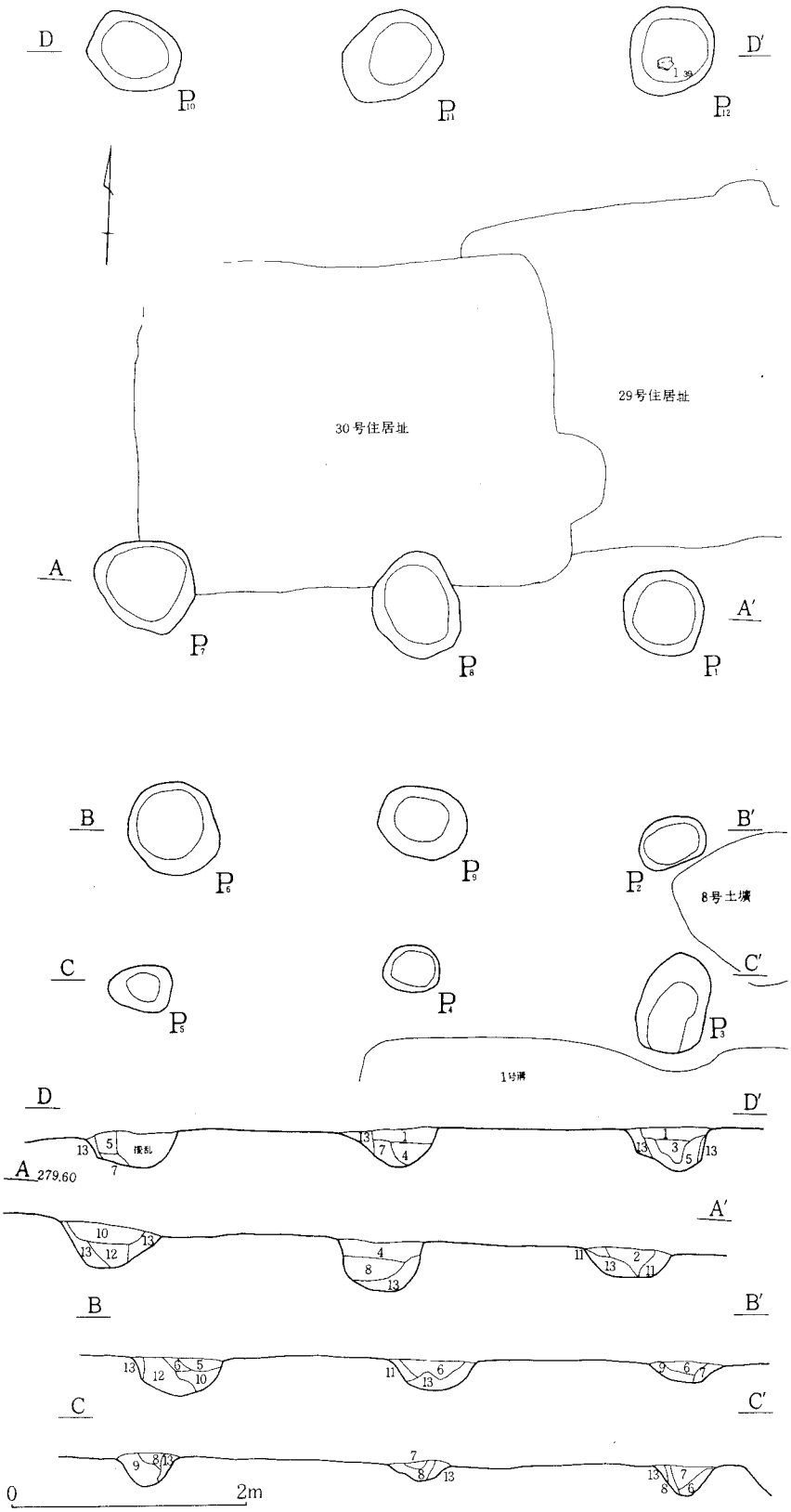
	坏		甕	
土師器	9点	30g	3点	5g
須恵器				

第68表　2号掘立柱建物遺構柱穴規模

P_1	70×74	25	P_2	58×42	17
P_3	60×85	27	P_4	49×41	18
P_5	53×40	29	P_6	76×81	31
P_7	83×78	42	P_8	74×93	38
P_9	74×63	27	P_{10}	80×65	29
P_{11}	85×77	32	P_{12}	71×74	38



第90図　2号掘立柱建物遺構出土土器〔1/4〕



第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・礫を含む。
第2層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・茶褐色土粒を含む。
第3層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・礫を含む。
第4層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・無，ローム粒を微量，小礫を含む。
第5層　暗赤茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・黄褐色土粒を含む。
第6層　暗赤茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・赤褐色土粒を含む。
第7層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・黄褐色土粒を少量含む。
第8層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を含む。
第9層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・黒色土粒を多量含む。
第10層　暗赤色土層：粘性・弱，しまり・無，礫を多量含む。
第11層　暗黄茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を少量含む。
第12層　暗赤褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・黄褐色土粒を多量含む。
第13層　赤黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量，黒色土粒を含む。

第91図　2号掘立柱建物遺構〔1/60〕

第69表　2号掘立柱建物遺構出土土器観察表

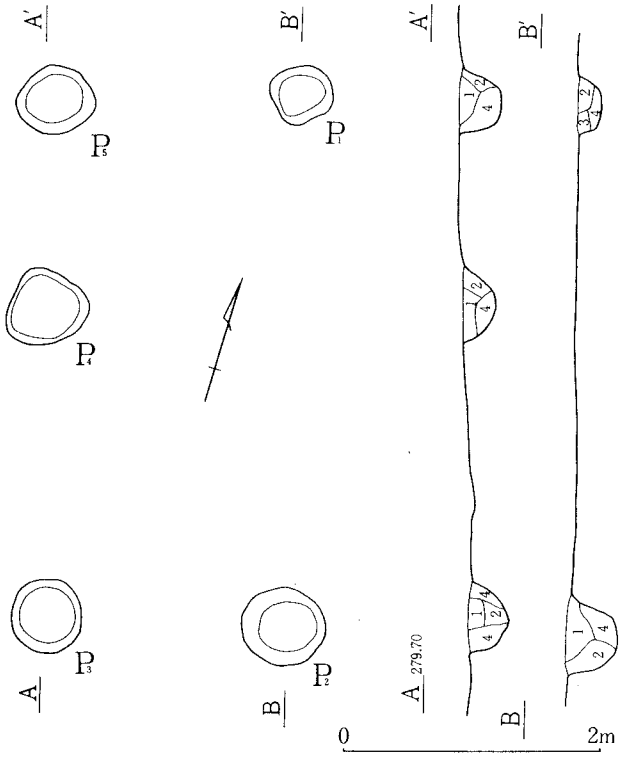
1	土師器 坏	A：ℓ12.6。b4.8。B：底部完体部1/2。C：内面ーナデ。外面ー体部ナデ。体部下端反時計方向の一段ヘラケズリ。底部一方向のヘラケズリ。D：細砂粒を含み密。E：明褐色。F：良。墨書有「千」「？」
2	土師器 坏	A：ℓ13.0。B：口縁部1/2。C：内外面ーナデ。D：細砂粒を含み密。E：明褐色。F：良。

《3号掘立柱建物遺構》（第92図、第70表）

位置：G・F－15・16区。南1mに38号住居址、西4mに29号住居址、北2.5mに28号住居址が存在。遺存状態：東半部を失う。

主軸方位：N－71°－E or N－19°－W。平面形態・規模：2間以上×2間（4.1m）。柱穴間距離：北列（P_5～P_1）1.9m、西列（P_3～P_5）2.4m・1.7m、南列（P_2～P_3）1.9m。柱穴の平面形：円形。覆土：4層で小礫を多量含む。

出土遺物：なし。



第1層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫を少量含む。
第2層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫・砂粒を多量に含む。
第3層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・有，砂粒を微量に含む。
第4層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量に含む。

第92図　3号掘立柱建物遺構〔1/60〕

《4号掘立柱建物遺構》

（第93～94図、第71～73表、図版Ⅷ）

位置：G－13・14区。北1mに35号住居址、東6.5mに27号住居址、南3mに37号住居址が存在。

主軸方位：N－65°－W、orN－84°－E。平面形態・規模：3間（4.6～4.2m）×3間（4.5～4.2m）の短形。柱穴間距離：東列（P_1～P_4）1.6m・1.3m・1.6m、南列（P_4～P_7）1.3m・1.5m・1.5m、西列（P_7～P_{10}）1.3m・1.6m・1.3m、北列（P_{10}～P_1）

第70表　3号掘立柱建物遺構柱穴規模

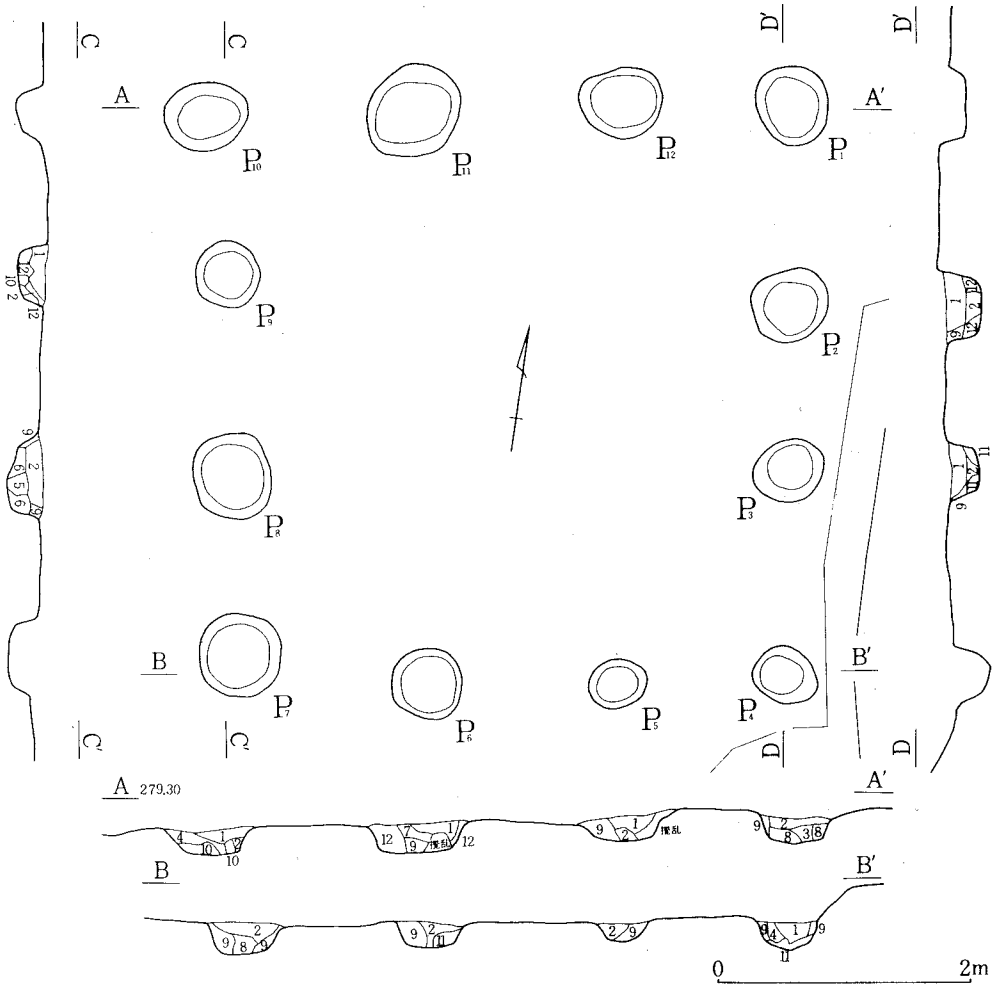
P_1	50×45	19	P_2	68×62	41
P_3	55×57	32	P_4	66×60	27
P_5	62×54	33			

1.6m・1.7m・1.3m。柱穴の平面形：円形～不整円形。覆土：12層で小礫を主体とするが、粘土も混入する。

出土置物：少量で図示しえたものも1点である。

第71表　4号掘立柱建物遺構出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	4点	5g	6点	50g
須恵器				

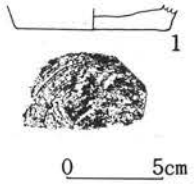


第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・礫を含む。
第2層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を含む。
第3層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を微量に含む。
第4層　黒黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量，黒色土を含む。
第5層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，粘土ブロックを多量，小礫を含む。
第6層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，粘土を少量，小礫を含む。
第7層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫・黄褐色土を微量含む。
第8層　暗黄茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・黄色砂粒を含む。
第9層　暗黄茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量，茶褐色土を少量含む。
第10層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・礫を含む。
第11層　黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量含む。
第12層　黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，小礫を多量，黄色土を含む。

第72表　4号掘立柱建物構柱穴規模

P_1	56×63	26	P_2	61×59	27
P_3	57×56	21	P_4	57×47	22
P_5	45×40	14	P_6	56×58	22
P_7	65×67	25	P_8	63×70	30
P_9	52×53	23	P_{10}	66×53	21
P_{11}	63×73	25	P_{12}	65×55	21

第93図　4号掘立柱建物遺構〔1/60〕



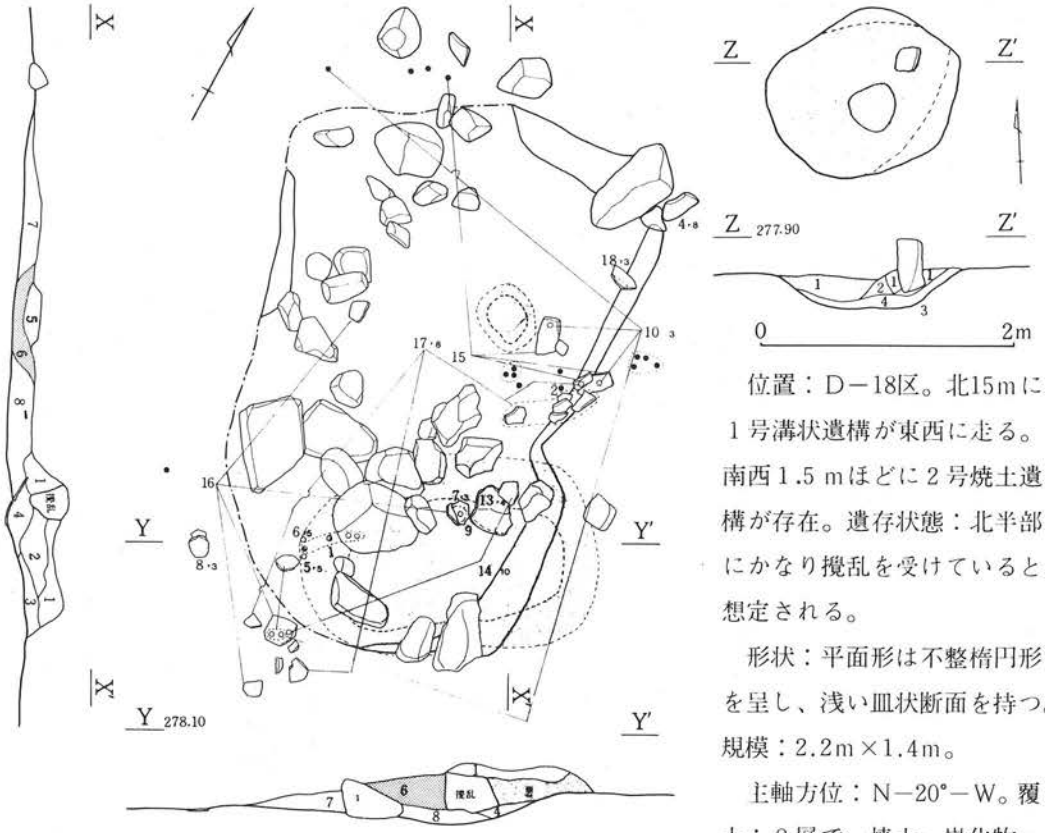
第94図　4号掘立柱建物遺構出土土器〔1/4〕

第73表　4号掘立柱建物遺構出土土器観察表

1	土師器 甕	A：b7.8。B：底部完。C：内面―ナデ。外面―底部糸切り。D：砂粒を多量に含み粗。E：茶褐色。F：良。

3）焼土遺構

《1号焼土遺構》（第95～97図、第74～75表、図版XV・XVII）



位置：D－18区。北15mに1号溝状遺構が東西に走る。南西1.5mほどに2号焼土遺構が存在。遺存状態：北半部にかなり撹乱を受けていると想定される。

形状：平面形は不整楕円形を呈し、浅い皿状断面を持つ。規模：2.2m×1.4m。

主軸方位：N－20°－W。覆土：8層で、焼土・炭化物・焼土含有層が互層をなして堆積する。特に南半部は焼土の堆積が著しい。覆土・落ち込みなどの状態から、本来的には落ち込み内全体に焼土が充填していたものであろう。

第1層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土を少量含む。
第2層　橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土層。
第3層　黒褐色土層：粘性・強，しまり・有，小礫・焼土を少量含む。
第4層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土を多量含む。
第5層　淡橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，砂粒・焼土を多量含む。
第6層　黒褐色土層：粘性・強，しまり・有，炭化物主体層，焼土ブロックを含む。
第7層　黒褐色土層：粘性・強，しまり・有，焼土を少量，炭化物を含む。
第8層　暗褐色土層：粘性・強，しまり・有，焼土を微量，粘土を含む。

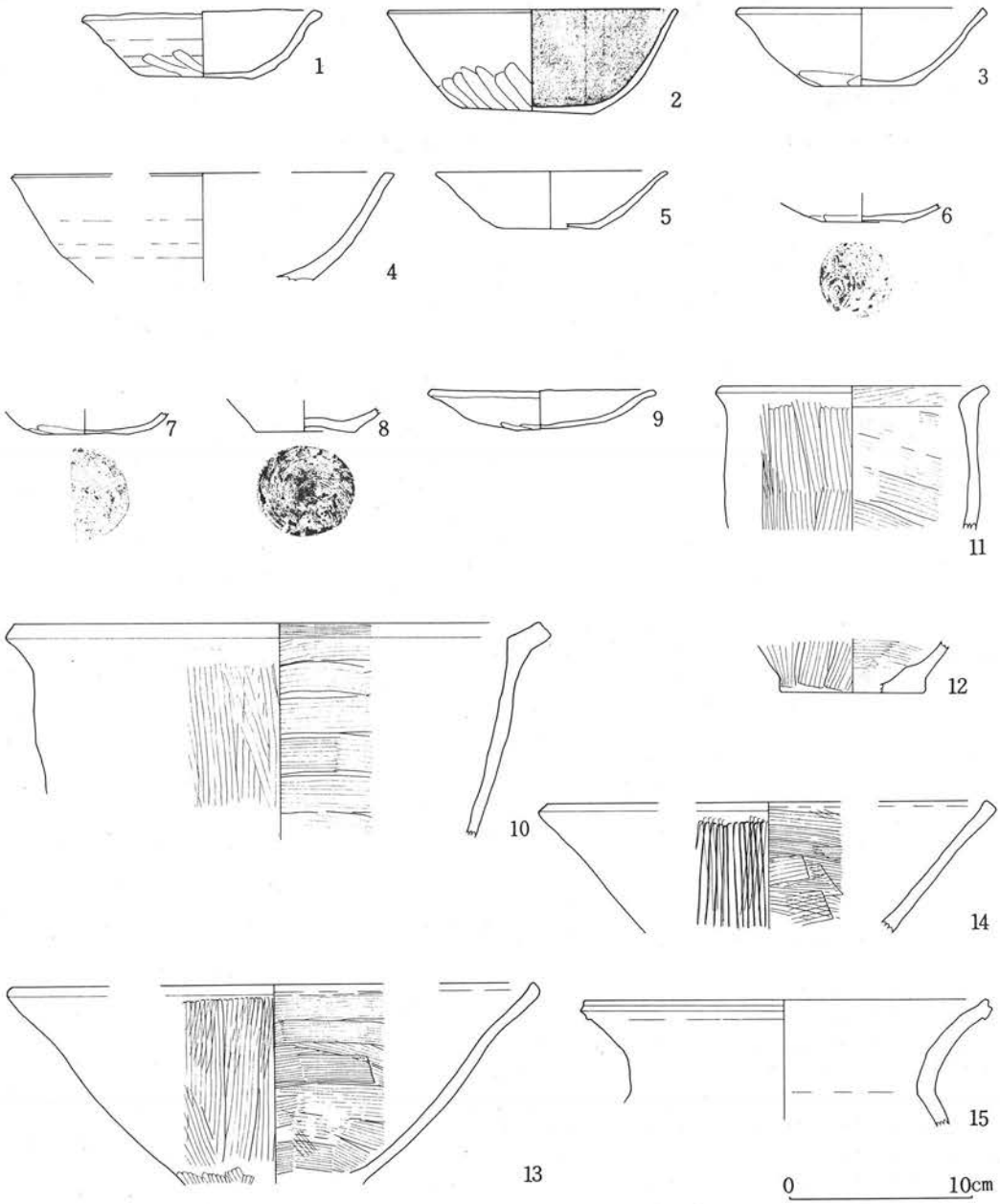
第95図　1・2号焼土遺構〔1/30〕

出土遺物：非常に豊富であるが、全て断片化し遺構内外に散乱し焼土層下、或は焼土層内から出土している。焼土堆積直前、或は焼土堆積時に投げ捨てられた様相を示す。

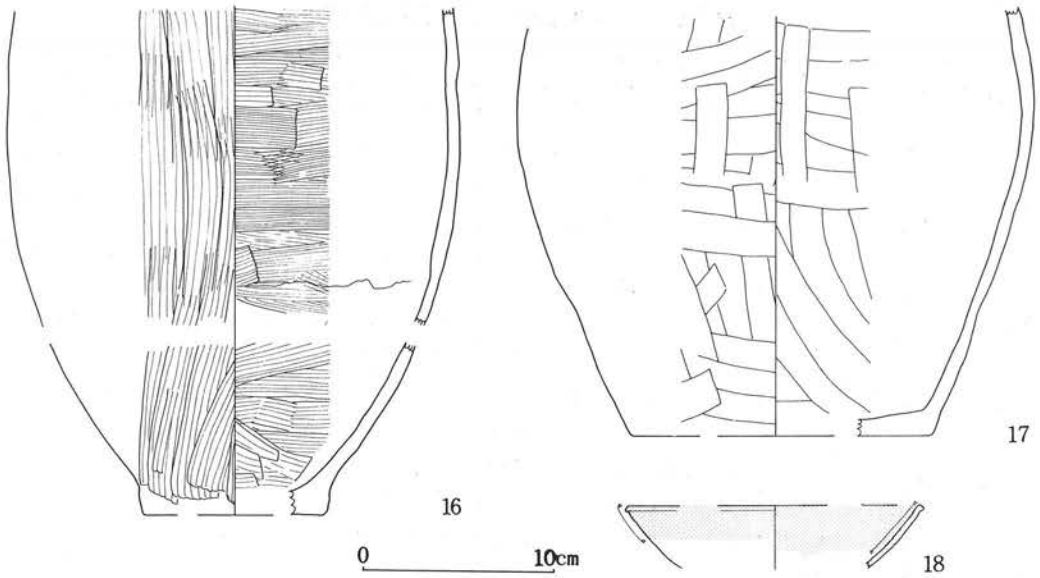
第74表　1号焼土遺構出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	551点	1,400g	80点	440g
須恵器				

尚、隣接する2号焼土遺構との関連は遺構の上からは確認しえなかった。



第96図　1号焼土遺構出土土器(1)〔1/4〕



第96図　1号焼土遺構出土土器(2)〔1/4〕

第75表　1号焼土遺構出土土器観察表(1)

1	土師器 坏	A：ℓ13.9。b5.9。h3.8。B：完。C：内面－ナデ。外面－体部上半ナデ。体部下半反時計方向の一段ヘラケズリ。底部ヘラケズリ（不定方向）。D：細砂粒を含む。E：暗茶褐色。F：良。
2	土師器 坏	A：ℓ15.6。b7.1。h5.4。B：底部完。体部2/3。C：内面－ナデ。外面－体部上半ナデ。体部下半反時計方向の一段ヘラケズリ。底部二方向のヘラケズリのちナデ。D：密。E：外・暗茶褐色。内・黒色。F：良。
3	土師器 坏	A：ℓ（13.6）。b（5.9）。h4.3。B：1/3。C：内面－ナデ。外面－体部上半ナデ。体部下端反時計方向の一段ヘラケズリ。底部ヘラケズリ（不定方向）。D：砂粒を多量に含む。E：淡茶褐色。F：良。
4	土師器 坏	A：ℓ（20.6）。b（11.5）。B：体部1/3。C：内面－回転ナデのちナデ。口唇部ナデ。外面－体部上半回転ナデ。体部下半時計回りの回転ヘラケズリ。D：白砂粒を含む。E：淡橙褐色。F：良。
5	土師器 坏	A：ℓ（12.6）。b（5.3）。h3.2。B：1/3。C：内外面－ナデ。D：砂粒を多量に含む。E：明茶褐色。F：やや良。
6	土師器 坏	A：b4.6。B：底部完。C：内面－ナデ（？）。外面－体部ナデ。体部下端反時計方向のヘラケズリ。底部反時計回りの回転糸切りのち縁辺部ヘラケズリ。D：E：淡明褐色。F：良。
7	土師器 坏	A：b4.8。B：底部のみ完。C：内面－ナデ。外面－体部下半ナデ。体部下端反時計方向の一段ヘラケズリ。底部反時計回りの回転糸切りのち縁辺部ヘラケズリ。D：白砂粒を多量に含む。E：明褐色。F：良。
8	土師器 坏	A：b5.4。B：底部完。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。底部糸切り。D：細砂粒を含み密。E：褐色。F：良。
9	土師器 皿	A：ℓ12.5。b6.9。h2.3。B：完。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。底部反時計方向のヘラケズリ。D：砂粒を含む。E：明褐色。F：良。
10	土師器 甕	A：ℓ29.8。B：口縁～胴上半3/4。C：内面－口縁部細かいヨコハケ。胴部ヨコハケ。外面－口縁～口唇部ナデ。胴部タテハケ。D：金雲母、砂粒を含む。E：明褐色～暗茶褐色。F：良。

第75表　1号焼土遺構出土土器観察表(2)

11	土師器 甕	A：ℓ（15.0）。B：口縁～胴上半1/3。C：内面－口縁斜方向のハケ。胴部ヨコ(斜)ハケ。外面－タテハケ。D：金雲母・砂粒を含む。E：暗茶褐色。F：良。
12	土師器 甕	A：b7.8。B：底部1/2。C：内面－ヨコハケ・外面－胴部タテハケ。底部木葉痕。D：砂粒を多量に含む。E：暗茶褐色。F：良。
13	土師器 鉢	A：ℓ（29.2）。B：体部1/4。C：口唇部ナデ。体部タテハケ。外面－口唇～口縁部ナデ。体部タテハケ。体部下端ヘラ状工具による押エナデ。D：砂粒・金雲母を含み密。E：明褐色。F：良。
14	土師器 鉢	A：ℓ（25.0）。B：口縁部1/4。C：内面－口唇部ナデ。体部ヨコハケ。外面－口唇部～口縁部ナデ。体部タテハケ。D：金雲母を含む。E：明褐色。F：良。
15	土師器 壺	A：ℓ20.4。B：口縁～頚部1/2。C：内面－指頭圧のちナデ。外面－ヘラナデ D：砂粒を多量に含む。E：明褐色～暗褐色。F：良。
16	土師器 甕	A：b9.4。胴部径23.8。B：胴部～底部1/2。C：内面－ヨコハケ。外面－タテハケ。D：金雲母・砂礫を含む。E：明茶褐色。F：良。
17	土師器 甕	A：b15.7。胴部27.0。B：底部～体部1/3～1/2。C：内外面－ヘラナデ。D：砂粒を含み密。E：赤褐色。F：良。
18	灰釉陶器	A：ℓ15.8。B：口縁部1/3。C：内外面－回転ナデ。体部上半灰黄色系の釉。D：砂粒を含む。E：灰白色。F：やや良。

《2号焼土遺構》（第95・97～98図、第76～77表、図版X・XV・XVII）

位置：C・D－17・18区。北東1.5mに1号焼土遺構が存在し、共に他の遺構から離れて営まれる。遺存状態：遺構本来の様相が不明であるが、北半部をかなり削平されている。

形状：径80cm程の焼土溜まりを中心に、コの字形或はL字形をなして土器が集中する。焼土は80×60cm程の楕円形平面で、深さ15cmの台形断面を持つ落ち込み内に充填している。覆土は3層で焼土溜まりのはしには10×10×20cmの角礫が直立していた。

土器は焼土から南へ0.5m、西へ直角に折れて2.4m、更に北へ折れて1.2m程に亘って列状に並べられた状態で出土した。土器の出土状態も本焼土遺構の形状・規模を示しているものとするならば、本址は2.7×1.5m以上のコの字状、または方形平面を持つものといえ、主軸方位はN－86°－Wとなる。

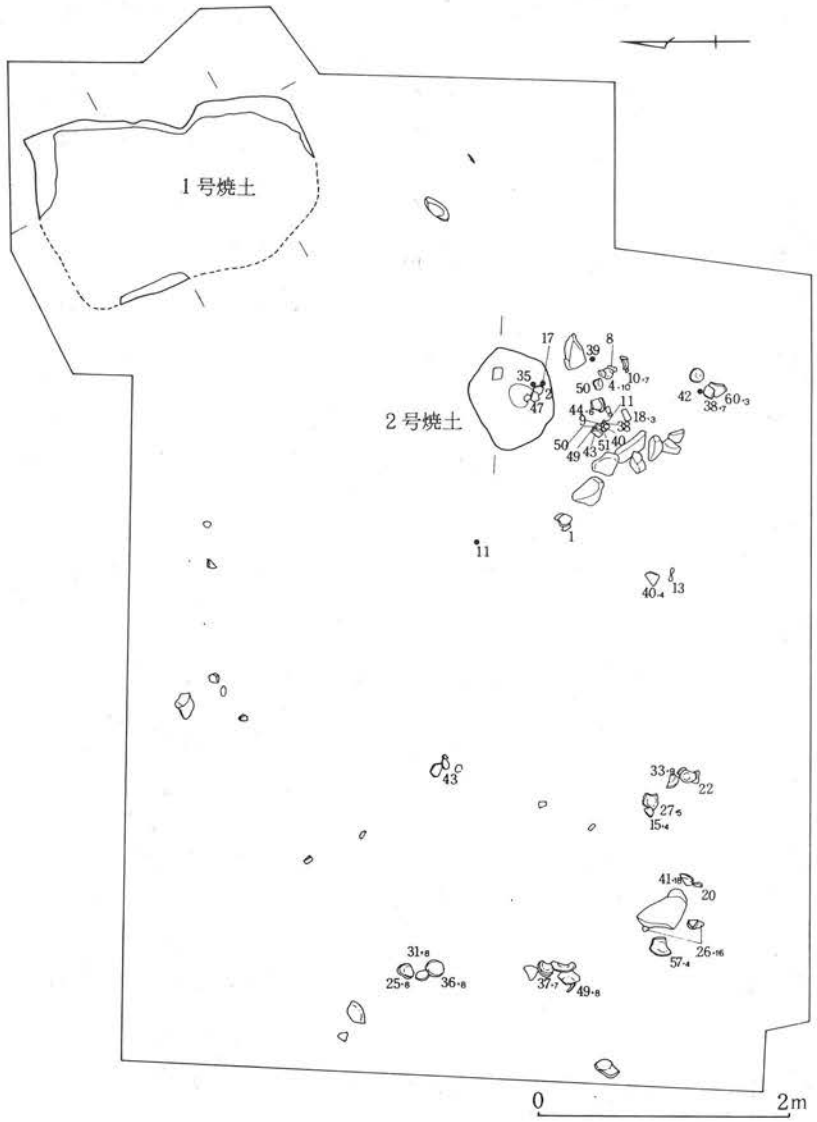
出土遺物：土器類が極めて豊富に出土している。列状に並んで出土した土器は全て坏類（坏・皿・蓋）である。また詳細に観察するとそれらは3～5個程の小群に別れて断続的に続いている。断片化したもの、周囲から出土したものを含めても、甕類の出土数は坏類の1/10に満たず、遺構の性格を反映したものといえよう。

本址は前述した様な焼土の様相から、当初竈（住居址）の可能性も考えた。しかし、精査の結果焼土周囲に於ける構築物の痕跡・壁・床・床面施設などが認められ無かったことからその可能性は

第76表　2号焼土遺構出土土器計測表

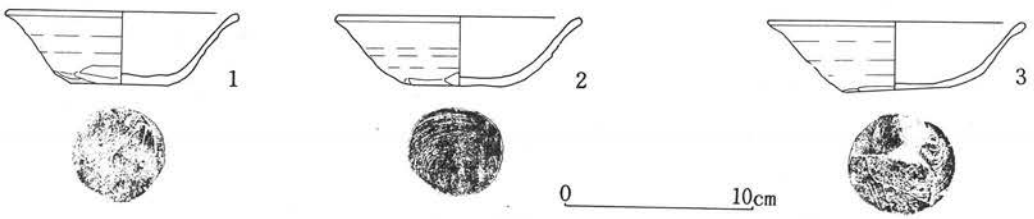
	坏	類	甕	類
土師器	1,615点	3,000g	118点	990g
須恵器	19点	100g	25点	280g
その他	18点	40g		

排除した。他に電気石入りの所請「草入り」水晶片１片が出土している。

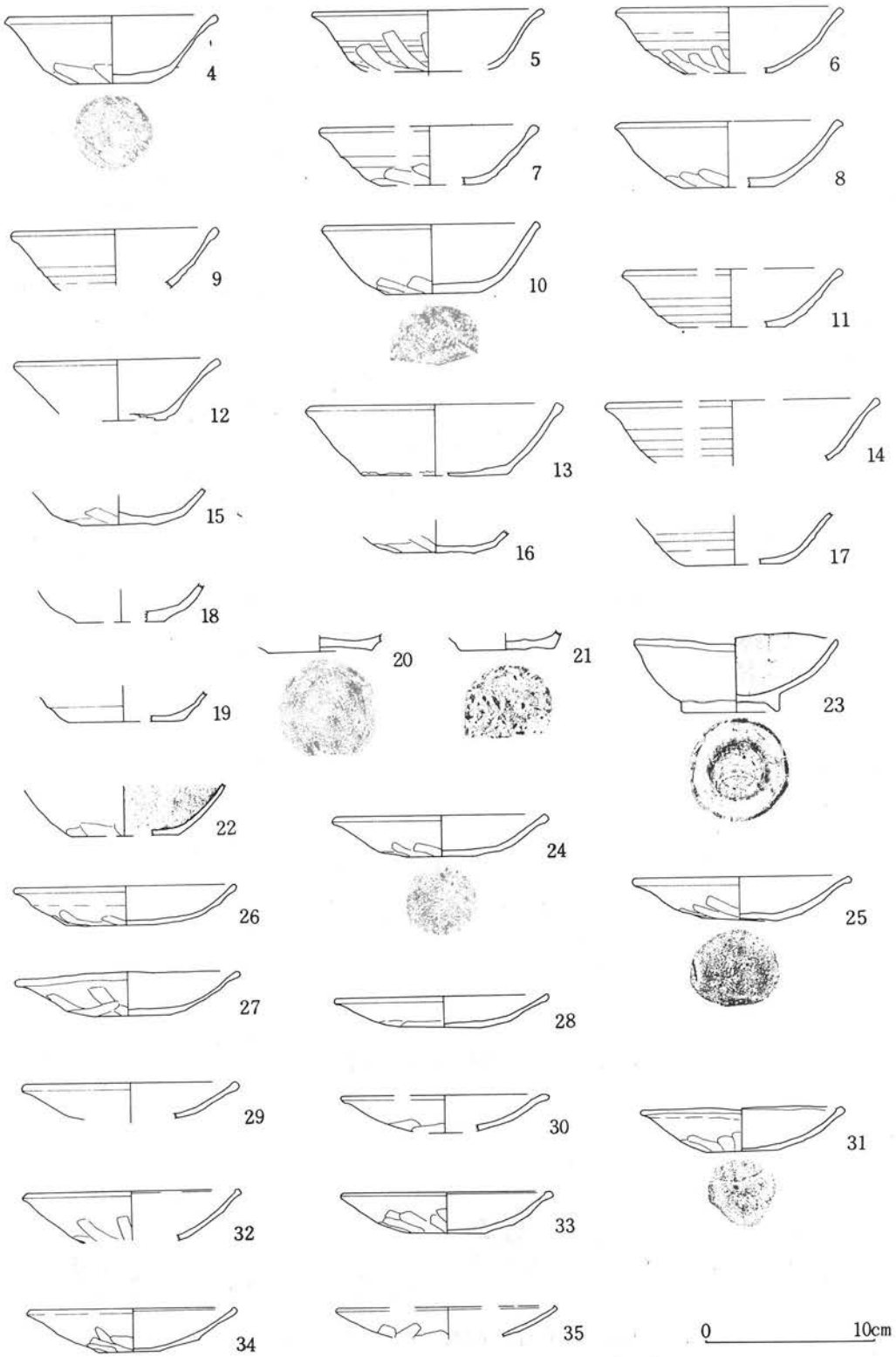


第１層　橙褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土ブロック層。
第２層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・有，焼土を含む。
第３層　黄灰褐色土層：粘性・弱，しまり・無，黄灰色礫層。
第４層　黒褐色土層：粘性・弱，礫を少量，焼土を微量含む。

第97図　１・２号焼土遺構全体図〔1/60〕



第98図　２号焼土遺構出土土器(1)〔1/4〕



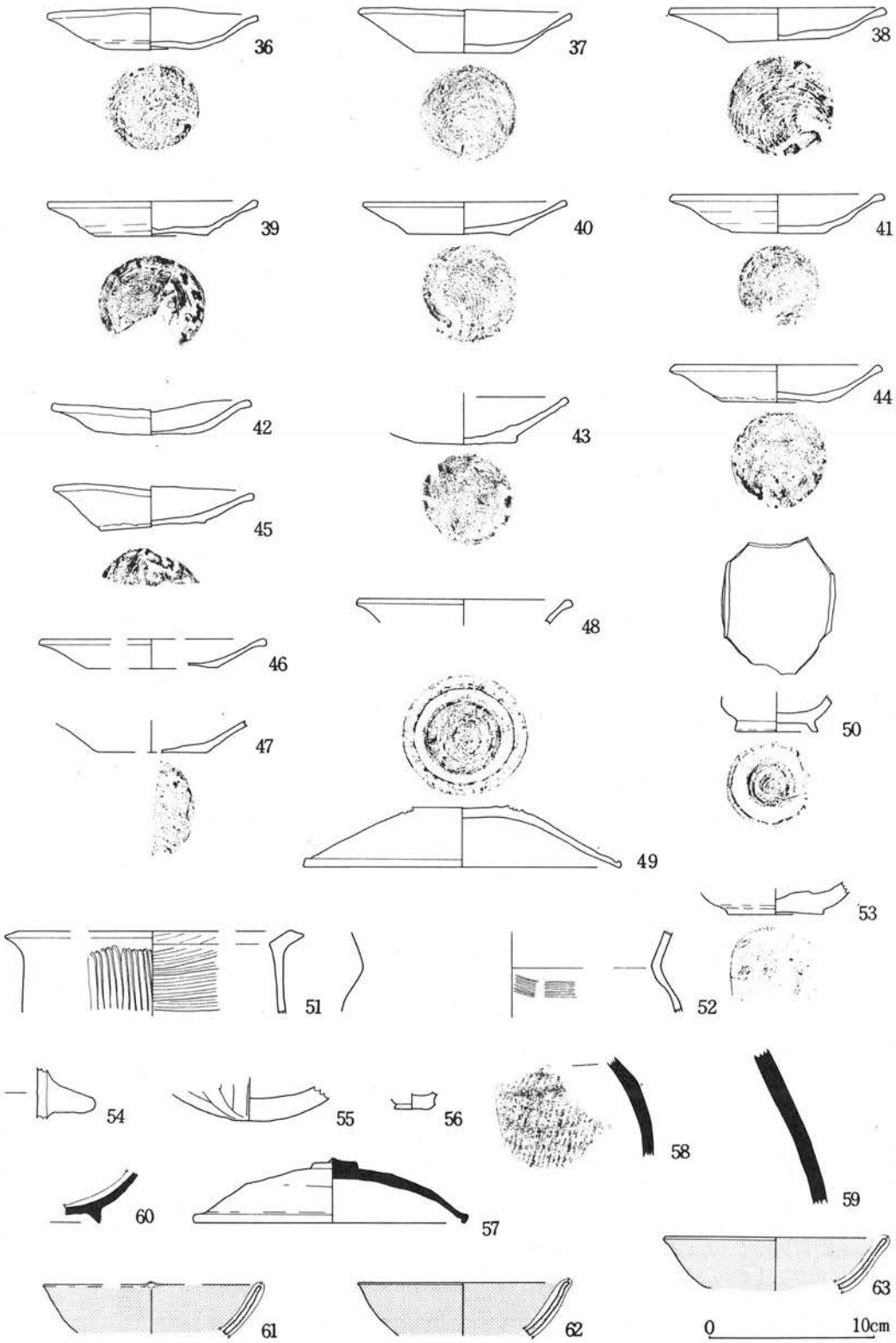
第98図　2号焼土遺構出土土器(2)〔1/4〕

第77表　2号焼土遺構出土土器観察表(1)

1	土師器 坏	A：ℓ (12.3)。b4.9。h4.7。B：底部完。体部1/3。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。体部下端反時計方向の二段ヘラケズリ。底部糸切りのち周縁部ヘラケズリ。D：細砂粒を多量に含む。E：暗褐色。F：良。
2	土師器 坏	A：ℓ (12.9)。b4.7。h3.7。B：底部完。体部1/3。C：内面－ナデ。外面－体部上半ナデ。体部下端反時計方向の一段ヘラケズリ。底部糸切りのち一方向のヘラケズリ。D：細砂粒・金雲母を含む。E：明茶褐色。F：良。
3	土師器 坏	A：ℓ13.4。b5.4。h3.8。B：底部完。体部2/3。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。底部～体部下端ヘラケズリ。底部糸切り。D：砂粒を含む。E：淡褐色～褐色。F：良。
4	土師器 坏	A：ℓ12.8。b4.7。h4.1。B：底部完。体部2/3。C：内面－ナデ。外面－体部上半ナデ。体部下半反時計方向の一段ヘラケズリ。底部糸切り。D：細砂粒を含み密。E：暗橙褐色。F：良。
5	土師器 坏	A：ℓ (13.6)。b (7.6)。h3.8。B：体部1/4。C：内面－ナデ。外面－体部上半ナデ。体部下半反時計方向の一段ヘラケズリ。D：細砂粒を含み密。E：淡褐色。F：良。
6	土師器 坏	A：ℓ13.6。b (5.4)。h4.1。B：体部1/2～1/3。C：内面－ナデ。外部上半ナデ。体部下半反時計方向の一段ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。D：細砂粒を微量含む。E：暗茶褐色。F：良。
7	土師器 坏	A：ℓ (13.0)。b (5.6)。h3.6。B：1/4。C：内面－ナデ。外面－体部上半ナデ。体部下半反時計方向の一段ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。D：細砂粒を含み密。E：褐色。F：良。
8	土師器 坏	A：ℓ13.8。b (5.4)。h4.0。B：1/2。C：内面－回転ナデ。外面－口唇部ナデ。体部上半回転ナデ。体部下半反時計方向の一段ヘラケズリ。底部ヘラケズリ D：砂粒を含み密。E：暗褐色。F：良。
9	土師器 坏	A：ℓ (12.4)。B：体部1/3。C：内外面－ナデ。D：砂粒を含み密。E：明褐色。F：良。
10	土師器 坏	A：ℓ13.0。b5.6。h4.2。B：1/2～1/3。C：内面－体部（回転）ナデ。身こみ部回転ナデ。外面－体部回転ナデ。体部下端反時計方向の一段ヘラケズリ。底部糸切りのち二方向ヘラケズリ。D：砂粒を含む。E：暗茶褐色。F：良。
11	土師器 坏	A：ℓ (13.6)。b (6.4)。h3.5。B：1/4。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。底部反時計回りの回転ヘラケズリ。D：砂粒を含む。E：暗茶褐色。F：良。
12	土師器 坏	A：ℓ12.3。b5.6。h3.7。B：体部1/2～1/3。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。底部糸切り。D：細砂粒を微量含み密。E：明褐色。F：良。
13	土師器 坏	A：ℓ15.4。b8.5。h4.3。B：1/2～1/3。C：内面－回転ナデ。外面－体部回転ナデ。底部糸切り。D：砂粒を含み密。E：暗茶褐色。F：良。
14	土師器 坏	A：ℓ (17.4)。B：体部1/4。C：内外面－ナデ。D：細砂粒を含み密。E：暗褐色～黒色。F：良。
15	土師器 坏	A：b4.7。B：底部～体部下半完。C：内面－ナデ。外面－体部上半ナデ。体部下端反時計方向の一段ヘラケズリ。底部二方向のヘラケズリ。D：砂粒を含む E：淡褐色。F：良。
16	土師器 坏	A：b4.5。B：底部1/2～1/3。C：内面－体部ナデ。身こみ部回転ナデ。外面－体部下端反時計方向の一段ヘラケズリ。底部不定方向のヘラケズリ。D：砂粒を含む。E：淡褐色。F：良。
17	土師器 坏	A：b (5.8)。B：底部～体部1/2弱。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。底部糸切り。D：砂粒を含み密。E：明褐色。F：良。
18	土師器 坏	A：b5.2。B：底部2/3。C：内面－回転ナデ。外面－体部ナデ。底部（回転）糸切りのちヘラケズリ。D：砂粒を含み密。E：明褐色。F：良。

第77表　2号焼土遺構出土土器観察表(2)

19	土師器 坏	A：b6.8。B：底部1/2～1/3。C：内面ーナデ。外面ー体部ナデ。底部不定方向のヘラケズリ。D：細砂粒を含む。E：明褐色。F：良。
20	土師器 坏	A：b6.3。B：底部完。C：内面ーナデ。外面ー底部反時計回りの回転糸切り。D：密。E：明褐色。F：良。
21	土師器 坏	A：b5.6。B：底部完。C：内面ー身こみ部ナデ。外面ー底部糸切り。D：細砂粒を含み密。E：明茶褐色。F：良。
22	土師器 坏	A：b6.4。B：底部～体部1/2。C：内面ー体部ナデ。身こみ部回転ヘラナデ。外面ー体部上半ナデ。体部下端反時計方向の一段ヘラケズリ。底部不定方向のヘラケズリ。D：密。E：外。明褐色。内、黒色。F：良。
23	土師器 坏	A：ℓ12.2～12.5。b5.8。h4.8。高台部径 5.8。B：完。C：内面ーミガキのち黒色塗彩。外面ー体部回転ナデ。底部糸切りのち高台貼り付のち高台部回転ナデ。D：密。E：外・淡褐色。内・黒色。F：良。
24	土師器 皿	A：ℓ (12.9)。b4.2。h2.5。B：底部完。体部1/5。C：内面ーナデ。外面ー体部上半ナデ。体部下半反時計方向の一段ヘラケズリ。底部糸切りのちヘラケズリ。D：細砂粒を含み密。E：暗褐色。F：良。
25	土師器 皿	A：ℓ13.1。b2.6。h2.7。B：完。C：内面ーナデ。外面ー体部上半ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。底部糸切りのちヘラケズリ。D：細砂粒を含む。E：暗橙褐色。F：良。
26	土師器 皿	A：ℓ13.4。b2.1。h2.4。B：完。C：内面ーナデ。外面ー体部上半ナデ。体部下端時計方向の一段ヘラケズリ。底部一方向のヘラケズリ。D：白砂粒を含み密。E：暗橙褐色。F：良。
27	土師器 皿	A：ℓ13.6。b4.7。h2.6。B：完。C：内面ーナデ。外面ー体部上半ナデ。体部下端反時計方向の一段ヘラケズリ。底部ー方向のヘラケズリ。D：密。E：暗褐色。F：良。
28	土師器 皿	A：ℓ12.8。b5.7。h2.0。B：完。C：内面ーナデ。外面ー体部ナデ。底部回転糸切りのち周辺～体部下端時計方向のヘラケズリ。D：砂粒を含み密。E：明褐色。F：良。
29	土師器 皿	A：ℓ (13.2)。B：体部1/3。C：内面ーナデ。外面ー上半ナデ。下端反時計方向の一段ヘラケズリ。D：細砂粒を含み密。E：暗褐色。F：良。
30	土師器 皿	A：ℓ (12.4)。h2.3。B：体部1/4。C：内面ーナデ。外面ー体部上半ナデ。体部下半時計方向の一段ヘラケズリ。D：細砂粒を微量含む。E：褐色。F：良。
31	土師器 皿	A：ℓ12.3。b3.5～4.1。h3.2。B：完。C：内面ーナデ。外面ー体部上半ナデ。体部下半反時計方向の一段ヘラケズリ。底部糸切りのち一方向のヘラケズリD：細砂粒を含む。E：淡褐色。F：良。
32	土師器 坏	A：ℓ (13.2)。B：体部1/3～1/2。C：内面ーナデ。外面ー体部上半ナデ。体部下半反時計方向の一段ヘラケズリ。D:砂粒を微量含む。E:暗褐色。F:良。
33	土師器 皿	A：ℓ12.8。b4.5。h2.6。B：完。C：内面ーナデ。外面ー体部上半ナデ。体部下半反時計方向の一段ヘラケズリ。底部二方向のヘラケズリ。D：細砂粒を含む。E：淡茶褐色。F：良。
34	土師器 皿	A：ℓ12.8。b3.9。h2.7。B：3/4。C：内面ーナデ。外面ー体部上半ナデ。体部下半反時計方向の一段ヘラケズリ。底部一方向のヘラケズリ。D：細砂粒を含み密。E：茶褐色。F：良。
35	土師器 皿	A：ℓ (13.2)。B：口縁～体部1/3。C：内面ーナデ。外面ー体部上半反時計方向の一段ヘラケズリ。体部下半ナデ。D：細砂粒を含み密。E：明褐色。F：良
36	土師器 皿	A：ℓ13.0。b5.9。h2.7。B：完。C：内面ーナデ。外面ー体部ナデ。底部糸切り。D：砂粒を多量含む。E：明褐色。F：良。



第98図　2号焼土遺構出土土器(3)〔1/4〕

第77表　2号焼土遺構出土土器観察表(3)

37	土師器 皿	A：ℓ13.0。b5.9。h2.7。B：完。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。底部反時計回りの回転糸切り。D砂粒を多量に含む。E：明褐色。F：良。
38	土師器 皿	A：ℓ13.2。b6.1。h2.1。B：2/3。C：内面－ナデ。外面－ナデ。 底部反時計回りの回転糸切り。D：砂粒を含み密。E：明褐色。F：良。
39	土師器 皿	A：ℓ12.8。b6.8。h2.1。B：1/2。C：内面－ナデ。外面－ 体部ナデ。 底部反時計回りの回転糸切り。D：砂粒を微量に含む。E：淡茶褐色。F：良。
40	土師器 皿	A：ℓ12.4。b6.3。h2.1。B：1/2～2/3。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。底部反時計回りの回転糸切り。D：密。E：明褐色。F：良。
41	土師器 皿	A：ℓ13.0。b5.8。h2.4。B：底部完。体部1/3。C：内面－ナデ。 外面－体部回転ナデ。底部反時計回りの回転糸切り。D：砂粒を含み密。E：淡茶褐色。F：良。
42	土師器 皿	A：ℓ12.2。b6.5。h2.1。B：完。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。底部不定方向のヘラケズリ。D：砂粒を多量に含む。E：淡茶褐色。F：良。
43	土師器 皿	A：ℓ (12.8)。b6.1。h2.9。B：底部完。体部1/4。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。底部反時計回りの回転糸切り。D：砂粒を含む。E：明褐色。E：やや良。
44	土師器 坏	A：ℓ12.8。b6.2。h2.3。B：3/4強。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。 底部反時計回りの回転糸切り。D：細砂粒を含み密。E：褐色。F：良。
45	土師器 皿	A：ℓ (12.1)。b (7.5)。h3.2。B：1/3。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。底部反時計回りの回転糸切り。D：細砂粒を含む。E：橙褐色～暗褐色。F：やや良。
46	土師器 皿	A：ℓ (13.8)。b (6.1)。h1.8。B：1/3。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。底部反時計回りの回転糸切り。D：砂粒を含む。E：淡褐色。F：良。
47	土師器 皿	A：b (6.6)。B：底部1/3～1/2。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。 底部反時計回りの回転糸切り。D：砂粒を多量に含む。E：褐色。F：やや良。
48	土師器 皿	A：ℓ13.2。B：口縁部1/2。C：内面－ナデ。D：密。E：淡褐色。F：良。
49	土師器 蓋	A：ℓ19.4。b6.0。h3.5。B：つまみを除き完。C：内面－ナデ。外面－ 体部ナデ。高台部回転ナデ。天井部ナデのちつまみ貼り付。D：細砂粒を含む。E：暗茶褐色。F：良。
50	土師器 耳皿	A：高台径5.0。B：口縁部を欠損。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。 底部回転糸切りのち高台貼り付のちナデ。D：金雲母を含み密。E：暗褐色。F：良。
51	土師器 甕	A：ℓ (18.2)。B：口縁～胴部1/4。C：内面－口縁ナデのち斜方向のハケ。胴部ヨコハケ。外面－口唇部～口縁部ナデ。胴部タテハケ。D：細砂粒・金雲母を含む。E：暗茶褐色。F：良。
52	土師器 甕	A：頚部径(18.2)。B：頚部1/5。C：内面－口縁・胴部細かいヨコハケのち口縁部ナデ。外面－口縁部ナデ。D：密。E：外･暗茶褐色。内･黒色。F：良。
53	土師器 甕	A：b5.8。B：底部4/5。C：内面－回転ナデ。外面－胴部ナデ。 底部反時計方向の回転糸切り。D：金雲母を多量に含み密。E：暗茶褐色。F：良
54	土師器 羽釜	B：鍔部破片。C：内面－ヨコハケ。外面－ナデ。D：砂粒・金雲母を含む。E：暗茶褐色。F：やや良。
55	土師器 羽釜	B：底部。C：内面－ハケ。底部ヘラナデ。外面－縦位のヘラナデ。D：砂粒を多量に含む。E：茶褐色。F：良。

第77表　2号焼土遺構出土土器観察表(4)

56	手づくね	A：b1.0。B：底部完。C：外面－体部下端ナデ。底部ナデ。D：砂粒を含む E：淡褐色。F：やや良。
57	須恵器蓋	A：ℓ16.6。h4.2。天井部径7.6。宝珠径2.7。B：完。C：内面－回転ナデ。口唇部ナデ。外面－体部下半～口唇部回転ナデ。天井部時計方向の回転ヘラケズリ。D：細砂粒を含み密。E：青灰色。F：良。
58	須恵器甕	B：肩部破片。C：内面－ヨコハケ。外面－平行叩目のちヨコハケ。D：砂礫を含む。E：暗青灰色。F：良。
59	須恵器甕	B：胴部破片。C：内面－ヘラケズリのちハケ（部分）。外面－平行叩目。黒緑色系の自然釉。D：白砂粒を含む。E：黒灰色。F：良。
60	灰釉陶器椀	B：底部破片。C：内面－ナデ。外面－体部ナデ。底部糸切りのち高台貼り付のち高台部ナデ。D：密。E：灰白色。F：良。
61	緑釉陶器椀	A：ℓ（13.4）。B：1/4。C：ロクロ成形。D：密。E：濃緑色。F：良。
62	緑釉陶器椀	A：ℓ（13.0）。B：体部1/3。D：密。E：緑色。F：良。
63	緑釉陶器椀	A：ℓ（13.4）。B：体部1/4～1/5。D：密。E：灰緑色。F：良。

4）　その他の遺構

《1号溝状遺構》（第100図、第78表、図版XI）

位置：F－15、E－15・16・17・18区で東西に直線的に走る。他の遺構はほぼ本址北側に位置し、本址南には36号住居址、1・2号焼土遺構が存在するに過ぎない。

全長約30cm、幅100～50cmで、深さ35～20cm。覆土は6層で小礫の混入が顕著である。遺存しないが東・西端とも更に延長するものであろう。

出土遺物：少量で図示しえたものもない。

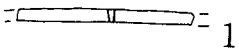
第78表　1号溝状遺構出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	21点	80g	23点	220g
須恵器				

《ピット群》（第99～100図）

ピット群は4箇所で検出された。それらのうちM－14区のものは2間（約4.6m）×2間（約4.5m）の掘立柱建物遺構か、それと重複する1間（2.9m）×2間（約3.6m）の掘立柱建物遺構となる可能性が考えられるが柱穴配置が不規則であることなど決め手にかける。K－11区F・G－16区はさらにピット列として延長する可能性が強いが現状では確認不可能であった。H－12区のものは2号掘立柱建物遺構との関連が注目されたが明確な認識を得る事は出来なかった。

出土遺物：少量の土器片が出土したが、図示しえなかった。K－11区ピット群確認面から鉄製品一点が出土した。現長4.6cm程の棒状品で0.4×0.1cmの方形断面をもつ。使途不明品である。



第99図　K－11ピット群出土鉄製品(1/2)

1号溝

第1層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を含む。

第2層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・礫を含む。

第3層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，礫・黄色砂粒を少量含む。

第4層　黒茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量含む。

第5層　暗黄茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・黄色砂粒を含む。

第6層　黄茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量含む。

M—14区ピット群

P_1……暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・有，黄色砂粒を多量，礫を含む。

P_2・P_3・P_5…暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・有，黄色砂粒を多量，小礫を含む。

P_6・P_8……暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，黄色砂粒・小礫を含む。

P_4……暗黄褐色土層：粘性・強，しまり・無，黄色砂粒を含む。

P_7……暗黄褐色土層：粘性・強，しまり・有，小礫を多量，黄色砂粒を含む。

第100図　1号溝状遺構及びピット群〔1/160、〕〔1/80〕〔1/120〕

《1号土壙》（第101・121図、第79～80表）

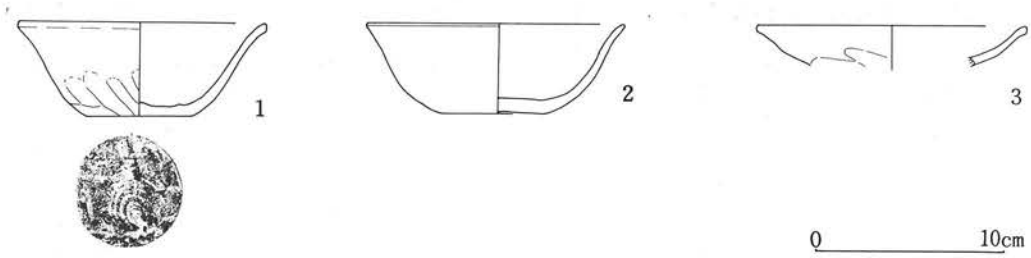
位置：E－5区。北東30mに8号住居址が存在する。遺存状態：南半部は発掘区域外となり、上面にかなり削平を受ける。

主軸方位：N－27°－W。平面形態：不整(円形)。規模：短軸1.5m、長軸1.6m以上。断面形：鍋底状を呈し深さは30cm。覆土：1層で小礫・炭化物を含む。

第79表　1号土壙出土土器計測表

	坏	類	甕	類
土師器	11点	30g		
須恵器				

出土遺物：少量で図示しえたものも少ないが、全て土師器・坏である。



第101図　1号土壙出土土器〔1/4〕

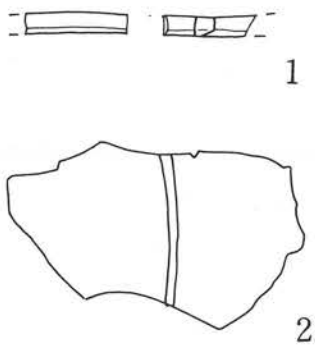
第80表　1号土壙出土土器観察表

1	土師器 坏	A：ℓ（13.2)。b5.5。B：底部完。体部1/3。C：内面―ナデ。外面―体部上半ナデ。体部下端反時計方向の一段へラケズリ。底部（回転）糸切りのち一方向のへラケズリ。D：密。E：乳暗色。F：良。
2	土師器 坏	A：ℓ（13.2)。b(5.1)。h4.8。B：底部完。体部1/3。C：内面―磨滅が激しく不明。外面―磨滅が激しく不明。底部糸切り。D：細砂粒を含み密。E：乳褐色。F：良。
3	土師器 皿	A：ℓ（14.4)。B：口縁1/3。C：内面―ナデ。外面―体面上半ナデ。体部下半反時計方向の一段へラケズリ。D：砂粒を含み密。E：淡褐色。F：良。

5）遺構外出土の遺物（第102～103図、第81～83表、図版XVIII）

〆木遺跡では遺構外から出土した遺物は全体的に少なく、多くの遺物は遺構に伴うものであった。しかし、全面的な確認面精査時に何箇所か遺物の集中する地点があり、No.1～No.4までのトレンチを設定した。その結果何らかの遺構を検出することは出来なかったがそれぞれ多くの遺物を得ることが出来た。

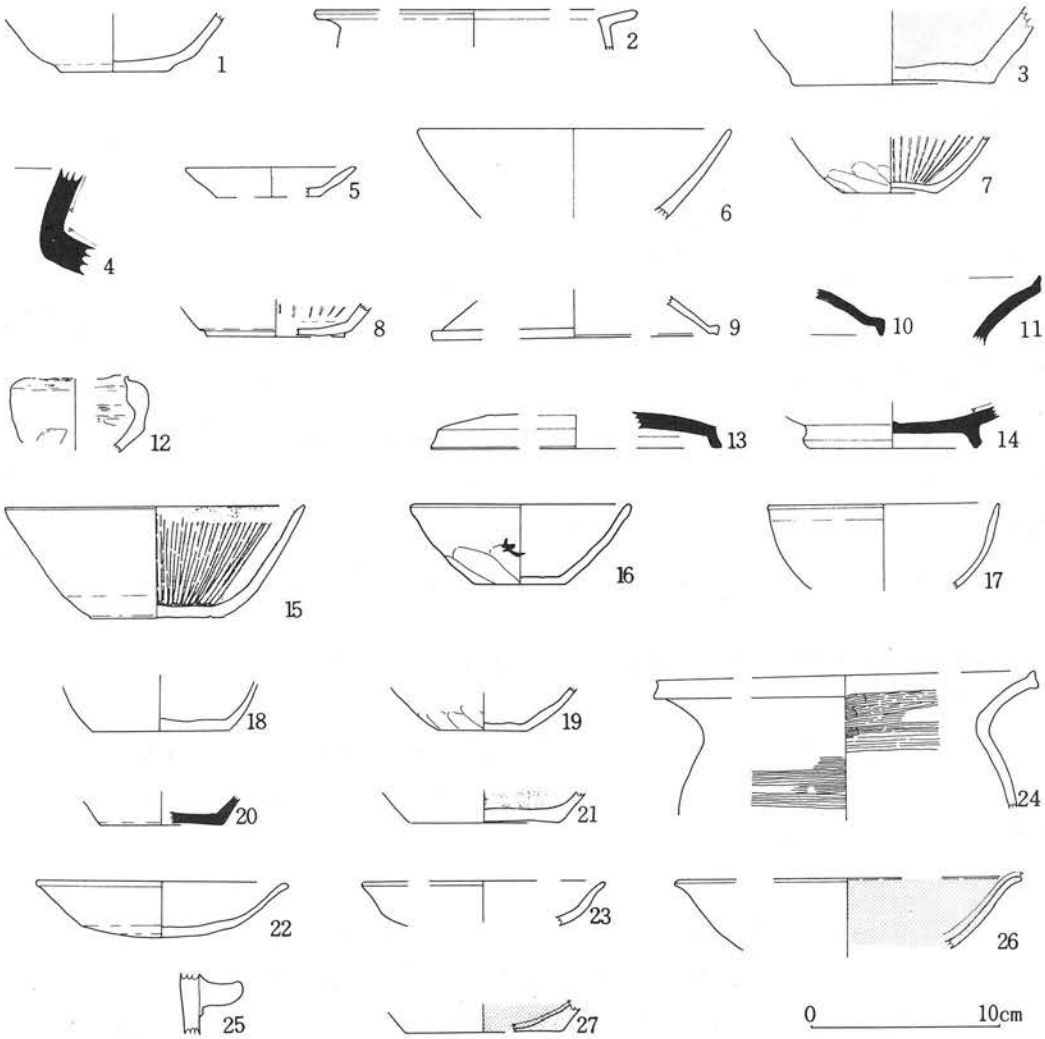
鉄製品：1号トレンチ、2号トレンチからそれぞれ一点ずつ出土している。1は不明鉄板で8.5×4.5cmで0.3cmの厚さを持つ。短辺方向に僅かに湾曲している。1号トレンチから出土した。2号トレンチから出土した、2は棒状鉄製品で0.5×0.5cmの方形断面を有する。断片化したため長さは不明であるが2～3cm程のものを数点検出した。他に3号トレンチから大型の鉄滓一点(320g)、A－16区確認面から鉄滓片二点（90g）を得た。



第102図　遺構外出土鉄製品〔1/2〕

第81表　トレンチ出土土器計測表

		坏	類	甕	類
2号トレンチ	土師器	19点	60g	20点	80g
	須恵器				
		坏	類	甕	類
3号トレンチ	土師器	339点	1,660g	171点	1,240g
	須恵器	6点	60g	19点	360g
		坏	類	甕	類
4号トレンチ	土師器	5点	5g	3点	10g
	須恵器				



第103図　遺構外出土土器〔1/4〕

第82表　遺構外出土土器観察表(1)

1	土師器 坏	A：b5.4。B：底部1/2。C：内面―ナデ。外面―体部ナデ。底部糸切り。D：砂粒を微量含む。E：明褐色。F：良。
2	土師器 甕	A：ℓ19.0。B：口縁部1/5～1/4。C：内外面―ナデ(磨耗が著しく不明)。D：砂粒を多量に含む。E：灰褐色。F：良。
3	灰釉陶器 壺	A：b10.8。B：底部3/4。C：内面―緑灰色系の釉。外面―胴部ナデ。底部へラケズリのちナデ。D：細砂粒を含み密。E：外・茶灰色。内・緑灰色。F：良。
4	須恵器 壺	B：頸部破片、C：内面―ナデ。外面―回転ナデ。灰色系の自然釉。D：砂粒を含む。E：黒灰色。F：良。
5	土師器 皿	A：ℓ9.0。b5.4。h1.6。B：体部1/2弱。C：内外面―ナデ。底部糸切り。D：細砂粒金雲母を含む。E：褐色。F：良。
6	土師器 坏	A：ℓ16.6。B：口縁～体部1/3。C：内外面―ナデ。D：密。E：淡橙褐色。F：良。
7	土師器 坏	A：b5.0。B：底部1/4。C：内面―ナデのち放射状暗文。外面―体部上半ナデ体部下半反時計方向の一段へラケズリ。底部（回転）糸切りのちへラケズリ。D：密。E：黄茶褐色。F：良。
8	土師器 坏	A：高台径7.4。B：底部1/4。C：内面―ナデのち放射状暗文。外面―体部下端時計方向の回転へラケズリ。底部（回転）糸切りのち高台貼り付けのち高台部回転ナデ。D：密。E：明褐色。F：良。
9	土師器 蓋	A：ℓ15.4げB：口縁部1/4。C：内面―ナデ。口縁部棒状工具による押エ。外面―ナデ。D：砂礫を含む。E：暗茶褐色。F：良。
10	須恵器 蓋	B：口縁部破片。C：内外面―回転ナデ。D：砂礫を含み密。E：黒灰色。F：良。
11	須恵器 壺	B：口縁部破片。C：内外面―回転ナデ。D：砂粒を多量に含む。E：黒灰色。F：良。
12	手づくね	A：ℓ5.1。肩部径7.2。B：体部1/3。C：内外面―部分的にヨコハケ・へラナデ。D：白砂粒を含む。E：明褐色。F：やや良。
13	須恵器 蓋	A：ℓ15.2。B：口縁部破片。C：内外面―回転ナデ。D：白砂粒を多量に含む E：灰白色。F：良。
14	須恵器 壺	A：高台径9.0。B：底部2/3。C：内面―ナデ。外面―底部へラケズリのち高台貼付けのち高台部回転ナデ。D：白砂粒、黒色粒を含む。E：灰白色。F：良。
15	土師器 坏	A：ℓ15.6。b7.0。h4.9。B：底部完。体部1/3。C：内面―ナデのち放射状暗文黒色塗彩。外面―体部上半ナデ。底部～体部下端反時計方向の回転へラケズリ。D：砂粒を含み密。E：外・褐色。内・黒色。F：良。
16	土師器 坏	A：ℓ11.4。b4.7。h4.2。B：底部完。体部1/2。C：内面―回転ナデ。外面・底面―二方向のへラケズリ。体部下端・反時計回りの1段へラケズリ。体部上半・ナデ。D：砂粒を含む。E：明褐色。F：良。
17	土師器 埦	A：ℓ12.2。B：口縁～体部1/4。C：内外面―ナデ。D：密。E：明褐色。F：良。
18	土師器 坏	A：b6.8。B：底部2/3。C：内外面―ナデ。D：密。E：淡褐色。F：良。
19	土師器 坏	A：b4.7。B：底部完。C：内面―ナデ。体部下半反時計方向のへラケズリ。底部へラケズリのちミガキ。D：細砂粒を含む。E：褐色。F：良。
20	須恵器 坏	A：b6.2。B：底部1/4。C：内面―ナデ。外面―体部ナデ。底部糸切りのちへナデ。D：白砂粒を含み密。E：暗青灰色。F：良。

第82表　遺構外出土土器観察表(2)

21	土師器 坏	A：b7.8。B：底部3/4。C：内外面―ミガキ。D：砂粒を微量含む。E：外・褐色。内・黒色。F：良。
22	土師器 皿	A：ℓ13.4。b4.3。h3.1。B：1/2強。C：内面―ナデ。外面―体部上半ナデ。底部～体部下端時計方向の回転ヘラケズリ。D：細砂粒・黒色粒を含み密。E：褐色。F：良。
23	土師器 皿	A：ℓ12.8。B：口縁部1/4。C：内外面―ナデ。D：密。E：乳褐色。F：良。
24	土師器 壺	A：ℓ20.0。頸部径15.0。B：口縁～頸部1/4。C：内面―口唇部ナデ。口縁部～頸部細かいヨコハケ。胴部ナデ。外面―口唇部～口縁部ナデ。胴部ヨコハケ。D：砂粒を多量に含む。E：明茶褐色。F：良。
25	土師器 羽　釜	B：鍔部破片。C：内面―ナデ。外面―胴部タテハケ。鍔部ナデ。D：砂礫を含む。E：明褐色。F：良。
26	灰釉陶器 埦	A：ℓ18.4。B：口縁～体部1/5。C：内面―回転ナデ。緑灰色系の施釉。外面―回転ナデ。D：密。E：緑灰色。F：良。
27	?	A：b8.2。B：底部1/5。C：内面―黄緑色系の施釉。D：白砂粒を含み密。E：黒茶褐色。F：良。

1・2は1号トレンチ、3～5は2号トレンチ、6～11は3号トレンチ、12～14は4号トレンチから出土している。また、15・19はⅠ区、16・20はⅡ区、17・18・21・22・23・24・25・26・27はⅢ区から検出されたものである。

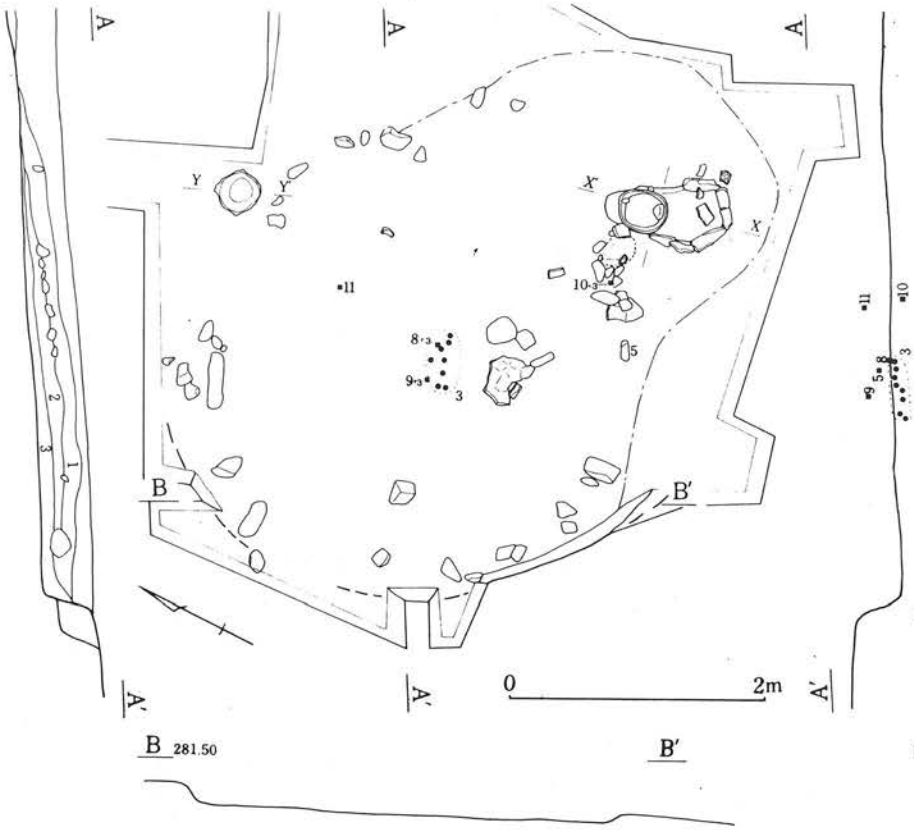
第83表　確認面出土土器計測表

		坏	類	甕	類
Ⅰ区	土師器	24点	120g	20	
	須恵器				
		坏	類	甕	類
Ⅱ区	土師器	178点	460g	366点	3,260g
	須恵器				
		坏	類	甕	類
Ⅲ区	土師器	369点	1,580g		
	須恵器	3点	40g	26点	400g

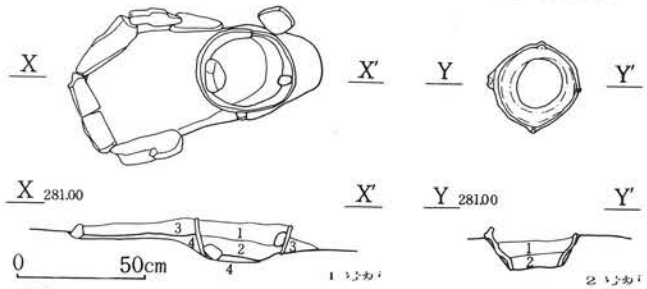
第２節　縄文時代の遺構と遺物

１）竪穴住居址

《１号住居址》（第104～106図）



１号住居址
第１層　暗赤褐色土層：粘性・強，しまり・有，炭化物・礫を含む。
第２層　暗赤褐色土層：粘性・強，しまり・有，礫を多量，炭化物を含む。
第３層　暗赤褐色土層：しまり・有，炭化物を少量含む。



１号炉
第１層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，焼土ブロックを少量，焼土を含む。
第２層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を少量，粘土を微量含む。
第３層　暗黄茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を少量，焼土・炭化物を含む。
第４層　黒黄色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫主体層，黒色土粒を含む。

２号炉
第１層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，炭化物を少量，焼土を含む。
第２層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を含む。

第104図　１号住居址及び炉址〔1/60、1/30〕

E・F－４・５区に位置し、北東６ｍに１号小竪穴遺構が存在する。上面の削平が激しく壁及び床面の一部が確認されたにすぎない。平面形は不整円形～楕円形と考えられ、規模は長径5.1ｍ、短径3.6ｍ以上となろう。壁高は最高で33cmを測り、内湾気味に立ち上がる。覆土は３層に分けられた。礫の混入が著しく、覆土と地山との見極

めが困難を極めた。床面は傷みが激しく炉周囲に貼床が残存していたのみで、柱穴等の施設は確認しえなかった。

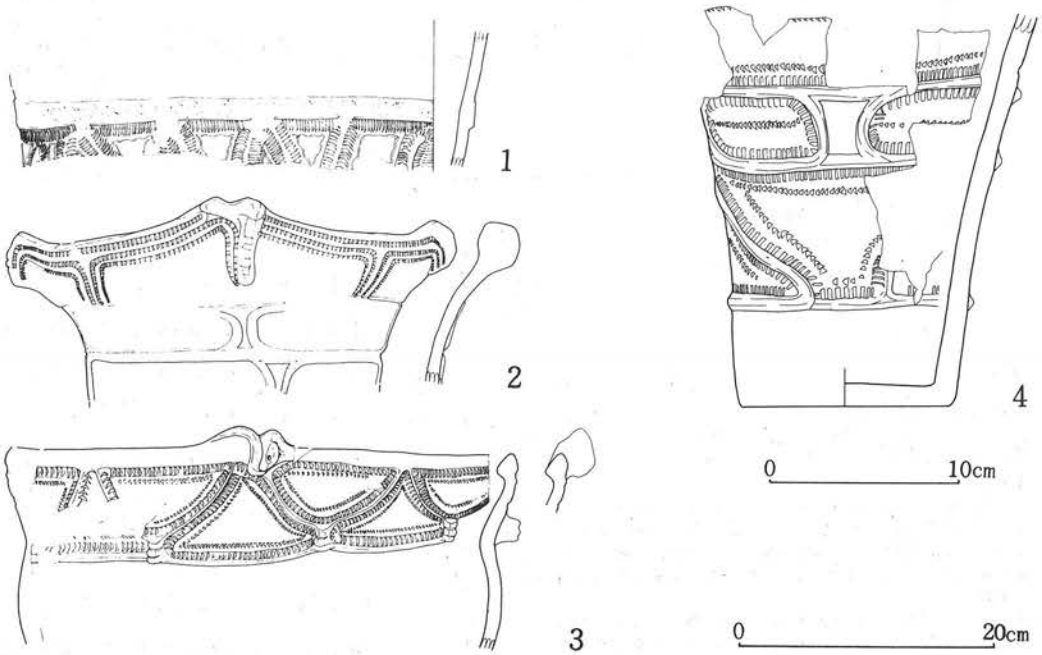
炉は２箇所検出された。

１号炉　住居址南東部に付設された石囲埋甕炉である。偏平な角礫を85×41cmの長方形に配しその北半に口径約40cmの土器口縁部が埋められる。炉体土器の側からは角礫は検出できなかったが、本来的には使用されていたものであろう。炉内部には焼土・炭化物が混入していた程度であるが、炉西脇に焼土溜まりが認められた。掘り方は浅い皿状で土器の部分が一段掘りくぼめられていた。

２号炉　住居址北端部に付設された埋甕炉である。口径約35cmの土器口縁部を埋め炉体土器としている。土器内部には焼土・炭化物の混入が認められた。掘り方は土器本体よりも僅かに径が広く、深さは15cm程である。

出土遺物は豊富であるが断片化が進み、そのほとんどが第３層上面の礫中から出土した。本址床面に伴うものは炉体土器２個体と深鉢型土器３のみである。尚確認調査時に出土し、82トレンチ―１として報告した深鉢型土器は本住居址床面に伴うものである。

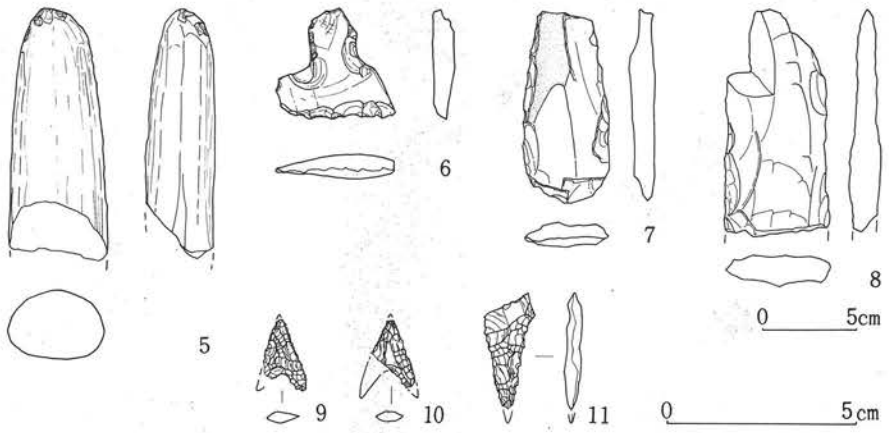
１号住居址は今回の調査で最初に着手した遺構であり、覆土と地山との判別・床面の確認等調査に不手際があったことは否めず。それぞれ１基の炉をもつ２軒の住居址である可能性は否定しえない。しかし、２基の炉が全く同レベルであること、土層観察に於いて明確な切り合い関係を確認しえなかった事などから本報文では１軒の住居址として報告したものである。



第105図　１号住居址出土土器〔1/6、1/4〕

1は、口径39.5cmを測る深鉢形土器の頸部である。文様は隆帯に半截竹管による押引きを行う三角区画文が施されている。2は、口径35cmを測る深鉢型土器である。口縁部に垂下する隆帯を4ヶ配し、隆帯には爪形文を有している。頸部には隆帯による楕円の区画文を有する。3は、口径40.4cmを測る深鉢型土器で、口縁部は1対の把帯が配され、三角区画文が施されている。区画文の内部は角状の工具による押引きの沈線が施されている。4は、口径25cmを測る深鉢型土器で胴部上半を楕円区画文、下半を三角区画文と2種の横帯区画文帯を有している。施文工具は半截竹管と角状工具による押引きを施している。

時期、いずれも新道期に比定されよう。

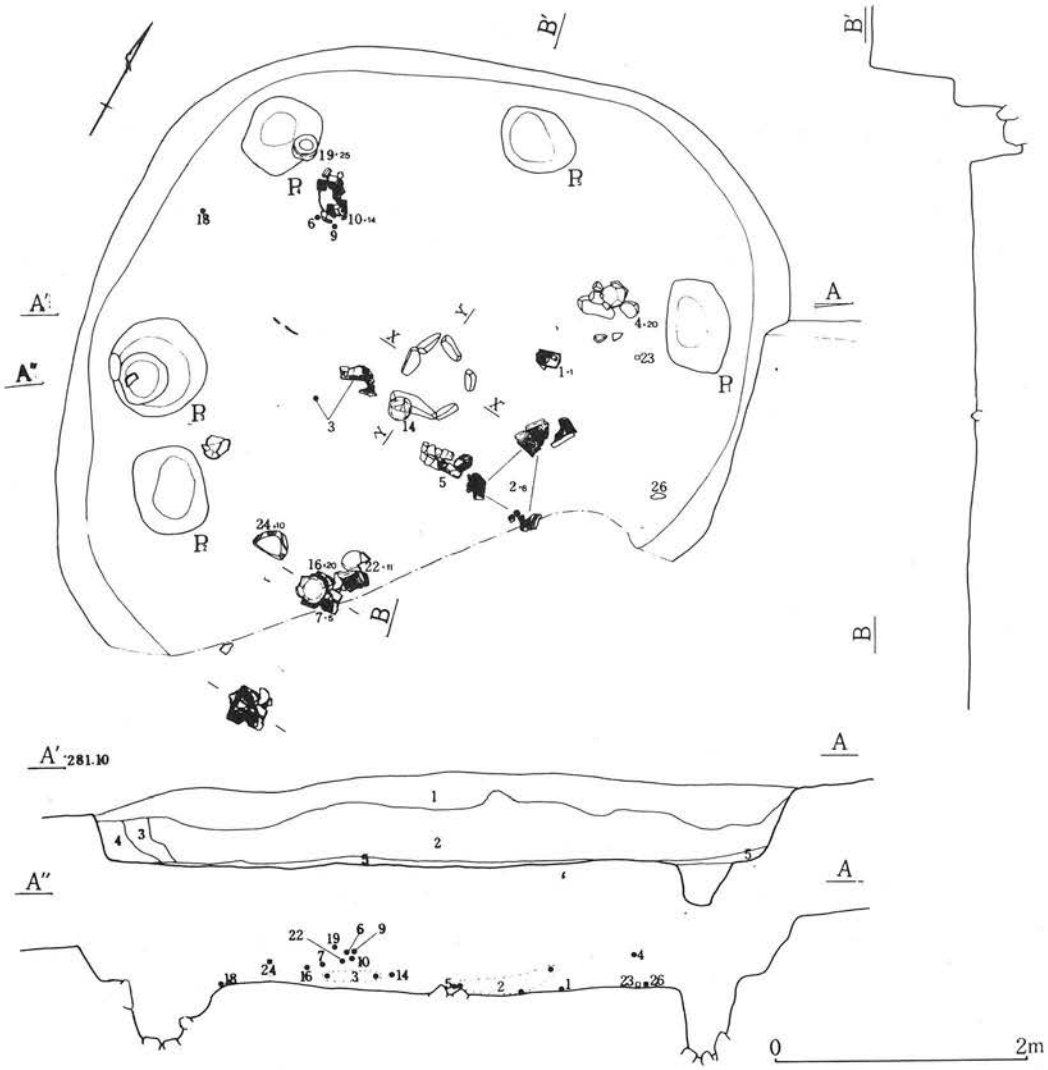


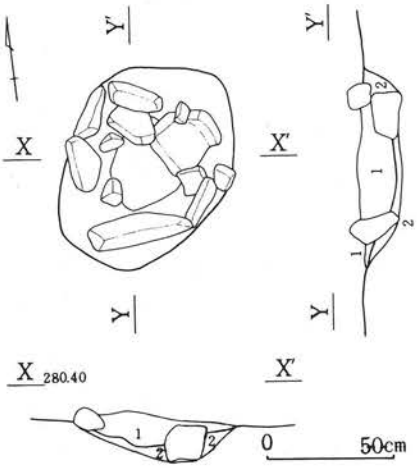
第106図　1号住居址出土石器〔1/4〕

7・8は打製石斧。**7**は撥形、刃部形は円刃、重量90g、石質：砂質粘板岩。**8**は基部断片、短冊形か、重量170g、石質：中粒砂岩。**5**は磨製石斧。乳棒状磨製石斧基部、重量420g、石質：緑色岩。**6**は石匙。重量40g、石質：シルト岩。**9・10**は石鏃。石質：黒耀石。**11**は石錐。つまみ状の基部をもつ。石質：黒耀石。他に多量の剝片類が出土しているが明確な使用痕等を確認しうるものは無かった。

《第2号住居址》（第107～109図、図版Ⅱ・Ⅺ・Ⅻ・ⅩⅢ・ⅩⅧ）

F・G－6・7区に位置し、東14mに2号小竪穴遺構、南西8mに1号小竪穴遺構、北7.5mに7号住居址が存在する。攪乱のため住居址南東隅から南壁部を失う。平面形は不整円形を呈し、径5.7～5.4mを測る。壁は最高部で70cmを測り、北壁の状態からはほぼ垂直にたっていたものと考えられる。覆土は5層に分けられるが、壁際、床直上の層以外は急激に流入したものであろう。また人頭大から径1m近くもある礫が重なる様に埋没しており、その激しさを示している。床面は本来堅緻な貼床であったと考えられるが、部分的に遺存するのみである。柱穴は5本検出された。住居址壁際をほぼ等間隔に一巡するものと考えられるが、南側壁部では攪乱のため確認しえない。またP_2・P_3の間隔が他のピット間の間隔に比し狭く配されていること





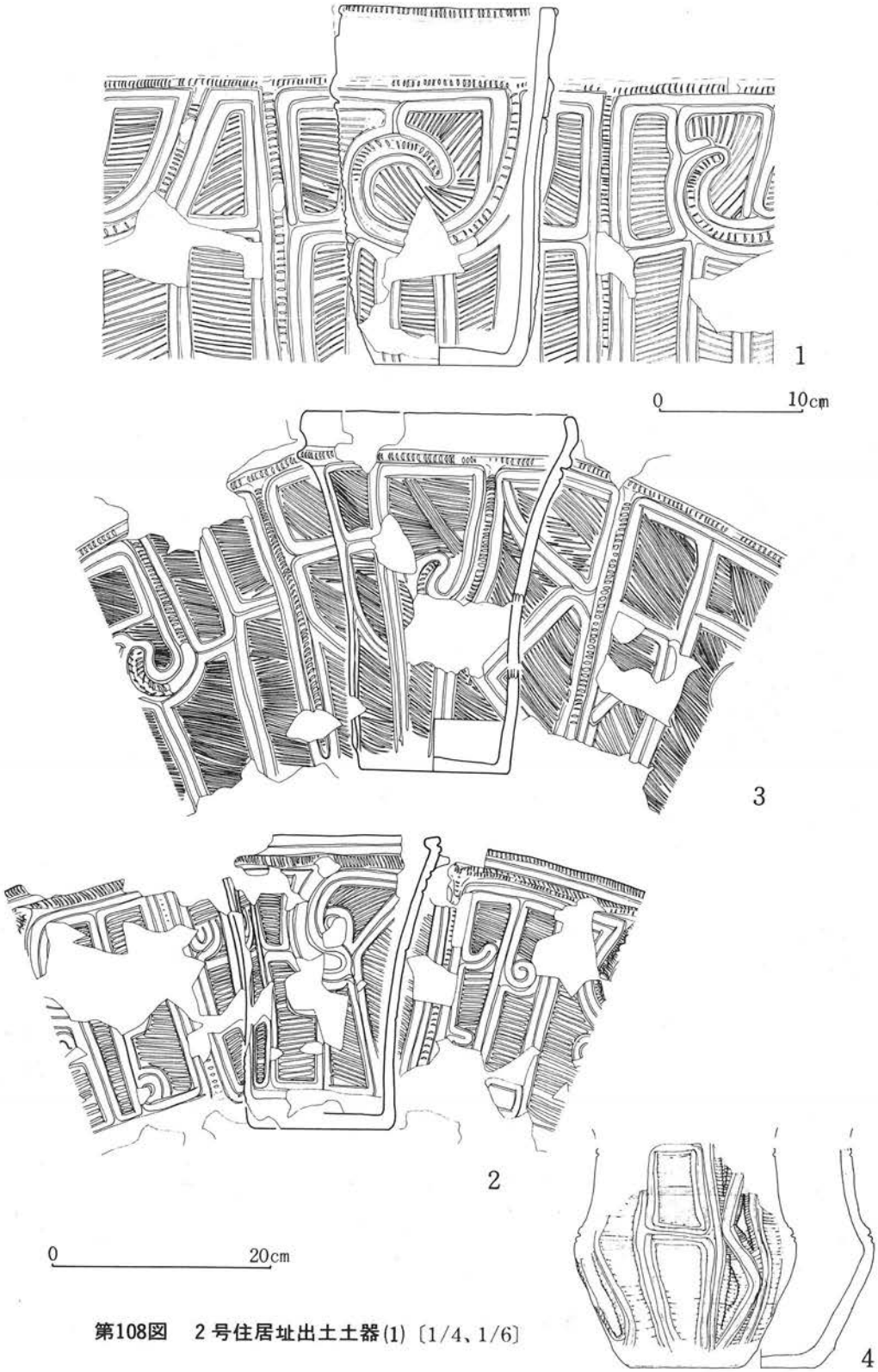
2号住居址

第1層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・無，礫を多量含む。
第2層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・有，礫・小礫を多量含む。
第3層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・有，ローム粒を少量，礫・小礫を含む。
第4層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，ローム粒を多量，礫を少量含む。
第5層　暗黄褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量，ローム粒を含む。

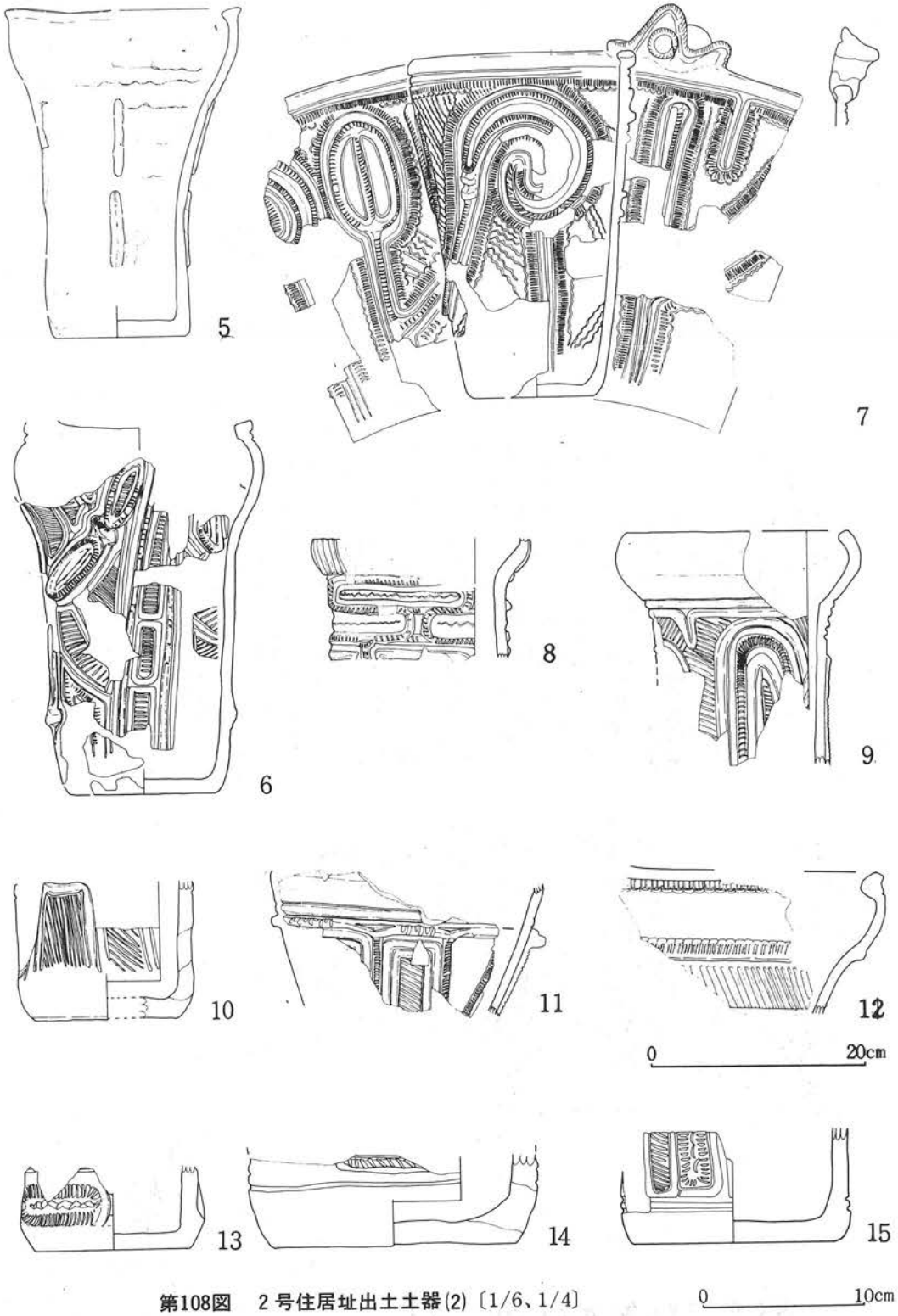
2号住居址・炉

第1層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を含む。
第2層　黒黄色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫主体層，黒色土粒を含む。

第107図　2号住居址及び炉址〔1/60、1/30〕



第108図　2号住居址出土土器(1)〔1/4、1/6〕

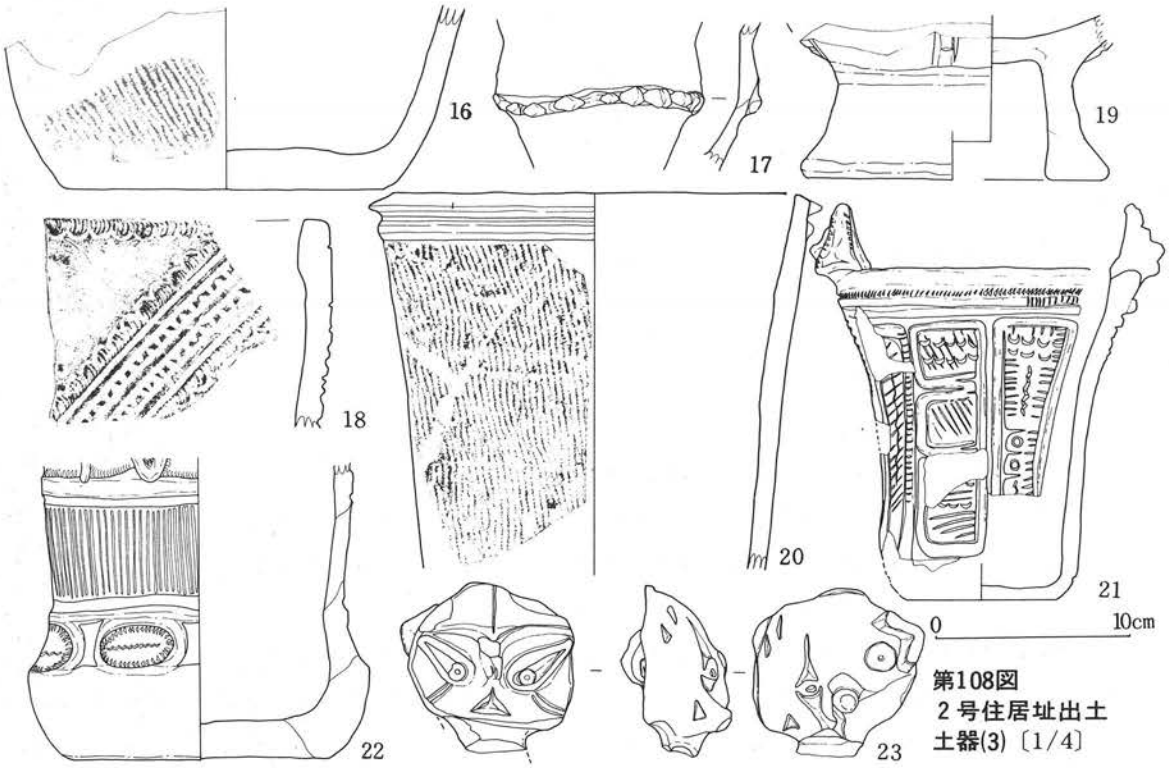


第108図　2号住居址出土土器(2)〔1/6、1/4〕

は注意せられる。ピットの規模は径80～65cmを測り、深さはP_1－53cm、P_2－35cm、P_3－49cm、P_4－66cm、P_5－55cmを測る。

炉は住居址中央部に付設される。47×36cmのやや横長の石囲炉である。炉内部から焼土・炭化物は全く検出しえなかった。

出土遺物は極めて豊富であるが殆どは第２層下部から第５層直上で出土した。特に第５層直上から出土した土器は遺存状態もかなり良好で当初は床面直上かと疑わせるものであったが、精査の結果床面より５～10cm程浮いており本址使用時に伴うものとは理解しえない。しかし、前述した本址覆土の状況からみてその流入と同時に埋没したとも考えられない。従って住居廃絶後の、かつ住居埋没前のごく短期間内に於ける人為的活動の所産と考える事が自然であろう。



第108図
２号住居址出土土器(3)〔1/4〕

１は口径14cmを測り、器高22.3cmを測る。口唇部には隆帯による爪形文を有するが頸部は無文帯、下半においては２単位の渦巻文を有しており、各区画文は沈線が充塡されている。

２は口径24.6cm、底径13.1cm、器高32.9cmを測る。口縁はやや内湾し、無文帯である。胴部は１対のＪ字文が施されている。

３は口径19.8cm、底径12.5cm、器高27.2cmを測る。口唇部には隆帯による爪形文を有し、頸部より下半には逆Ｊ字文及び渦巻文が施される縦区画文が施されている。

４は底径10cmを測る胴張りの深鉢型土器。文様は縦の区画文帯で構成され沈線が充塡される。

５は口径21.5cm、底径７cm、器高30.6cmを測る深鉢型土器である。口縁部は内湾し胴下部が

僅かに膨む。胴中位に縦位の隆帯を２対貼り付けている。他は文様はなく簡略なつくりである。

６は口径20.8cm、底径12.8cm、器高34.9cmを測る。口縁部は内湾し、縦の区画文帯を有し、抽象文が施されている。

７は口径21cm、底径10.5cm、器高32.3cmを測る深鉢型土器である。口縁部に１個の把手を持ち、隆帯による抽象文が施される。隆帯上は半截竹管状工具による張引き文を施している。

８は口縁部に縦の隆帯を貼り付け、楕円の横区画文が施されている。

９は口径22.2cm、残存高22cmを測る口縁部がキャリパー状に内湾する。口縁部は無文帯で頸部には二本の隆帯が貼り付けられ、胴部には隆帯による区画文が施される。

10は底径14cm、残存高12.5cmを測る深鉢の底部片で、内部は良好なヘラミガキが行なわれているが、外面はヘラ状工具によるナデのみの整形である。

11は最大径25.4cm、残存高12.7cmを測る深鉢型土器の頸部片である。頸部には二本の隆帯が貼り付けられ、一方には交互刺突文状の爪形文が施されている。

12は深鉢型土器の口縁部から頸部片である。口唇部と頸部に文様帯をもち半截竹管及びヘラ状工具による文様が施される。

13は底径9.6cm、残存高5.3cmを測る深鉢型土器底部片で、半截竹管状工具の押引きによる楕円区画文を有している。

14は底径14.8cm、残存高５cmを測る深鉢型土器の底部片で、隆帯による爪形文と棒状工具による沈線文が施されている。

15は底径12.6cmを測る底部片で、縦の区画文帯が施されている。

16は底径16.4cm、残存高9.8cmを測る、ＬＲの単節縄文を施された深鉢型土器の底部である。内面上半はヘラナデが施され、さらに炭化物が付着している。外面はヘラ磨きが施されている。

17は最大径11cmを測る小型の深鉢型土器の胴部片で、胴部には爪形文が施されている。整形はヘラによるナデのみのもので粗い。爪形文も指頭によるものである。

18は深鉢型土器の口縁部破片で、半截竹管による押引き、交互刺突文が施されている。

19は深鉢型土器の器台部分。底径15.4cm、残存高8.8cmを測る。外面及び底部、内面下部はヘラ磨きにより調整される。上部内面はヘラナデ調整でさらに２次焼成を受けている。

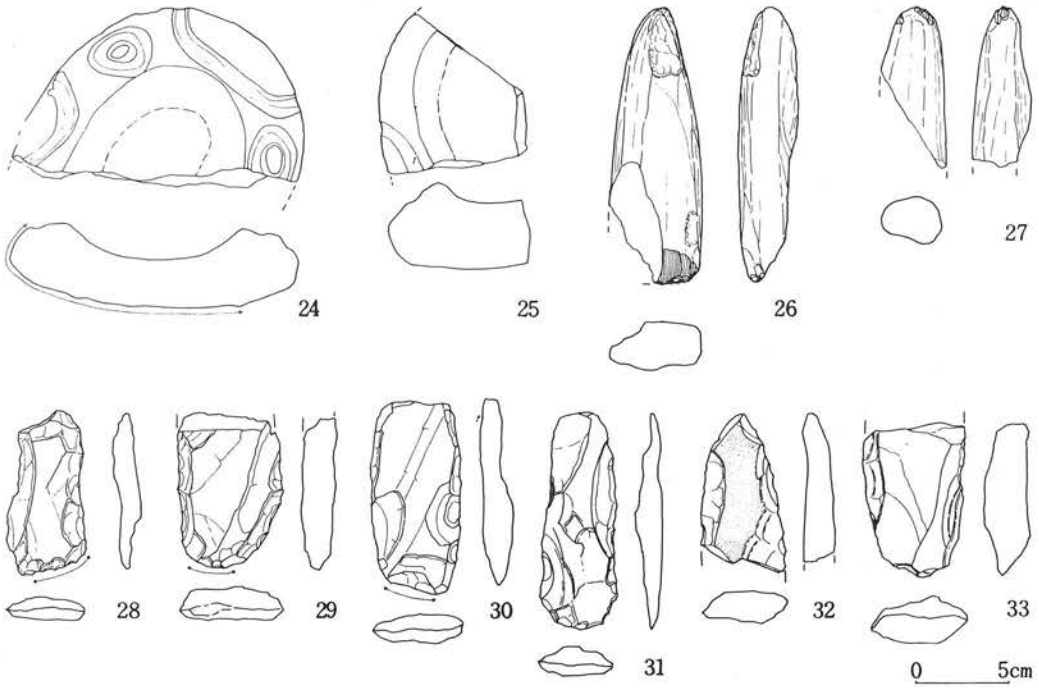
20は口径22.6cmを測る口縁部には隆帯が施され、胴部にはＲＬの単節縄文が施されており整形もヘラ状工具による磨きが行なわれている。

21は口径16cm、底径８cm、器高21cmを測る深鉢型土器。１個の把手を持ち縦の区画文を持つ。

22は底径14cm、残存高16cmを測る深鉢型土器の胴下半部で、沈線による横区画文と楕円区画文の横区画文帯が施されている。

23は土偶の頭部片である。口、頭部に三又文が施され、頬には入墨が施され、頭髪は渦巻状に巻かれたものと思われる。最大巾は12.2cmで、大型の土偶と言える。

時期、23は新道期、他は藤内Ⅲ期から井戸尻期に比定されよう。



第109図　2号住居址出土石器〔1/4〕

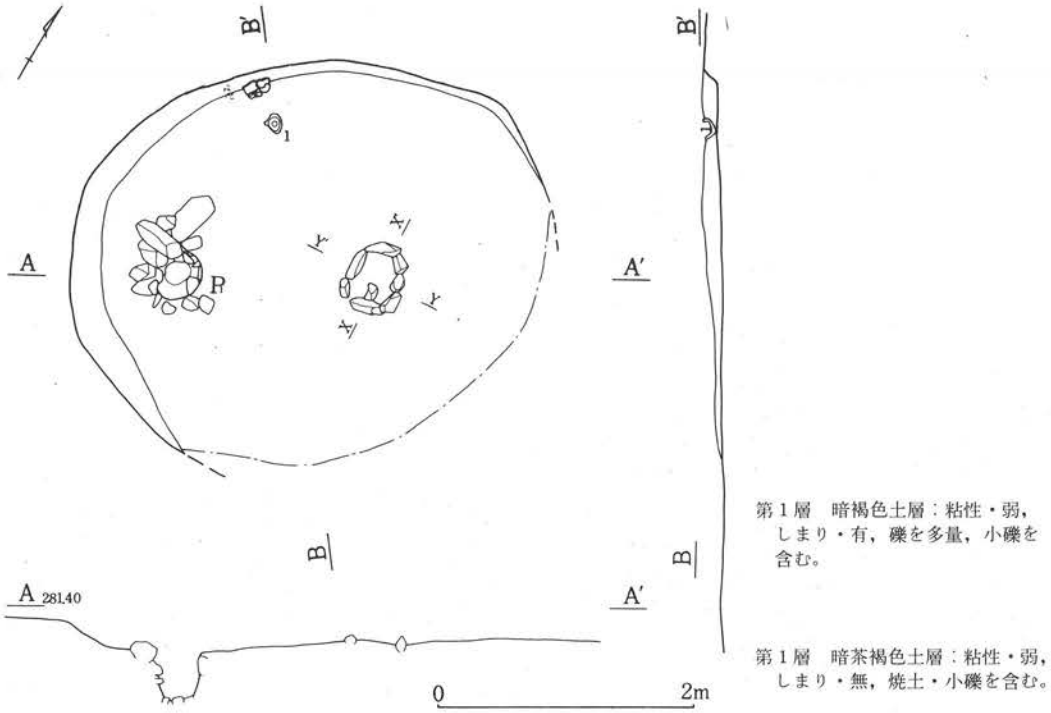
24・25は石皿。両者共側縁部に文様が刻まれ、円形及び半長円形が交互に配されたものであろう。石質：共に両輝石安山岩であるが別個体である。24は側縁部から底部にかけて火熱を受ける。26・27は磨製石斧。共に乳棒状磨製石斧、重量は26が300ｇ、27が120ｇ、石質：共に緑色岩。28～33は打製石斧。31が撥形にちかい他は全て短冊形、刃部形は31・29が円刃、30・28が斜刃、重量は30が110ｇ・31が80ｇ・28が60ｇ・29が120ｇ・33が120ｇ・32が60ｇ、石質：30・33がホルンフェルス、31・32が中粒砂岩、28が細粒砂岩、29が砂質粘板岩。28・29・30は刃部の磨滅が激しい。

《6号住居址》（第110～112図、図版XII）

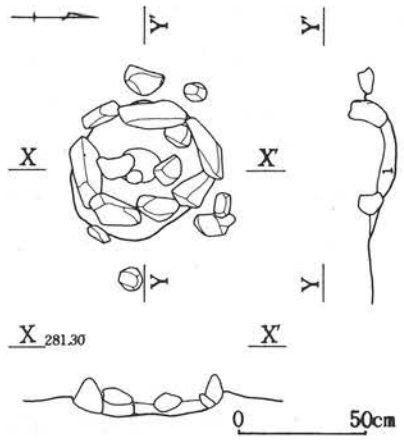
Ｉ－７区に位置し、南６ｍに７号住居址が存在する。遺存状態は極めて悪く北西部壁と床面の一部を検出しえたに過ぎない。形状は不整円形、或いは楕円形を呈すると思われ規模は径４ｍ以上となろう。壁は残存部でも10cmで覆土も１層しか認められない。ピットは１箇所検出され深さは37cmを測る。

炉は住居址中央部に付設される。50×35cmの長方形を呈する、石囲炉である。攪乱のためか石の配列にかなり乱れが見られた。掘り方は皿状断面を有し深さは12cmを測る。

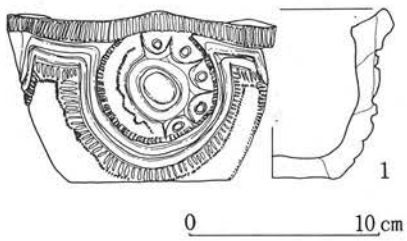
出土遺物は少なく図示しえたものも僅かである。深鉢形土器底部１は床面から出土した。



第110図　6号住居址〔1/60〕



第111図　6号住居址炉址〔1/30〕



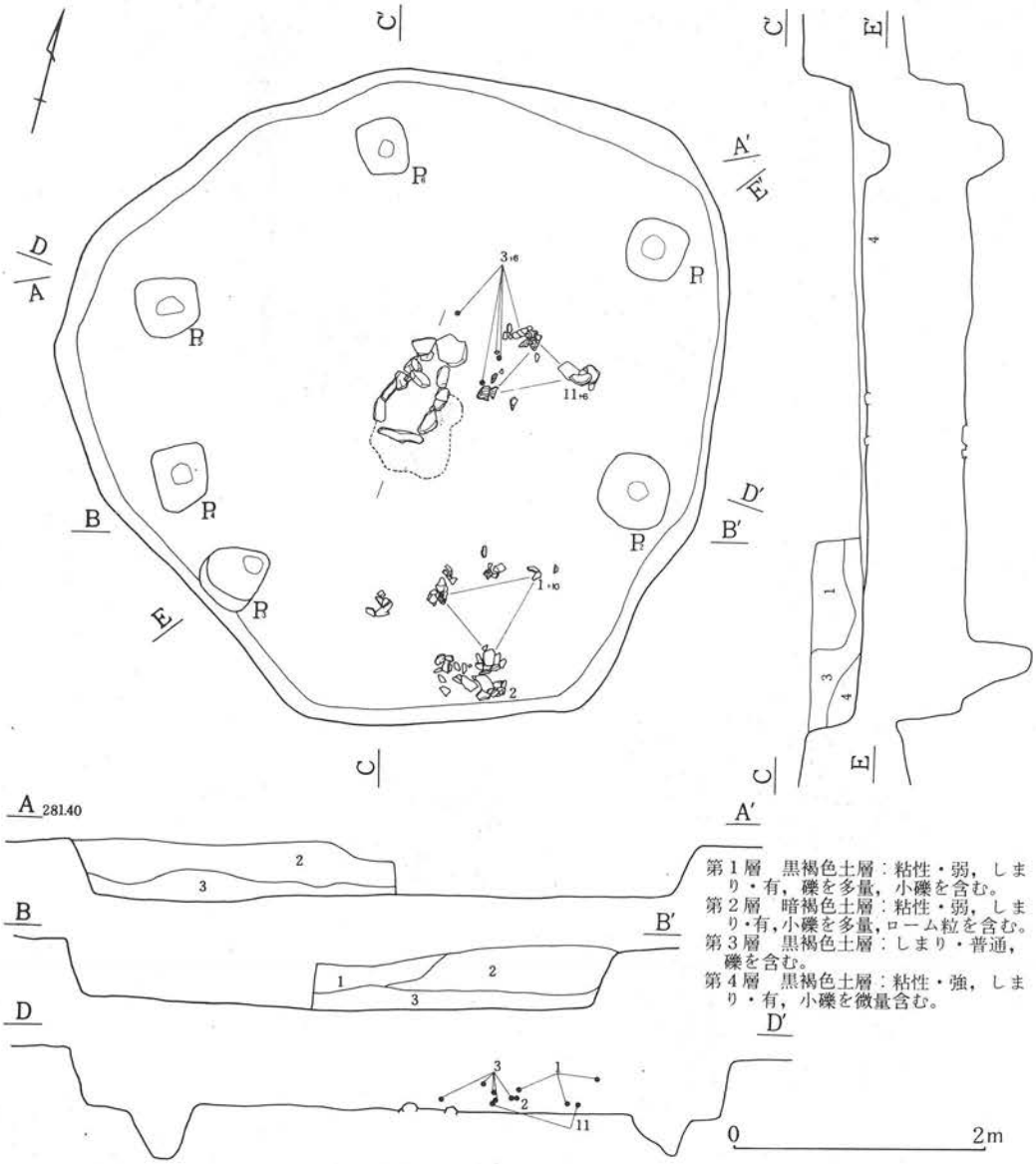
第112図　6号住居址出土土器〔1/4〕

1は、口径17cmを測る鉢型土器である。内面は良く磨かれているが、外面はヘラナデによるものでやや粗雑である。中央の円形区画内には、三叉文と、角状工具による押引き沈線が施されている。口縁部は4単位の波状口縁を有する。

時期、新道期に比定されよう。

《7号住居址》（第113～116図、図版Ⅱ・XII・XIII・XVIII）

H－6・7区に位置し、北6mに6号住居址、南7.5mに2号住居址が存在する。北半部上部には5号住居址が乗り、他部も削平が進む。また南半部は攪乱によって壁が押し出されるなど遺構に歪みが見られた。形状は不整円形を呈し、径5.5～5.1mを測る。壁高は50～35cmでやや緩やかに立つが、これは壁の崩落が激しい事にも因ろう。覆土は確認しえた範囲では4層に分けられ礫の混入が著しい。床面は本来は堅緻な貼床であったと窺わせるが現状では炉周囲の一部に残存するに過ぎない。柱穴は6本検出され住居址壁際を一巡する様に配されていたもので

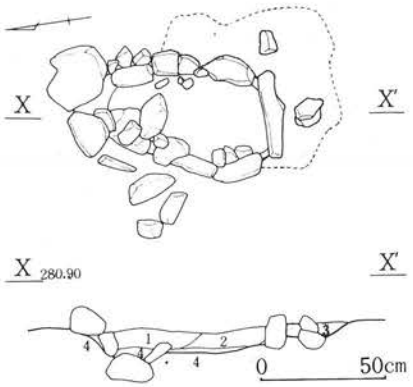


第113図　7号住居址〔1/60〕

あろうが、南壁部では検出できなかった。またP_3・P_4間が他のピット間に比して短い間隔であることは注意される。ピットの規模は径50～40cm程で深さはP_1－30cm、P_2－20cm、P_3－50cm、P_4－27cm、P_5－42cm、P_6－22cmを測る。

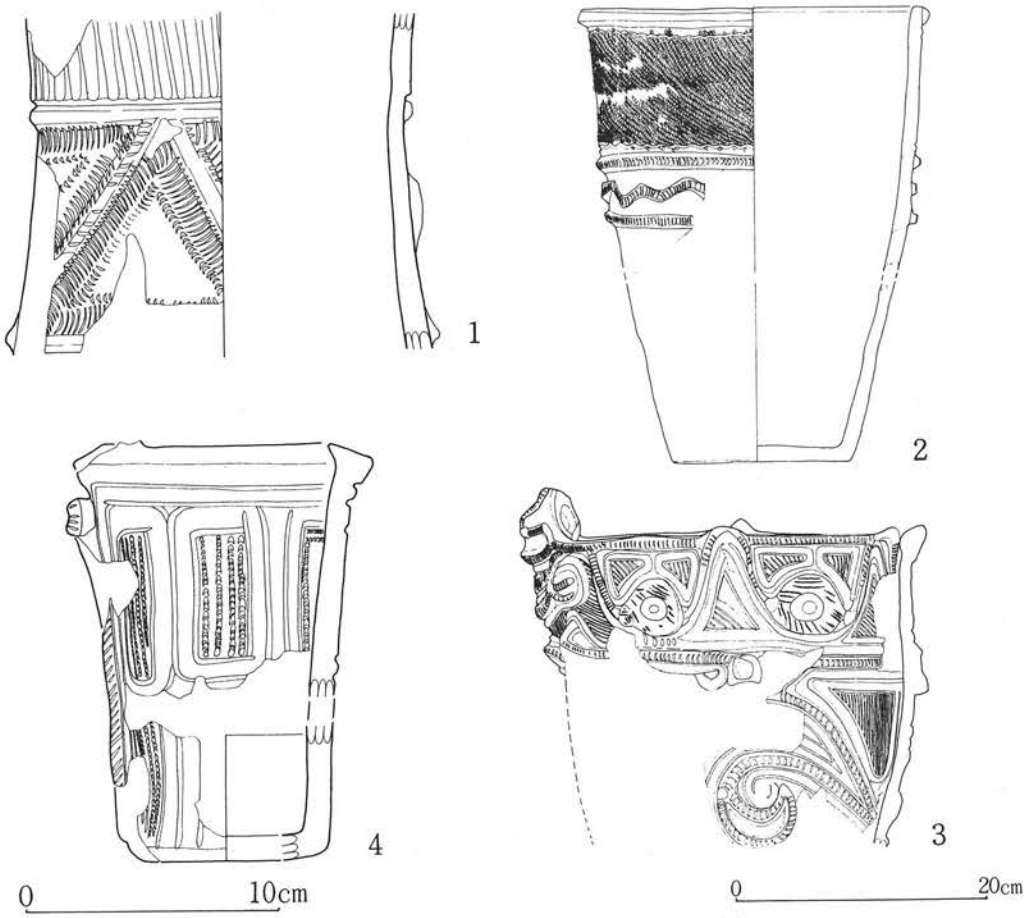
炉は住居址中央部に付設される。79×41cmの長方形を呈する石囲炉である。炉内部からは微量の焼土を検出したのみであるが、炉南側外部に焼土の堆積が確認された。掘り方は鍋底状を呈し、10cm程の深さを有する。

出土遺物は非常に豊富であるが、殆どは断片化し覆土中に散在していた。覆土下層から床面にかけて検出されたものは住居址南東部から出土している。しかし、遺物の状態などから、本址使用時に伴うと確定しうるものは認められなかった。

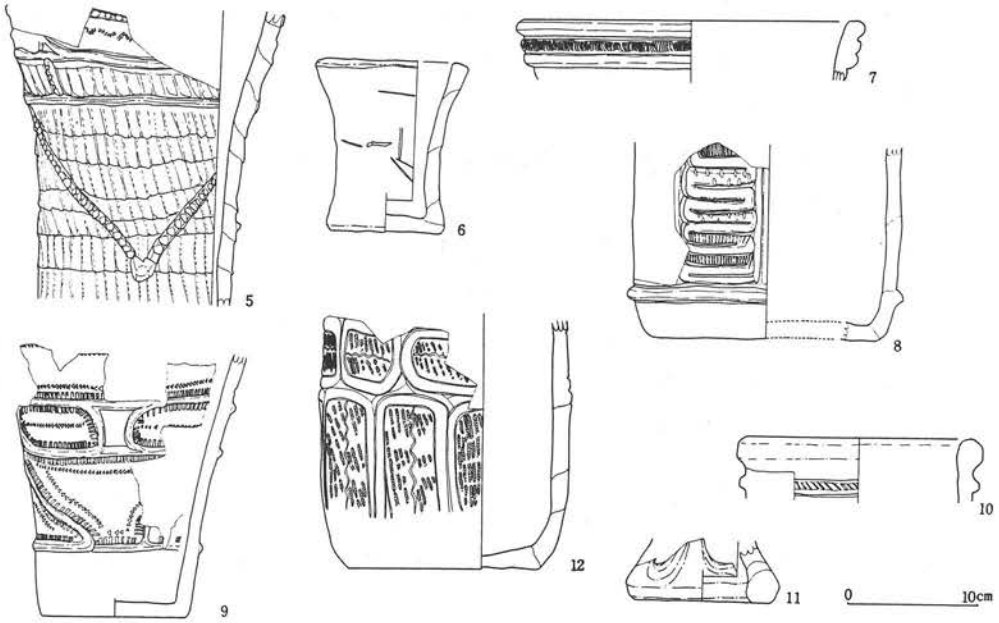


第1層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・無。
第2層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・無，黄褐色土粒を含む。
第3層　橙褐色土層：粘性・弱，しまり，有，焼土層。
第4層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・焼土粒を含む。

第114図　7号住居址　炉址〔1/30〕

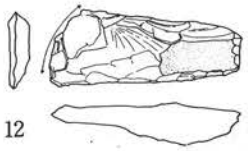


第115図　7号住居址出土土器(1)〔1/3、1/6〕



第115図　7号住居址出土土器(2)〔1/6〕

1は残存高13.3cmを測る深鉢型土器の頸部である。上半部は隆帯を貼付け、下部には半截竹管と角状工具による三角区画文が施される。2は口径27cm、推定高36cmを測る深鉢型土器で、胴部上半部にはＬＲの単節縄文が施され、隆帯には竹管による爪形文が施されている。2次焼成を受け、器外面は荒れているが、上半部は内外面共ヘラ状工具による磨き、下半部は内面はナデ、外面は指によるナデが行なわれている。内面は炭化物が多量に付着しており、これは破断面にも観察される。3は口径29cm、残存高25.6cmを測り、4単位の波状口縁で、1つの把手を持つ。上半部は三角区画文と半円の区画文及び隆帯による抽象文が施され、下半は三角文と隆帯による抽象文が施されている。4は口径8.4cm、器高16.6cmを測る。口縁部はやや内湾し、文様は縦区画である。5は口径11.8cm、底径8.4cm、器高13.4cmを測る小型深鉢である。内外面の調整は粗く、ヘラによるケズリを主とし内面下部は指頭によるナデ調整が施されている。6は口径20.8cm、残存高24.5cmを測る。整形は非常に粗く、外面は輪積みのち指頭ナデ、内面は粗いヘラケズリを行っている。上半部は隆帯を用い横区画文を形成し、竹管による押引き文を施している。7は口径27cm、残存高 4.6cmを測る深鉢の口縁部である。隆帯は貼付けによるもので、爪形文様の押引きが行なわれている。8は底径17cmを測る深鉢型土器の底部片である。内面下部には炭化物が付着していた。9は底径11.2cmを測る深鉢型土器底部で、角押文と半截竹管による押引き文で形成された三角文が施されている。10は深鉢型土器の脚部で底径12.5cmを測る。調整はヘラミガキでよく磨かれている。11は底径14.6cm、残存高19.4cmを測る底部で、楕円の区画文と、区画文内を沈線が垂下しており、ＬＲの単節縄文が施文されている。内面上部にはススが付着し、下部には炭化物が付着している。



12は打製石斧。撥形を呈し刃部形は斜刃、重量80ｇ、石質：細粒砂岩。刃部の磨滅が激しい。

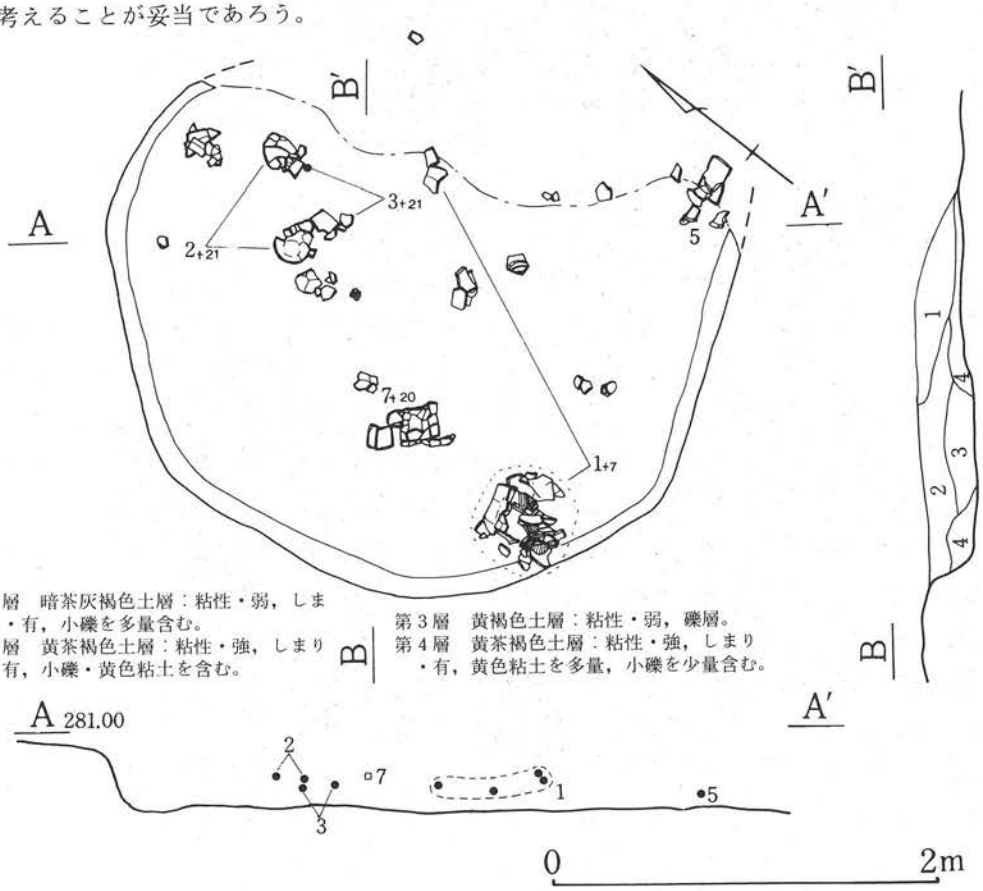
第116図　7号住居址出土石器〔1/4〕

2）小竪穴遺構

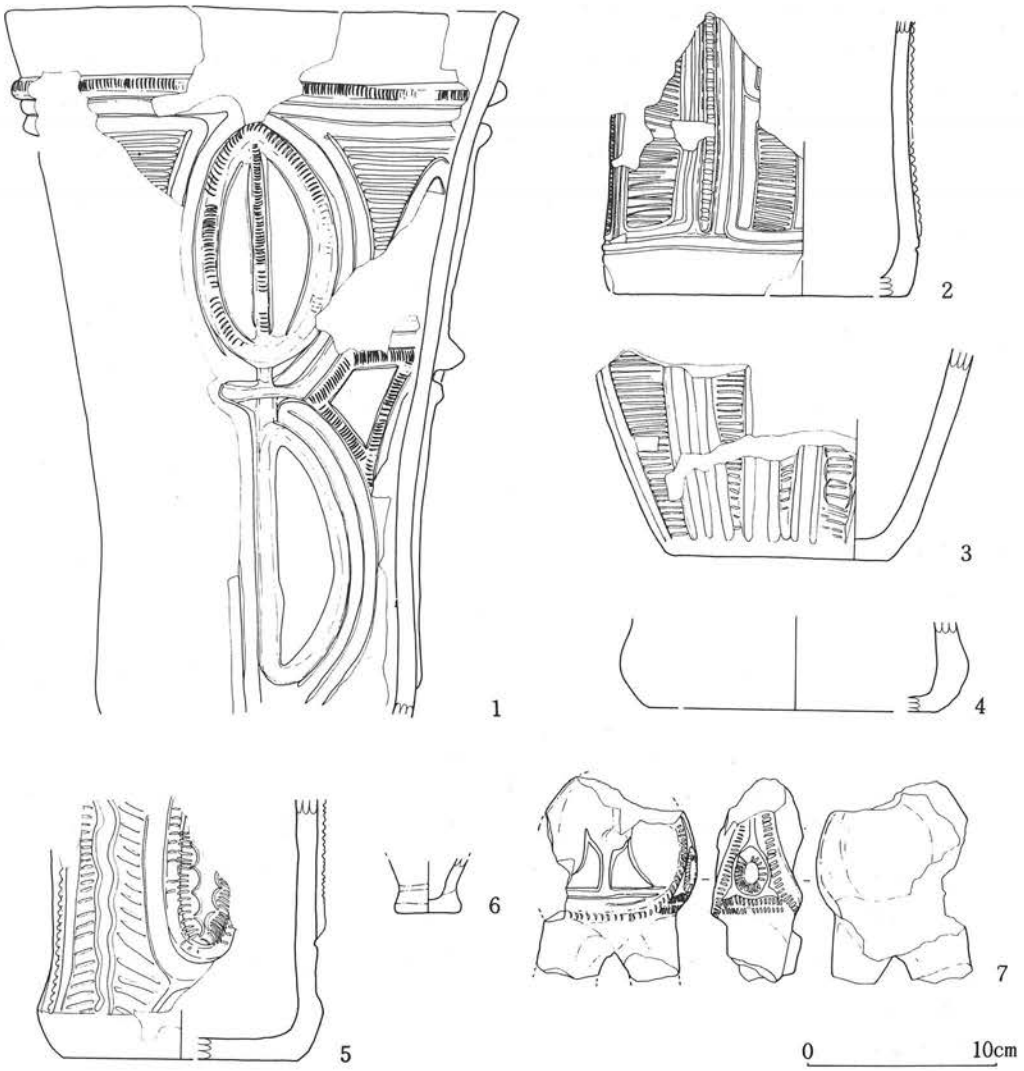
《1号小竪穴遺構》（第117～118図、図版XIII）

F－5・6区に位置し、北東6ｍに1号住居址、南西8ｍに2号住居址が存在する。西半部を攪乱によって失いほぼ1/2強が遺存する。形状は不整円形を呈すると思われ、規模は 3.2ｍ×(3.0)ｍ程であろう。壁は緩やかに立ち上がり壁高は17～12cmを測る。床面は部分的に硬軟の差が激しく、緩やかな凹凸をみせる。覆土は4層に分かれ、下層では土質の差が顕著である。柱穴・炉などの施設は検出されない。

出土遺物は豊富でその形状をよく留めるものがおおい。しかし、出土層位は例外を除くと全てが第3・4層上面である。従って遺構が遺棄され一定程度埋没が進んだ状態に於ける廃棄等を考えることが妥当であろう。



第117図　1号小竪穴遺構〔1/40〕



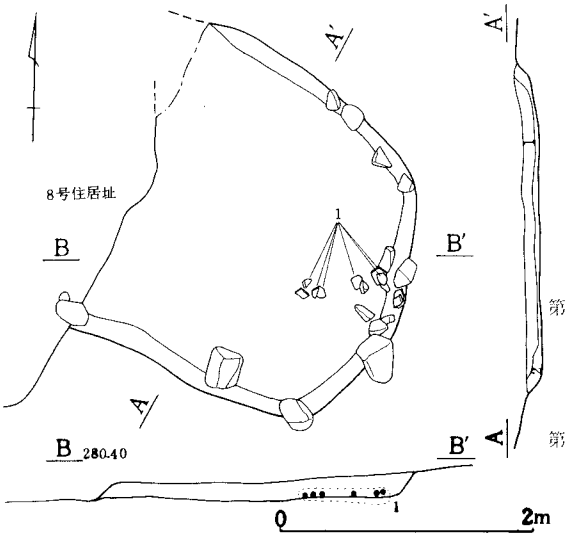
第118図　1号小竪穴遺構出土土器〔1/4〕

1は口径26.6cmを測り残存高37.5cmを測る口縁部は無文帯で、胴部には隆帯による抽象文が施されている。2は底径15.4cmを測り縦区画による文様が施されている。内外面は良く磨かれており、内面は炭化物が付着していた。3は底径11.6cm、残存高11cmを測り内面には炭化物が付着していた。4は底径15.4cm、残存高4.8cmを測る深鉢型土器の底部である。5は底径12.2cm、残存高15cmを測る。隆帯による抽象文が施され、内面には炭化物が付着している。6は手捏ねの深鉢型土器で、底径3cmの小型土器である。外面はヘラ状工具による磨きが施されているが、内面はヘラによるナデのみの調整である。7は三叉文を有する土偶の腹部及び脚部の破片である。最大幅9cm、厚さ4.5cmを測る。

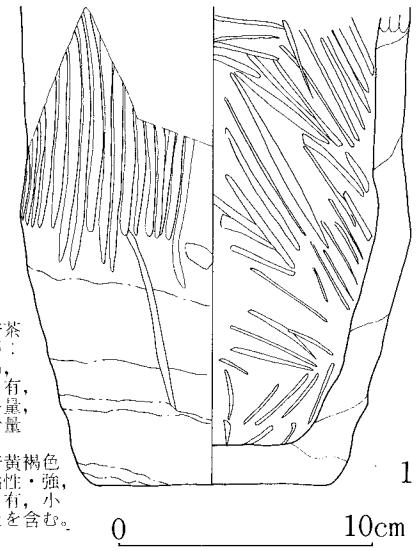
時期、1～6は藤内期、7の土偶は新道期と思われる。

《２号小竪穴遺構》（第119～120図）

G－８区に位置し、西13mに２号住居址、北西14mに７号住居址が存在する。39号住居址に西半部を切られ、北西部に攪乱を受けている。規模は南北方向で最大2.7mを測るが、東西方向は明らかにしえない。壁高は残存部で17～11cmで覆土は２層に分けられた。床面は軟弱で柱穴・炉等の施設は検出できなかった。出土遺構は少量で図示しえたものも少なかったが、西壁中央部に集中していた。



第119図　２号小竪穴遺構〔1/60〕



第120図　２号小竪穴遺構出土土器〔1/4〕

１は残存高19cmを測る。内外面共に粗いヘラ状工具による整形。調整も内外面共に粗く、外面胴下半は輪積みを観察できるが、文様を意識したものであろう。

時期、併出遺物が不明瞭のため確定はできないが井戸尻期の粗製土器であろう。

３）土　壙

《２号土壙》（第121図、図版IX）

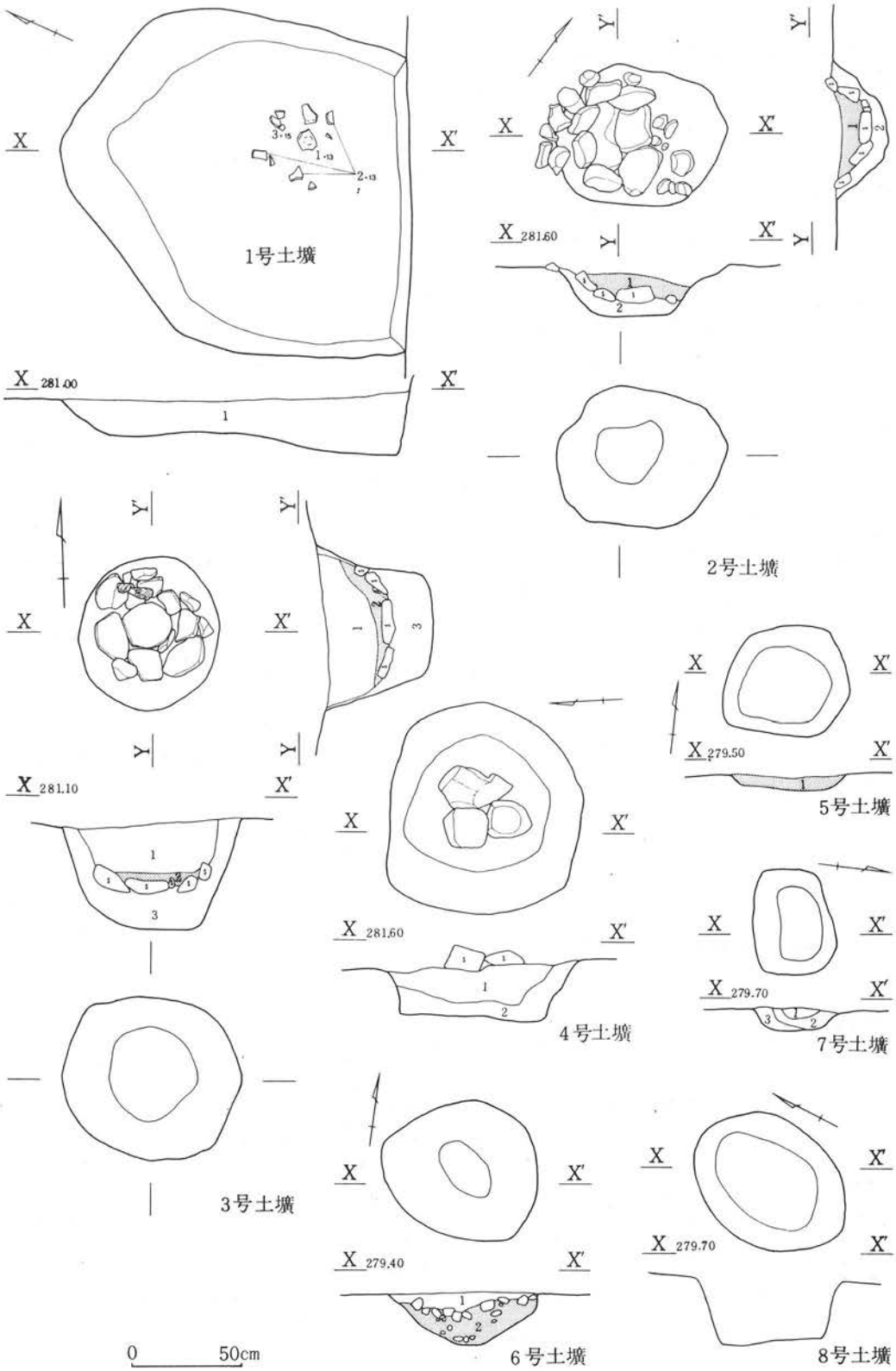
位置：L－12区。形状：隅丸長方形を呈し、規模は78×63cmを測る。鍋底状断面を持ち、深さ23cmを測る。長軸方位N－53°－E。北東半部は攪乱によって失う。いわゆる集石土壙で、土壙中位に偏平な角礫を組んだ状態で認められた。石組内の覆土（第１層）は黒色の炭化物主体層である。

《３号土壙》（第121図、図版IX）

位置：L－14区。形状：不整円形を呈し、規模は82×75cmを測る。断面形は短い円筒形をなし、深さは49cmを有する。これも集石土壙で土壙中位に偏平な角礫が皿状に敷き詰められている。礫上面には５～10cmの厚さで炭化物主体層が堆積し５～10cm角の炭化材も認められた。

《４号土壙》（第121図）

位置：L－16区。形状：不整円形を呈し、規模は99×87cmを測る。断面は鍋底状で深さ24cm



第121図　1号～8号土坑〔1/60〕

である。土壙上面に角礫を持つ集石土壙で30～50cmの角礫が３個置かれている。覆土は２層にわかれる。

《５号土壙》（第121図、図版Ⅸ）

位置：F－15・16区。形状：不整円形を呈し、規模は58×50cmを測る。断面は浅い鍋底状で深さは８cm程である。覆土は１層で、炭化物主体層である。

《６号土壙》（第121図、図版Ⅷ）

位置：F－15区。形状：不整円形を呈し、規模は69×65cmを測る。断面形は鉢状を示し、深さは24cmを持つ。これも集石土壙で第２層は礫を多量に含む炭化物主体層である。

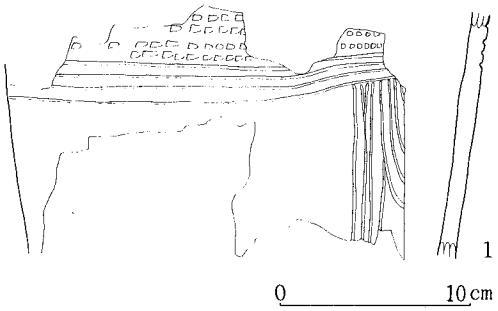
但し礫に被熱の痕跡は認められない。

《７号土壙》（第121図）

位置：G－16区。形状：楕円形を呈し、規模は48×39cmを測る。断面は鍋底状で深さは10cm程である。長軸方位はN－87°－Wに取る。覆土は３層に分けられる。

《８号土壙》（第121～122図）

位置：G－16区。形状：楕円形を呈し、規模は75×57cmを測る。断面は深い鍋底状で33cmの深さを持つ。長軸方位はN－16°－Eに取る。覆土中から多量の縄文式土器の破片が出土している。



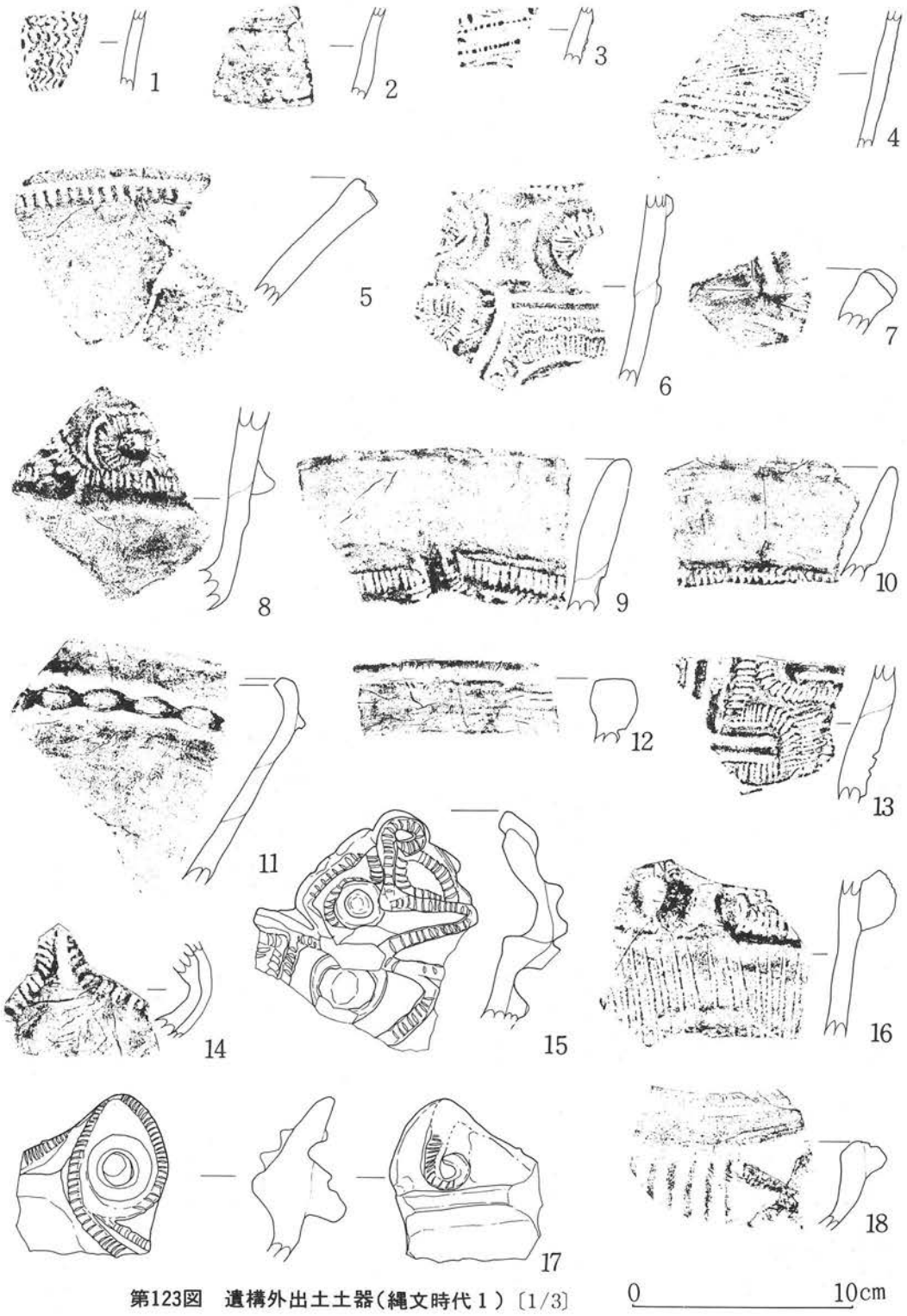
第122図　８号土壙出土土器〔1/4〕

１は、口径26cmを測る深鉢型土器の胴部の下半である。半截竹管による押引きの沈線文を有し、下部は隆帯による渦巻文が施されると思われる。

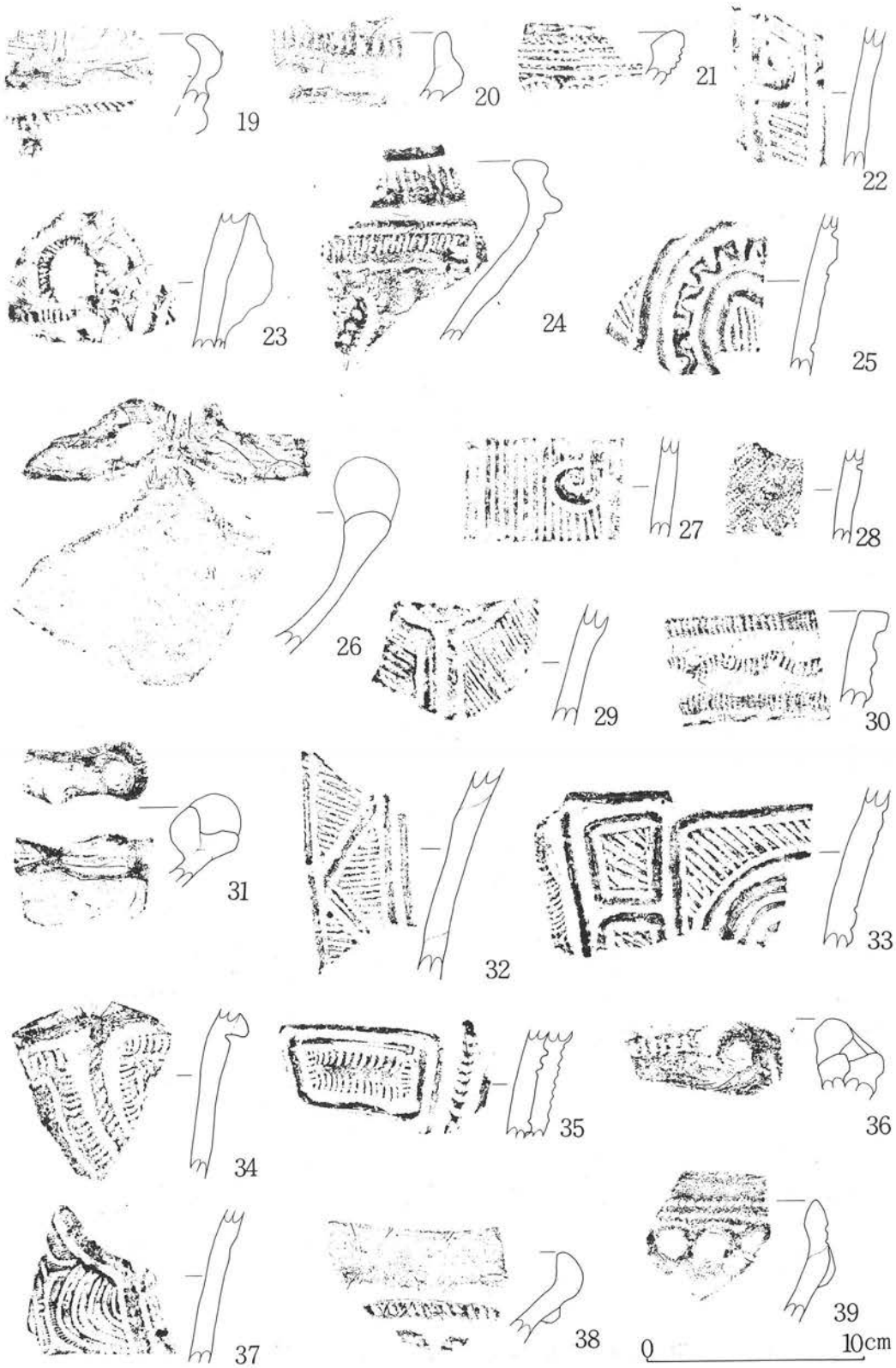
時期、藤内期と思われる。

１号土壙
第１層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫を多量，炭化物を含む。
２号土壙
第１層　黒色土層：しまり・無，炭化物を多量，小礫を微量に含む。
第２層　黄黒色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量，炭化物を少量含む。
３号土壙
第１層　黒褐色土層：しまり・無，炭化物を含む。
第２層　黒色土層：粘性・弱，しまり・無，炭化物主体層。
第３層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，炭化物を少量，小礫を含む。
４号土壙
第１層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・有，小礫を多量含む。
第２層　暗褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・黄色砂粒を含む。
５号土壙
第１層　黒色土層：粘性・弱，しまり・無，炭化物主体層，小礫を含む。
６号土壙
第１層　明灰褐色土層：粘性・弱，しまり・無，ローム・黒色土を少量，小礫を含む。
第２層　黒色土層：粘性・弱，しまり・無，炭化物主体層，礫を多量含む。
７号土壙
第１層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を少量含む。
第２層　黒褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫を多量含む。
第３層　暗茶褐色土層：粘性・弱，しまり・無，小礫・黄色砂粒を多量含む。

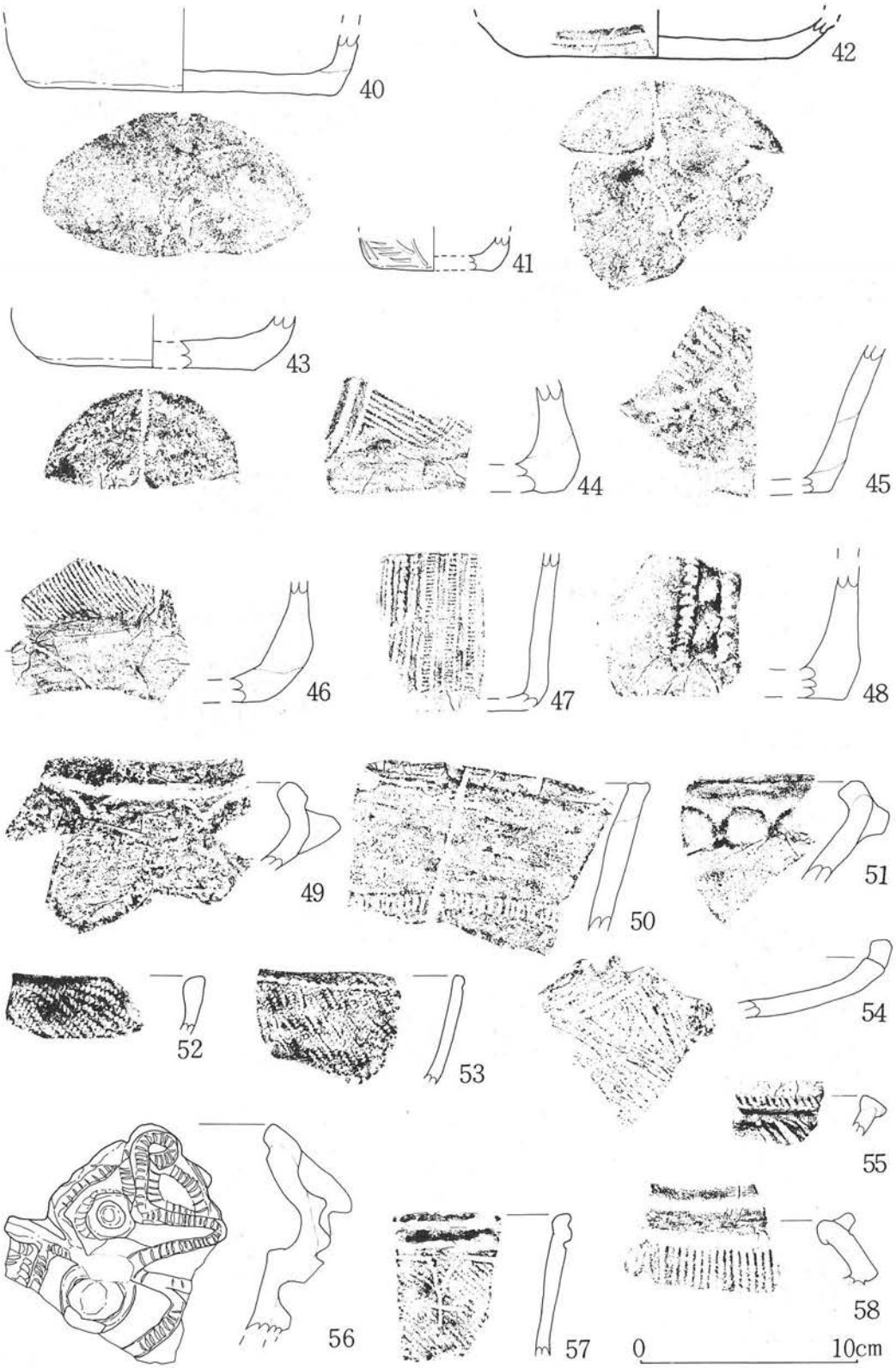
4）遺構外出土の遺物（縄文時代）（第123～124図、図版XⅧ）



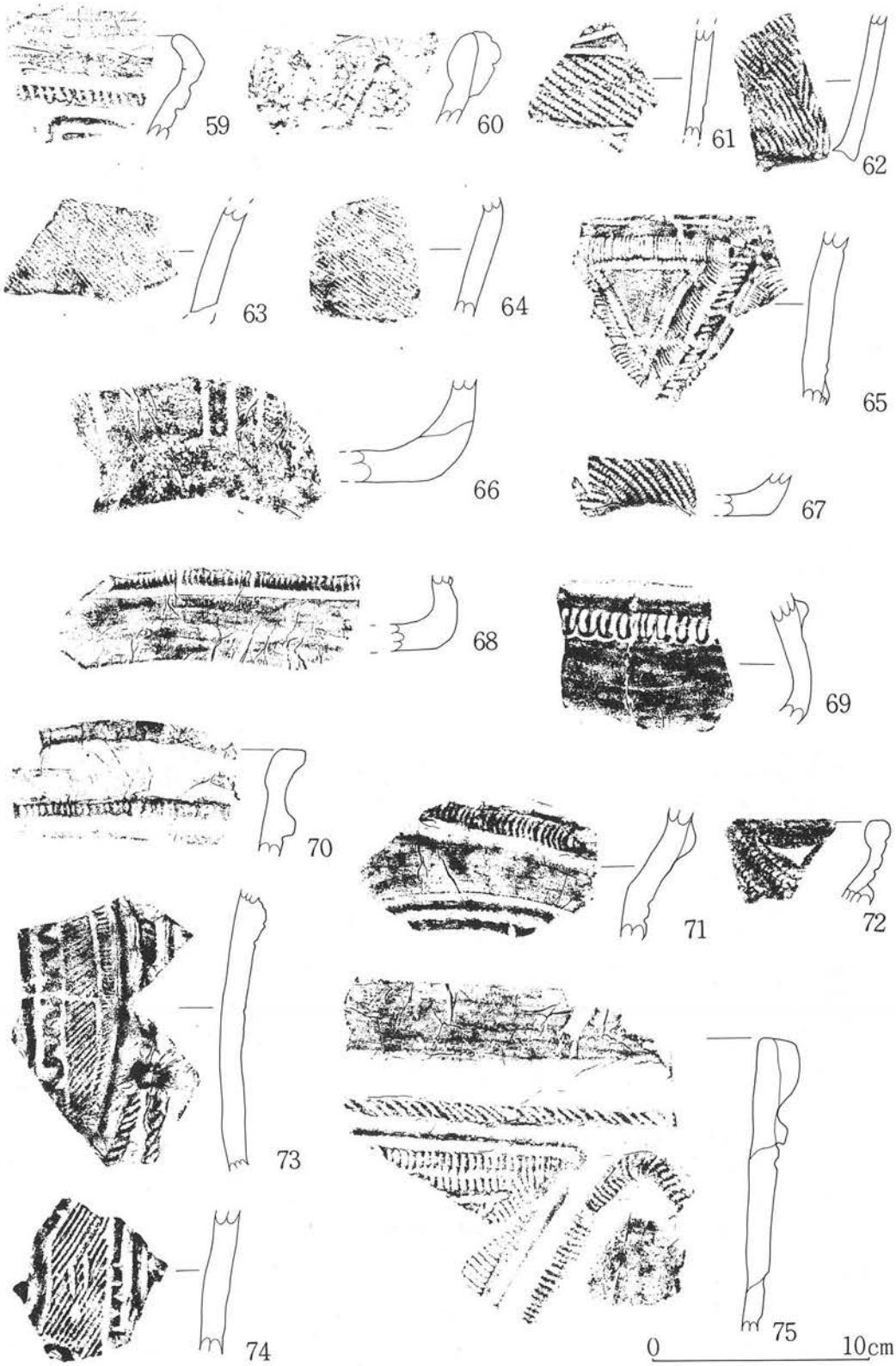
第123図　遺構外出土土器（縄文時代１）〔1/3〕



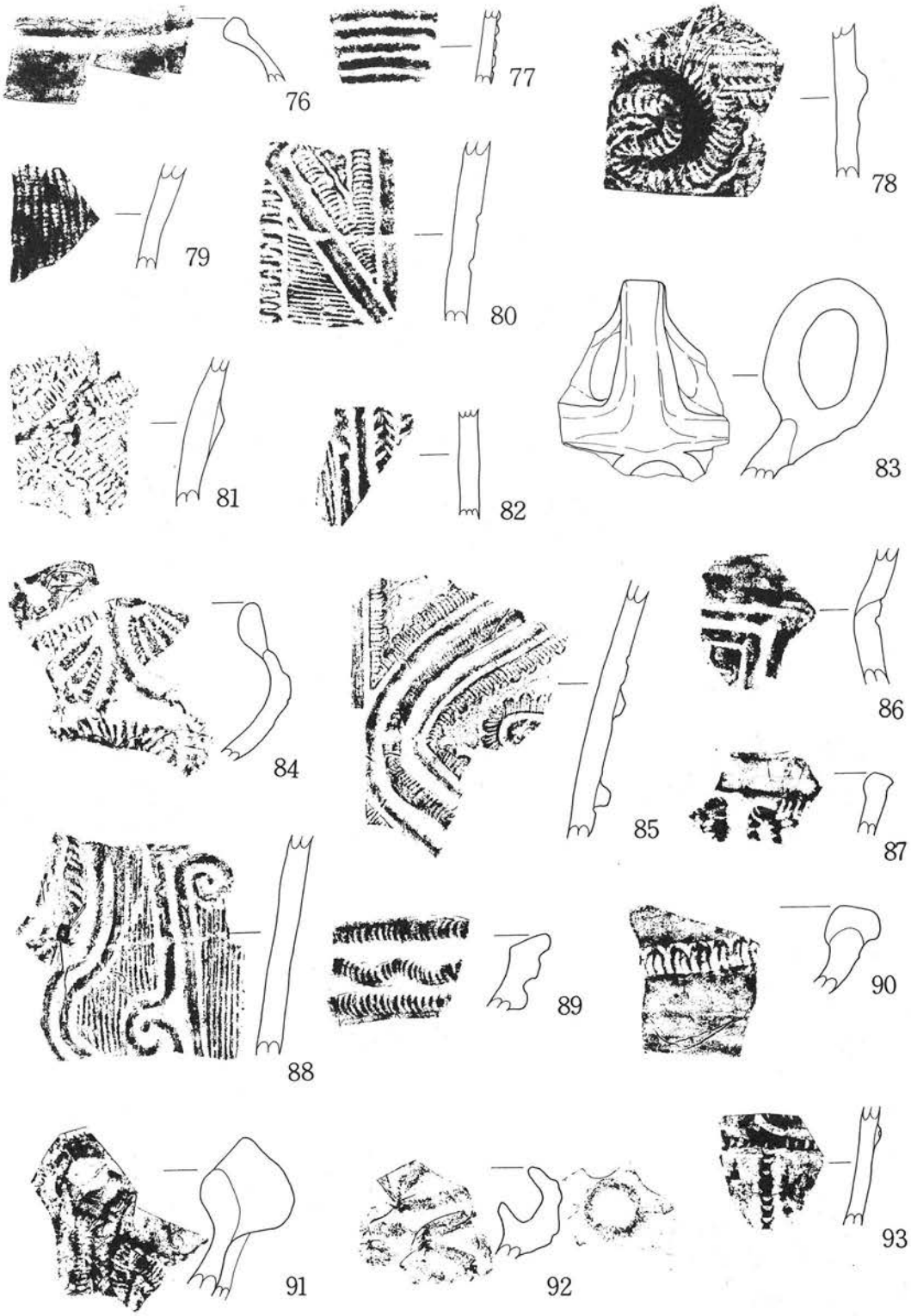
第123図　遺構外出土土器（縄文時代２）〔1/3〕



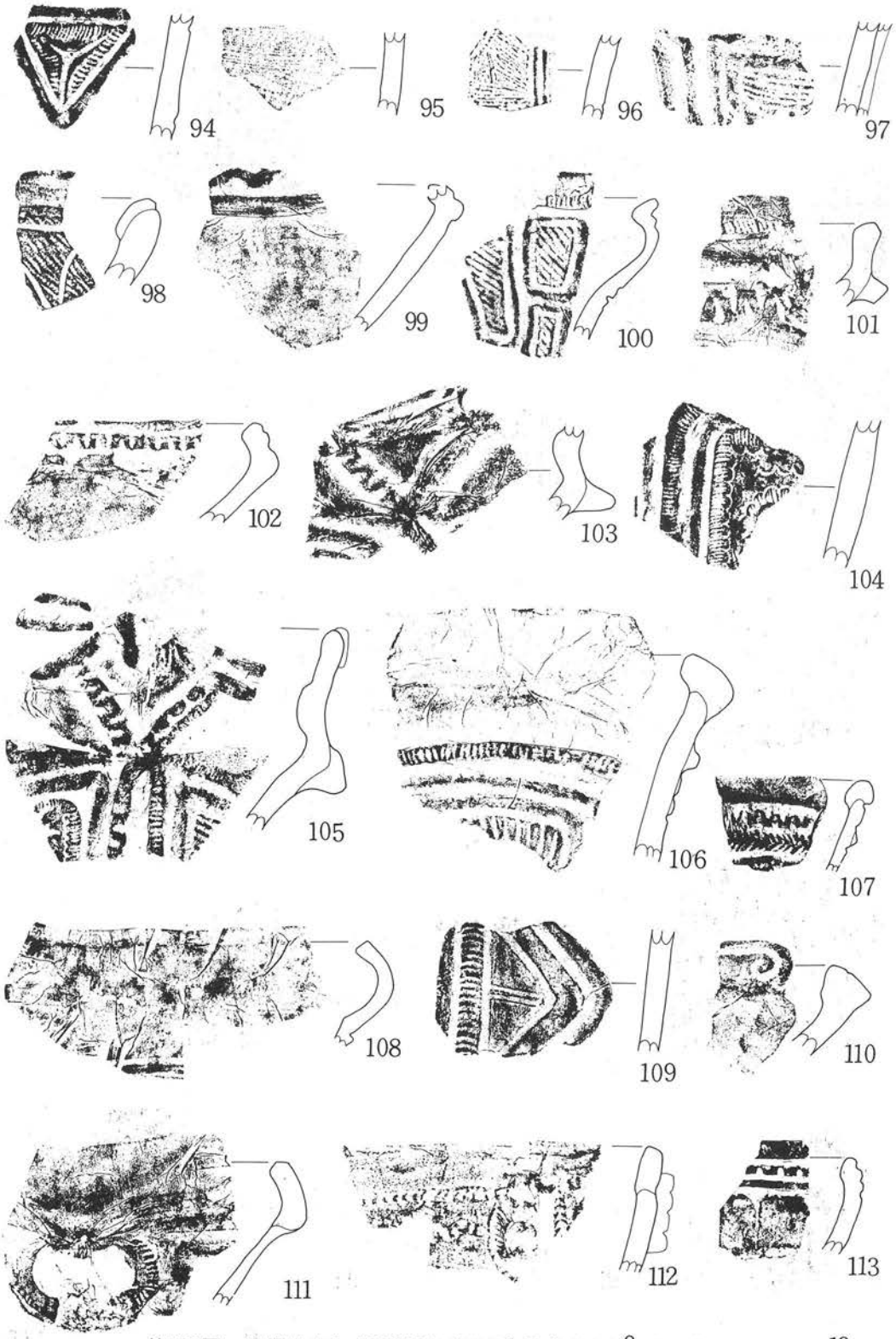
第123図　遺構外出土土器（縄文時代３）〔1/3〕



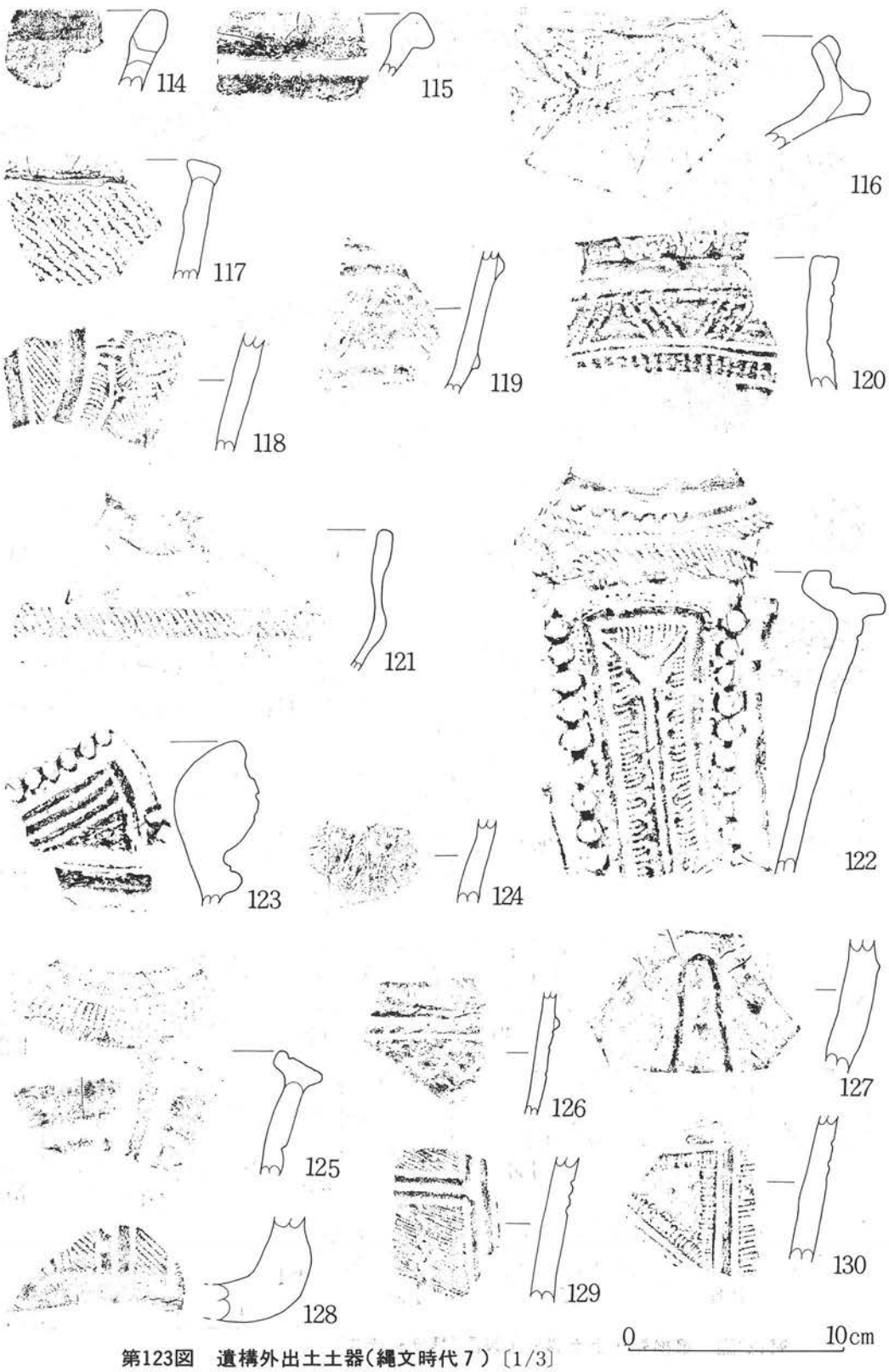
第123図　遺構外出土土器（縄文時代４）〔1/3〕



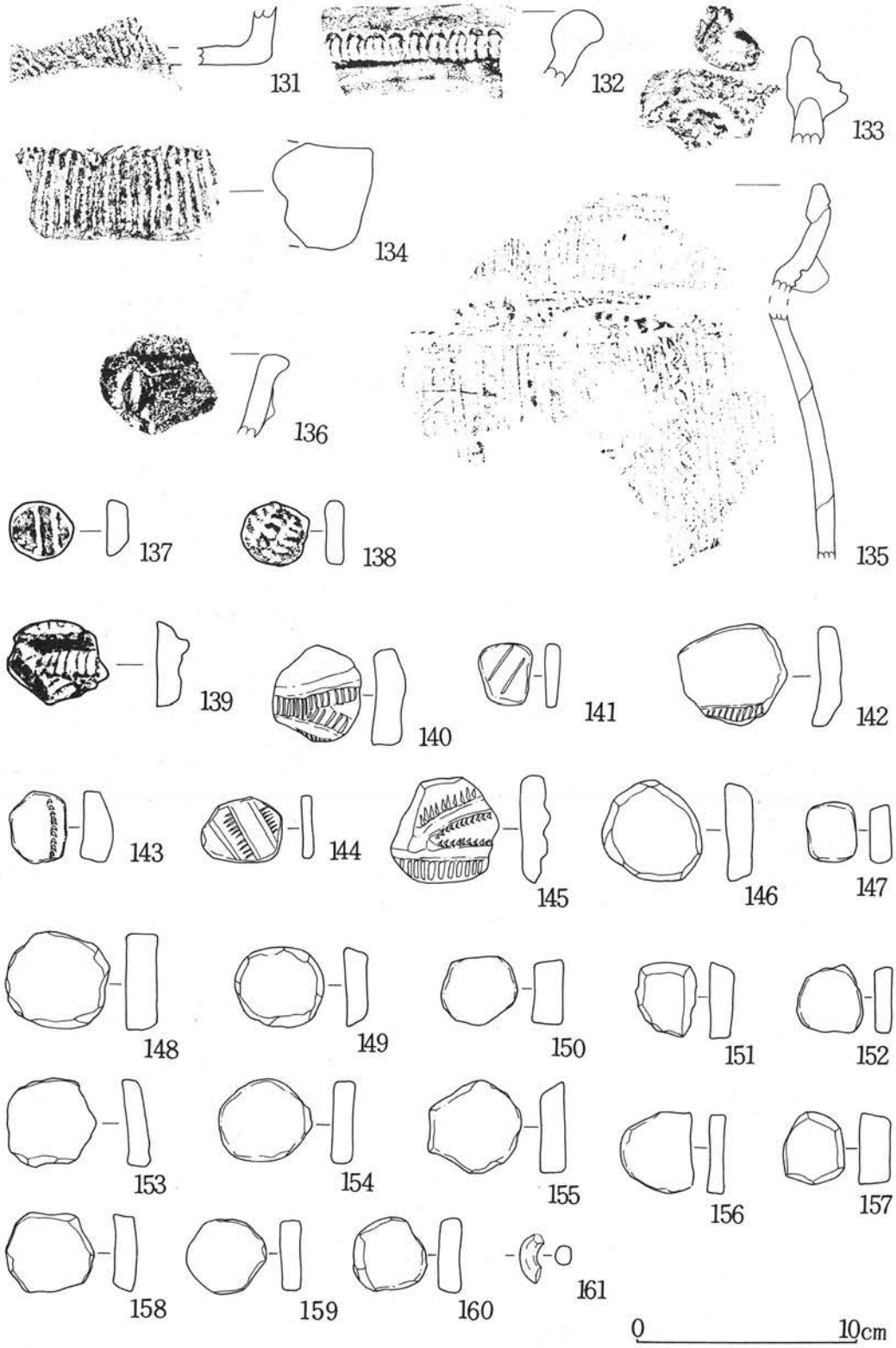
第123図　遺構外出土土器（縄文時代５）〔1/3〕



第123図　遺構外出土土器（縄文時代６）〔1/3〕



第123図　遺構外出土土器（縄文時代７）〔1/3〕

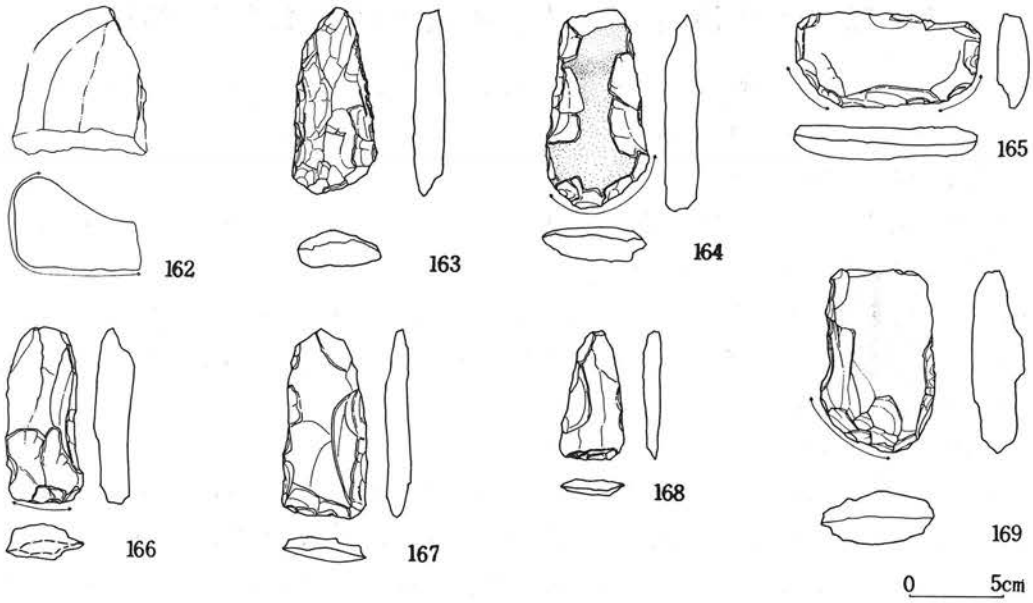


第123図　遺構外出土土器・土製品（縄文時代８）〔1/3〕

1は早期（押型文）、2は早期（茅山期）、3・4は共に前期（諸磯期）のものであろう。135は中期後葉（唐草文系）、136は後期（掘之内期）であろう。他は全て新道期～井戸尻期のものと思われ、特に藤内期のものが多数を占める。

本遺跡では遺構外からも多くの縄文式土器が出土している。また各遺構の遺存状態が非常に悪く遺構内出土遺物についても、包蔵地の包含層的な出土状況であった。埋甕等の明確に住居址に属する土器と比して、時期的な混乱をきたしかねない。従って、遺構外出土の遺物には住居址覆土中のものも含めた。出土地点も全体の90%以上がⅠ区で認められ、Ⅱ・Ⅲ区からは極端に少ない。更にⅡ・Ⅲ区にあっても、Ⅱ区では3・4号土壙に狭まれたK・L—14・15区、Ⅲ区では7・8号土壙周囲から集中して認められた。

遺物の様相は単時間のもので、調査区外で該期の住居址の可能性を指摘したい。曾利期においても大型の破片が出土しており、曾利の前半期及び前段階については強い可能性がある。



第124図　遺構外出土石器〔1/4〕

本遺跡からの石器の出土は極めて少なく、図示しえたものの僅かである。

162は石皿。石質：凝灰角礫岩、皿部の摩滅が激しく、側縁部に著しく火熱を受ける。163・164は打製石斧。共に撥形で刃部形は斜刃、重量163は100g・164は150g、石質：共に細粒砂岩。164は刃部の摩滅が進む。

165は横刃形石器。重量120g、石質：粘板岩。166は打製石斧。短冊形、刃部は円刃、重量100g、石質：細粒砂岩。刃部の摩滅が著しい。

167～169は打製石斧。167・169は短冊形、168は撥形の小形品、刃部は167・168が直刃、169が円刃、重量167が80g・168が30g・169が220g、石質：167点紋岩、168粘板岩、169シルト

岩。167は刃部の摩滅が激しい。

162～164まではⅠ区、165～166まではⅡ区、167～169まではⅢ区から出土している。

石器類は他に打製石斧9点、石鏃1点及び多量の剥片類が出土している。打製石斧の内訳は撥形が1点、短冊形が3点、他は短冊形と考えられるが破損しているため、断定しえない。石質は粘板岩5点、シルト岩2点、点紋粘板岩1点、砂質粘板岩1点である。出土位置はⅠ区—1点、Ⅱ区—7点、Ⅲ区—1点であるが、Ⅱ区のものはK—10区(3点)、K・L—15区(3点)に集中している。石鏃は黒耀石製でⅠ区確認面からの出土である。

第Ⅴ章　成果と課題

第1節　〆木遺跡に於ける縄文時代の様相と問題点

〆木遺跡で発見された縄文時代の遺構は、住居址4軒、小竪穴遺構2基、土壙7基を数えた。しかし、本遺跡は前述した様に遺構の遺存が極めて悪く、その本来的な姿をとどめていたものは土壙数基にすぎない。

4軒の住居址中、2号住居址、7号住居址についてはほぼその全容を窺いえたが、両者共その一部に攪乱を受けていた。また小竪穴遺構とした2基の遺構も、共にその約半分を切り合い、攪乱によって失っていた。両者共、炉・柱穴等の住居内施設が確認されなかった事、規模が住居址に比して小さかった事など、住居址とはやや性格の異なる遺構と判断したが、竪穴住居址である可能性を否定するものではない。

《住居址の様相》

検出された4軒の住居址中、その内容をつかみえたものは2号・7号住居址で両者共、相似た様相を示す。径 5.5m前後の不整円形～楕円形平面を呈し、ほぼ中央部に長方形の石囲炉が付設されている。柱穴は5～6ヶ所で住居址を一巡して確認された。しかし、その配置・住居址の遺存状態等から、両者共に、6～7ヶ所程の柱穴をもつものと考えられる。また共に住居址南西部の柱穴間隔が他のそれに比して狭く配されている事は注目される。

また1号住居址、6号住居址はその一部を窺いえたのみであるが、前者は石囲埋甕炉・埋甕炉をもち、後者は石囲炉をもつものであった。

《土壙の様相》

本遺跡で発見された土壙はいずれも規模の小さなものである。形態的には様々なバリエーションをもつが、内部に石組状の施設をもつもの—2号及び3号土壙、土壙上面に礫をもつもの—4号土壙、覆土中に礫を多量に含むもの—6号土壙、その他—5・7・8号土壙に分類できる。また3・4・5・6号土壙内部には炭化物が多量に認められた。

《遺構の年代観》

各遺構からは多量の遺物が出土している。しかし、その多くは覆土中からであり、その遺構に確実に伴う遺物を出土した遺構は僅かであった。1号住居址はその炉体土器等から新道期に比定したい。6号住居址及び2号小竪穴遺構から出土した土器は共に床面上から検出された可能性が強く、前者は新道期、後者は井戸尻期の所産としたい。

他の遺構については、遺物の出土状況からは年代を特定することはできなかった。2号住居址・1号小竪穴遺構からは藤内期を中心とする多くの略完形品を得る事ができたが、共に前に述べた通りの出土状況であり、また出土土器の年代にも多少のバラつきが観察された。更に7号住居址については、床面に併うものがなく覆土中に散在する状況で遺構の年代を確定する事はできなかった。しかしながら本遺跡における土器の様相と同様に新道期から井戸尻期に属するものであった。従って住居址の年代も、藤内期あるいはその直前の所産であるとする事が妥当であろう。

《遺構の平面的分布》

本遺跡に於ては、小竪穴遺構を含む住居址群と、土壙群とが明確に区画されて営なまれており、最短距離にある、6号住居址と2号土壙においても約60mの間隔をもつ。

住居址群は全てⅠ区に於て認められた。2号小竪穴遺構を除くと、半径30～35m程の円弧上に互いに7～10m程離れて整然と営なまれている。また他住居址からは15m程はずれて存在する2号小竪穴遺構が、井戸尻期の所産と考えられる事も興味深い。

土壙は、Ⅱ・Ⅲ区に散在している。更に遺物の出土状況からは、3号・4号土壙(Ⅱ区)、7号・8号土壙（Ⅲ区）周囲には何らかの遺構の存在も予想され、そうであるならば土壙においても、一定程度のまとまりをもつ可能性も考えられる。

まとめ》

今回の発掘では、予想される本来的な集落の南東隅を調査しえたにすぎない。またその内容も充分把握しえない段階では多くを語ることは慎まねばならないことは勿論である。ここでは予察的な《まとめ》と問題点の抽出を行ないたい。

1）〆木遺跡の縄文時代集落は盆地床の扇状地端部という、自然災害をうけやすいところに営まれている。これは当該地域における、他の同時代遺跡と比較して極めて特異な占地を示している。この事は本集落の社会的、生産的背景、あるいは該期集落間の時間的、構造的関係性をとらえるうえで、無視しえない現象であろう。

2）集落の営まれた年代は新道期から藤内期にかけてで、井戸尻期まで降る遺構も含まれる。また、本集落から出土した土器群は時間的には極めて単一的な様相を示している。これは本集落の存続が極めて限定されていた事を反映しているものであろう。

3）集落の平面形態はほぼ環状を呈する事が予想され、今回の調査ではその南東隅を確認しえたにすぎない。従って集落の中心は今回の調査区の西側に予想される。

4）住居址群と土壙群の占地には明確な区画がなされており、住居址群の外部に一定度の距離を保って土壙群が営なまれている可能性が強い。

5）住居址群は整然と弧状に並んで配置され、集落内部における強い規制が窺える。

6）逆に、僅か1軒とはいえ井戸尻期の遺構が弧状列から離れて存在することは、井戸尻期と予想される集落の消滅と軸を同じくするものであろう。これは同時に藤内期→井戸尻期における集落の社会的構成の変容を示すものでもあろう。

7）遺物は単時期的なまとまりを示している。また、遺構の埋没過程において、川の氾濫などにより、遺跡上部未調査区の土器が覆土に流れ込んでいる可能性が非常に強い。遺構外出土の遺物の項でも述べたが、今回の調査区の上方には、新道期から井戸尻期の住居址の存在はもとより、さらに、曾利期の住居址が存在する可能性も非常に強く感じられる。従って未調査部分については慎重な対応が大切である。

8）僅かな資料であるが、石器類中に占める打製石斧の割合が多いと共に、台地上の遺跡から得られる打製石斧に比し、刃部の磨耗が激しい。

以上、箇条書きでまとめてきたが部分的な資料に依るものであり、結論的なものとするよりは今後の課題の確認としておきたい。

第2節　〆木遺跡に於ける奈良・平安時代の様相と問題点

〆木遺跡からは予想以上に多くの、奈良・平安時代の遺構を確認することができた。その内訳は、竪穴住居址34軒、掘立柱建物遺構4棟、土壙・溝各1基、焼土遺構2基などである。以下、若干のまとめと問題点の抽出を行ってみたい。

1）出土土器について

a）年代観（遺構の年代について）

山梨県内に於ける奈良・平安時代土器の年代観については、坂本、末木、堀内氏による詳細な編年[2]が組まれ、完成をみている。

ここでは、坂本氏らの編年に依拠しつつ、各住居址の年代観を検討したい。その際、各住居址床面に略完形で存在したものを基本とし、それが認められない場合は竈崩壊土中のものをそれに準じて扱った。また器種としては、坏・皿を基本とし甕類をそれに準じた。

Ⅰ期　8世紀代末　　10号、16号、17号、19号、24号、29号住居址

Ⅱ期　9世紀代前半　25号、32号住居址

Ⅲ期　9世紀代後半　4号、11号、20号、23号、26号、30号、31号住居址

Ⅳ期　10世紀代前半　3号、9号、12号、13号、21号、22号、27号、36号、37号住居址

Ⅴ期　10世紀代後半　34号、38号住居址、1号土壙、1号焼土

Ⅵ期　11世紀代初頭　28号、33号、35号住居址、2号焼土

この様に、本遺跡は8世紀代末から11世紀代初頭まで営なまれた集落であるが、Ⅳ期に区分

しえ、中でも9世紀代後半～10世紀代前半までを、集落の主体をなす時期とすることができた。しかし、今回は半世紀を一時期としたために、住居址の位置関係等から同時存在が考えられないものをも一時期の中に含めてしまった。

また1住居址内にかなりの年代幅の土器が認められており、さらに出土位置等の詳細な検討が必要とされよう。

内面黒色土器については集落出現期から終焉期まで認められ、整形技法、形態等分類しうる可能性をもつ。

坏類の口唇部形態、整形技法(ヘラケズリ等)についてもバリエーションが感じられ地域性を抽出しうる可能性も感じられる。

甕類も、「回転ナデ」「叩き」「ハケ」「ヘラナデ」と多くのバリエーションがそろっており、詳細な分析が必要であろう。

b）墨書土器について

〆木遺跡からは総数21点の墨書土器が出土している。11号住居址から3点、12号住居址からは5点出土し、他は1点ずつ出土している。読解できる文字は「本」「千」などごくわずかであった。同一住居址からは同一文字が原則であるが、12号住居址からは二文字が認められ、逆に「本」は3号住居址及び38号住居址で認められた。年代的には、年代決定をなしうるものについては9世紀の後半～10世紀の前半代ものが多い。

2）住居址の様相

〆木遺跡から検出された奈良・平安時代の竪穴住居址は総数34軒を数えた。

本遺跡は遺構が含礫層中に掘りこまれていた為、その遺存が悪く発掘時においても壁の崩落が著じるしかった。従って形態・規模等は原状を正確に把え得たとはいいがたい。

平面形態

方形或いは長方形を呈し、ほとんどの住居址はコーナーが円くなる。また長方形を呈するものも、その短：長辺比はさほど大きくならない。

規　模

4号住居址が最大で、5.5×4.2mを測り、23.1㎡となる。また最小のものは38号住居址で2.2×2.2mを測り、4.8㎡である。平均値は4.0×3.4mで13.7㎡程となる。

柱穴・周溝

柱穴・周溝についてはほとんどの住居址において検出することができなかった。柱穴は4本柱のものが2軒(4号・18号住居址)、2或いは3本検出されたものが4軒（12号・13号・22号・34号住居址）を数えるが、後者についてもおそらくは4本柱をとるものと思われる。周溝は3軒の住居址（4号・21号・23号住居址）で検出されたが、全てコーナー部に付設されている。

主軸方位

主軸方位は竈が付設された壁に直交する軸をとった。

東北東に主軸を向ける3軒（17号・31号・32号住居址）を除くと、北へ主軸を向けるものと、東へ向けるものとの二者にわけられる。前者はN—14°—Eの16号住居址からN—17°—Wの5号住居址までの10軒で振幅の幅は約31°である。後者はN—74°—Eの34号住居址からN—110°—Eの12号住居址までの14軒で同じく約36°の幅を示す。

主軸方位・竈の位置については、その変遷過程、規則性などによって、集落における共同体の規制、関係性などが論じられている。しかしそれ以前に、道、溝、冊列等の集落内諸遺構の検証、他集落遺跡等の検討等を経る事によってその社会的、歴史的意味が明らかにされよう。

竈

竈が確認されなかった住居址は5軒であるが、壁部に攪乱を受けていた21号・22号住居址を除くと3軒（27号・34号・38号住居址）で比較的小型のものである。

竈の位置は、北東コーナーに設けられていた23号住居址以外は全て東壁或いは北壁に設けられていた。壁面における位置は中央部のものが7軒で他はいずれかのコーナーへ寄っていた。また37号住居址は新・旧2基の竈が認められた。

竈の構築方法は、袖石又は粘土を使用するか、或いはその両者を使用するものがほとんどで、地山の礫を竈壁面に利用しているものも認められた。

以上、本遺跡における住居址の様相をみてきたのであるが、平面的な観察に止まって、時期別にその変遷過程を追求することができなかった。詳細な検討は後日を期すとして、一瞥する限りでは、平面形態、規模、方位などについて、特にその変化の過程について特別の規則性をみいだすことはできなかった。

2）焼土遺構について

本遺跡において注目すべきものの一つに集落南東端に位置する、1号・2号焼土がある。その形態・規模等に相違点はあるものの、共に焼土の堆積を中心とする遺構であり、集落の居住地区を画しているものと思われる1号溝南側に隣接して位置することは興味深い。土器相からは1号・2号焼土共に若干の時間巾が与えられるが、2号焼土はその出土状況から10世紀末～11世紀初頭の限定された時間幅を想定することが妥当であろう。また後者は、その器種構成に於て、坏類が90％以上を占める事、出土状態に強い規則性が窺える事などの特徴がある。更に、出土土器に形状の著しく歪んだもの、調整の粗雑なものが顕著である。いまその性格について断定的に語る事はなしえないが、位置、遺物の内容等から日常的な生活空間、形態とはかなり趣を異にしているものと考えられ、また集落の廃絶期と非常に近いことも興味深い。

3）集落の性格、史的背景について

〆木遺跡の集落(住居址)の様相を概観してきたが、平面的な観察をしえたのみである。集落を時期別に分解しその構成及び変遷過程、歴史的・社会的性格にせまることができなかった。ここでは最後にそういった課題にせまるための問題点を整理してまとめにかえたい。

1．〆木遺跡は8世紀末から11世紀初頭まで平安時代の前半を通じて営なまれた集落である。

平安時代中期の所産である『和名妙』には、巨摩郡には九郷が置かれていたことが記されている。そのうち現在の峡西地方に置かれていたものは「大井」「余戸」の二郷である。「大井」郷は本遺跡南東1km程の甲西町大井附近を中心として比定されている。「余戸」の郷は「大井」郷の北方、現在の御勅使川流域が比定されている。〆木遺跡は「大井」郷の一部を成す可能性が大きいが、「大井」郷比定地内で当該期の集落が確認されたのは今回がはじめてでありその意味でも今後の研究に資するところ大である。また遺跡東方1km程には「式内社」に比定されている「神部神社」が座しており、これとの関係も興味深い。

2．平安期初頭は律令制度の再編期であり、10～11世紀の平将門の乱に象徴される「東国武士団」の成長期でもある。甲斐国の1小集落にあってもこの様な政治的・社会的動向と無関係に存在しえたとは考えにくい。現在でも洪水に襲われやすい扇状地端部に8世紀末～9世紀初頭にかけて出現した集落が律令制の退潮に伴う社会的再編の中で終焉を向えたものと考えたい。これは勿論「見通し」の域をでるものではなく、今後県内の当該期集落、牧館址、生産址等の調査・研究を待って再に論究したい。

3．〆木遺跡からは4棟の掘立柱建物が検出された。竪穴住居址総数34軒に対しては比較的少ない数字である。しかし、4棟の掘立柱建物遺構はほぼ同一地区にそろって建てられており、集落全体の管理下におかれたものとも考えられる。1号掘立柱建物遺構は「溝もち」であり、2号掘立柱建物遺構は総柱の建物と考えられる。1号掘立柱建物遺構は10世紀後半、2号掘立柱建物遺構も10世紀代以降の出現である。また3号掘立柱建物遺構も南隣する34号竪穴住居址との関連でとらえるならばほぼ同時期のものとも考えられる。従って本集落における掘立柱建物遺構は、集落の最盛期である10世紀代をまって出現した可能性もあろう。

4．〆木遺跡に於ける遺構は、竪穴住居址が極めて単一の様相を示していたのに比し、やや複雑な様相も示すものである。確認されているだけでも、竪穴住居址、掘立柱建物遺構・土壙・溝状遺構・ピット群をもつ。他に、Ⅲ区を中心として住居址覆土中から鉄滓・羽口片が出土しており、集落内のいずれかに小鍛冶遺構が存在していた事を予想させる。9・10世紀の集落からは、小鍛冶遺構の存在が一般化するとの事であり、山梨県内でもほぼ同じ様相を示す様である。しかし本集落の小鍛冶遺構の場合、集落構成員の一要素として集落内へ「定着」する様相を示していたか否かは疑問である。

5．〆木遺跡における遺物の構成は極めて貧弱である。特に鉄製品は10点にもみたず、農具として認識しうるものは2点である。しかしながら前述した様に、本遺跡では小鍛冶遺構の存在が予想され、本来的にはより多くの鉄製品を所有していたとも考えられる。また、緑釉・灰釉陶器の出土も少なく、出土遺構も限定される傾向にある。本集落が計画村落であるか、自然村落であるかはひとまずおくとしても、掘立柱建物遺構や、竪穴式住居址のあり方、焼土遺構の存在、遺物の内容等からは、極めて古い集落構成を示すものともいえよう。

以上、〆木遺跡に於ける奈良・平安時代集落の内容・性格を検討してきたが、もとより充分

な分析をなしえているわけではない。今後の山梨県内における平安時代研究に資するところ大であれば幸いである。同時に、今回言及しえなかった点、或いは不充分な諸点については、今後、検討・報告する責務のあることを明記しておきたい。

引用・参考文献

(1) 清水　博他『〆木遺跡』　櫛形町教育委員会　1986

(2) 坂本美夫・末木健・堀内真　「甲斐地域」『神奈川考古』第14号　神奈川考古同人会　1983

磯貝正義　「甲斐源氏勃興の歴史的背景」『甲府盆地―その歴史と地域性』　1983　古代史研究協議会

坂本美夫　「甲斐の郡（評）郷制」『研究記要』1　1983　山梨県考古博物館

山下孝司　「奈良時代における甲斐の土器編年」『山梨県考古学論集Ⅰ』　1986　山梨県考古学協会

長沢宏昌他『北掘遺跡』　1985　山梨県教育委員会

米田明訓他『柳坪遺跡』　1986　山梨県教育委員会

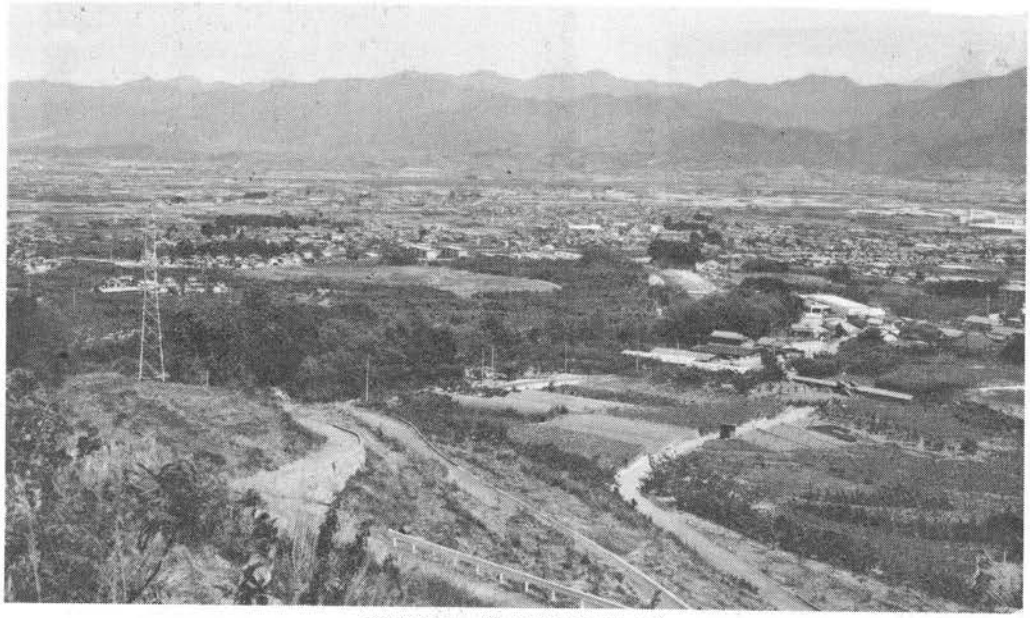
中田　英他『向原遺跡』　1983　神奈川県教育委員会

雨宮正樹　『東久保遺跡』1984　高根町教育委員会

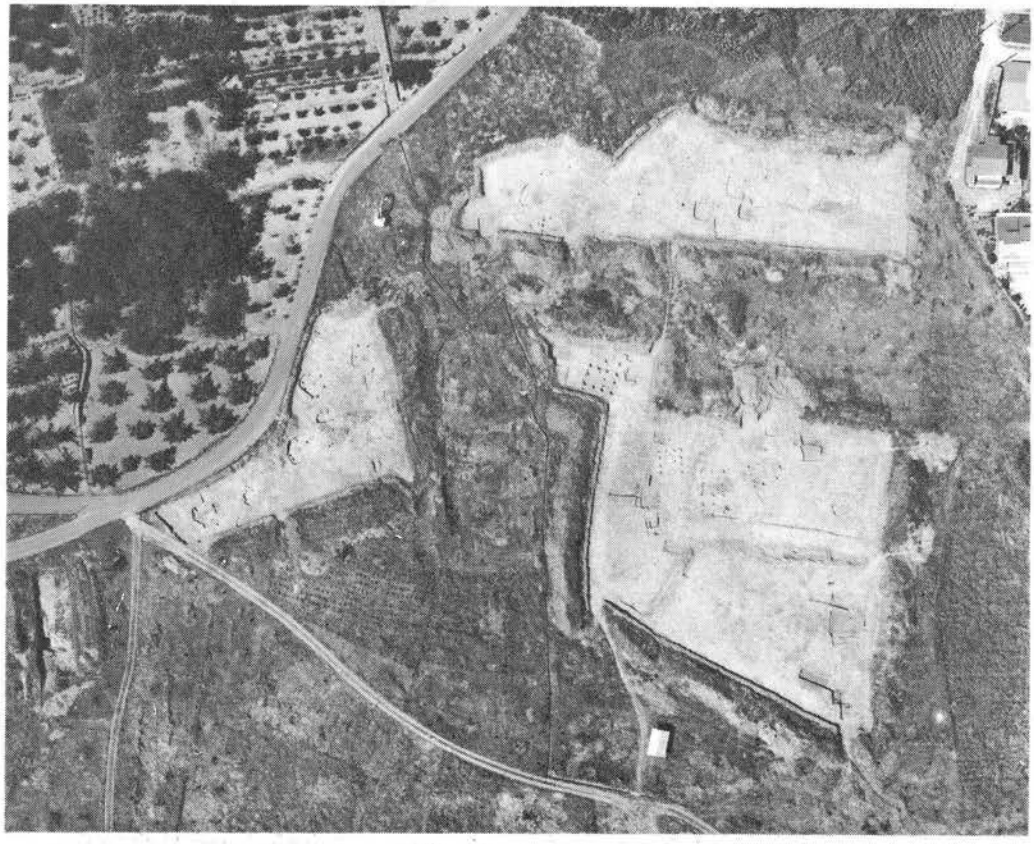
長沢宏昌　『一の沢西遺跡』　1986　山梨県教育委員会

神奈川考古同人会　『神奈川考古　14』　1983　神奈川考古同人会

櫛形町誌纂編委員会　『櫛形町誌』　1966　櫛形町教育委員会



遺跡遠景（物見塚古墳より）



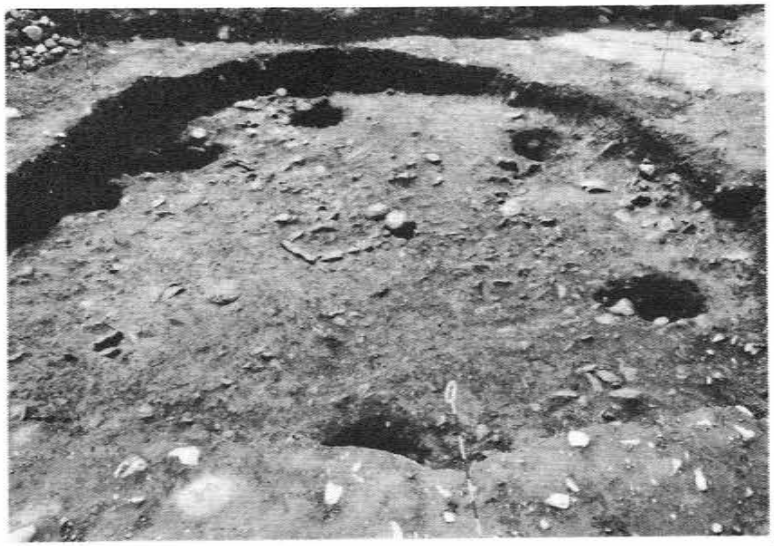
遺　跡　全　景

2号住居址

2号住炉址

7号住炉址

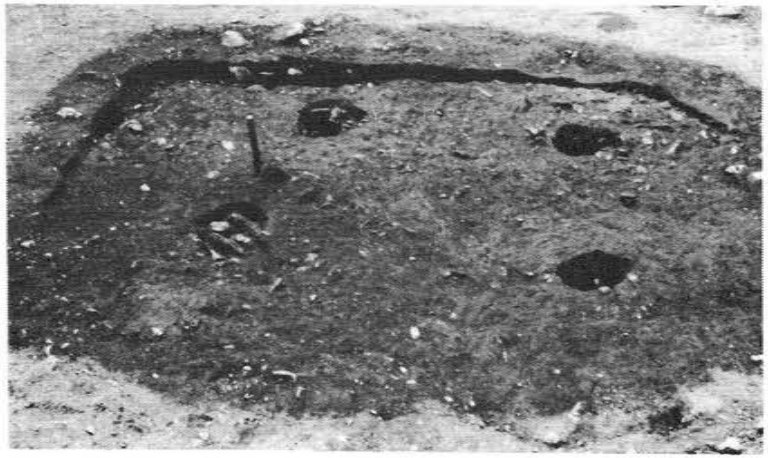
2号住遺物出土状況



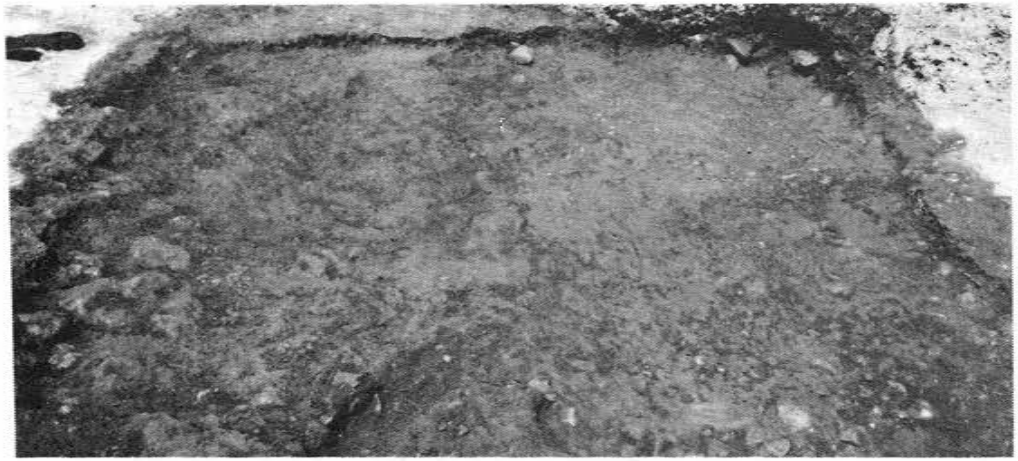
7号住居址

図版 II

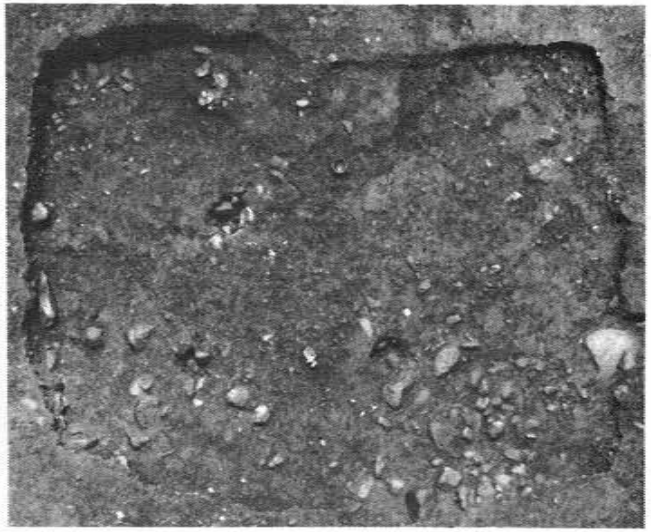
3 号住居址



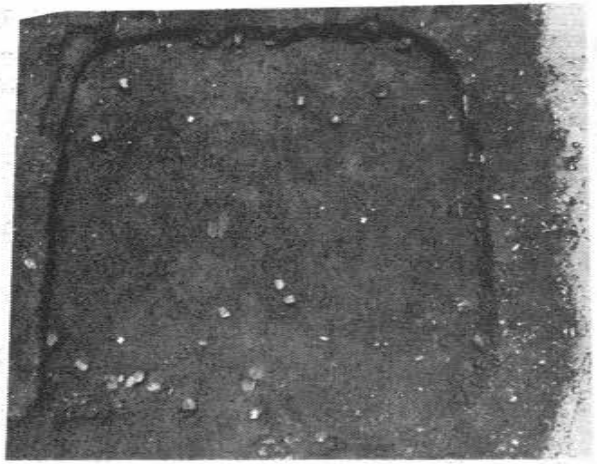
4 号住居址



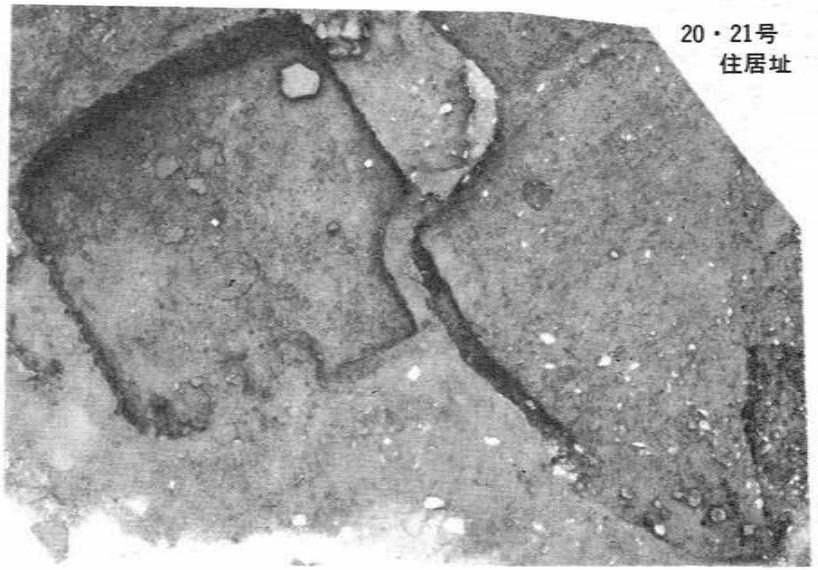
5 号住居址



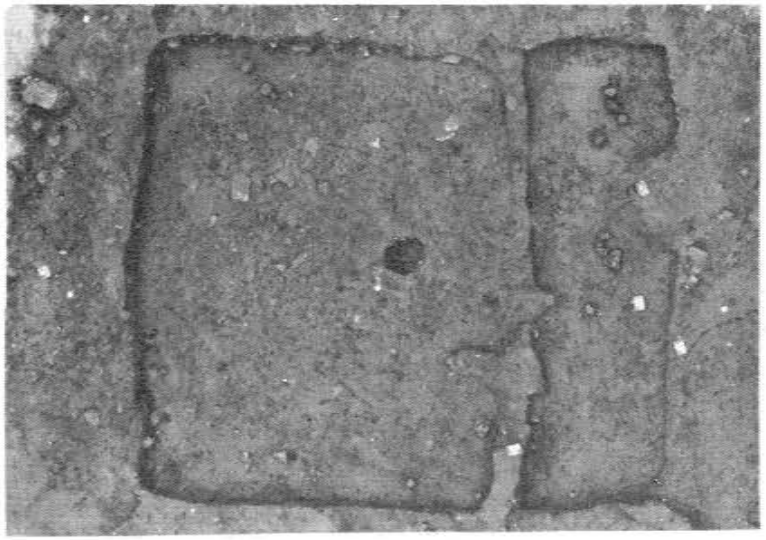
12号住居址



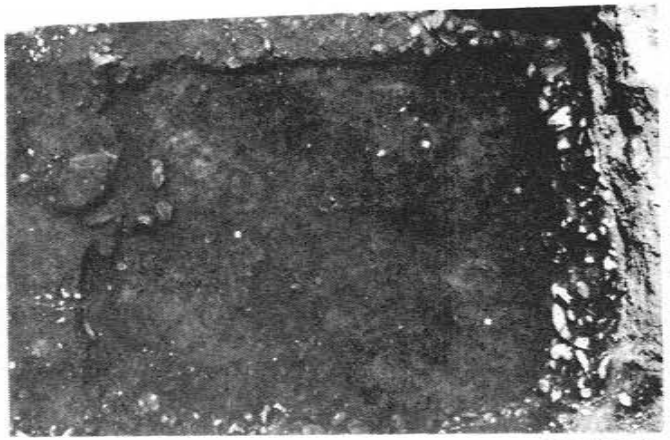
16号住居址



20・21号
住居址



19・24号住居址

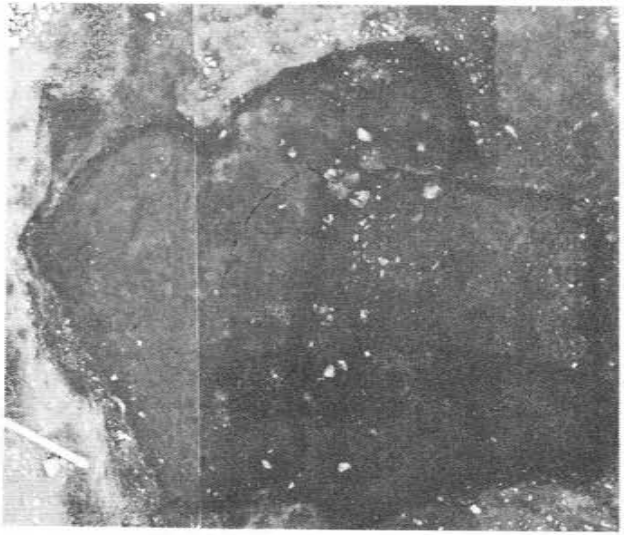


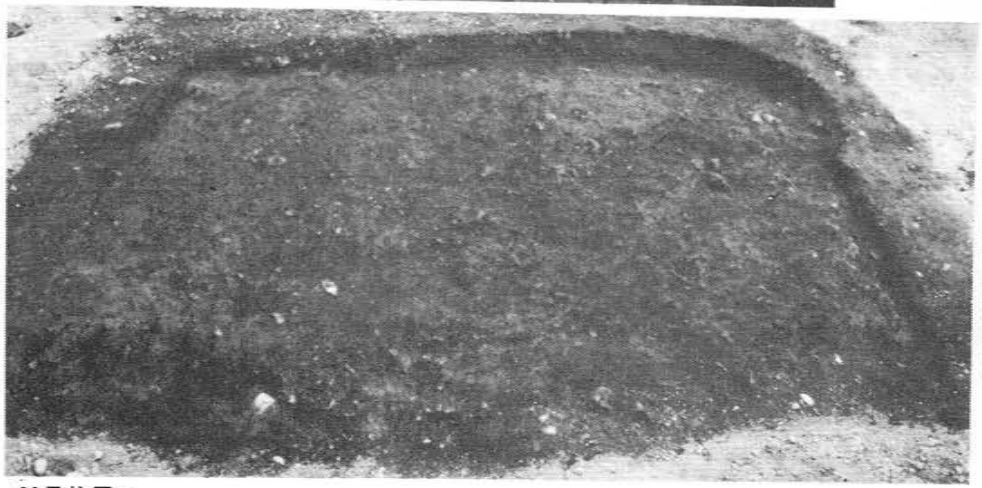
26号住居址

図版IV

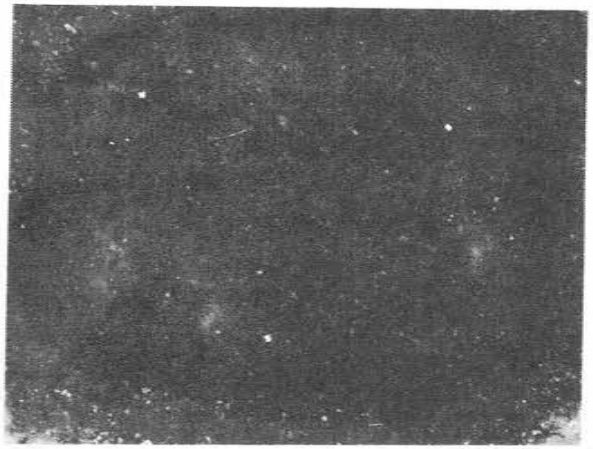
23号住居址

31・32号住居址





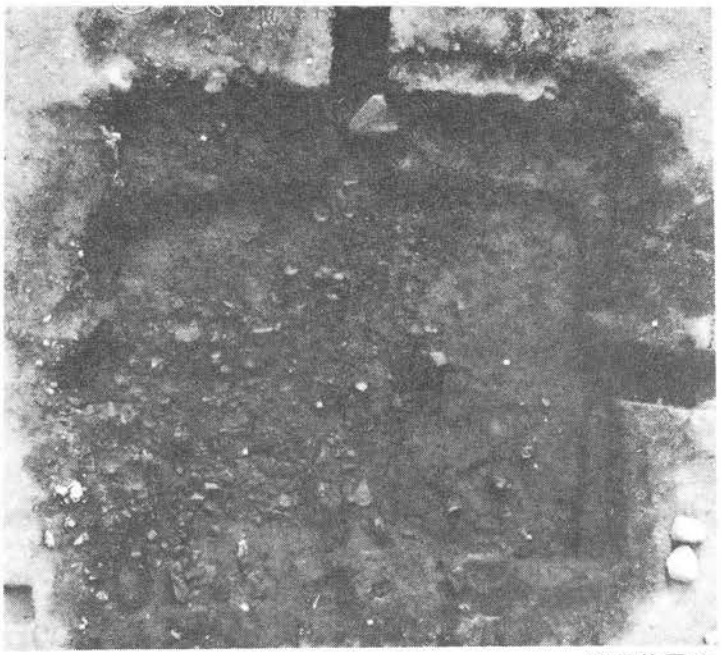
33号住居址



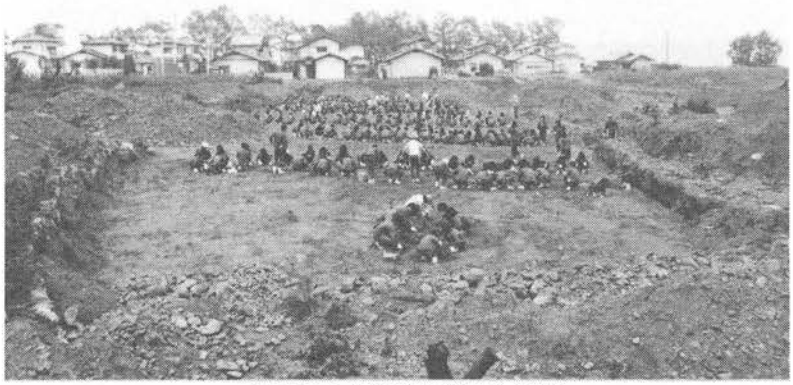
34号住居址

図版V

35号住居址



37号住居址

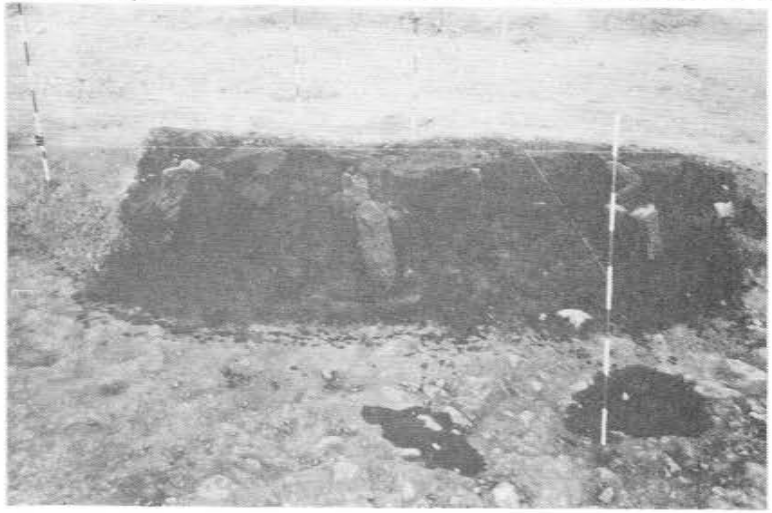


発掘風景（櫛形中学校２年生）

12号住居址カマド

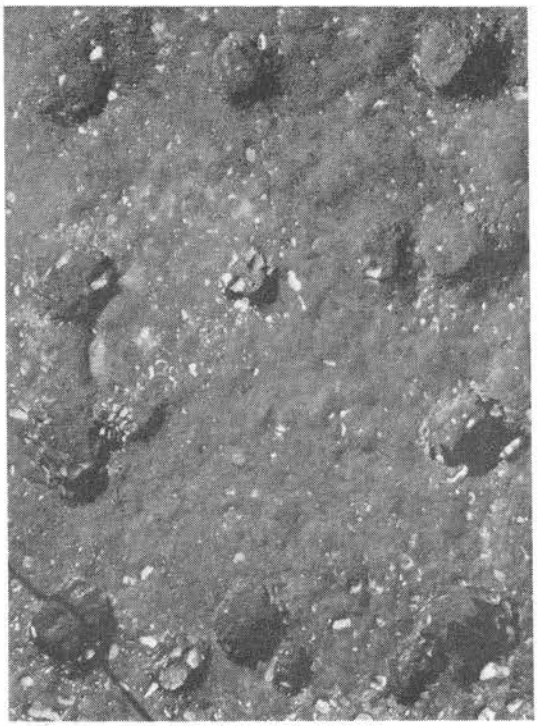
20号住居址カマド

31号住居址カマド

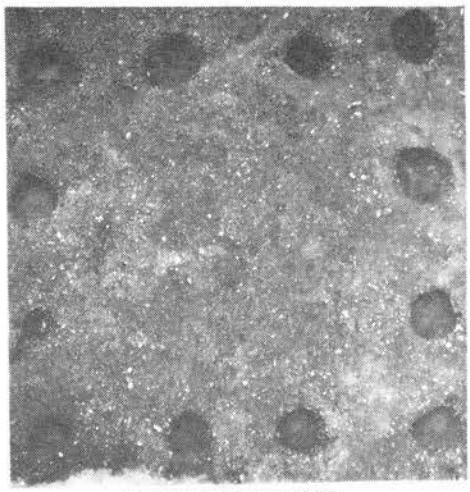


37号住居址カマド

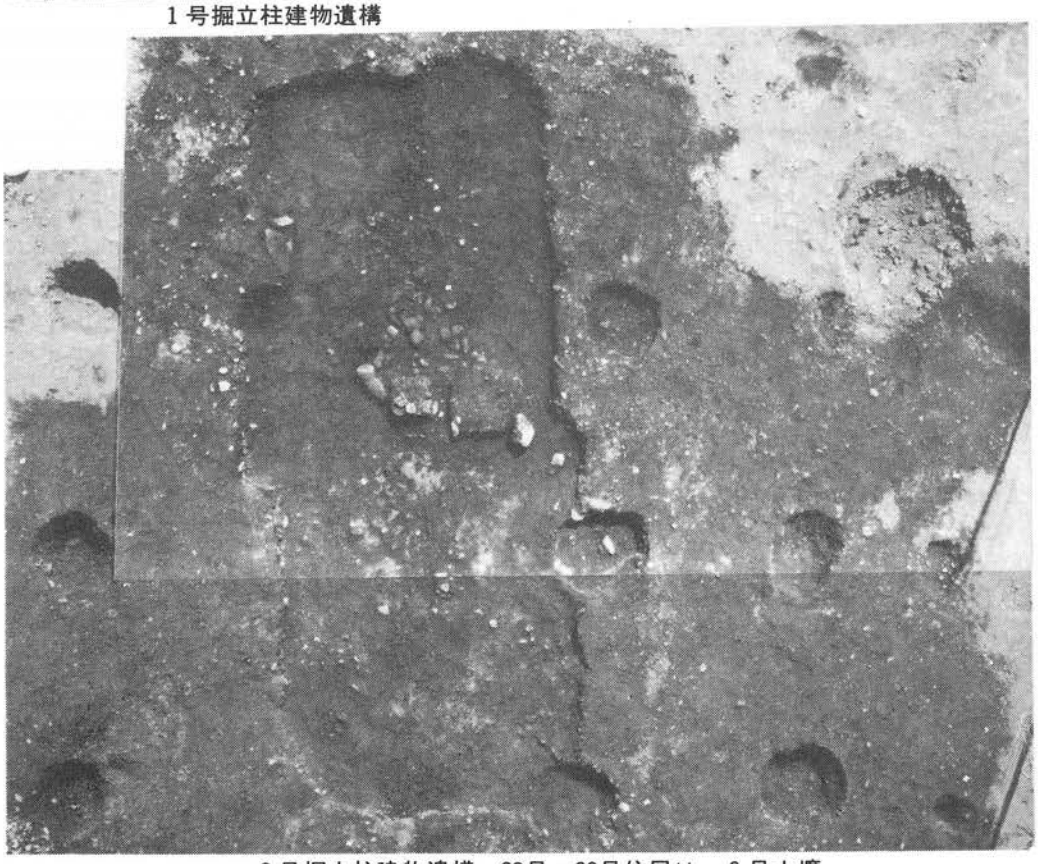
図版VII



1 号掘立柱建物遺構



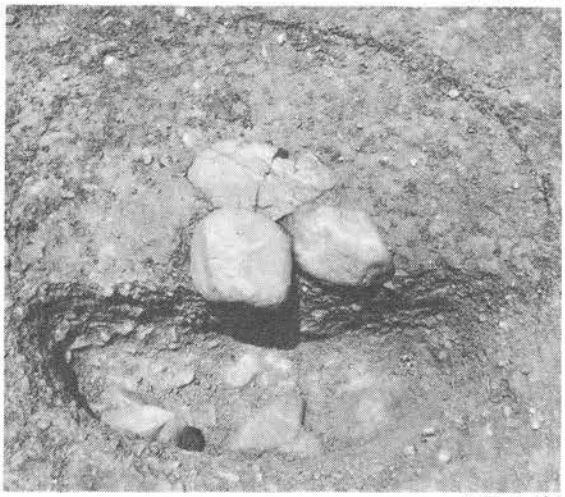
4 号掘立柱建物遺構



2 号掘立柱建物遺構、29号・30号住居址、 6 号土壙

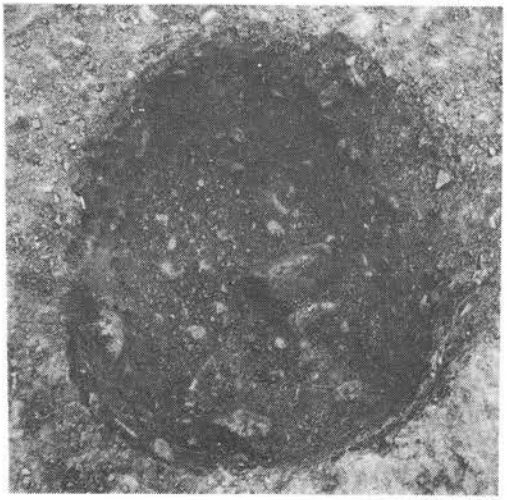
2号土壙

3号土壙

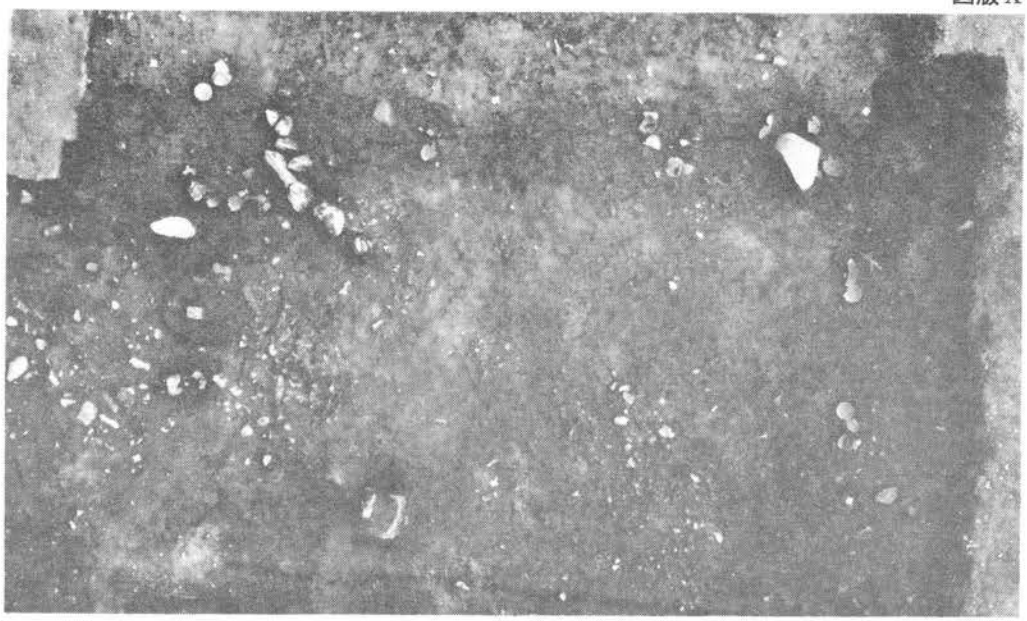


4号土壙

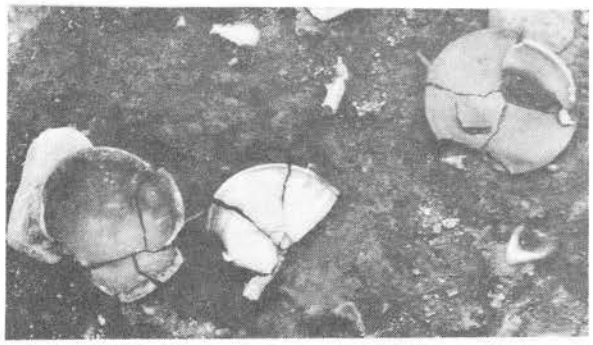
1号溝

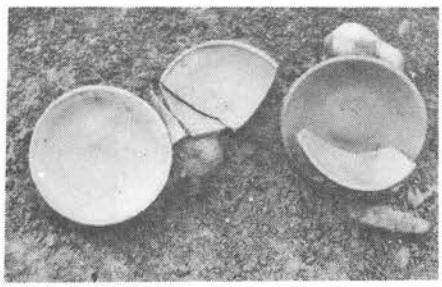


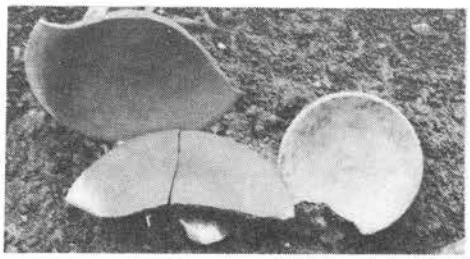
5号土壙



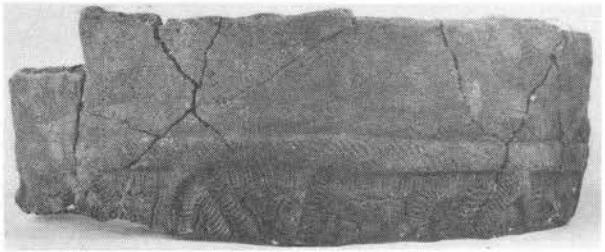
2号焼土遺構



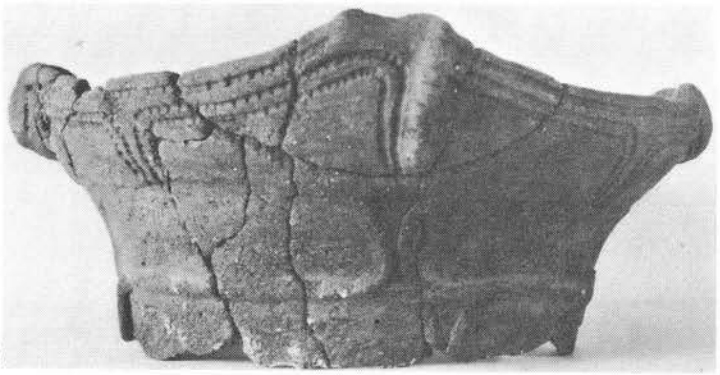




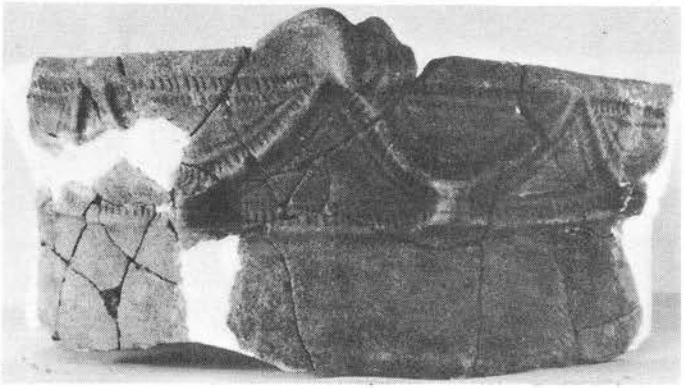
2号焼土遺構土器出土状況



1-1

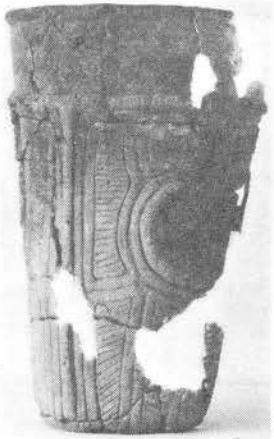


1-2

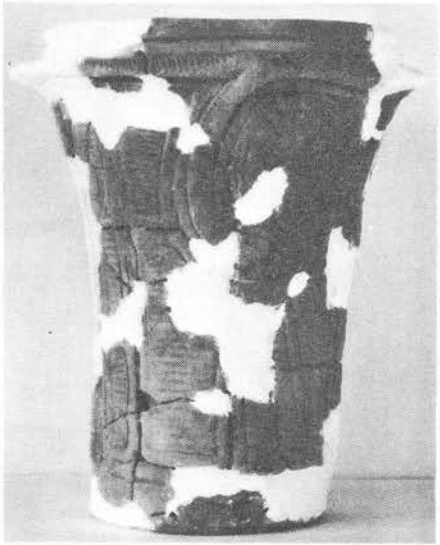


1-3

1-4



2-1

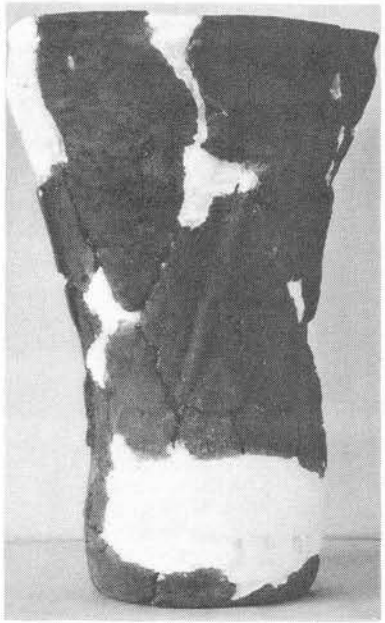


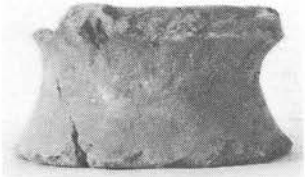
2-2

2-3

图版 XI

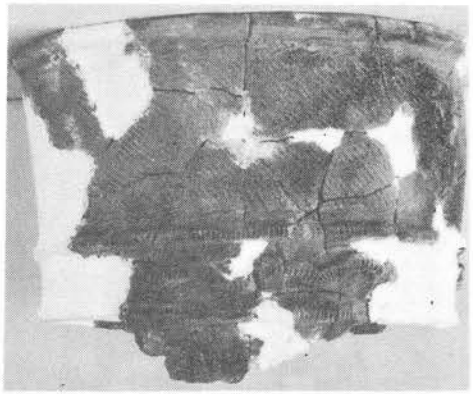
2-5



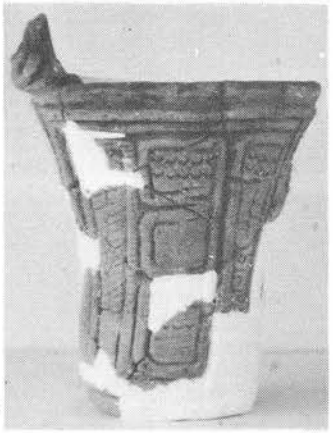


2-19

6-1

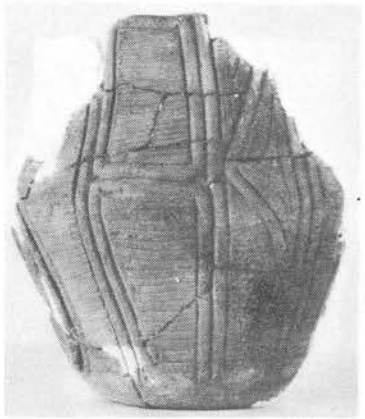


7-2

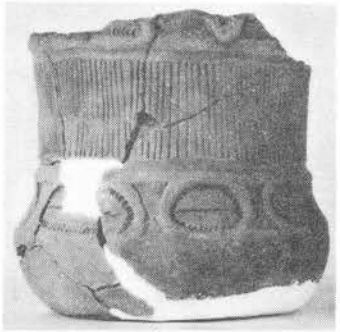


2-21

2-7



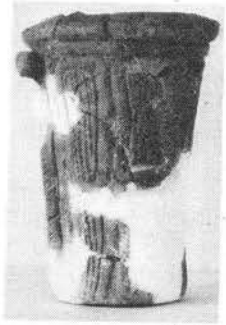
2-4



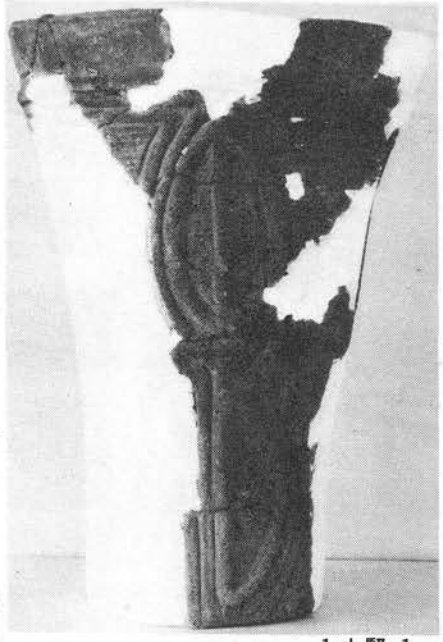
2-22

図版XII

7-3



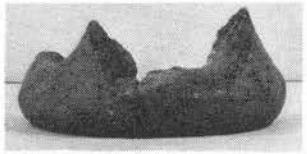
7-4



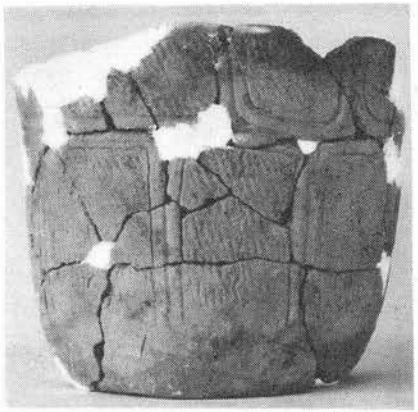
1 小竪-1

1 小竪

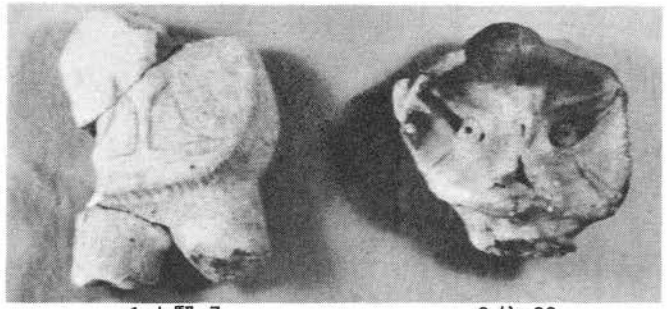
7-6



7-10

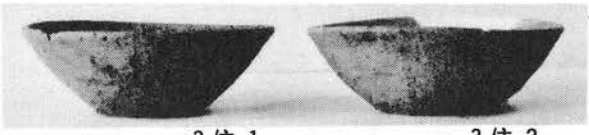


7-11

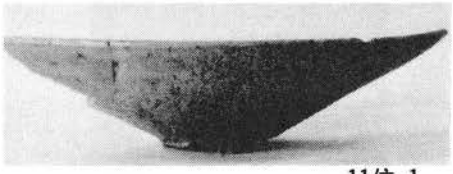


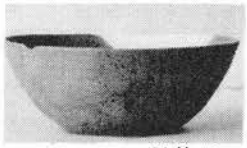
1 小竪-7　　2 住-23

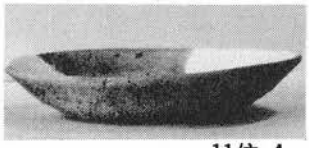
図版 XIII


3 住-1　3 住-2

4 住-1

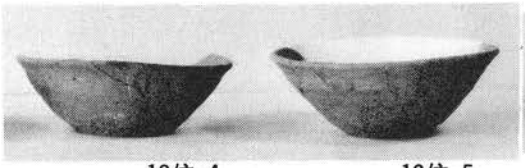

11住-1

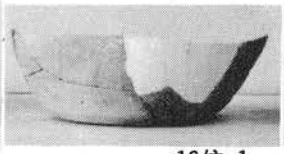

11住-2

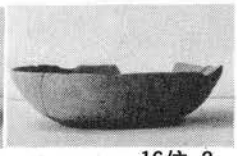

11住-4

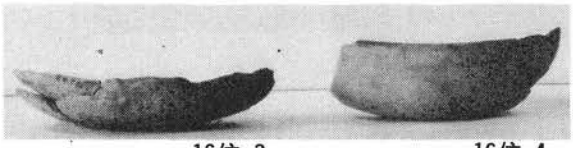
12住-1

12住-2　12住-3　12住-6


12住-4　12住-5


16住-1

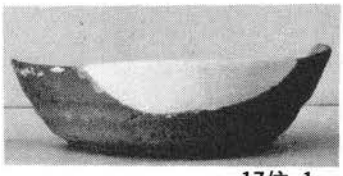

16住-2

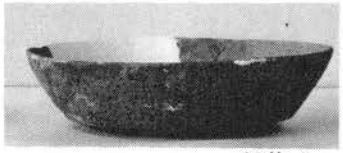

16住-3　16住-4

16住-5

21住-1

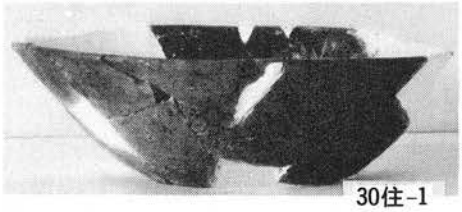
21住-2


17住-1


18住-1

21住-3

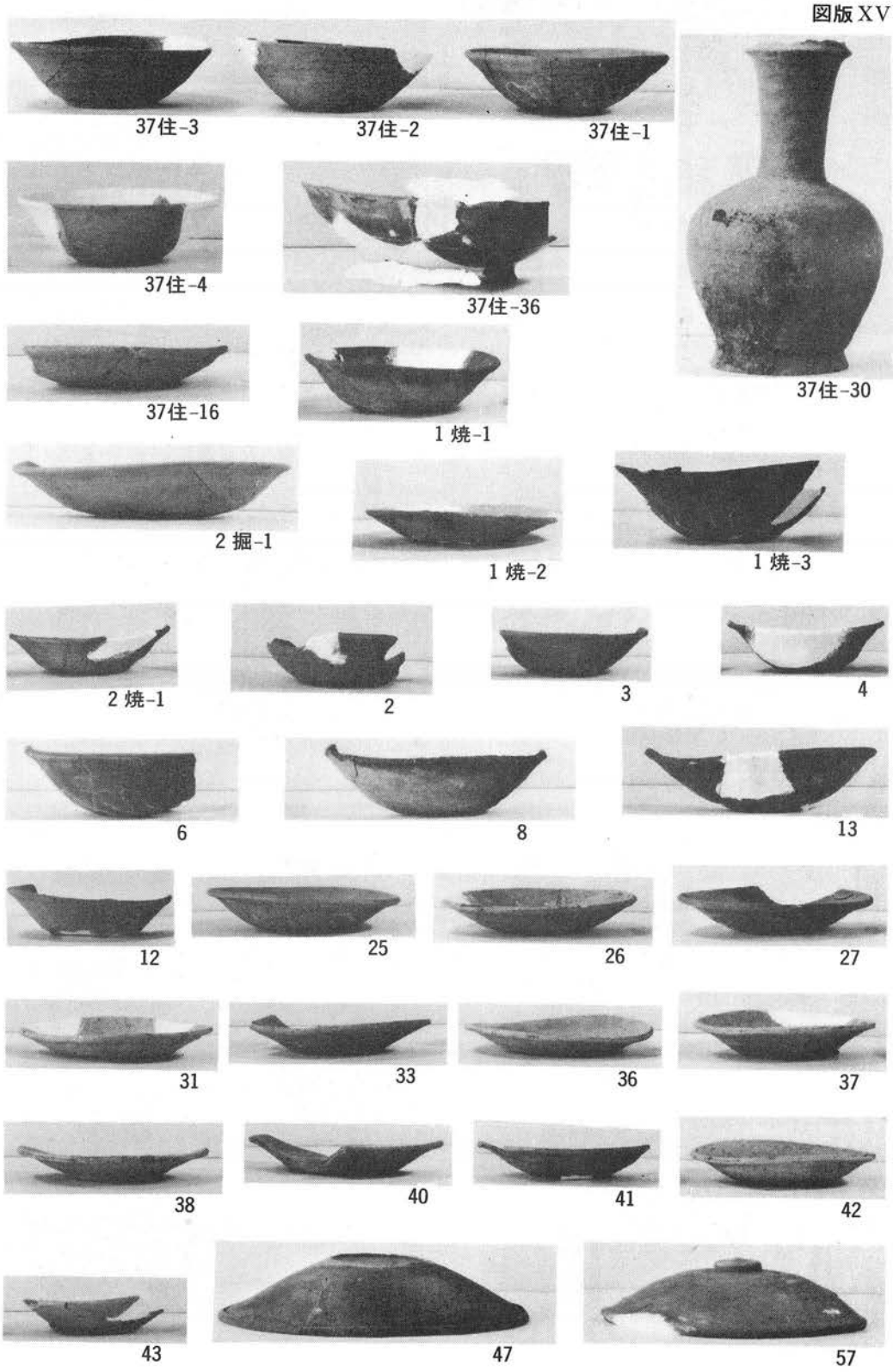
29住-1

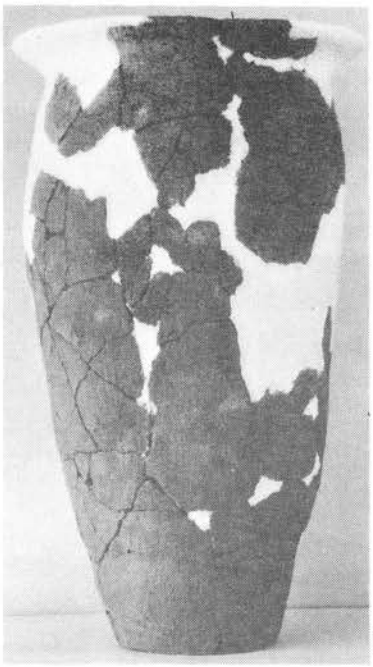

30住-1

21住-4

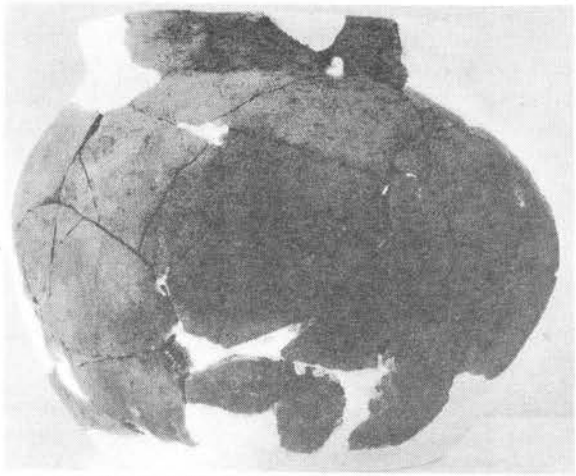
31住-1　2　3

34住-1

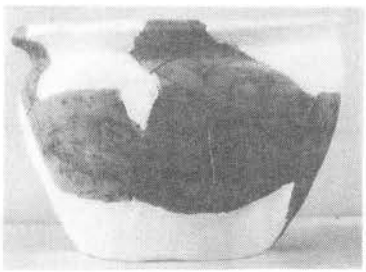

37住-3
37住-2
37住-1
37住-4
37住-36
37住-30
37住-16
1 焼-1
2 掘-1
1 焼-2
1 焼-3
2 焼-1
2
3
4
6
8
13
12
25
26
27
31
33
36
37
38
40
41
42
43
47
57



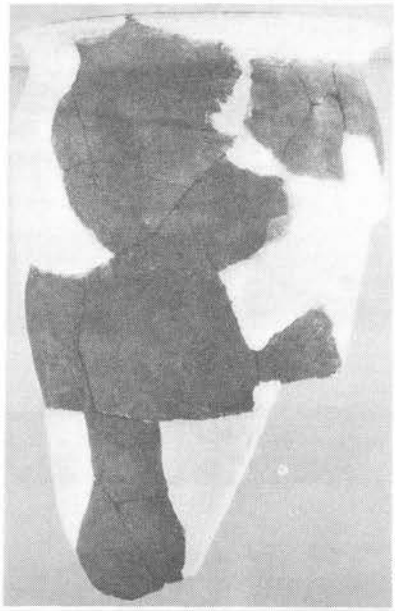
16住



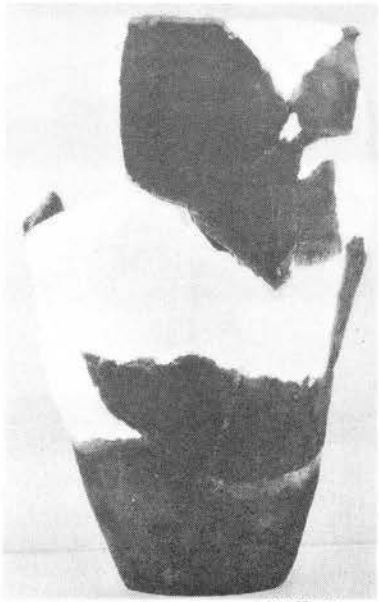
17住



16住



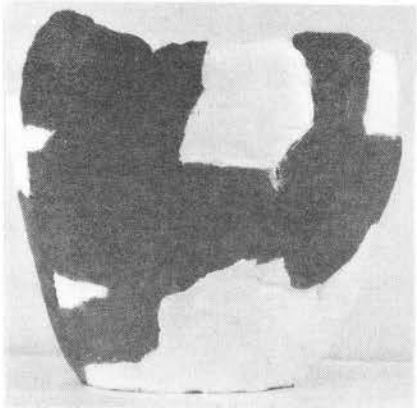
23住-3



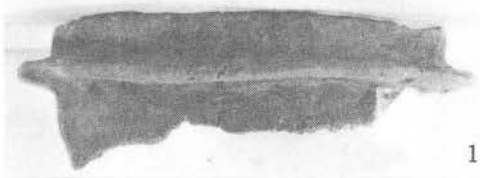
25住-3

29住-3

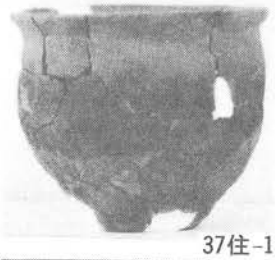
35住-4



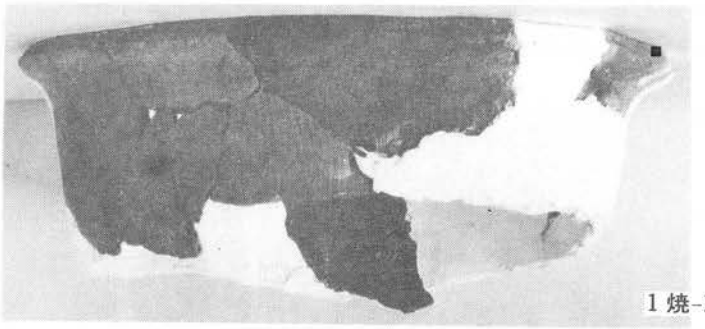
1 焼-17



1 焼-26

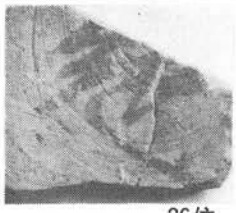


37住-18



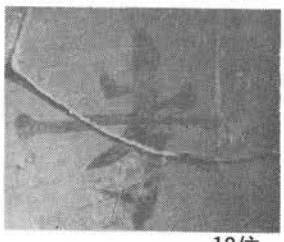
1 焼-10

3 住



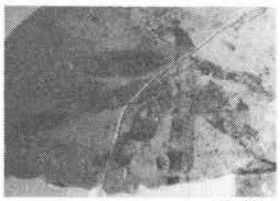
26住

31住



12住

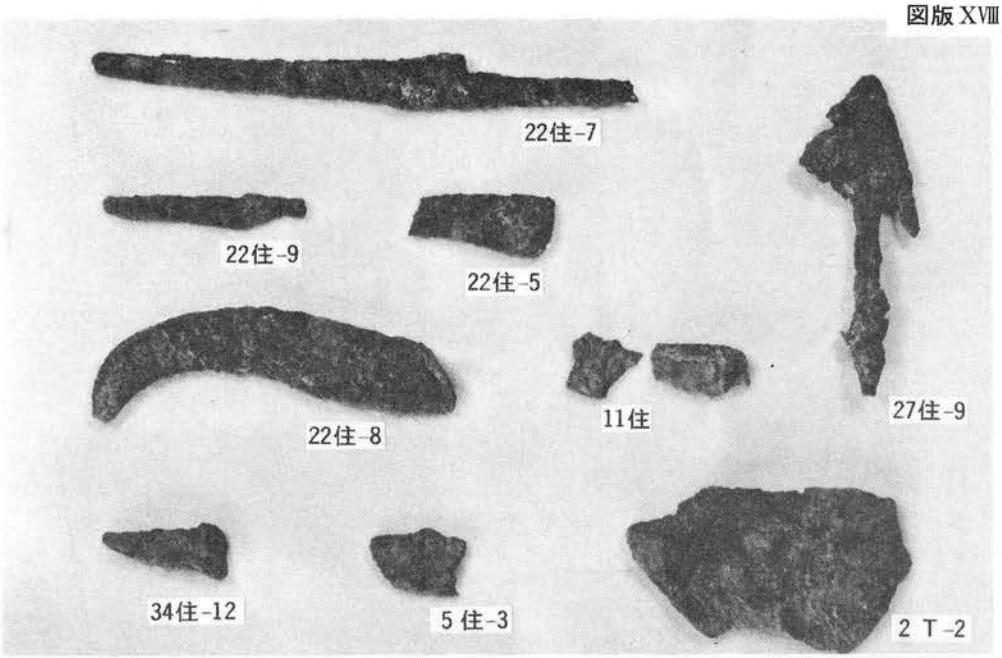
11住

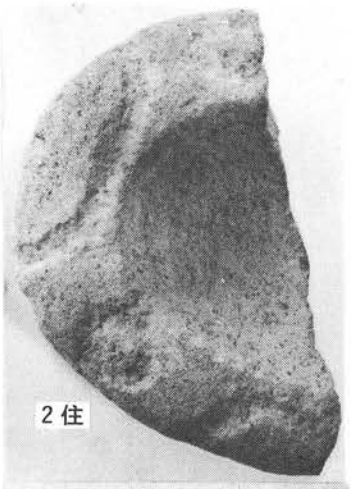


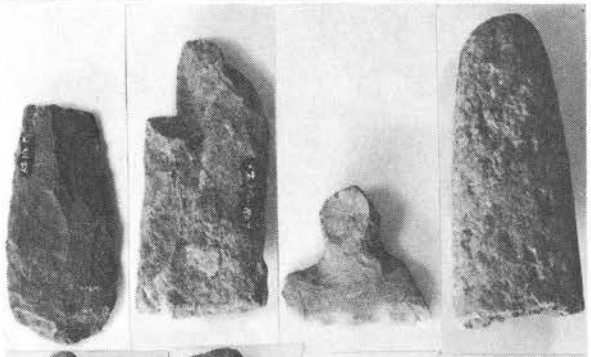
12住

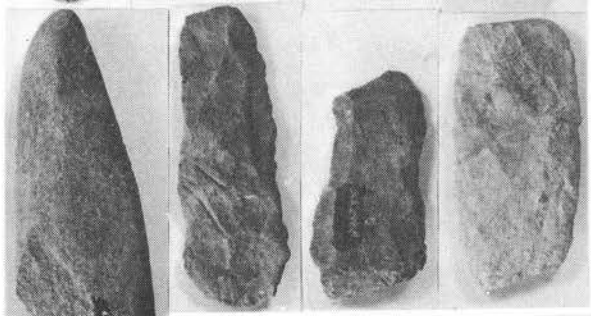
2 掘

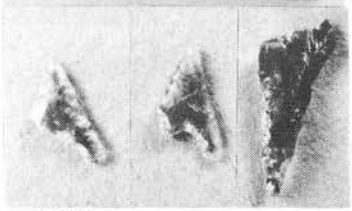
図版 XVIII



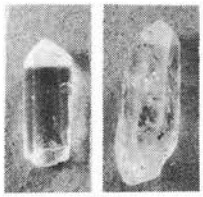




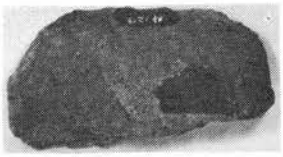


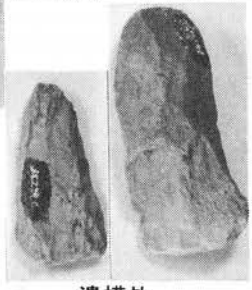


1号住



水晶





遺構外

7住

櫛形町文化財調査報告 No.5

〆木遺跡

昭和62年3月31日発行

編集
発行　櫛形町教育委員会
山梨県中巨摩郡櫛形町小笠原

印刷　野中印刷
山梨県中巨摩郡櫛形町小笠原